川西市高齢者保健福祉計画
第８期介護保険事業計画

アンケート結果報告書

川西市
Kawanishi City

目　　次

Ⅰ　調査概要 1

1．調査の目的 1
2．調査の設計 1
3．回収状況 2
4．報告書を見る際の注意事項 2

Ⅱ　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査　調査結果 3

1．回答者の属性 3
2．家族や生活状況について 5
3．からだを動かすことについて 12
4．食べることについて 24
5．毎日の生活について 37
6．地域での活動について 54
7．たすけあいについて 66
8．自治体や地域住民が開催する通いの場(サロンやカフェ)への参加について 88
9．災害に対するそなえについて 92
10．健康について 102
11．必要となる支援について 112
12．地域包括支援センターについて 117
13．介護保険制度について 119
14．認知症にかかる相談窓口の把握について 122

Ⅲ　在宅介護実態調査　調査結果 123

1．回答者の属性 123
2．必要な介護やサービスの利用などについて 125
3．主な介護者について　【介護者への質問】 134
4．主な介護者の就労について　【介護者への質問】 138

Ⅳ　関係団体等意向調査　調査結果 141

1．活動地域において特に課題・問題となっていること・支援を必要とすること、求められる取組みについて 141
2．１の課題等について、団体で今後取り組みたいと考えていること 146
3．地域の課題について、特に行政の支援が必要だと感じること 147
4．10 年後をイメージした時に地域の状況や団体活動において、特に大きな問題になると思われること 148

5．地域で支援が必要な方を把握する方法や、把握した情報の共有方法についての問題 149
6．支援が必要な人を発見した場合の、地域内での連携や関係機関のつなぎにおける問題 150
7．次期計画に向けた要望・意見 151

Ⅴ　介護サービス事業所調査　調査結果 152

1．川西市内で実施しているサービス 152
2．第８期介護保険事業計画（令和３～５年度）において、川西市内に参入意向のあるサービス 153
3．職員の配置状況について 159
4．職員の採用や離職の防止について課題と感じること 160
5．過去１年間の外国人介護従事者の雇用実績について 161
6．外国人介護従事者を雇用する上での課題について 161
7．サービスの質の向上に向けて特に取り組んでいること 162
8．業務効率化についての課題 163
9．地域社会の一員として、特に取り組んでいること 164
10．事業所運営における課題 165
11．行政に求める支援 166
12．高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定に関する要望や意見 167

Ⅵ　資料（調査票） 168

1．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査① 168
2．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査② 184
3．在宅介護実態調査 200
4．関係団体等意向調査 207
5．介護サービス事業所調査 211

Ⅰ　調査概要

1．調査の目的

川西市では、令和３年度から令和５年度を計画期間とする「川西市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画」を策定するにあたり、その基礎資料を得るため以下の調査を実施した。

①「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」

要介護認定を受けていない 65 歳以上の市民を対象として、要介護状態になる前のリスクや社会参加状況を把握し地域の抱える課題を特定することなどを目的として実施した。

②「在宅介護実態調査」

主に在宅で要支援又は要介護の認定を受けている市民を対象として、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続に有効な介護サービスのあり方を検討することを目的として実施した。

③「関係団体等意向調査」

川西市内に組織されている高齢者福祉関係団体及び地域包括支援センターを対象として、川西市における高齢者福祉や介護等に関する地域の現状や課題等を把握することを目的として実施した。

④「介護サービス事業所調査」

川西市内の介護サービス事業所を対象として、介護サービス事業を実施するうえでの現状や課題等を把握し、計画に反映させることを目的として実施した。

2．調査の設計

	調査対象	調査期間	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和２年１月１日時点で要介護認定を受けていない一般高齢者・総合事業対象者・要支援認定者　4,200 人	令和２年４月 16 日～令和２年４月 30 日	郵送配布・郵送回収
在宅介護実態調査	在宅の要支援・要介護認定者のうち、令和元年１２月１日以前に更新申請もしくは区分変更申請による認定調査を受けた人　1,000 人	令和２年４月 16 日～令和２年４月 30 日	郵送配布・郵送回収
関係団体等意向調査	川西市内に組織されている高齢者福祉関係団体及び地域包括支援センター 28 団体 (※)	令和２年８月～令和２年９月	郵送配布・郵送回収
介護サービス事業所調査	川西市内の介護サービス事業所 223 事業所	令和２年９月 28 日～令和２年 10 月９日	Web アンケート（※インターネット環境が無い場合は FAX での回答）

（※）関係団体等意向調査　調査対象団体等

1	中央民生委員児童委員協議会	15	清和台地区福祉委員会
2	南民生委員児童委員協議会	16	けやき坂小地区福祉委員会
3	多田民生委員児童委員協議会	17	東谷地区福祉委員会
4	多田西民生委員児童委員協議会	18	大和地区福祉委員会
5	東谷民生委員児童委員協議会	19	北陵地区福祉委員会
6	久代小地区福祉委員会	20	川西南地域包括支援センター
7	加茂小地区福祉委員会	21	川西地域包括支援センター
8	川西小地区福祉委員会	22	明峰地域包括支援センター
9	桜小地区福祉委員会	23	多田地域包括支援センター
10	北小地区福祉委員会	24	清和台地域包括支援センター
11	明峰小地区福祉委員会	25	緑台地域包括支援センター
12	多田地区福祉委員会	26	東谷地域包括支援センター
13	多田東地区福祉委員会	27	老人をかかえる家族の会川西
14	グリーンハイツ地区福祉委員会	28	川西市若年性認知症の会　りんどうの会

3．回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	4,200 件	3,638 件	86.6%
在宅介護実態調査	1,000 件	837 件	83.7%
関係団体等意向調査	28 団体	28 団体	100.0%
介護サービス事業所調査	223 事業所	67 事業所	30.0%

4．報告書を見る際の注意事項

○回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

○小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。

○調査結果を図表にて表示し、表については、最も高い割合の欄を　で網かけをしている。（その他・無回答を除く）

○「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」については、設問数の増加による回収率の減少を防ぐため一部の設問が異なる調査票を２種類作成し、各 2,100 件ずつ配布した。調査票で異なる設問については注にて表記している。

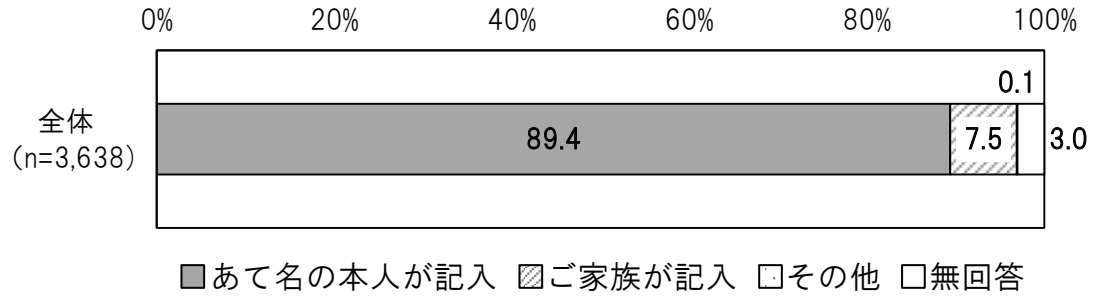
○本文中の設問の選択肢は、簡略化している場合がある。

Ⅱ　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査　調査結果

1．回答者の属性

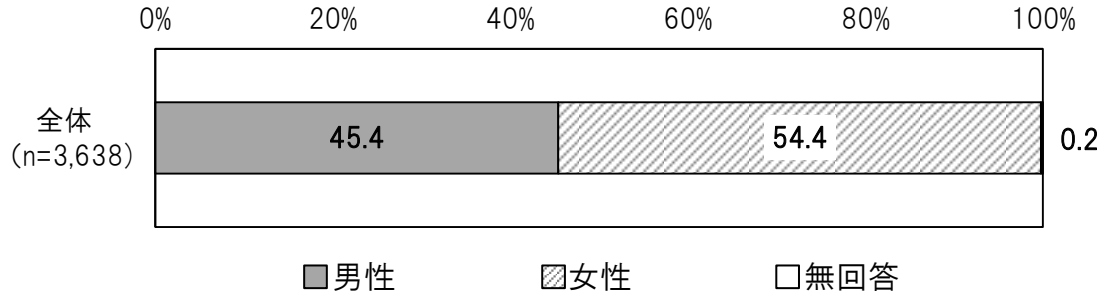
（1）調査回答者

・調査票回答者は、「あて名のご本人が記入」が 89.4％と 9 割近くとなっている。



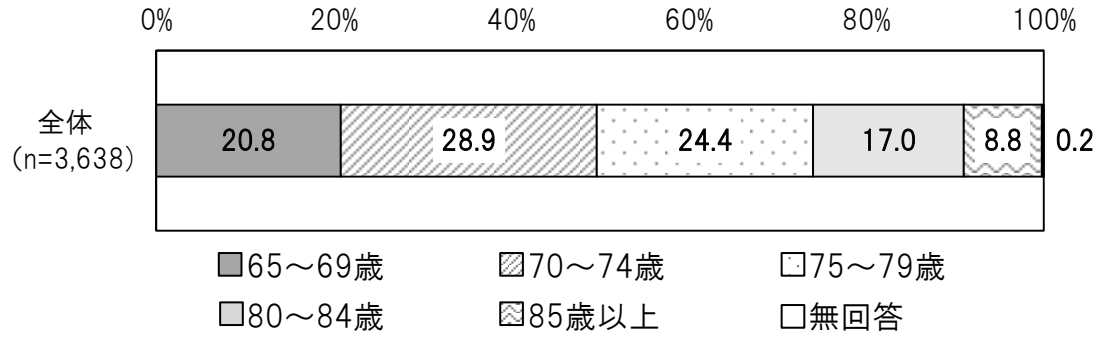
（2）性別

・回答者の性別は、「男性」が 45.4％、「女性」が 54.4％となっている。



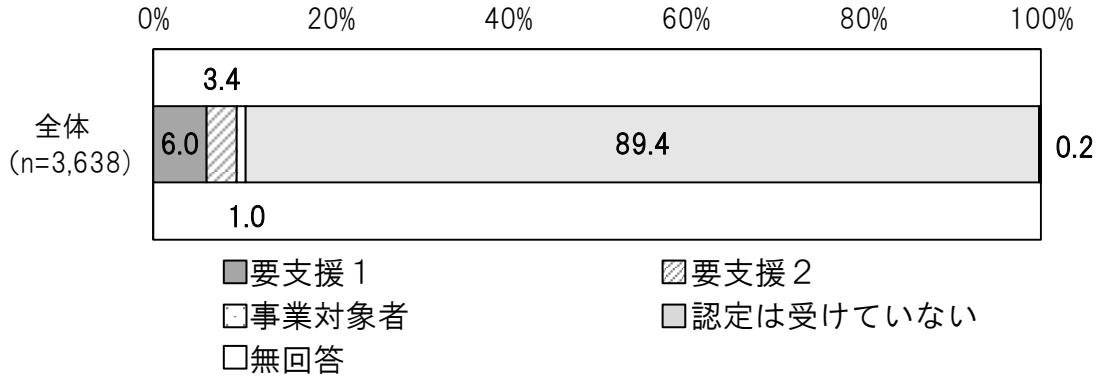
（3）年齢

・回答者の年齢は、「70～74 歳」が 28.9％と最も高く、次いで「75～79 歳」（24.4％）、「65～69 歳」（20.8％）となっている。



（４）介護度

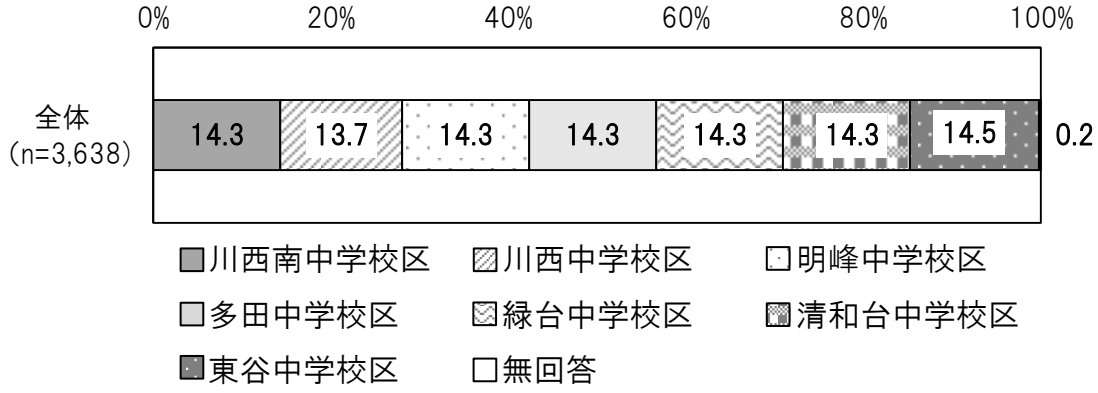
・回答者の介護度は、「認定は受けていない」が 89.4％と 9 割近くとなっている。



（５）居住地区（日常生活圏域）

・調査対象者の日常生活圏域について、各中学校区圏域で 600 人を抽出した。

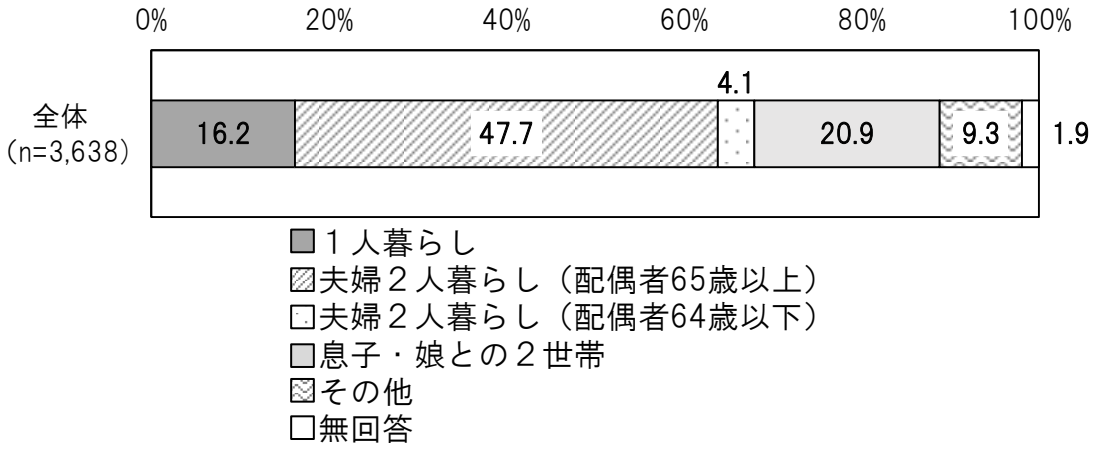
・各圏域での回収率は概ね 87％前後となっており、東谷中学校区で 87.8％と最も高く、川西中学校区で 83.2％と最も低くなっている。



２．家族や生活状況について

（１）家族構成

・家族構成は、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上)」が 47.7%と最も高く、次いで「息子・娘との２世帯」(20.9%)、「１人暮らし」(16.2%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○兄弟・姉妹と二人暮らし	○甥・姪との同居
○３世帯	○夫・妻が入院中　　等

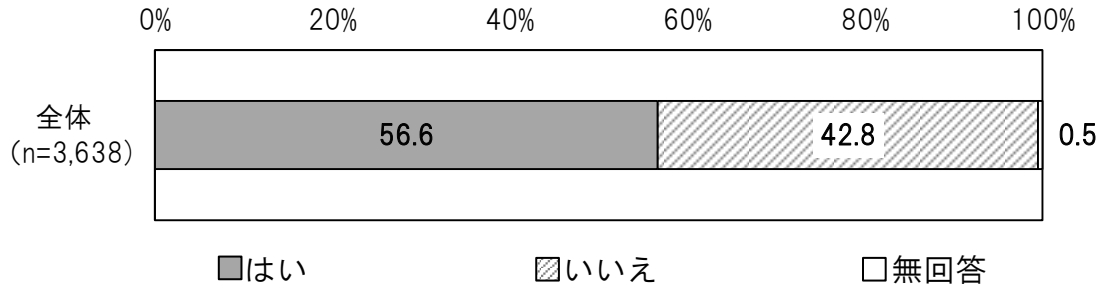
・介護度別にみると、事業対象者で「１人暮らし」が最も高く、その他では「夫婦２人暮らし」が最も高くなっている。また「1 人暮らし」が、事業対象者で 37.8%、要支援１で 23.0%、要支援２で 30.9%と、一般高齢者（15.0%）より 5 ポイント以上高くなっている。

（%）

	全体（件数）	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者６４歳以下）	息子・娘との２世帯	その他	無回答
一般高齢者	3,254	15.0	**48.8**	4.2	21.0	9.2	1.9
事業対象者	37	**37.8**	27.0	－	32.4	2.7	－
要支援１	217	23.0	**41.0**	3.2	17.5	12.9	2.3
要支援２	123	30.9	**38.2**	3.3	19.5	7.3	0.8

（2）近居の家族・親せきの有無

・近居の家族・親せきの有無については、「はい」が 56.6%、「いいえ」が 42.8%となっている。



・小学校区別にみると、陽明小学校区・清和台小学校区・牧の台小学校区で「いいえ」が最も高くなっている。

・中学校区別にみると、緑台中学校区で「いいえ」がやや高くなっている。

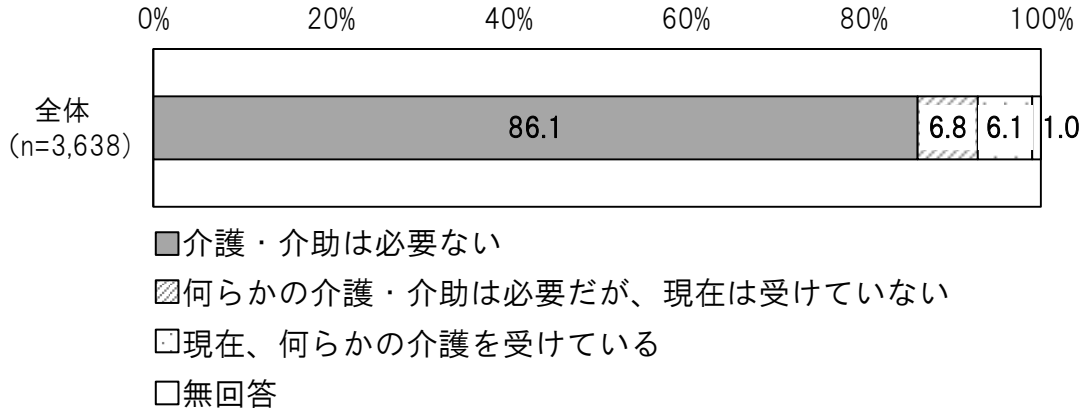
（%）

	全体（件数）	はい	いいえ	無回答		全体（件数）	はい	いいえ	無回答
久代小学校区	239	**69.9**	30.1	－	川西南中学校区	521	**65.1**	34.7	0.2
加茂小学校区	231	**59.7**	40.3	－					
川西小学校区	208	**65.9**	33.7	0.5	川西中学校区	499	**63.9**	35.3	0.8
桜が丘小学校区	167	**62.9**	36.5	0.6					
川西北小学校区	175	**63.4**	34.9	1.7					
明峰小学校区	521	**55.1**	44.3	0.6	明峰中学校区	521	**55.1**	44.3	0.6
多田小学校区	260	**59.6**	40.4	－	多田中学校区	522	**57.1**	42.5	0.4
多田東小学校区	262	**54.6**	44.7	0.8					
緑台小学校区	257	**56.4**	43.2	0.4	緑台中学校区	521	**49.7**	48.9	1.3
陽明小学校区	264	43.2	**54.5**	2.3					
清和台小学校区	177	46.3	**53.7**	－	清和台中学校区	520	**53.5**	46.5	－
清和台南小学校区	191	**58.1**	41.9	－					
けやき坂小学校区	152	**55.9**	44.1	－					
東谷小学校区	203	**57.6**	41.9	0.5	東谷中学校区	527	**52.9**	46.5	0.6
牧の台小学校区	219	47.5	**51.6**	0.9					
北陵小学校区	97	**53.6**	46.4	－					
黒川小学校区	8	**75.0**	25.0	－					

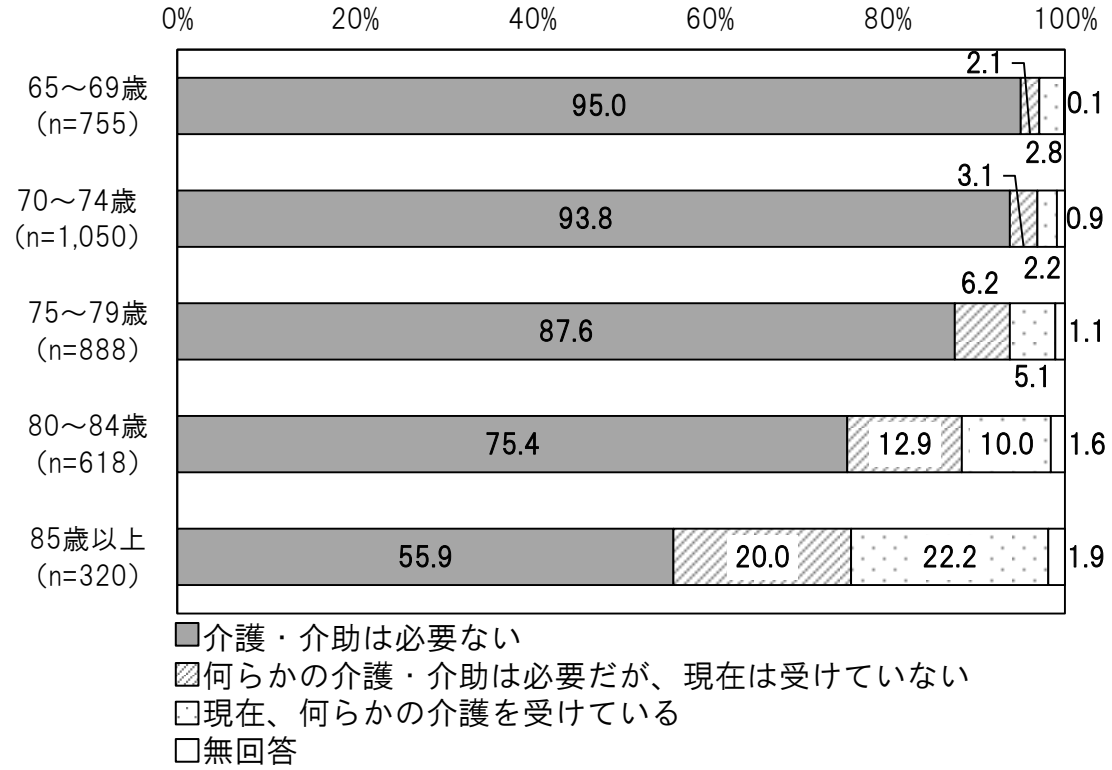
※小学校区と中学校区は完全に対応しておらず、一部地域が異なるため、全体件数は必ずしも一致しない。

（3）介護の必要性

・介護の必要性については、「介護・介助は必要ない」が 86.1%と最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」・「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた、『介護・介助が必要』な人の割合は 12.9%と 1 割以上となっている。



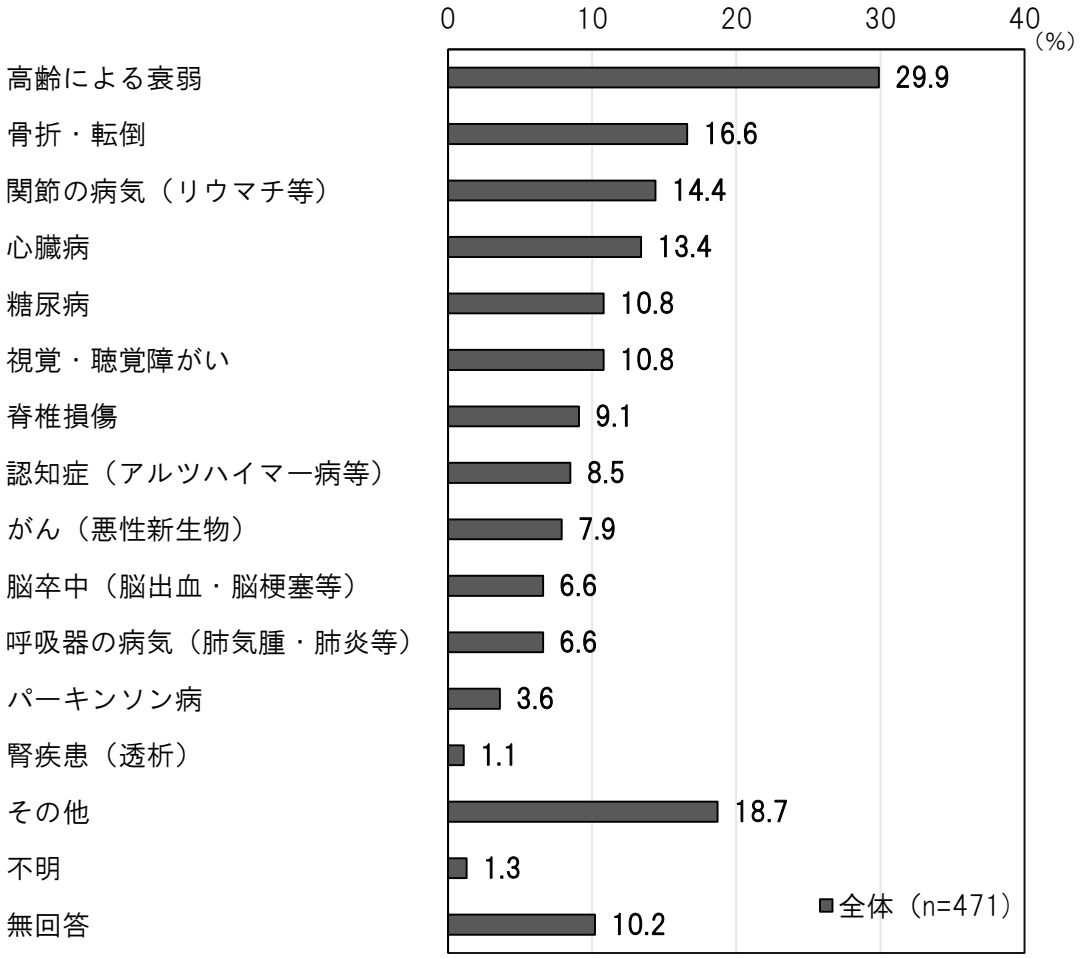
・年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、『介護・介助が必要』な人の割合が高くなっており、80 歳～84 歳で 22.9%と 2 割以上、85 歳以上では 42.2%と 4 割以上を占めており、80 歳を境に介護・介助が必要になる人の増加がみられる。



（3－①）介護・介助が必要になった主な原因

※（3）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方のみ

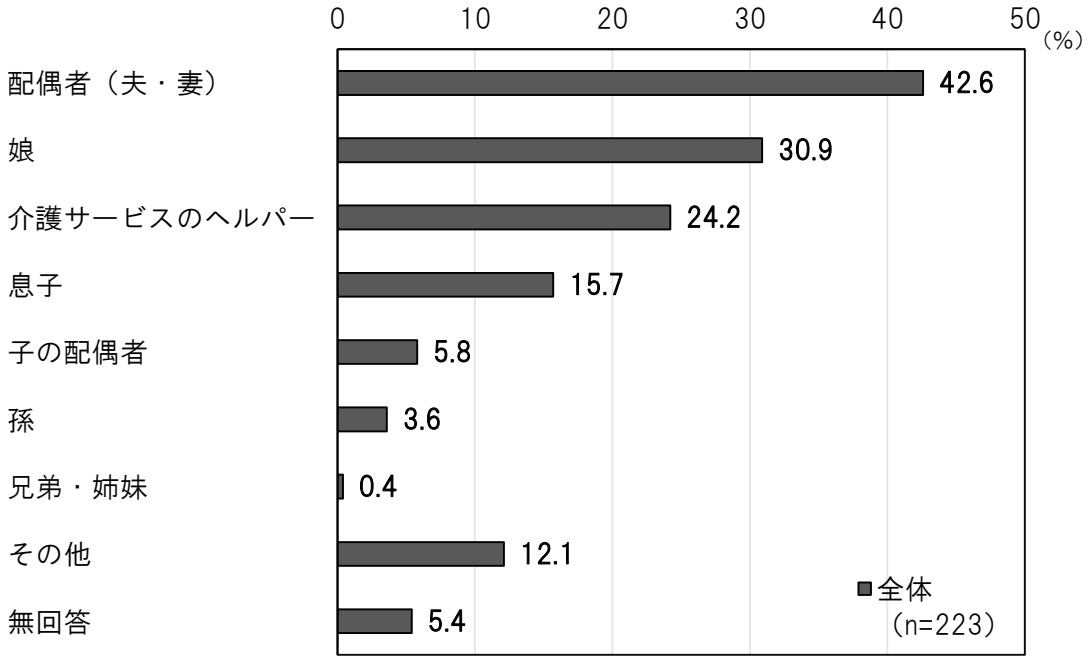
・介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が 29.9％と３割近くを占め最も高く、次いで「骨折・転倒」（16.6％）、「関節の病気（リウマチ等）」（14.4％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○脊柱管狭窄症、ひざ・腰などの痛み	○高血圧
○うつ病・統合失調症などの精神病	○ストーマの装着　等

（３－②）主な介護・介助者　※（３）で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方のみ

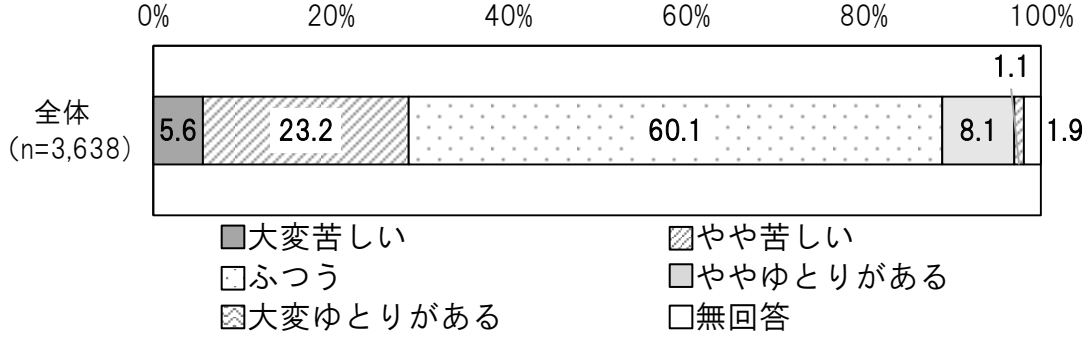
・主な介護・介助者については、「配偶者（夫・妻）」が 42.6％と４割以上を占め最も高く、次いで「娘」（30.9％）、「介護サービスのヘルパー」（24.2％）、「息子」（15.7％）となっており、家族・親族に主な介護・介助をしてもらっている人が多い結果となっている。



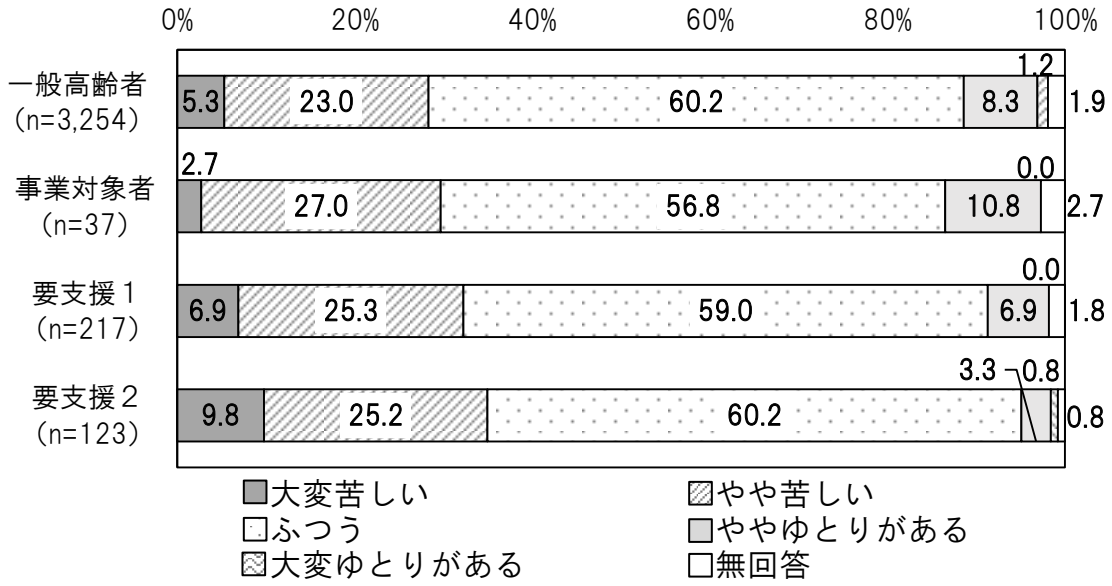
「その他」の主な回答内容	
○デイサービス	○病院
○リハビリセンター	○介護・介助者はいない　等

（４）現在の暮らしの経済的な状況

・現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が 60.1％と６割以上を占め最も高く、次いで「やや苦しい」（23.2％）となっている。「大変苦しい」・「やや苦しい」を合わせた経済的に『苦しい』人の割合は 28.8％となっている。

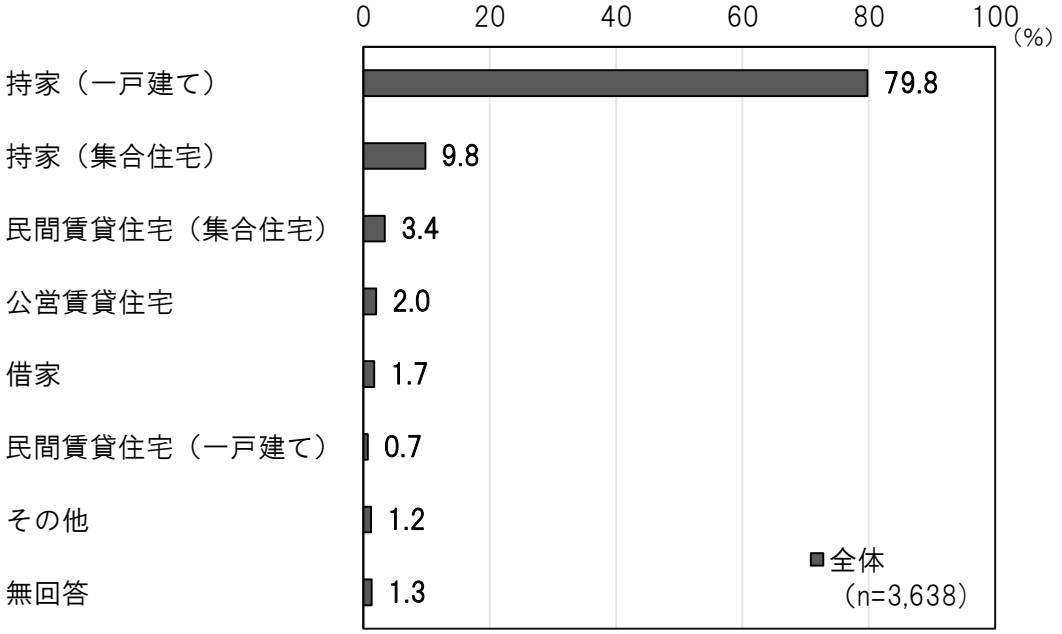


・介護度別にみると、経済的に『苦しい』人の割合は要支援２では 35.0％と、一般高齢者（28.3％）より 6.7 ポイント高くなっている。



（5）現在の住まいの形態

・現在の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が 79.8%と 8 割近くを占め最も高く、次いで「持家（集合住宅）」（9.8%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○息子・娘の持家	○ケアハウス　等

・中学校区別にみると、川西中学校区・川西南中学校区で「持家（集合住宅）」がやや高くなっている。

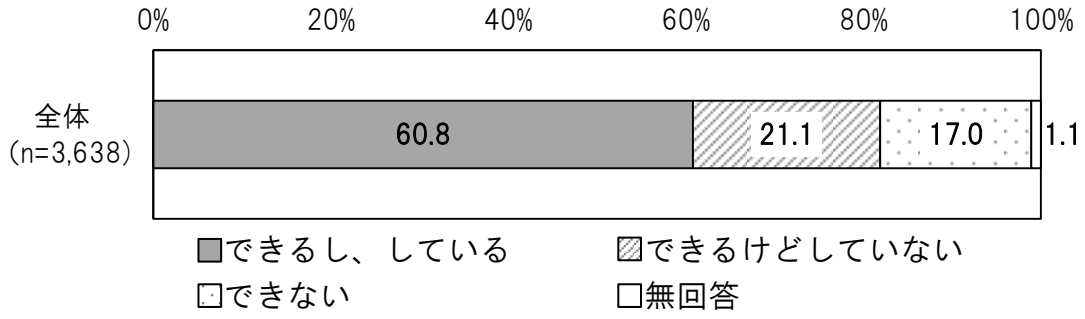
（%）

	全体（件数）	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無回答
川西南中学校区	521	**67.0**	15.2	4.0	1.3	5.6	3.3	2.1	1.5
川西中学校区	499	**56.3**	20.0	4.8	1.6	9.4	3.8	2.2	1.8
明峰中学校区	521	**93.7**	1.2	0.2	1.2	0.4	1.3	1.0	1.2
多田中学校区	522	**81.6**	9.6	0.8	0.4	5.2	1.0	0.6	1.0
緑台中学校区	521	**89.3**	5.8	－	0.4	0.8	1.3	1.0	1.5
清和台中学校区	520	**79.6**	12.7	4.2	0.4	0.6	0.8	0.8	1.0
東谷中学校区	527	**89.9**	4.9	0.4	－	2.3	0.8	0.8	0.9

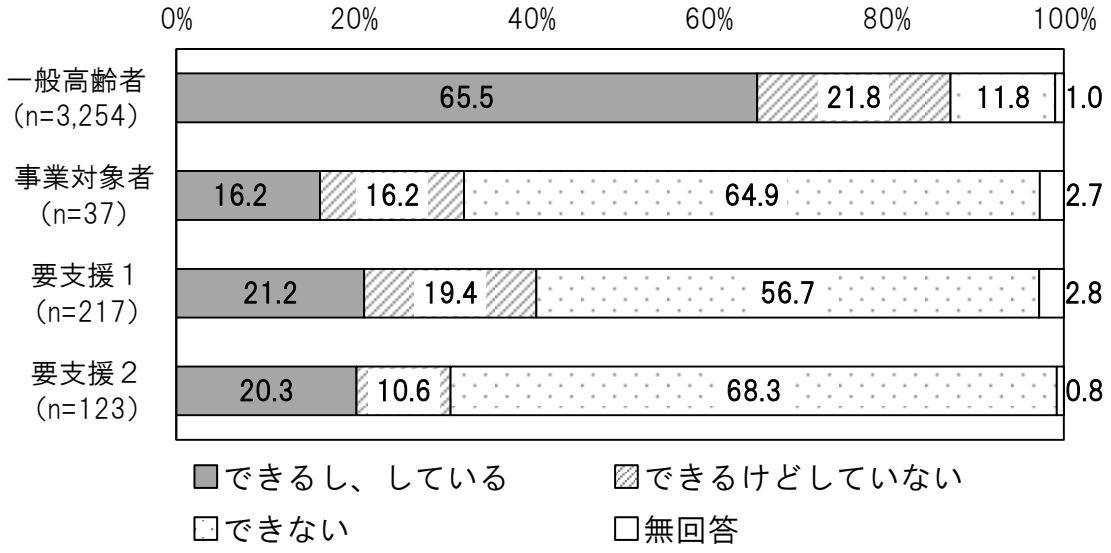
3．からだを動かすことについて

（1）階段を手すりや壁をつたわらずに昇ること

・階段を手すりや壁をつたわらずに昇れているかについては、「できるし、している」が 60.8%と６割以上となっている。

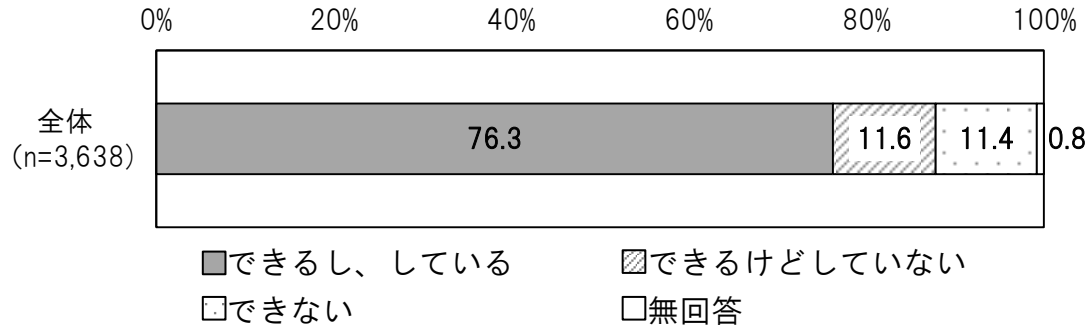


・介護度別にみると、一般高齢者では「できるし、している」が６割以上を占めて最も高い一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では「できない」が半数以上を占め最も高くなっている。

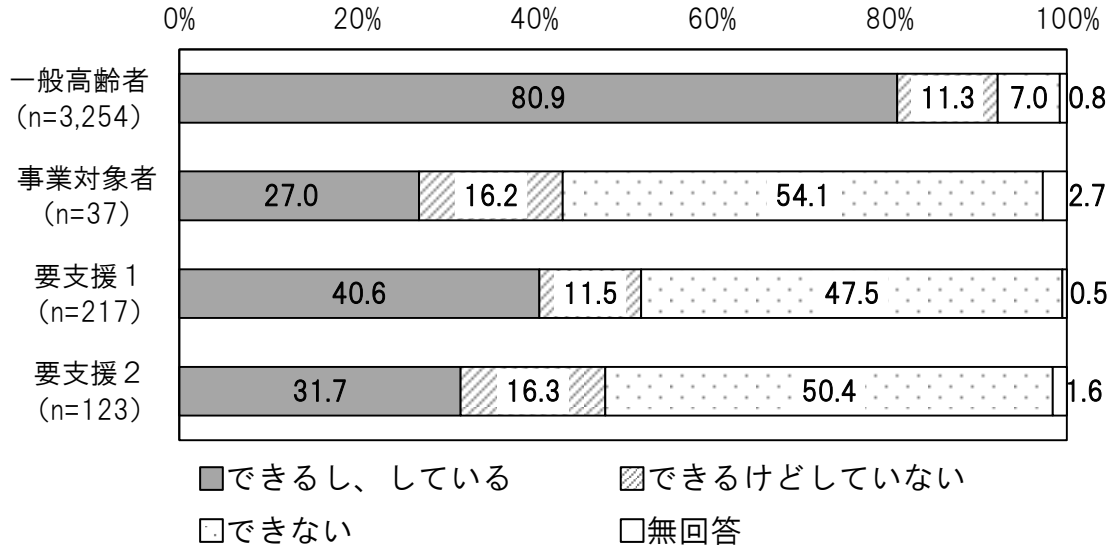


（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることについては、「できるし、している」が76.3%と７割以上となっている。

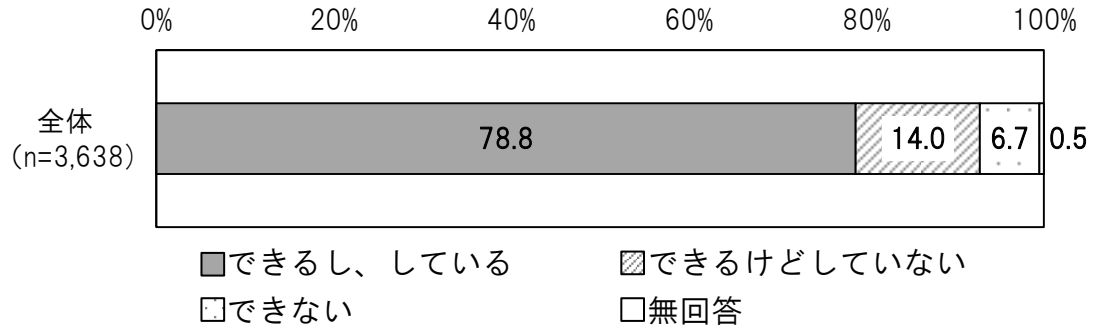


・介護度別にみると、一般高齢者では「できるし、している」が８割以上を占めて最も高い一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では「できない」が４割以上を占め最も高くなっている。

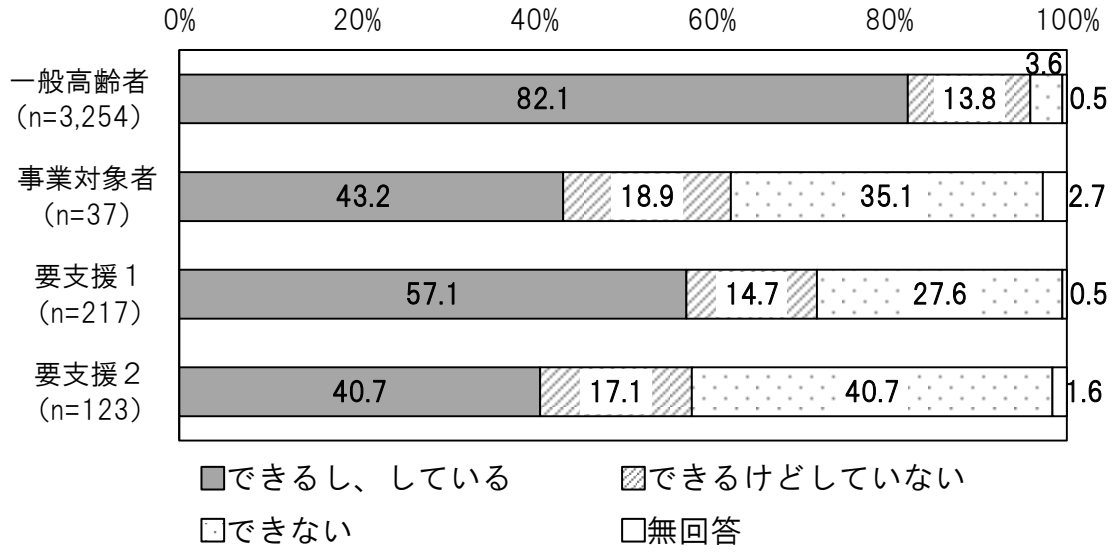


（3）15 分位続けて歩くこと

・15 分位続けて歩くことについては、「できるし、している」が 78.8％と 7 割以上となっている。

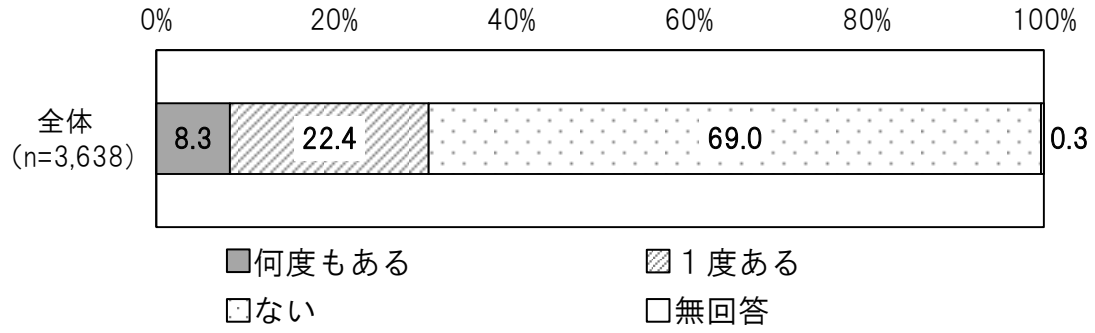


・介護度別にみると、要支援 2 で「できるし、している」と「できない」が 40.7％と同率となっており、 4 割以上の人が 15 分位続けて歩くことが「できない」結果となっている。

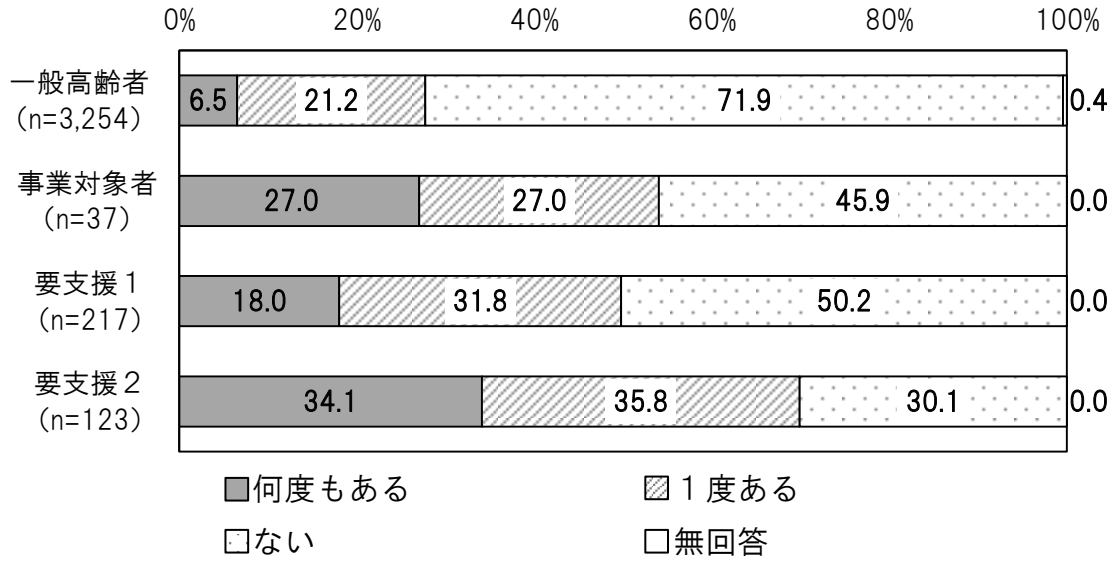


（４）過去１年間の転んだ経験

・過去１年間の転んだ経験については、「ない」が 69.0％と７割近くを占めている。

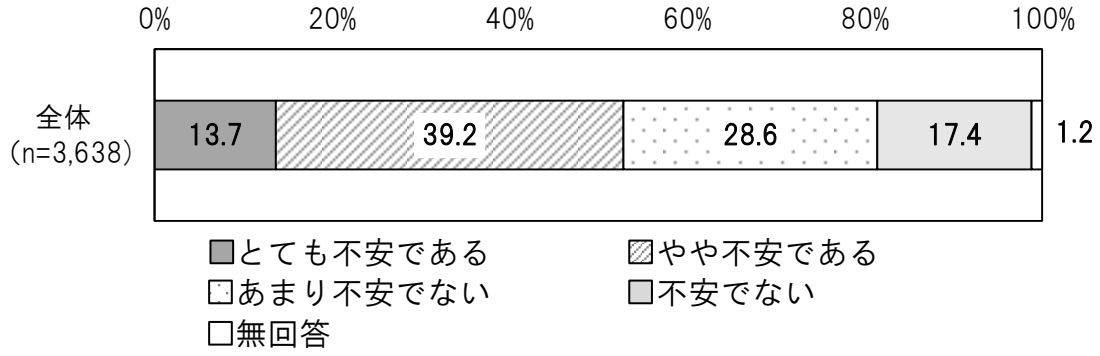


・介護度別にみると、要支援２では「１度ある」が 35.8％と３割以上を占め最も高くなっている。また、「何度もある」・「１度ある」を合わせた過去１年間に転んだ経験が『ある』人の割合は、事業対象者で 54.0％、要支援１で 49.8％、要支援２で 69.9％となっており、一般高齢者（27.7％）より 20 ポイント以上高くなっている。

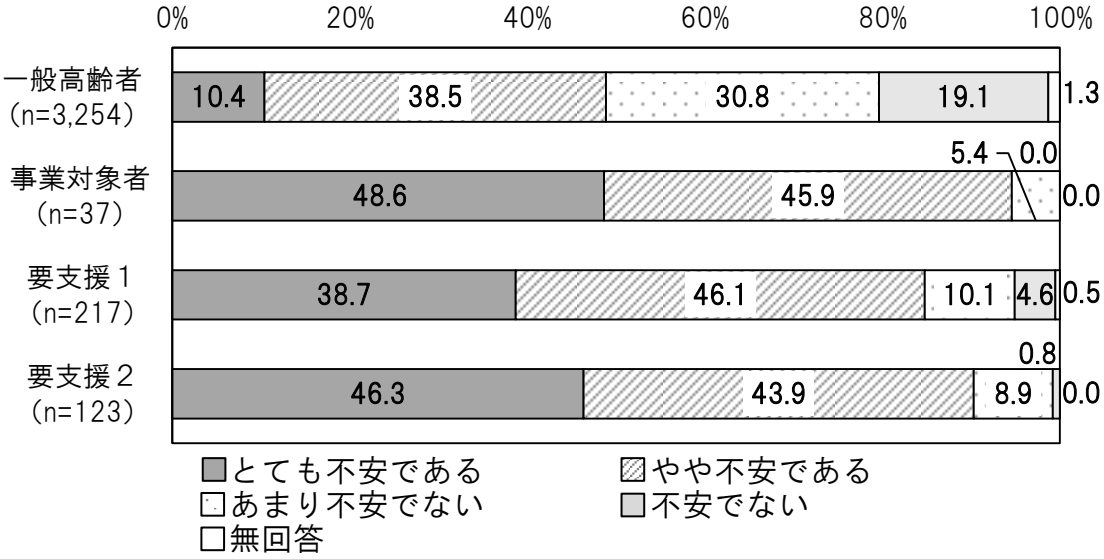


（５）転倒に対する不安

・転倒に対する不安については、「やや不安である」が 39.2%と 4 割近くを占め最も高く、「とても不安である」と合わせた『不安である』割合は 52.9%と半数以上となっている。

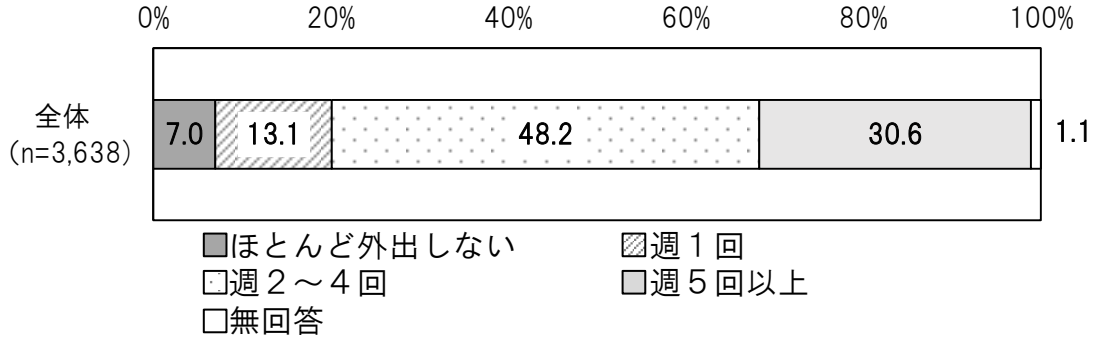


・介護度別にみると、事業対象者・要支援２では「とても不安である」が最も高くなっている。また、『不安である』割合は事業対象者で 94.5%、要支援１で 84.8%、要支援２で 90.2%と、一般高齢者（48.9%）より 35 ポイント以上高くなっている。

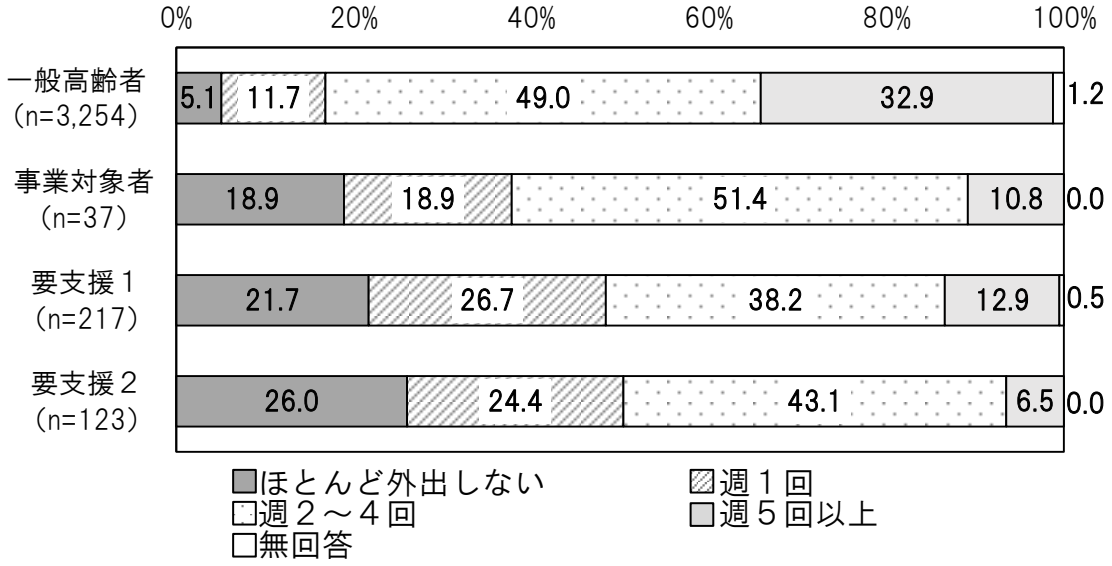


（６）週に１回以上の外出

・週に１回以上の外出については、「週２～４回」が 48.2%と最も高く、次いで「週５回以上」（30.6%）となっている。

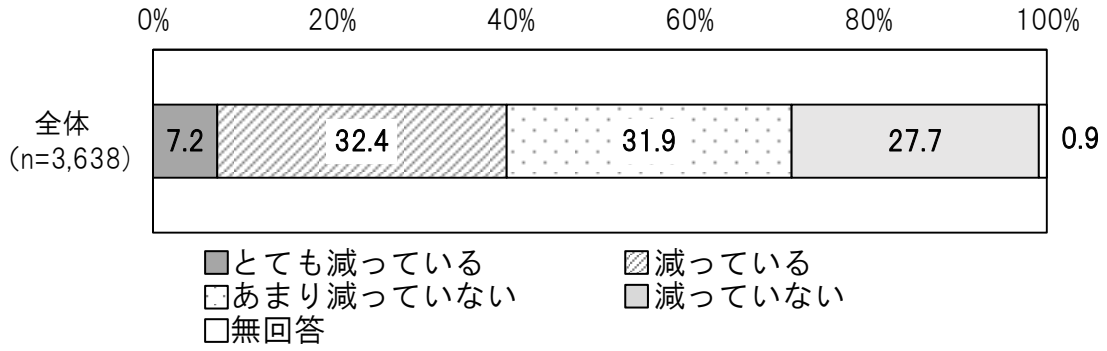


・介護度別にみると、「ほとんど外出しない」が、事業対象者で 18.9%、要支援１で 21.7%、要支援２で 26.0%となっており、一般高齢者（5.1%）より 10 ポイント以上高くなっている。

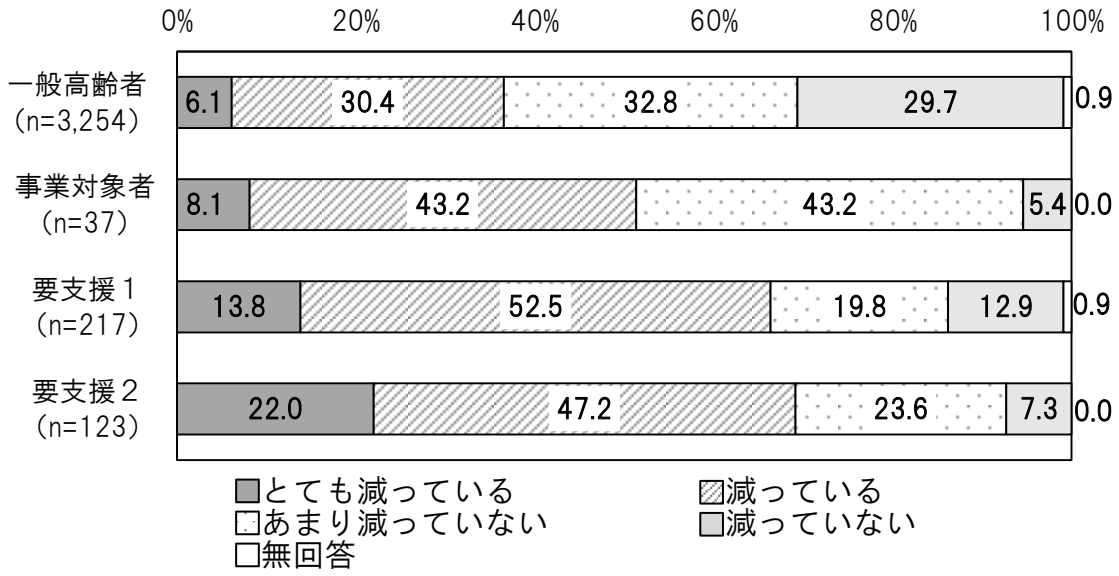


（7）昨年と比べた外出の回数

・昨年と比べた外出の回数については「減っている」が 32.4%と最も高く、「とても減っている」と合わせた『減っている』割合は 39.6%と 4 割近くとなっている。

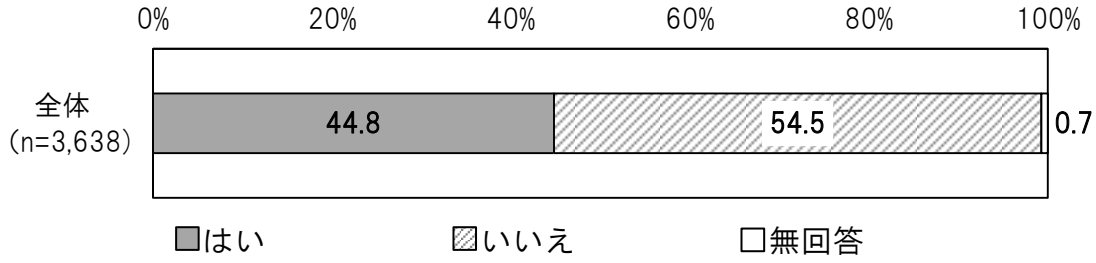


・介護度別にみると、昨年と比べた外出回数が『減っている』人の割合は、事業対象者で 51.3%、要支援 1 で 66.3%、要支援 2 で 69.2%となっており、一般高齢者（36.5%）より 10 ポイント以上高くなっている。



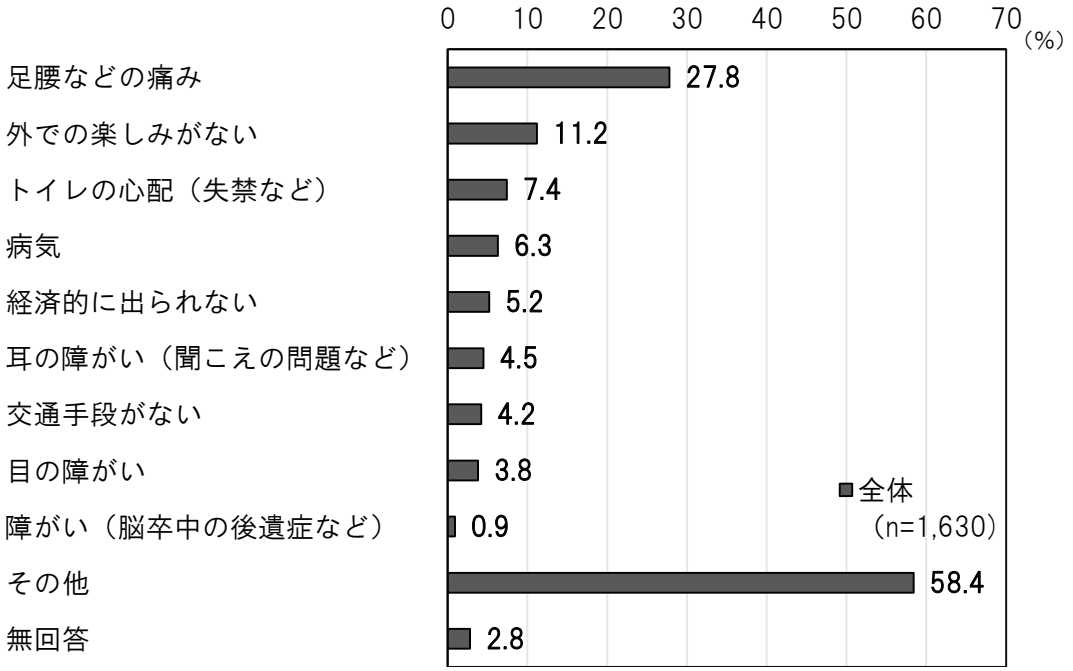
（8）外出を控えているか

・外出を控えているかについては、「いいえ」が 54.5%と半数以上となっている。



（8―①）外出を控えている理由　※（8）で「外出を控えている」と回答した方のみ

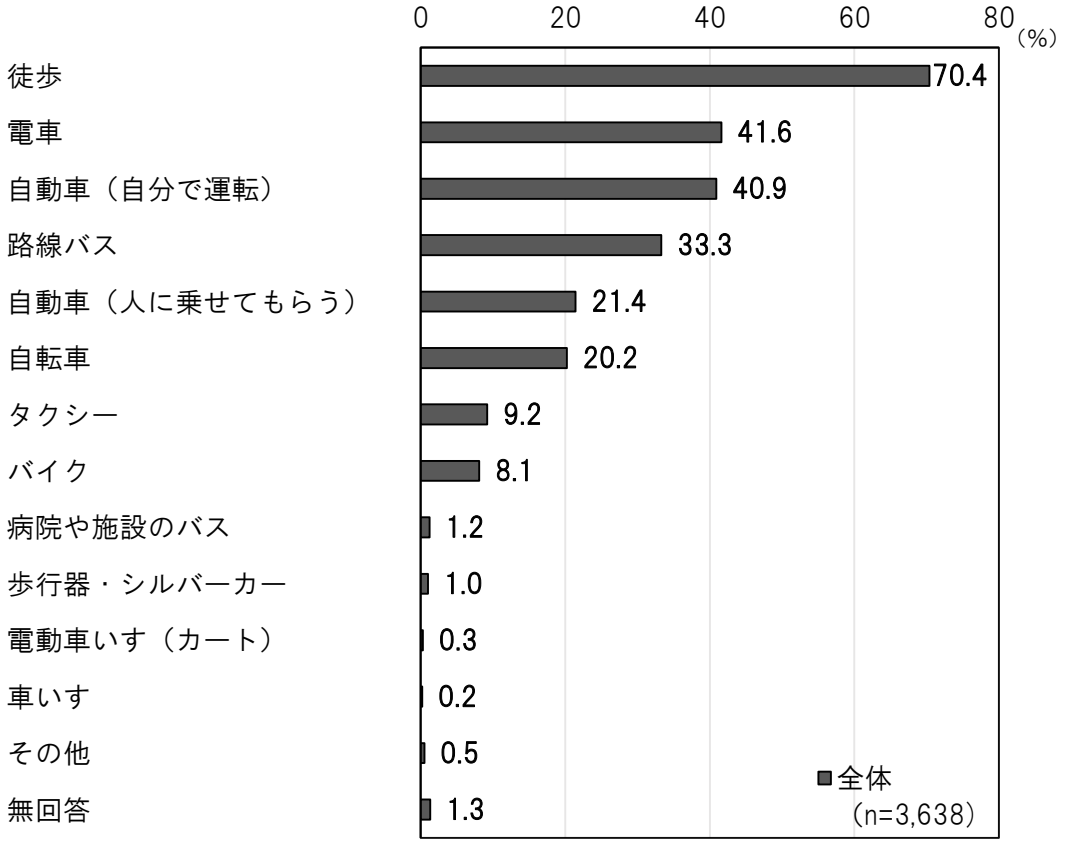
・外出を控えている理由は「その他」が 58.4%で半数以上を占め最も高くなっている。「その他」以外では、「足腰などの痛み」が 27.8%と最も高く、次いで「外での楽しみがない」（11.2%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○新型コロナウイルス感染拡大防止のため	○外出の必要がない
○歩くと息苦しい・ふらつく、歩行困難	○外出すると疲れる　等

（9）外出の際の移動手段

・外出の際の移動手段については、「徒歩」が 70.4％と 7 割以上を占め最も高く、次いで「電車」（41.6％）、「自動車（自分で運転）」（40.9％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○杖やウォーキングバッグを使い歩く	○子どもの車に乗せてもらう　等

・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「徒歩」が最も高くなっている。また、事業対象者・要支援１・要支援２で「自動車（人に乗せてもらう)」や「タクシー」が高くなっており、一般高齢者では「自転車」や「自動車（自分で運転)」が高くなっている。

（%）

	全体（件数）	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス
一般高齢者	3,254	**72.5**	21.8	8.8	44.3	19.9	43.4	34.0
事業対象者	37	**59.5**	2.7	－	5.4	40.5	32.4	29.7
要支援１	217	**57.1**	7.8	2.8	14.7	35.0	25.8	27.6
要支援２	123	**43.1**	5.7	1.6	6.5	34.1	23.6	26.0

	全体（件数）	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
一般高齢者	3,254	0.8	0.2	0.0	0.4	6.8	0.3	1.3
事業対象者	37	5.4	－	－	－	35.1	－	－
要支援１	217	2.8	0.5	1.4	6.9	25.8	2.8	0.5
要支援２	123	6.5	2.4	5.7	8.9	35.0	－	4.1

◆　運動器の機能低下リスク

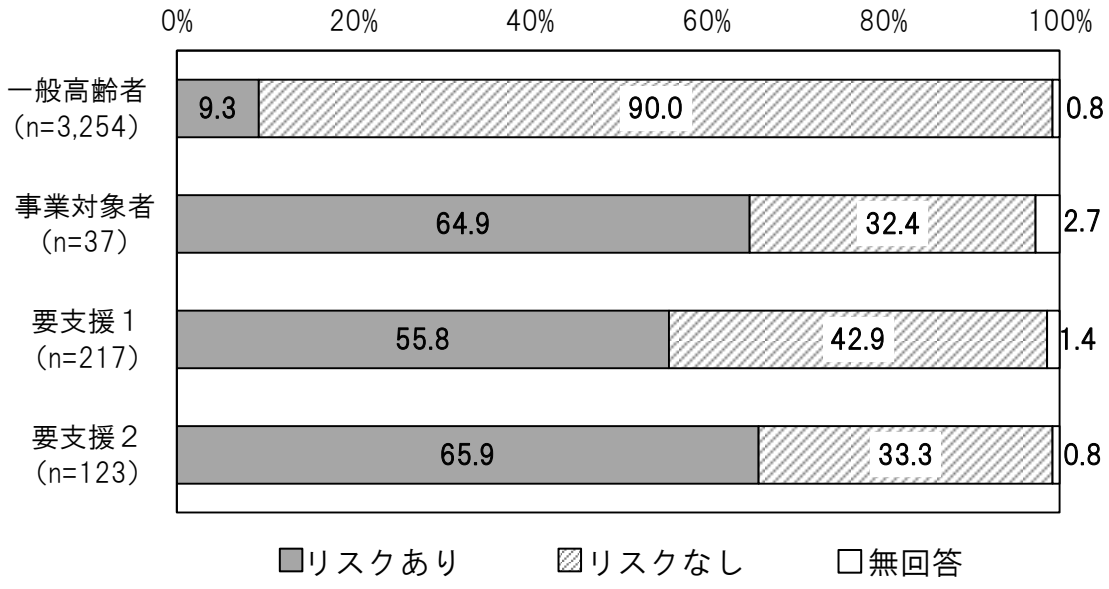
・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の５つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしている。

・今回の調査票に含まれる以下の設問５問中３問以上に該当した場合に運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
3（1）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	できない
3（2）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
3（3）	15 分位続けて歩いていますか	できない
3（4）	過去１年間に転んだ経験がありますか	何度もある/１度ある
3（5）	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である/やや不安である

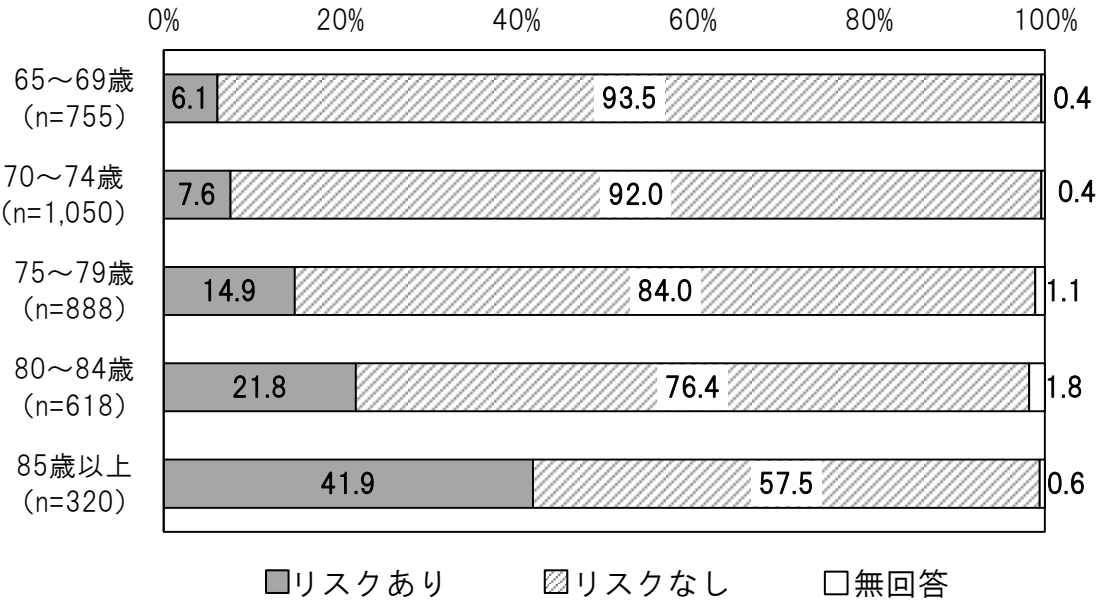
①介護度別判定

・介護度別にみると、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は一般高齢者では 9.3%と１割未満である一方で、事業対象者では 64.9%、要支援１では 55.8%、要支援２では 65.9%と半数以上となっている。



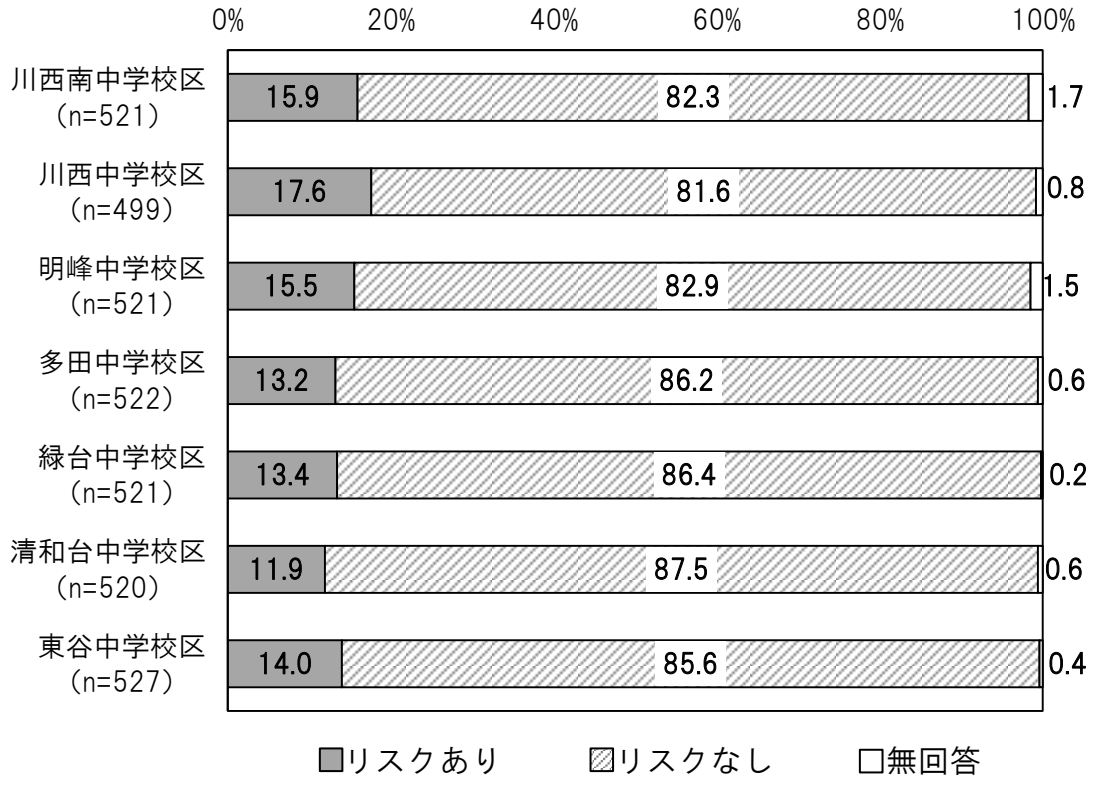
②年齢別判定

・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85 歳以上では 41.9%と 4 割以上を占めている。



③日常生活圏域（中学校区）別判定

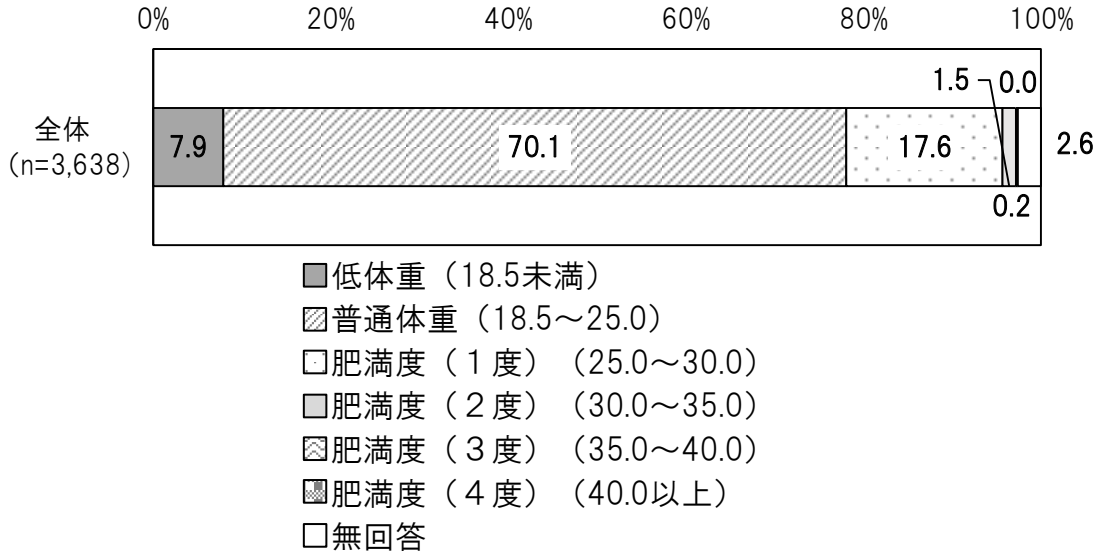
・日常生活圏域別にみると、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は川西中学校区で 17.6%と最も高くなっている。



４．食べることについて

（１）ＢＭＩ　※ＢＭＩ=体重（ｋｇ）÷（身長（m）×身長（m））

・回答された身長・体重から算出したＢＭＩについては、「普通体重」が 70.1%と７割以上を占め最も高くなっている。



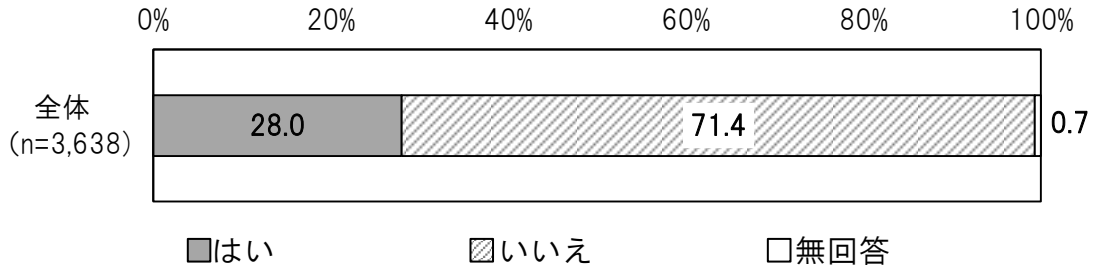
・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「普通体重」が最も高くなっている。また、「低体重（18.5 未満)」が事業対象者で 10.8%、要支援１で 11.1%、要支援２で 11.4%と１割以上となっている。

（%）

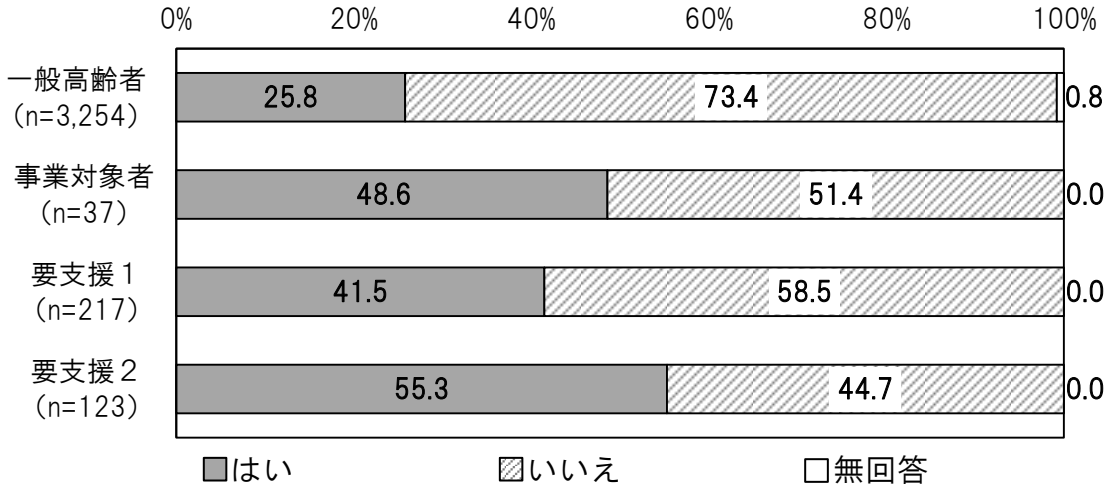
	全体（件数）	低体重（18.5未満）	普通体重（18.5～25.0）	肥満度（１度）（25.0～30.0）	肥満度（２度）（30.0～35.0）	肥満度（３度）（35.0～40.0）	肥満度（４度）（40.0以上）	無回答
一般高齢者	3,254	7.6	**71.1**	17.4	1.4	0.2	－	2.3
事業対象者	37	10.8	**70.3**	13.5	－	－	－	5.4
要支援１	217	11.1	**60.4**	20.7	1.8	0.9	－	5.1
要支援２	123	11.4	**63.4**	16.3	3.3	－	－	5.7

（2）固いものが食べにくくなったこと

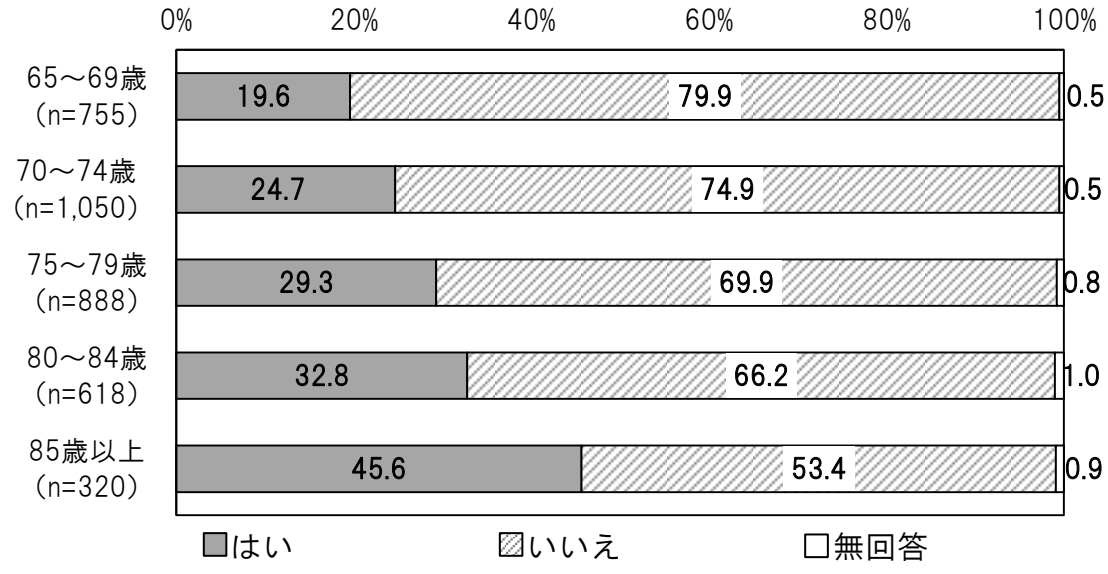
・半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「いいえ」が 71.4％と 7 割以上を占めている。



・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で 48.6％、要支援 1 で 41.5％、要支援 2 で 55.3％と、一般高齢者（25.8％）より 15 ポイント以上高くなっている。

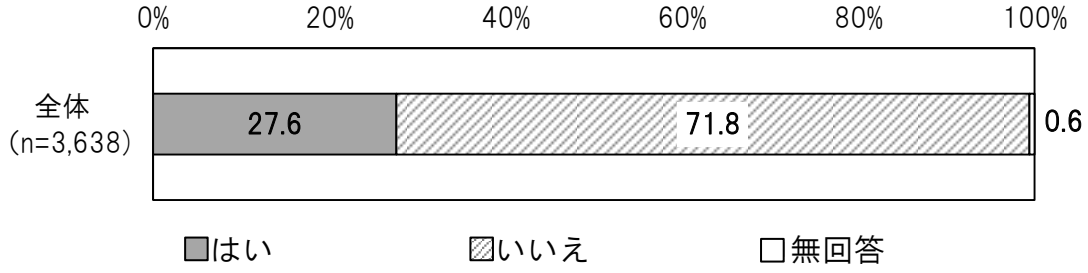


・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっており、85 歳以上では 45.6％と 4 割以上を占めている。

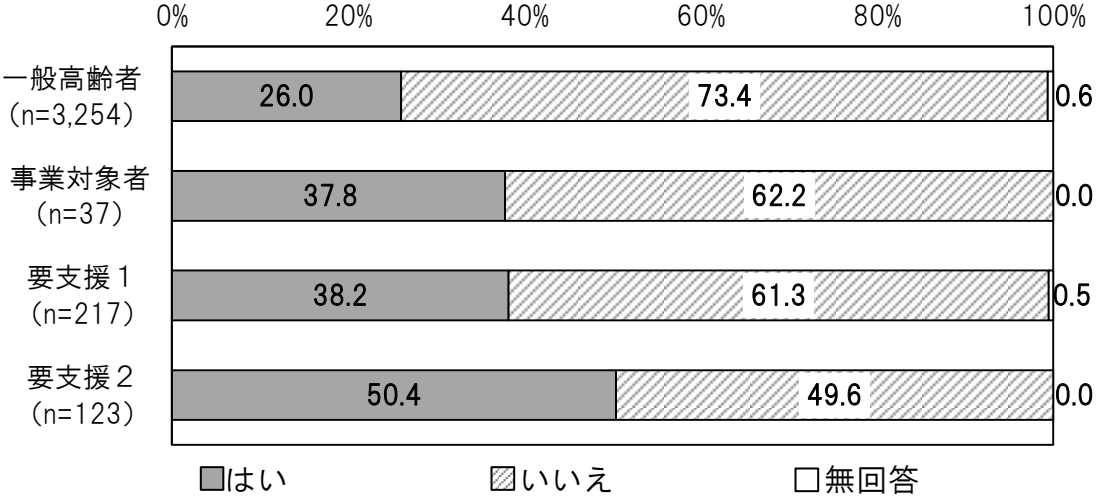


（3）お茶や汁物等でむせること

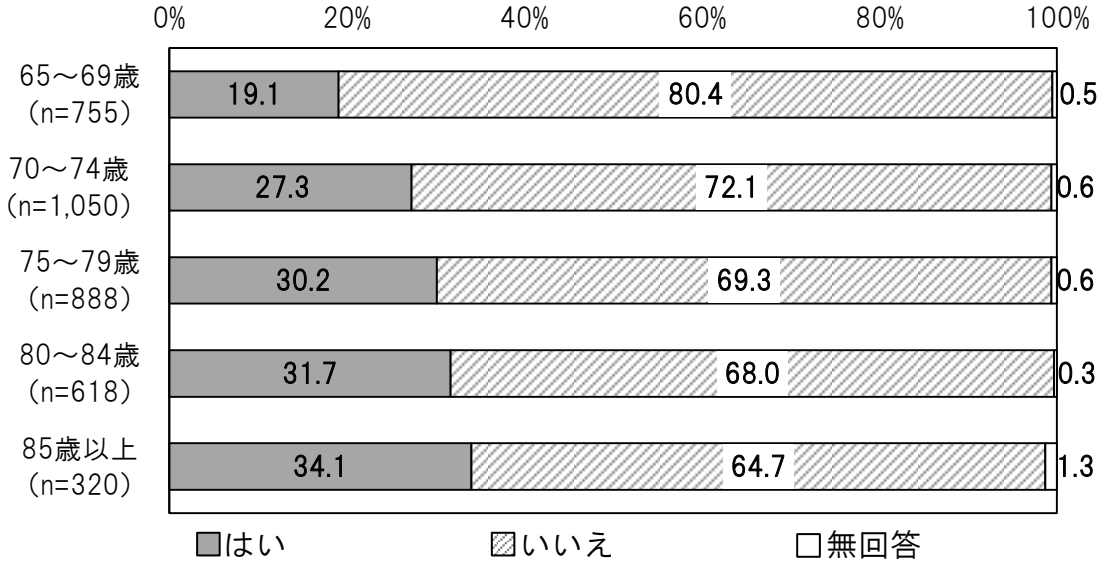
・お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「いいえ」が 71.8%と 7 割以上を占めている。



・介護度別にみると、要支援 2 で「はい」が 50.4%と、半数以上の人がお茶や汁物等でむせることがある結果となっている。

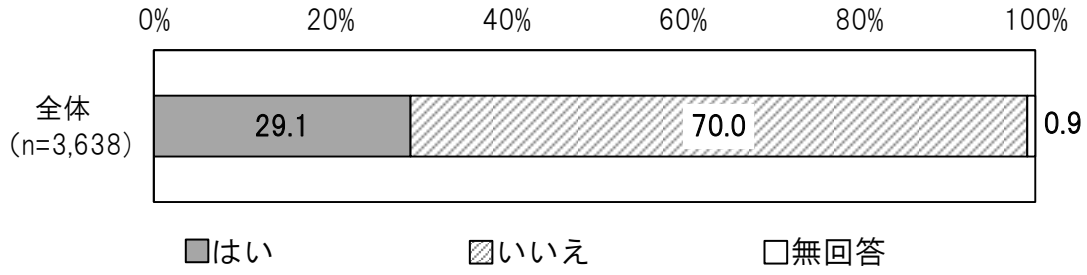


・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっている。

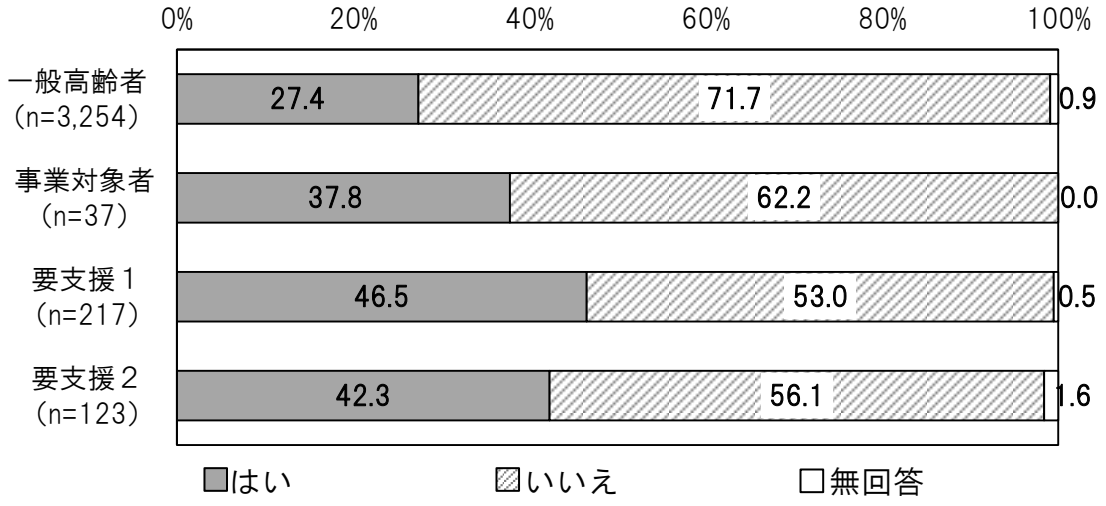


（4）口の渇き

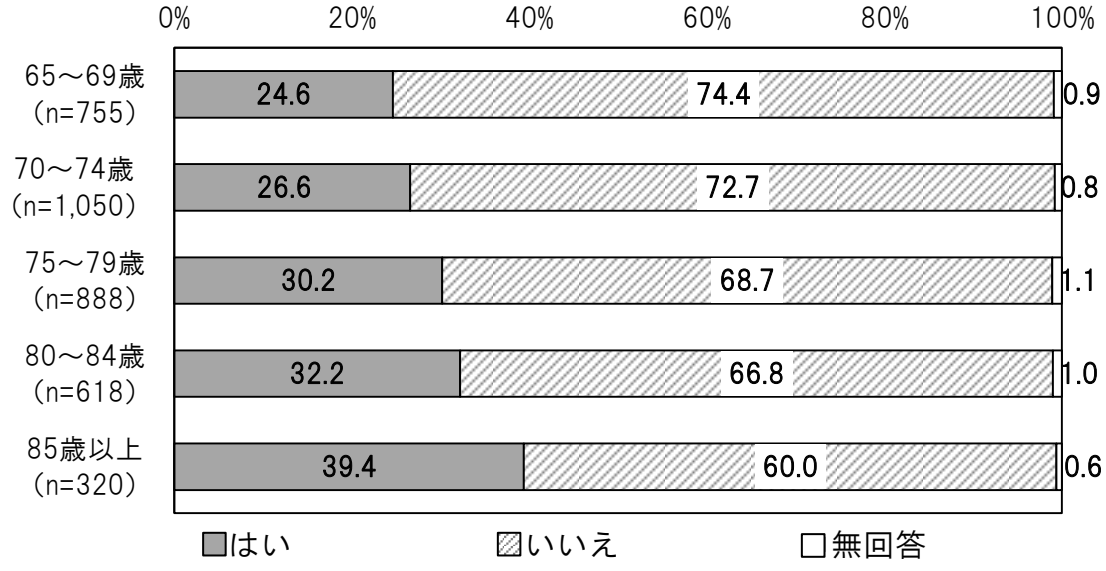
・口の渇きが気になるかについては、「いいえ」が 70.0%と 7 割となっている。



・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者では 37.8%、要支援 1 では 46.5%、要支援 2 では 42.3%と、一般高齢者（27.4%）より 10 ポイント以上高くなっている。

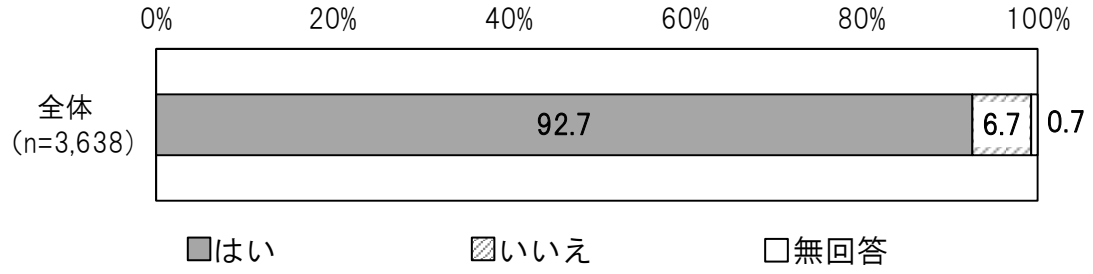


・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっており、85 歳以上では 39.4%と 4 割近くとなっている。

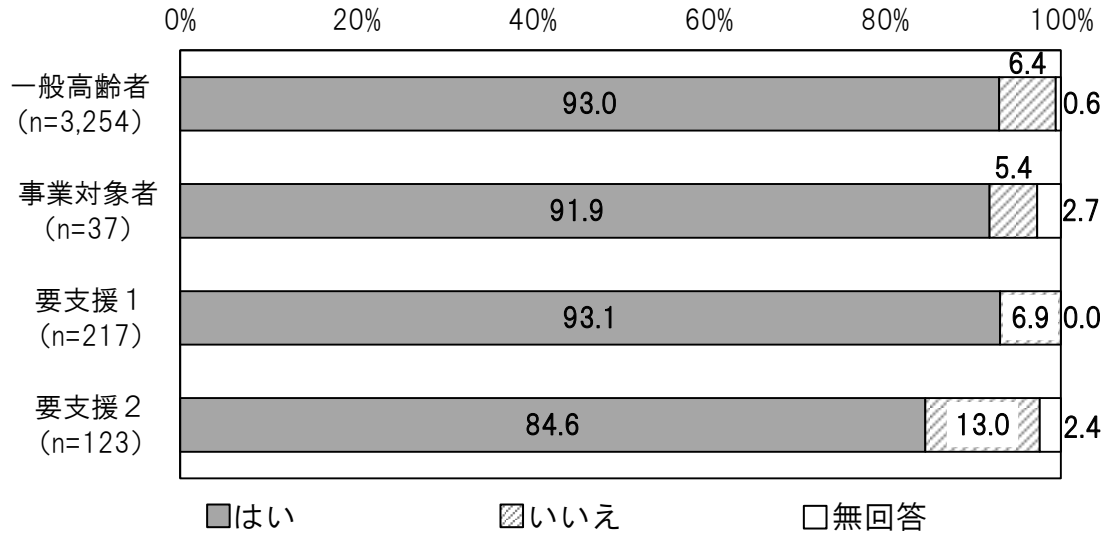


（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）

・歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかについては、「はい」が 92.7%と 9 割以上となっている。

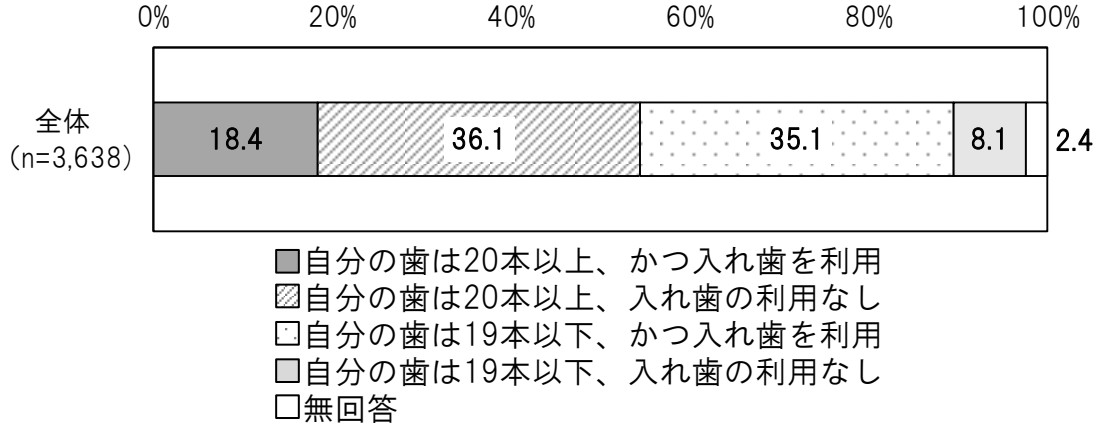


・介護度別にみると、要支援 2 で「いいえ」が 13.0%と 1 割以上を占めている。

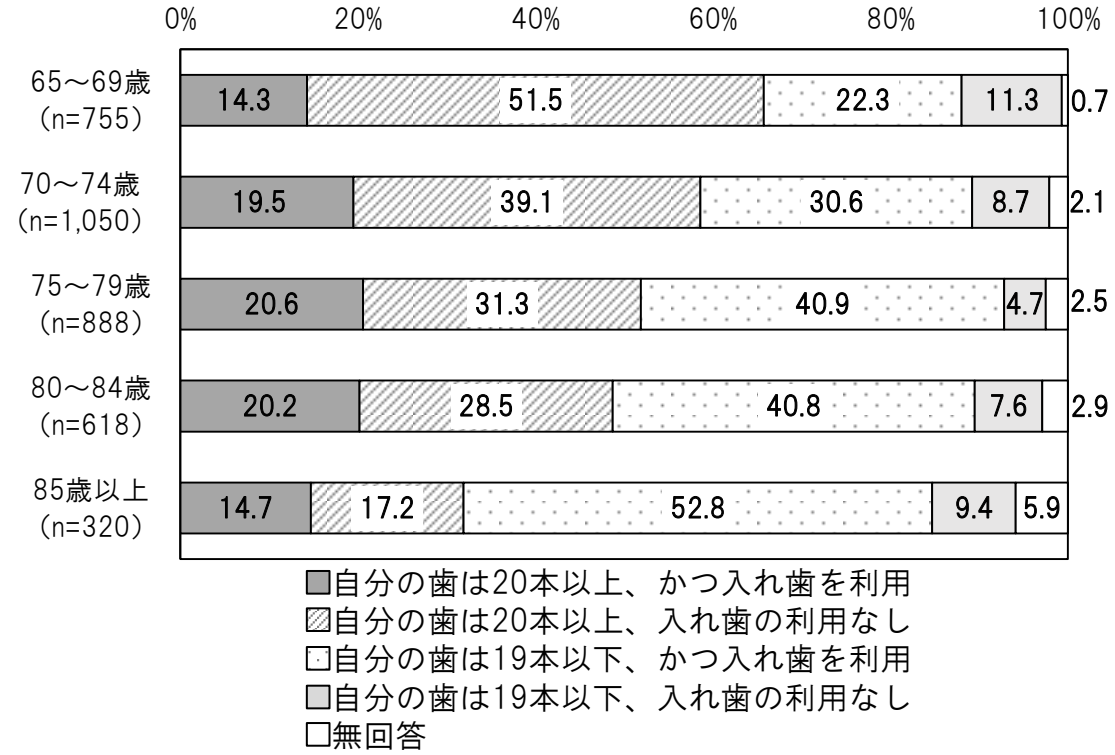


（6）歯の数と入れ歯の利用状況

・歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 36.1%と最も高く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 35.1%となっている。「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」・「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた『入れ歯の利用率』は 53.5%と半数以上となっている。

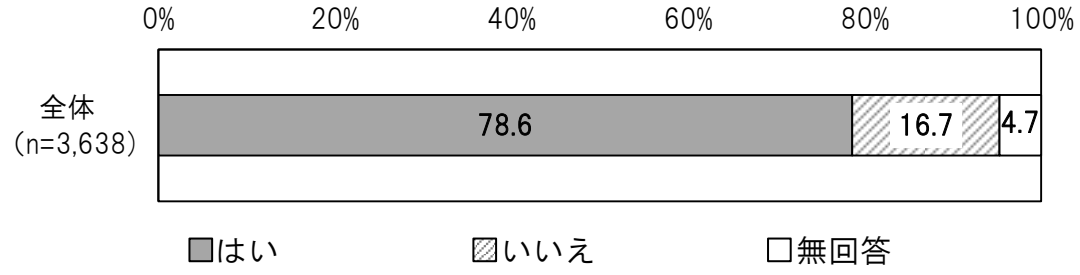


・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が高くなっており、85 歳以上では 52.8%と半数以上を占めている。

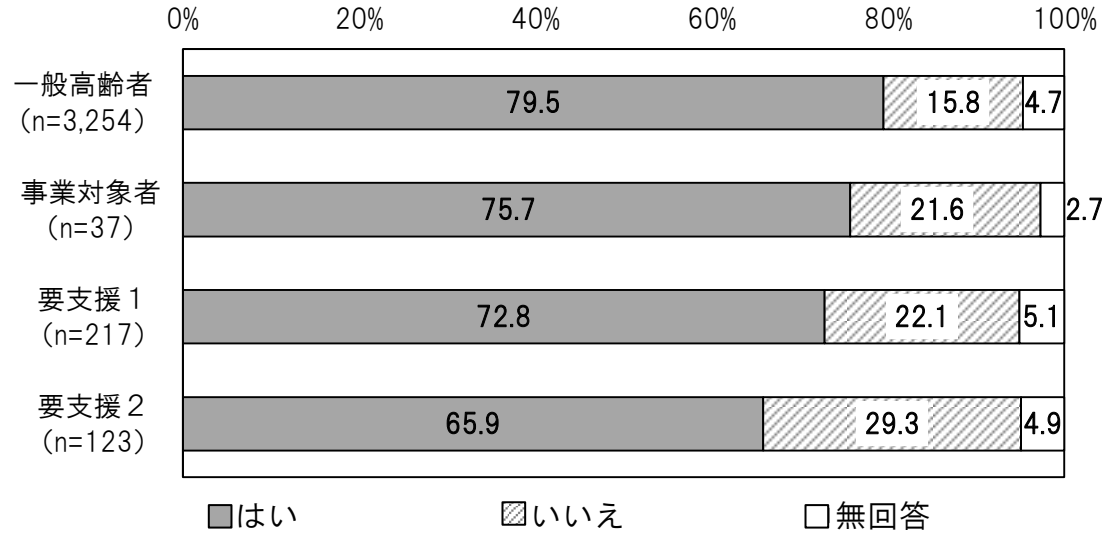


（６－①）噛み合わせ

・噛み合わせは良いかについては、「はい」が 78.6％と７割以上となっている。



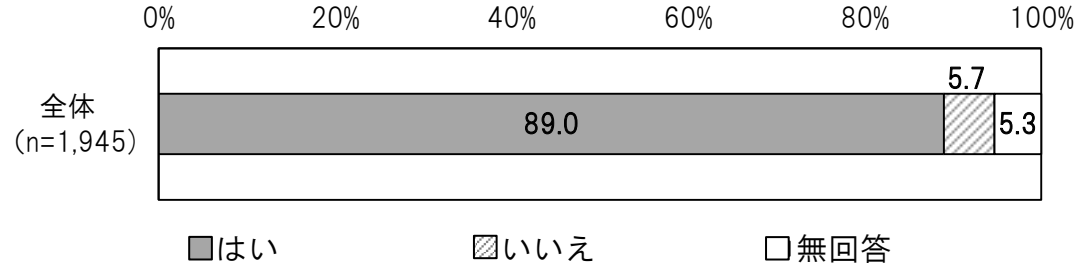
・介護度別にみると、「いいえ」が、事業対象者で 21.6％、要支援１で 22.1％、要支援２で 29.3％となっており、２割以上の人が噛み合わせが良くないと感じている結果となっている。



（６－②）入れ歯の手入れ

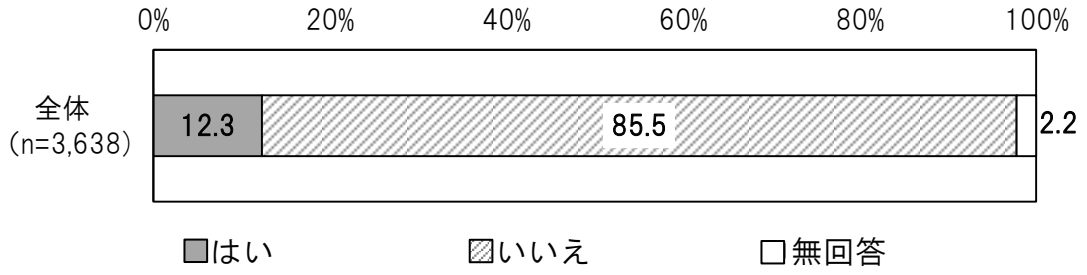
※（６）で「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」または「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方のみ

・毎日入れ歯の手入れをしているかについては「はい」が 89.0％と９割近くを占めている。

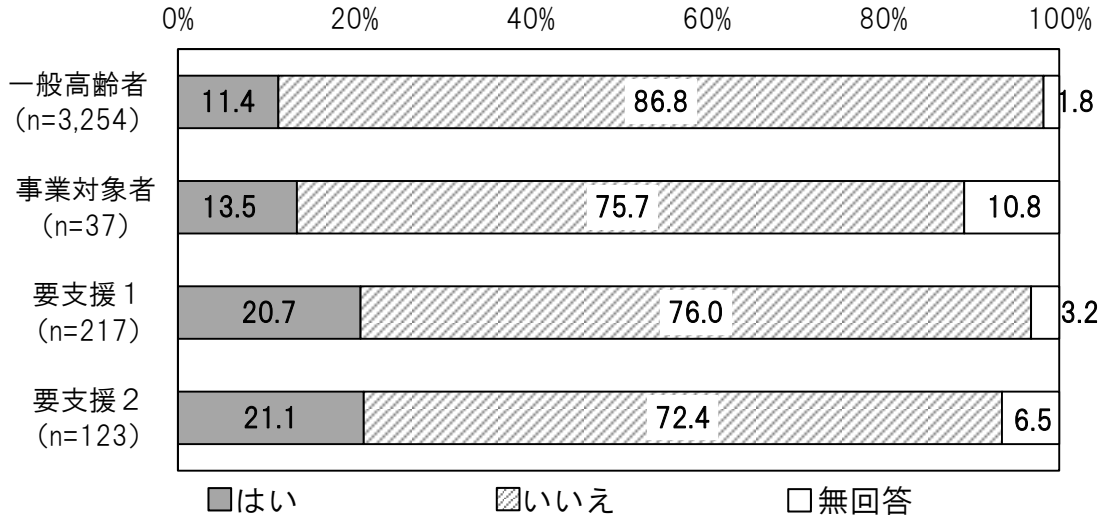


（７）体重減少

・６か月間で２～３kg以上の体重減少があったかについては、「いいえ」が 85.5％と８割以上を占めている。

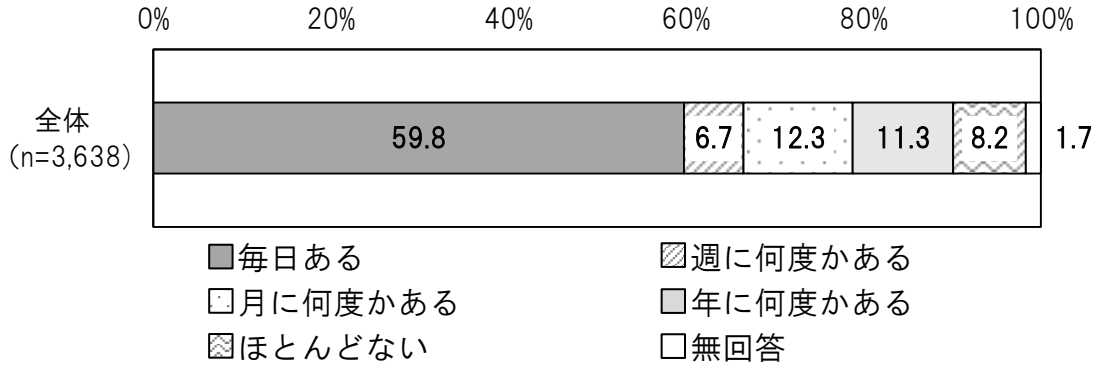


・介護度別にみると、「はい」が、要支援１・要支援２でともに２割以上となっている。

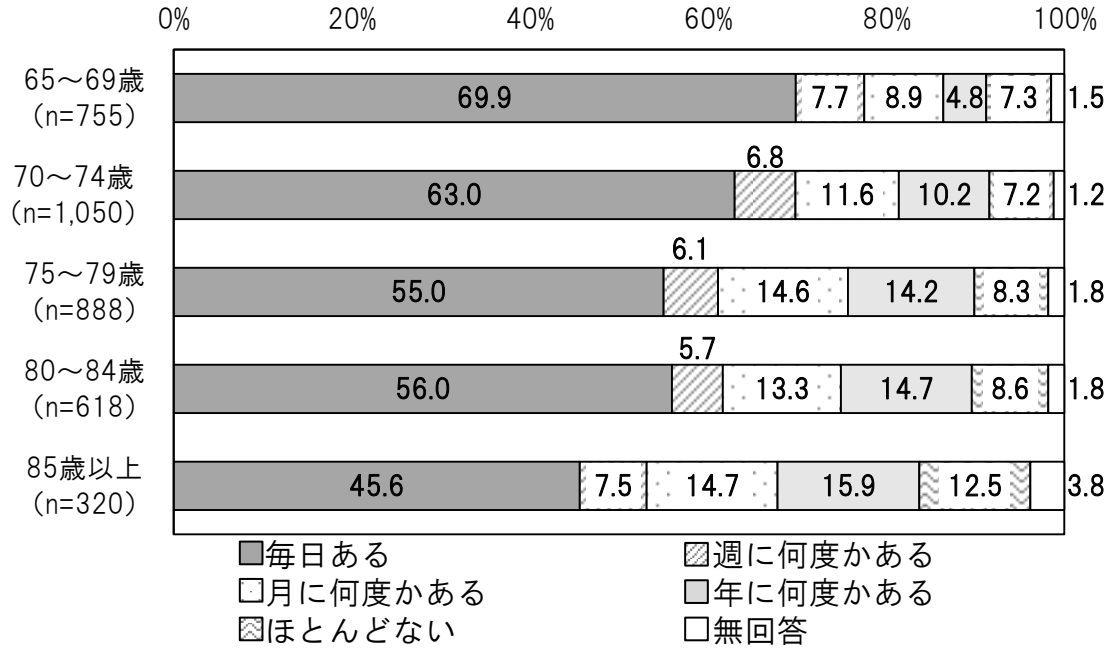


（8）誰かと食事をともにする機会

・誰かと食事をともにする機会があったかについては、「毎日ある」が 59.8％と 6 割近くを占め最も高く、次いで「月に何度かある」（12.3％）となっている。



・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「毎日ある」が低くなっており、85 歳以上では 45.6％と半数未満となっている。また、85 歳以上で「ほとんどない」が 12.5％と 1 割以上となっている。



◆　低栄養リスク

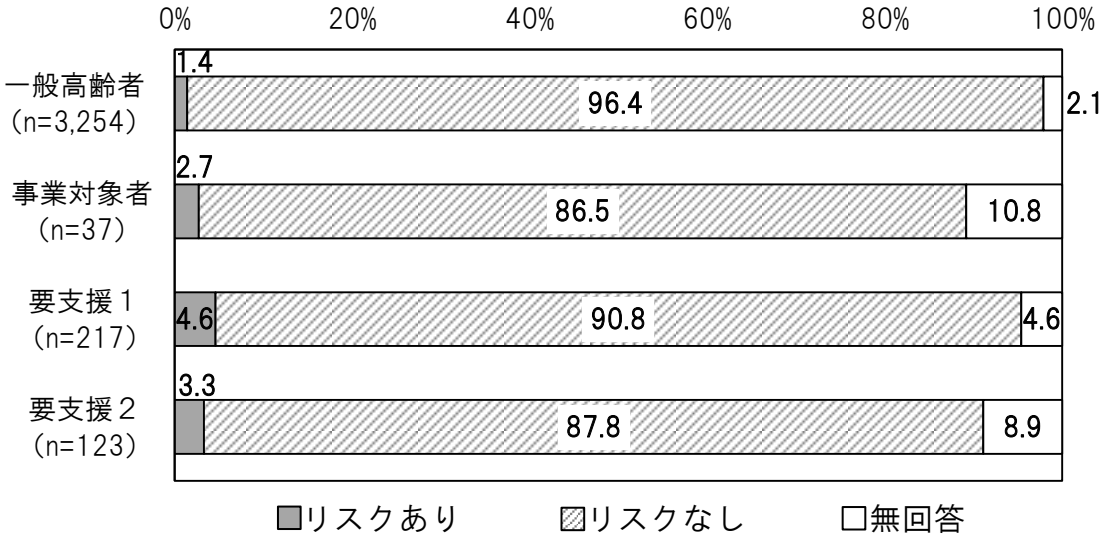
・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の２つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養に関してリスク判定をしている。

・今回の調査票に含まれる以下の設問２問どちらにも該当した場合に低栄養の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
4 （1）	ＢＭＩ値＝体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））	低体重（18.5 未満）
4 （7）	6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか	はい

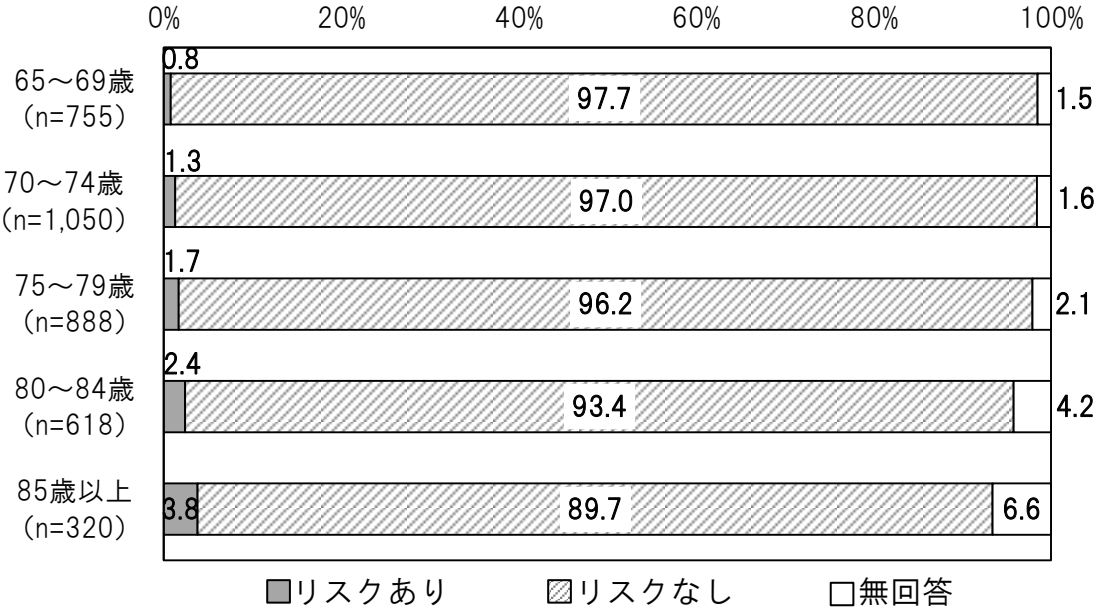
①介護度別判定

・介護度別にみると、低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合は一般高齢者で 1.4%であるのに対し、要支援１では 4.6%、要支援２では 3.3%となっている。



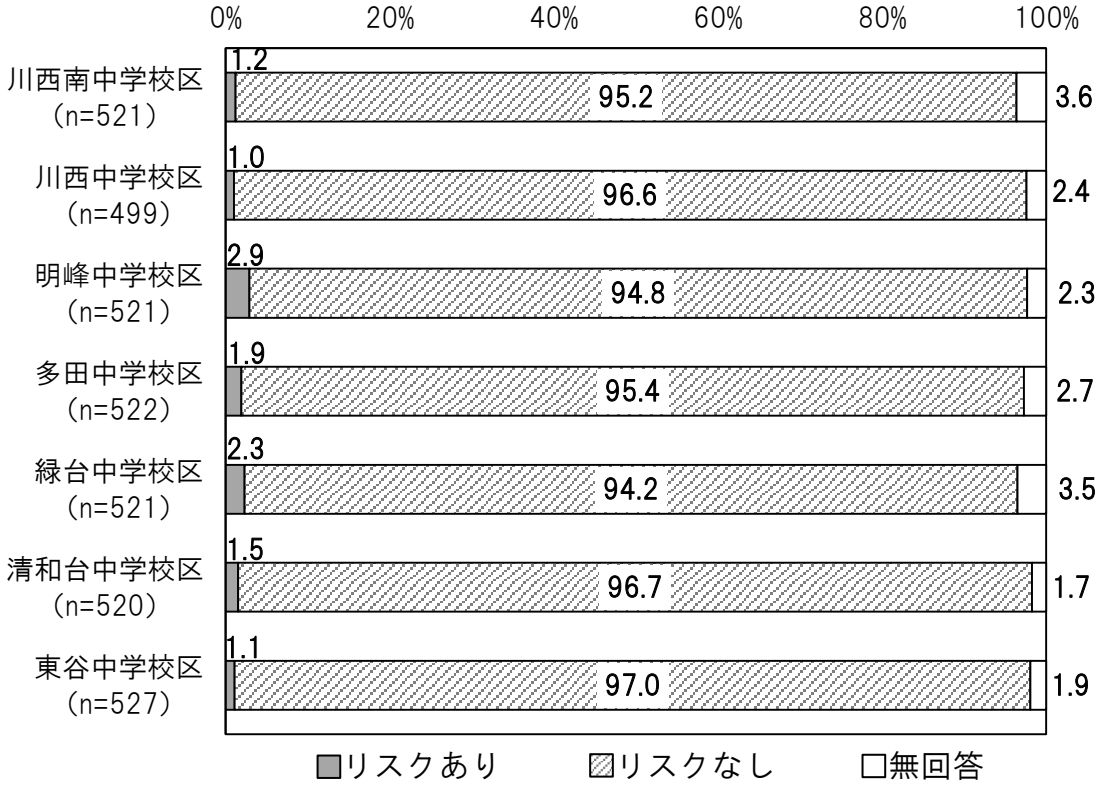
②年齢別判定

・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85 歳以上では 3.8%となっている。



③日常生活圏域（中学校区）別判定

・日常生活圏域別にみると、明峰中学校区で低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合が 2.9%と最も高くなっている。



◆　口腔機能リスク

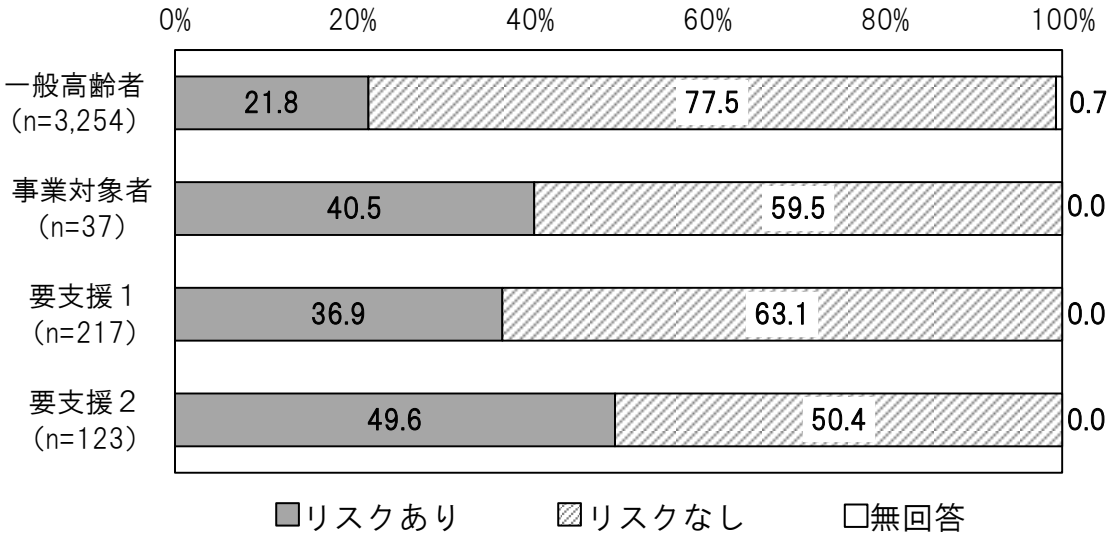
・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の３つの設問に対する回答から、高齢者の口腔機能に関してリスク判定をしている。

・今回の調査票に含まれる以下の設問３問中２問以上に該当した場合に口腔機能低下の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
4（2）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
4（3）	お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
4（4）	口の渇きが気になりますか	はい

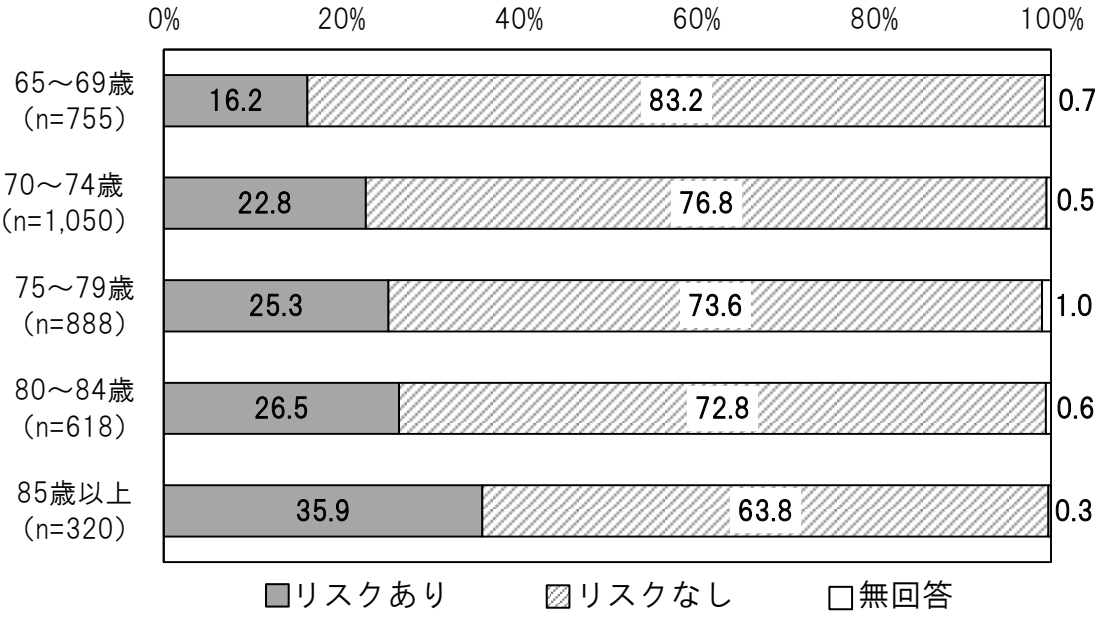
①介護度別判定

・介護度別にみると、口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は事業対象者では 40.5%、要支援１では 36.9%、要支援２では 49.6%と、一般高齢者（21.8%）より 15 ポイント以上高くなっている。



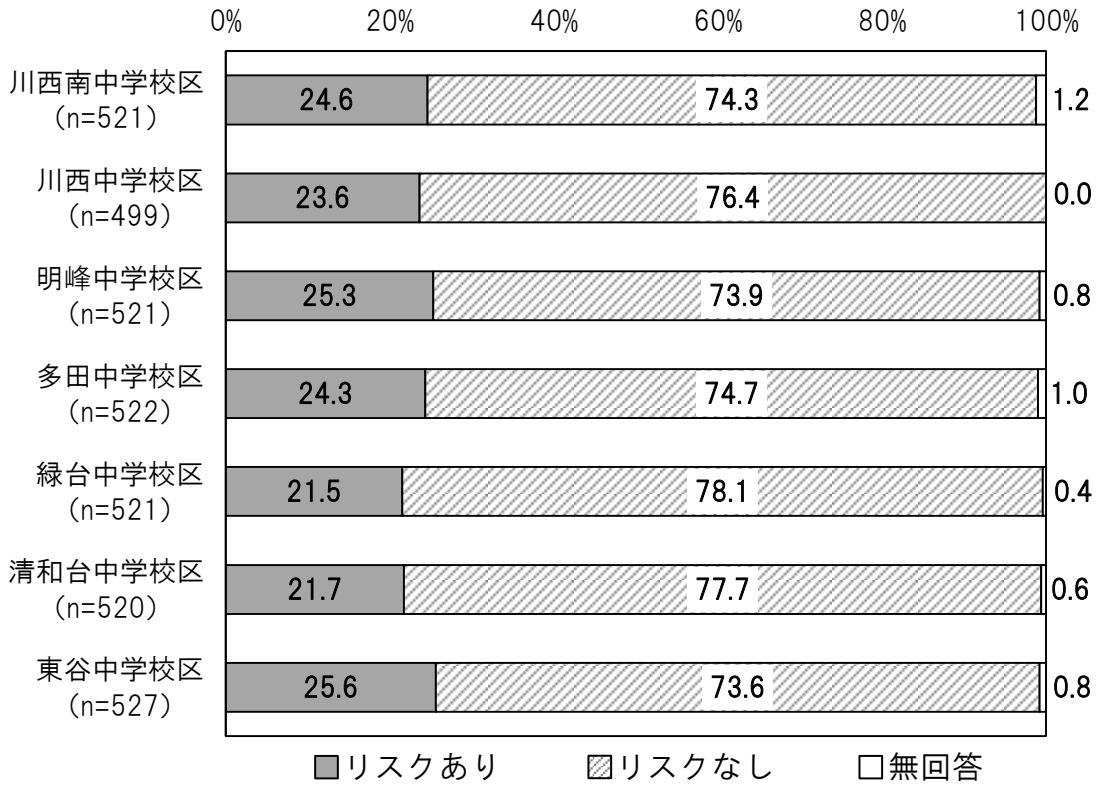
②年齢別判定

・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85 歳以上では 35.9%となっている。



③日常生活圏域（中学校区）別判定

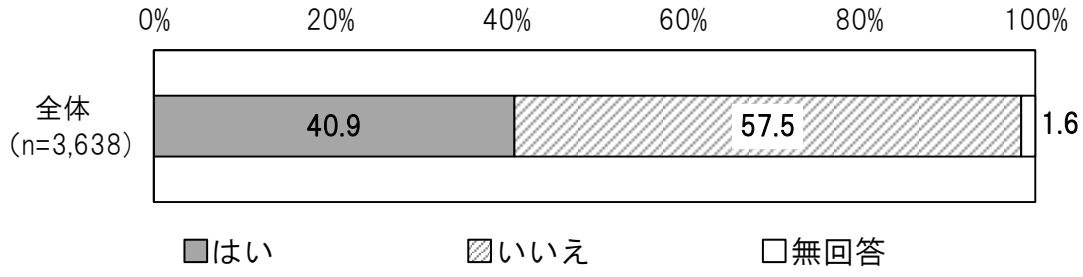
・日常生活圏域別にみると、東谷中学校区で口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が 25.6%と最も高くなっている。



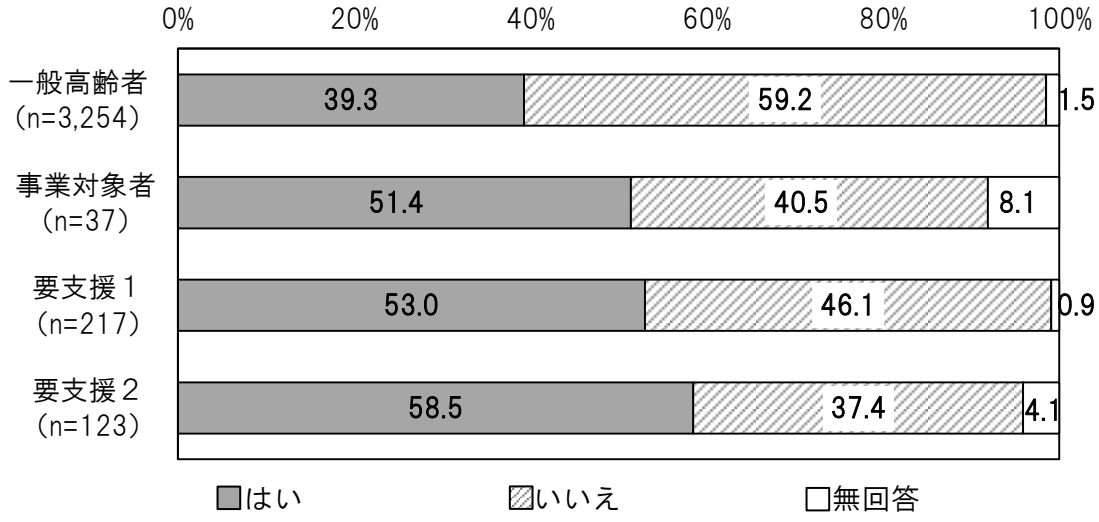
5．毎日の生活について

（1）物忘れの多さ

・物忘れが多いと感じるかについては、「いいえ」が 57.5％と半数以上を占めている。

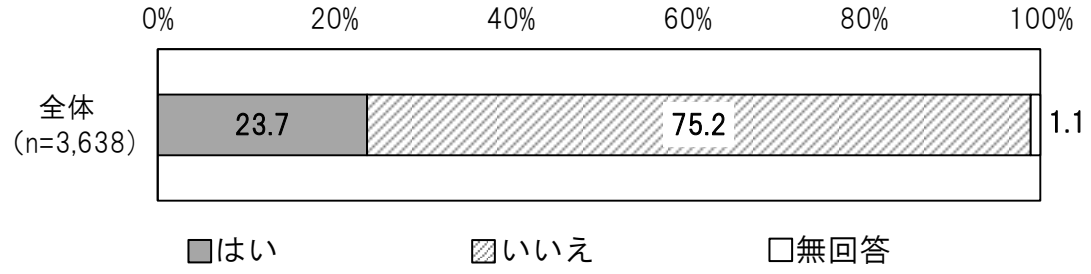


・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者では 51.4％、要支援１では 53.0％、要支援２では 58.5％となっており、半数以上の人が物忘れが多いと感じている結果となっている。

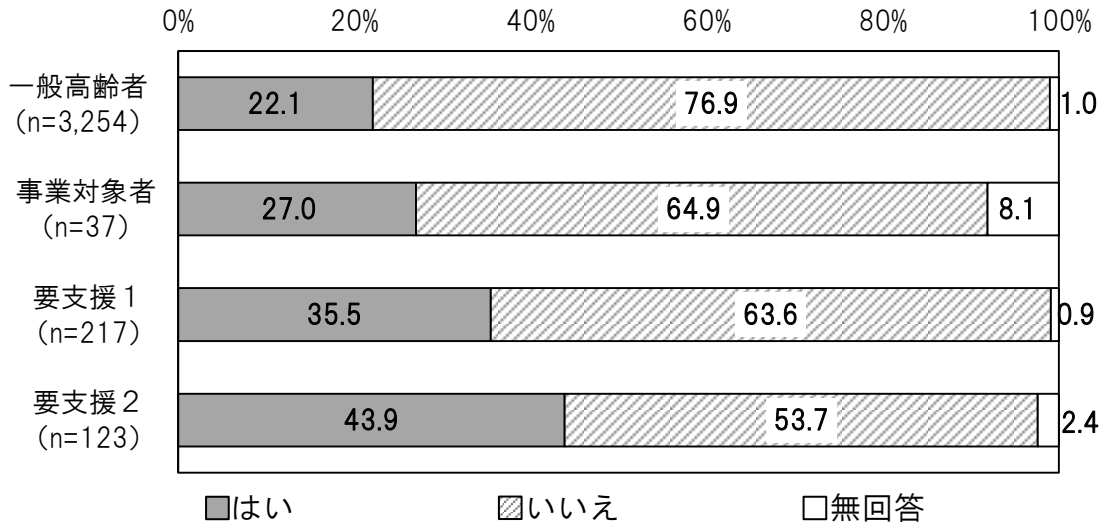


（2）今日が何月何日かわからないこと

・今日が何月何日かわからない時があるかについては、「いいえ」が 75.2%と 7 割以上を占めている。

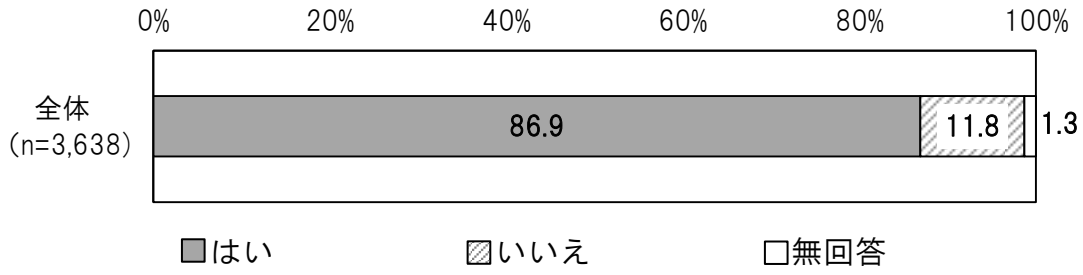


・介護度別にみると、「はい」が、要支援 1 で 35.5%、要支援 2 で 43.9%と、一般高齢者（22.1%）より 10 ポイント以上高くなっている。

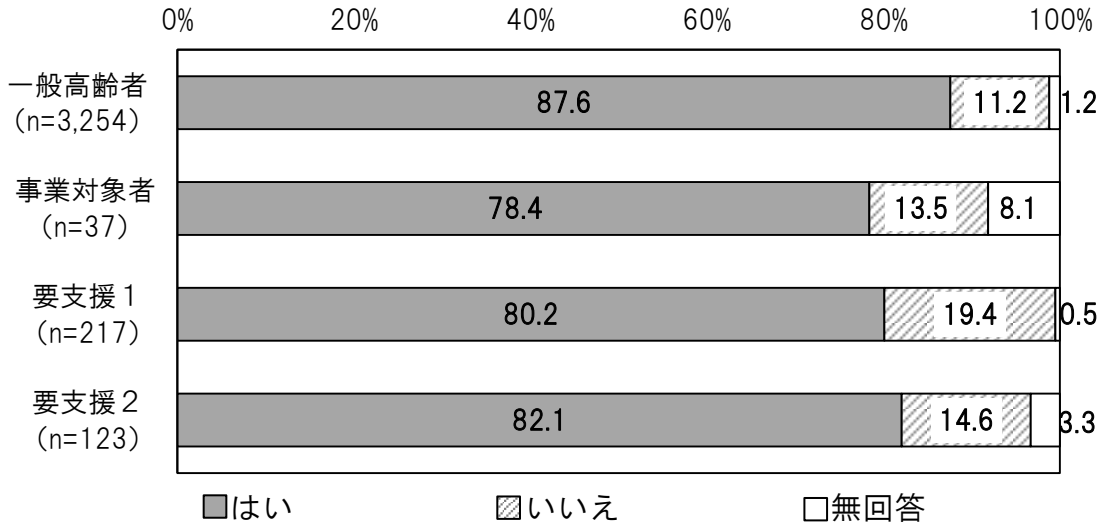


（3） 5分前のことを思い出すこと

・5分前のことが思い出せるかについては、「はい」が86.9%と8割以上を占めている。

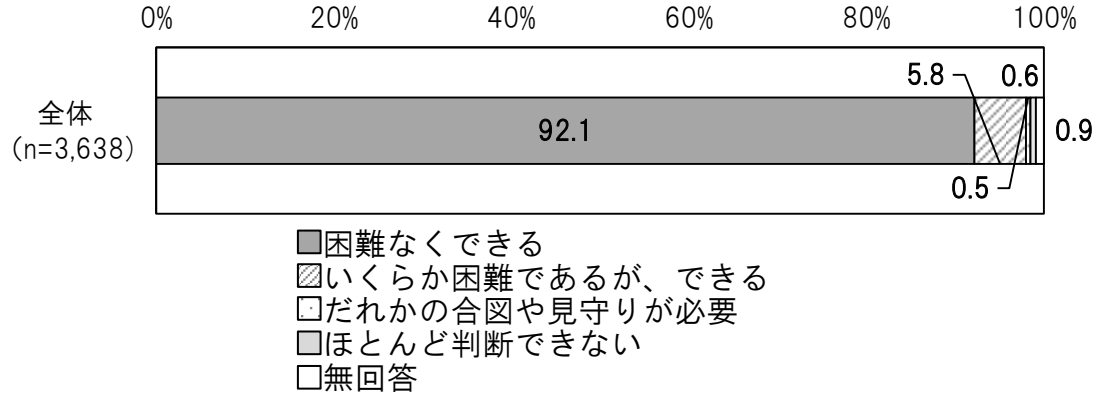


・介護度別にみると、要支援1で「いいえ」が19.4%と、2割近くの人が5分前のことが思い出せない結果となっている。

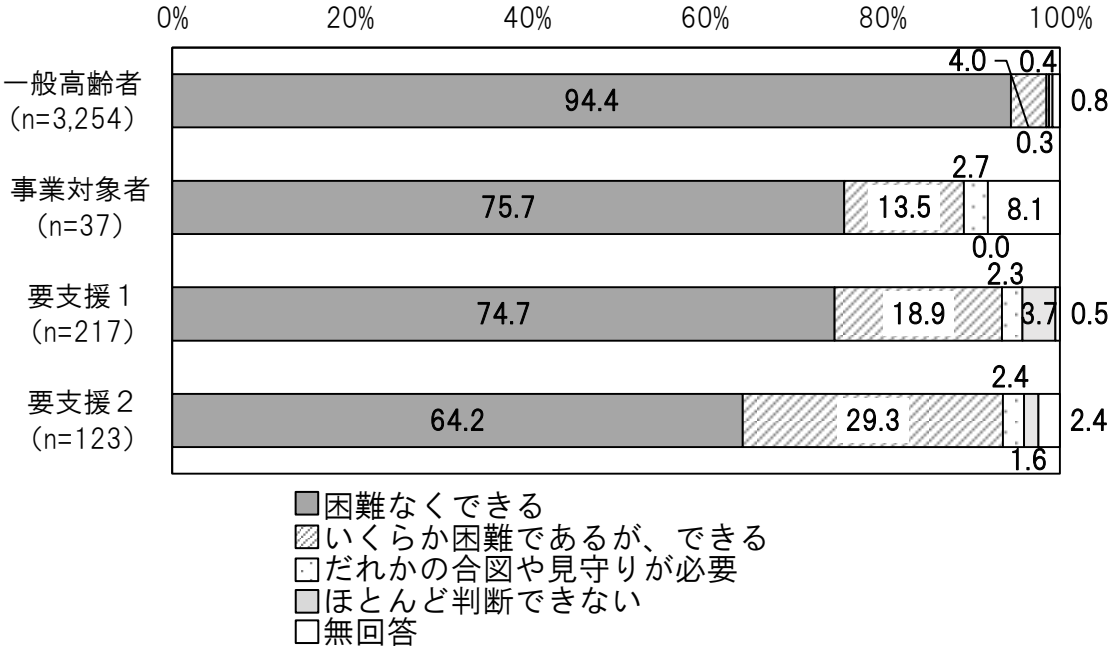


（4）その日の活動の判断

・その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できるかについては、「困難なくできる」が 92.1%と 9 割以上を占めている。

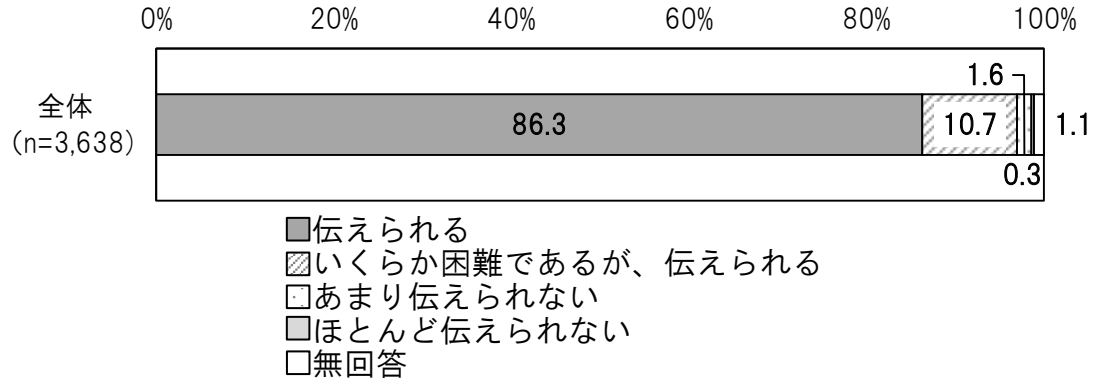


・介護度別にみると、「いくらか困難であるが、できる」が、事業対象者で 13.5%、要支援 1 で 18.9%、要支援 2 で 29.3%と、一般高齢者（4.0%）より 5 ポイント以上高くなっている。

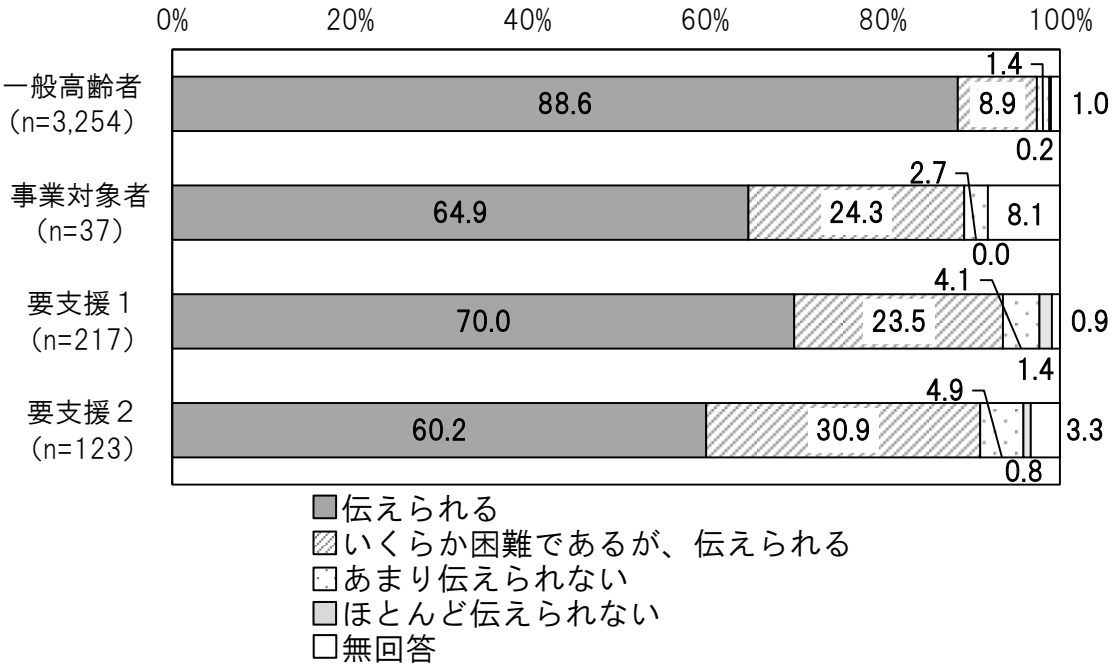


（5）自分の考えを人に伝えること

・自分の考えを人に伝えられるかについては、「伝えられる」が 86.3％と 8 割以上となっている。

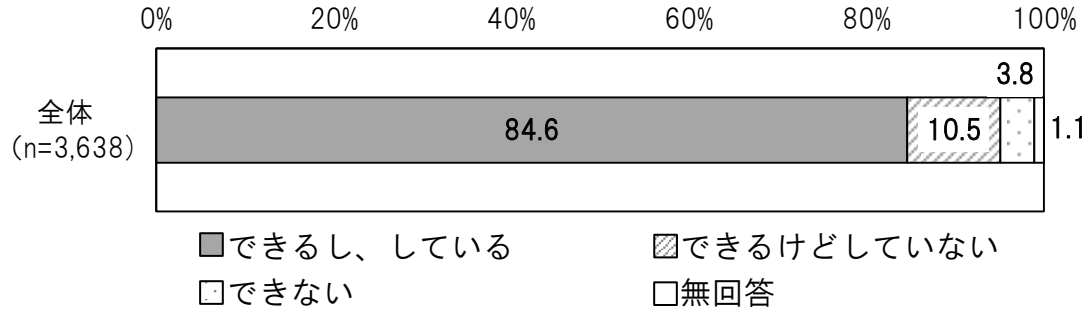


・介護度別にみると、「いくらか困難であるが、伝えられる」が、事業対象者で 24.3％、要支援 1 で 23.5％、要支援 2 で 30.9％と、一般高齢者（8.9％）より 10 ポイント以上高くなっている。

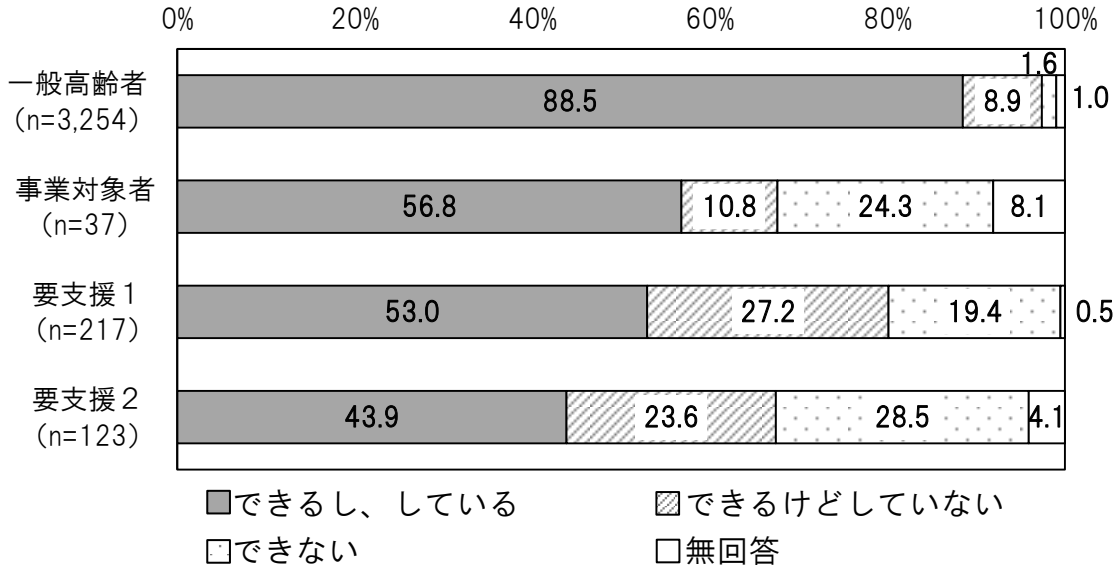


（６）バスや電車を使った１人での外出（自家用車でも可）

・バスや電車を使って 1 人で外出しているかについては、「できるし、している」が 84.6%と 8 割以上となっている。

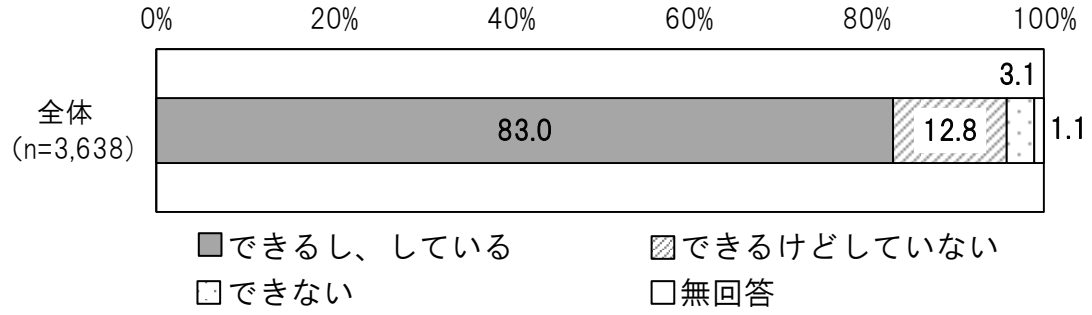


・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で 24.3%、要支援 1 で 19.4%、要支援 2 で 28.5%と、一般高齢者（1.6%）より 15 ポイント以上高くなっている。

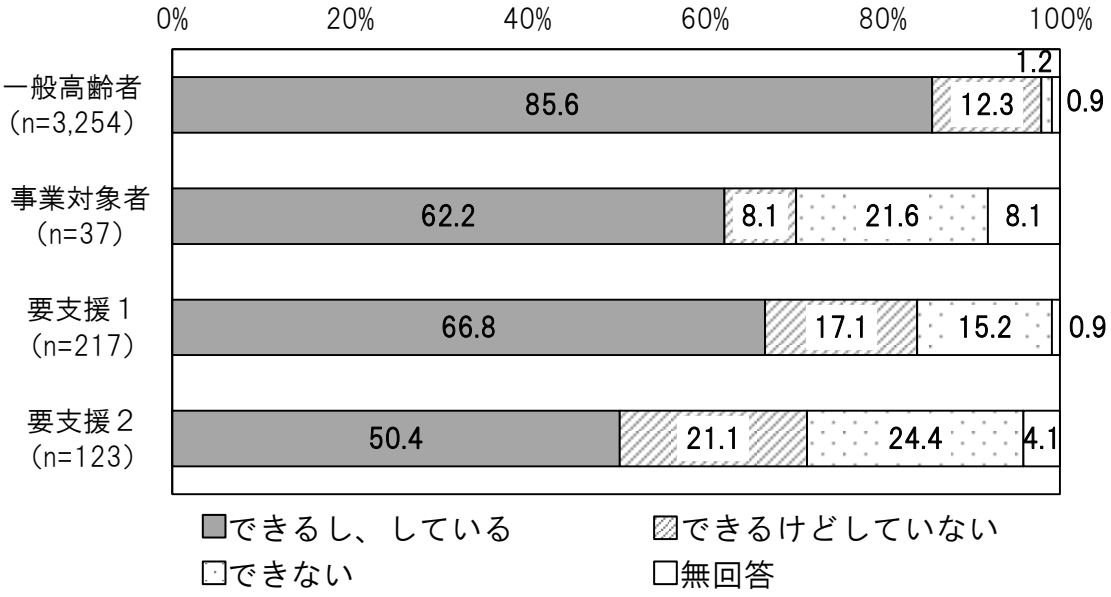


（7）食品・日用品の買物

・自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が 83.0%と８割以上となっている。

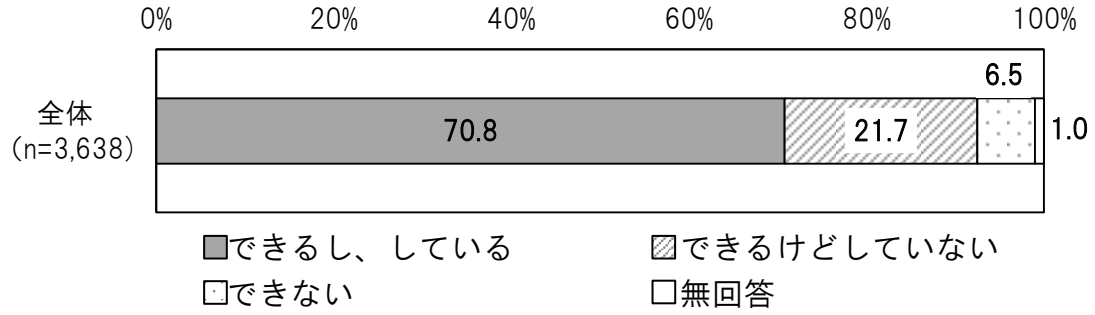


・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で 21.6%、要支援１で 15.2%、要支援２で 24.4%と、一般高齢者（1.2%）より 10 ポイント以上高くなっている。

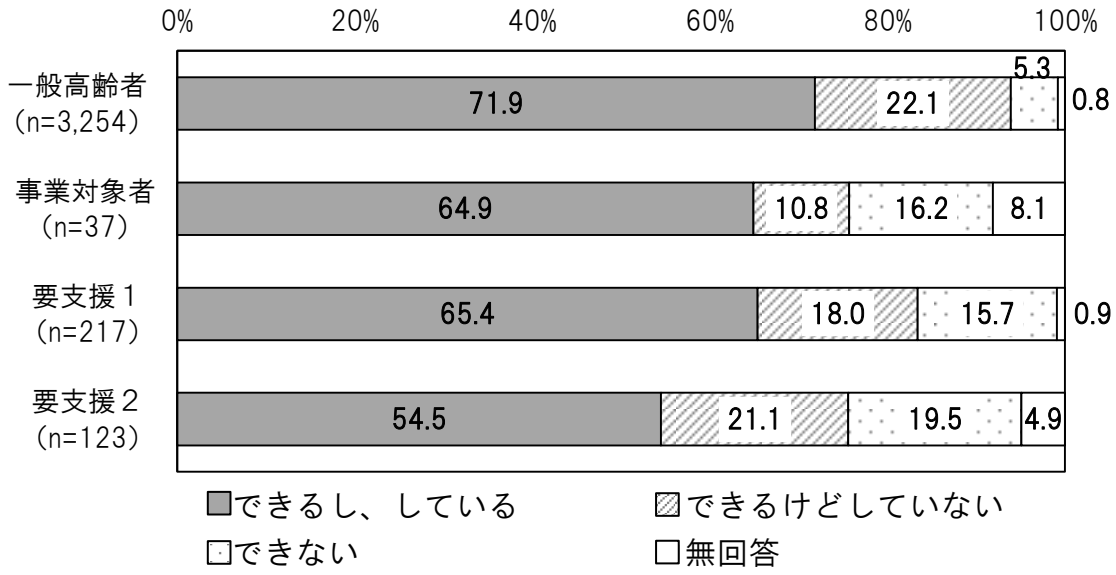


（8）食事の用意

・自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が 70.8%と 7 割以上となっている。

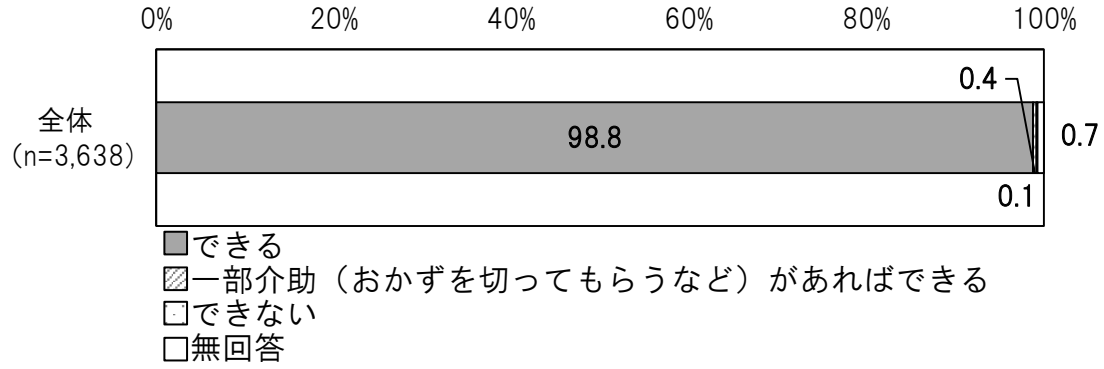


・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で 16.2%、要支援 1 で 15.7%、要支援 2 で 19.5%と、一般高齢者（5.3%）より 10 ポイント以上高くなっている。

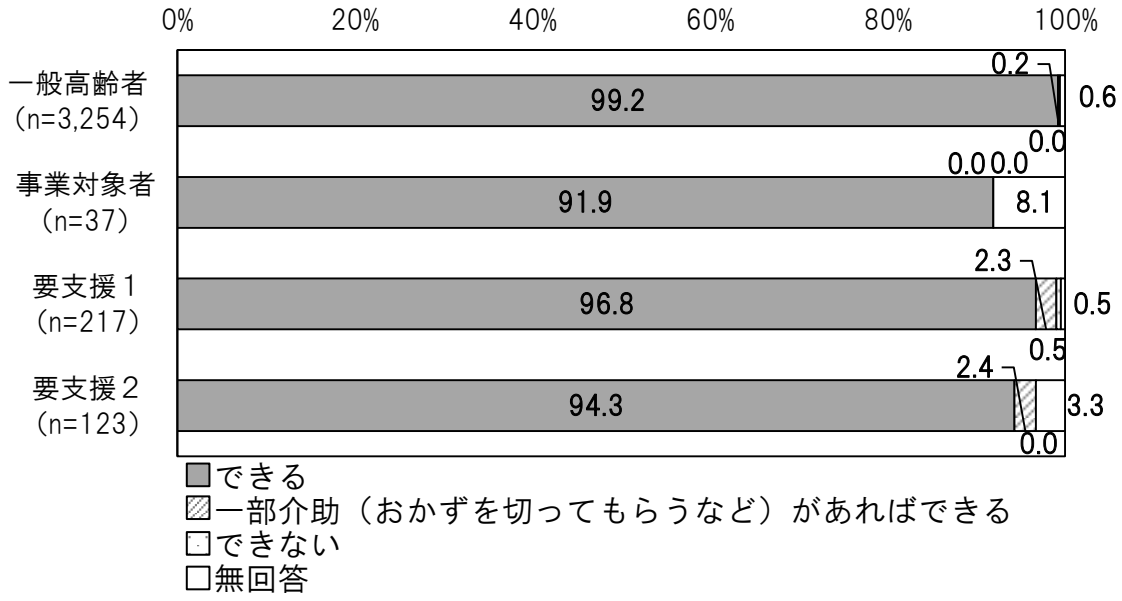


（9）食事を食べること

・自分で食事を食べることができるかについては、「できる」が 98.8%と 9 割以上となっている。

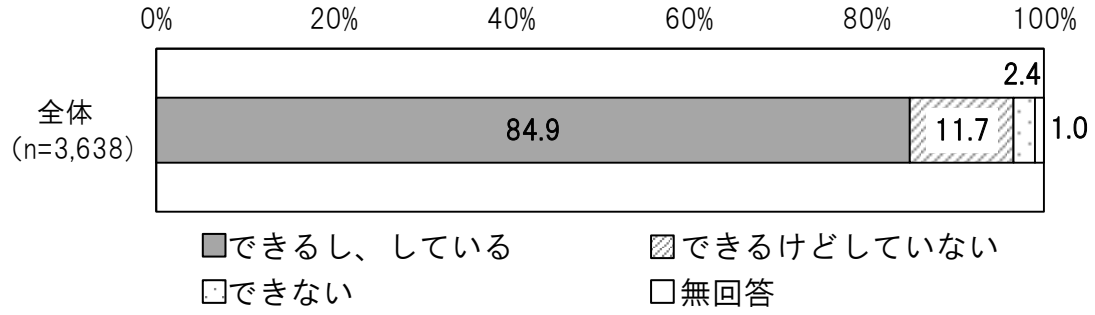


・介護度別にみると、「一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」が要支援 1 では 2.3%、要支援 2 では 2.4%となっている。

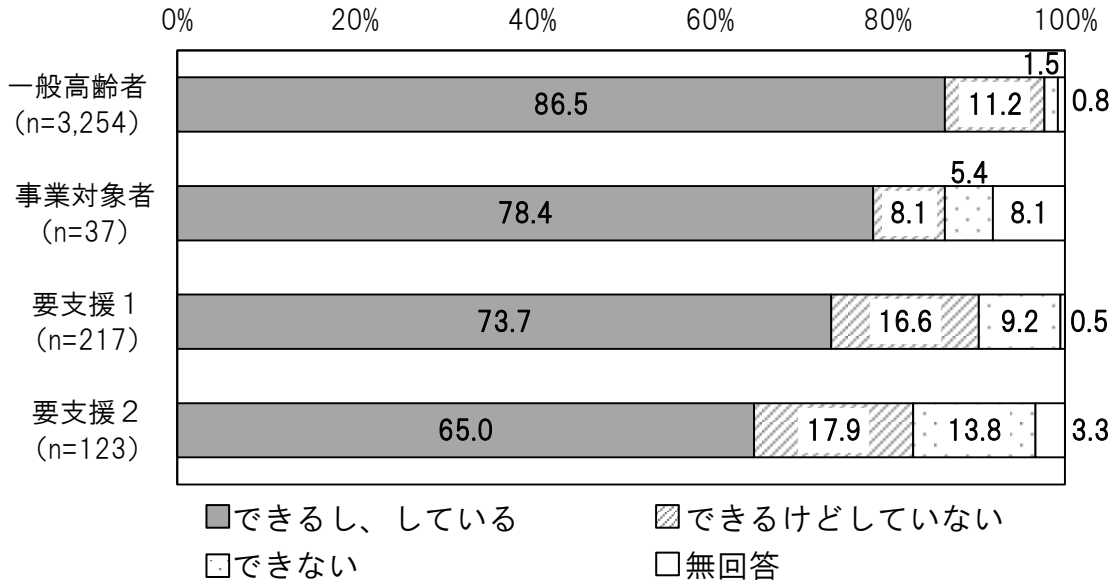


（10）請求書の支払い

・自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 84.9％と８割以上となっている。

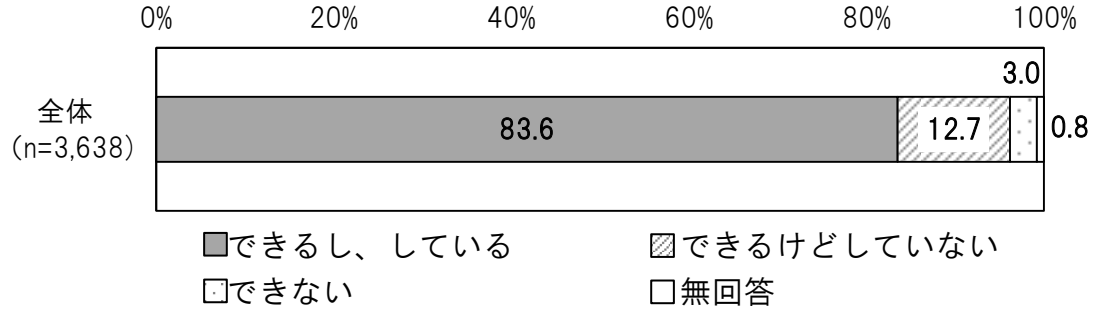


・介護度別にみると、「できない」が、要支援１で 9.2％、要支援２で 13.8％と、一般高齢者（1.5％）より５ポイント以上高くなっている。

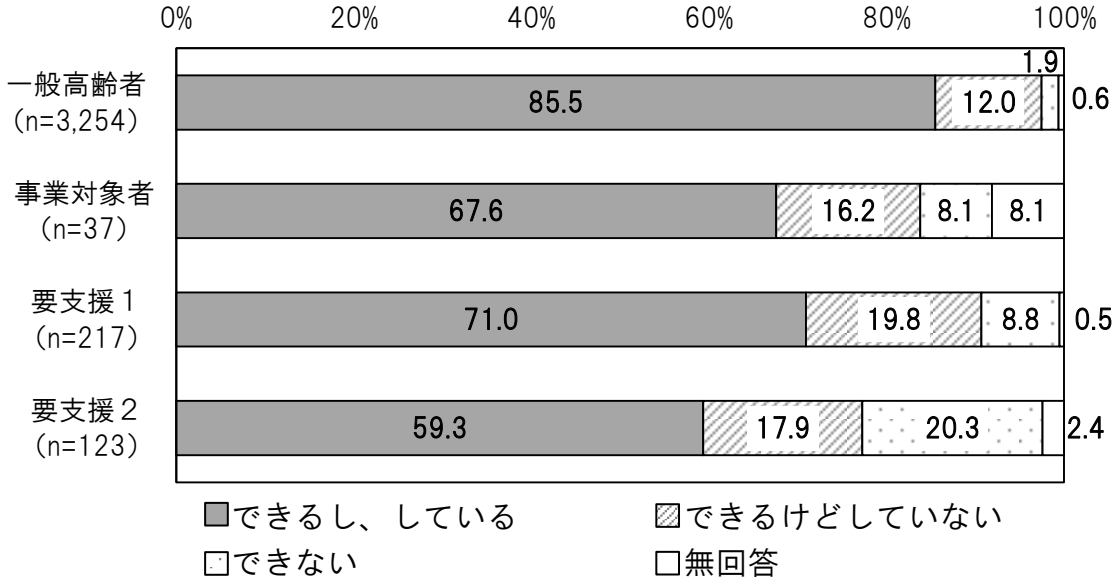


（11）預貯金の出し入れ

・自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 83.6%と８割以上となっている。

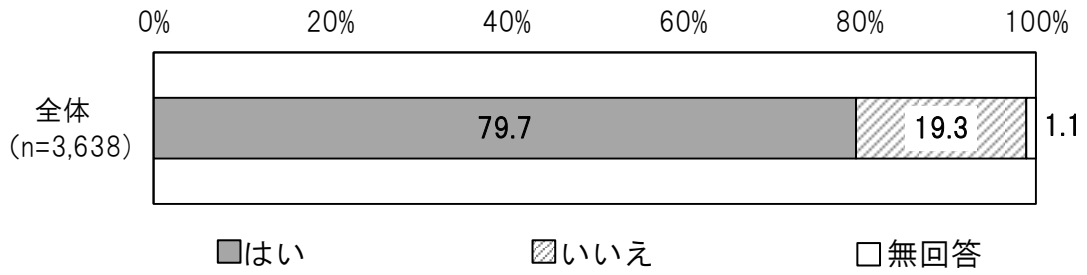


・介護度別にみると、「できない」が要支援２で 20.3%と２割以上となっており、一般高齢者（1.9%）より 15 ポイント以上高くなっている。

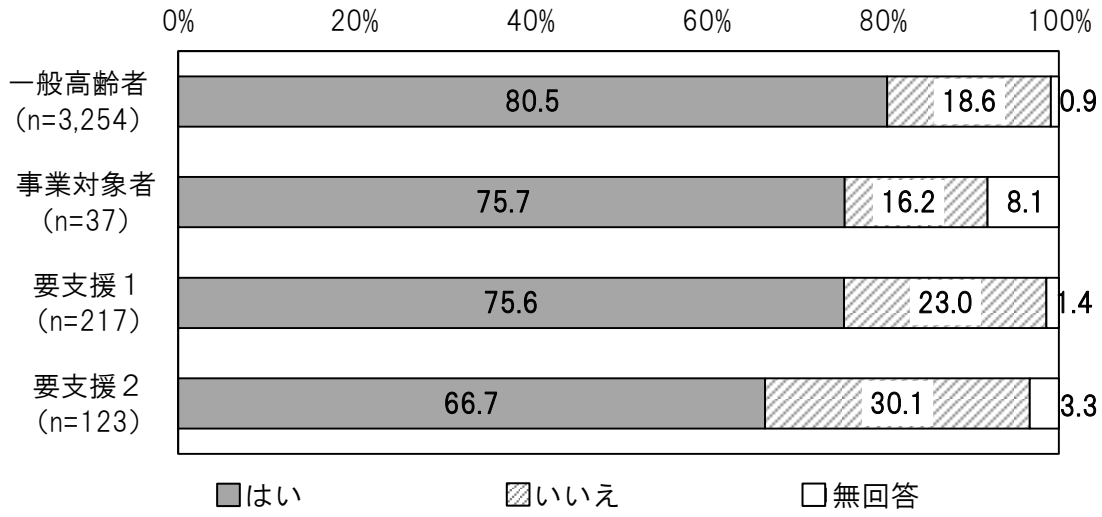


（12）新聞を読むこと

・新聞を読んでいるかについては、「はい」が 79.7％と８割近くとなっている。

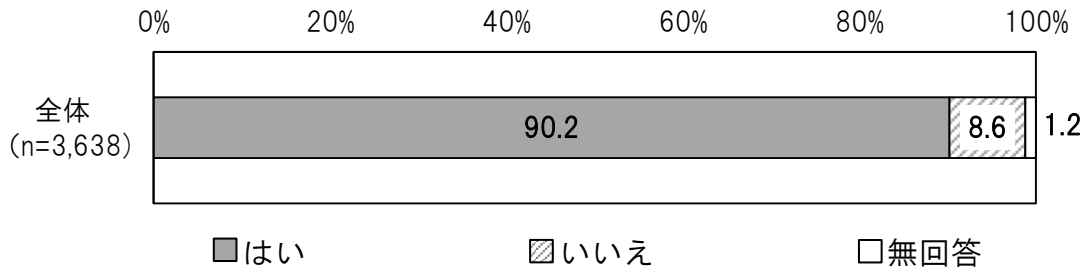


・介護度別にみると、「いいえ」が要支援２では 30.1％と３割以上となっており、一般高齢者（18.6％）より 11.5 ポイント高くなっている。

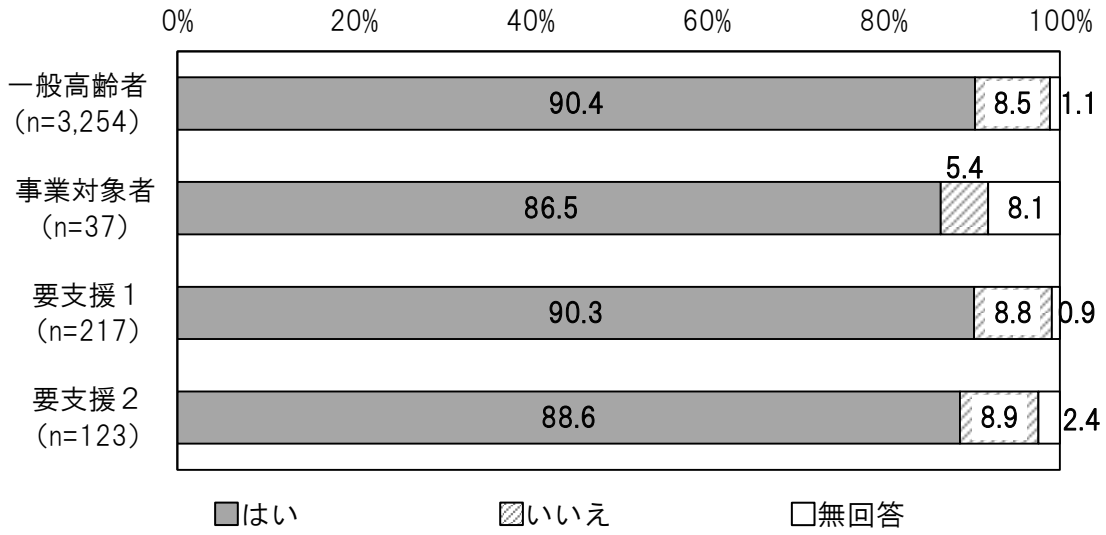


（13）健康についての記事や番組への関心

・健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が 90.2％と 9 割以上となっている。

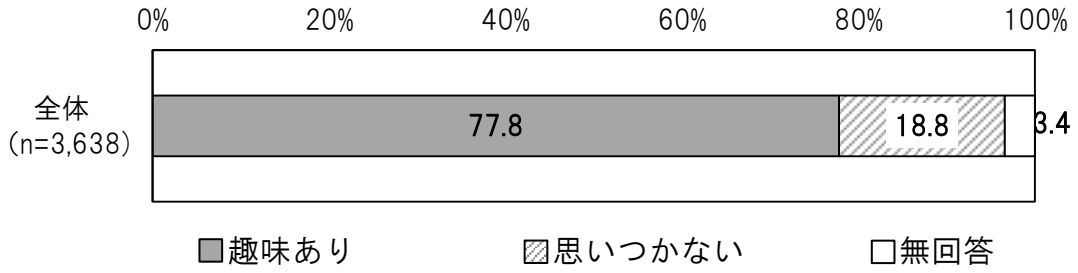


・介護度別でみると、要支援認定等の有無に関わらず「はい」が最も高くなっている。



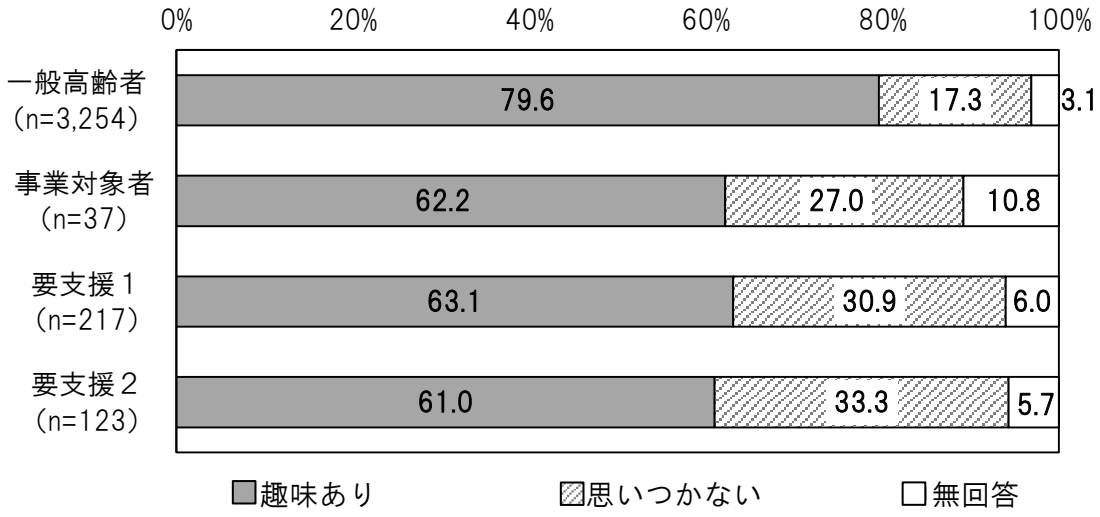
（14）趣味

・趣味はあるかについては、「趣味あり」が 77.8%と 7 割以上となっている。



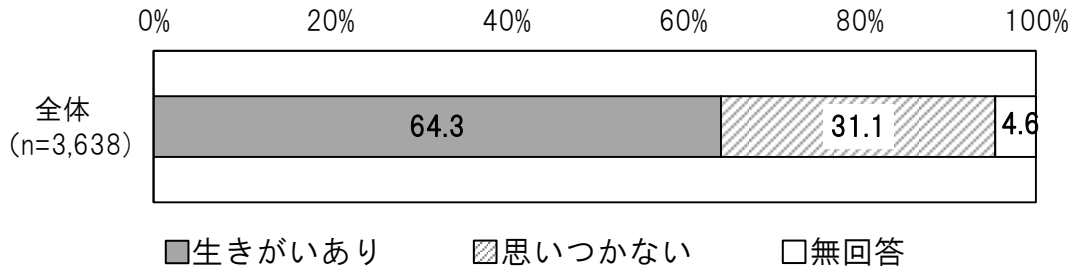
「趣味」の主な回答内容	
○園芸・野菜づくり	○手芸
○読書	○カラオケ・コーラス
○楽器演奏	○映画鑑賞
○ゴルフ	○ウォーキング
○ジムでの運動	○社交ダンス・フラダンス・ヨガ
○釣り	○登山・ハイキング
○旅行	○囲碁・将棋・麻雀
○料理	○絵画
○書道	○俳句　等

・介護度別にみると、「思いつかない」が、事業対象者で 27.0%、要支援 1 では 30.9%、要支援 2 では 33.3%となっており、一般高齢者（17.3%）より 5 ポイント以上高くなっている。



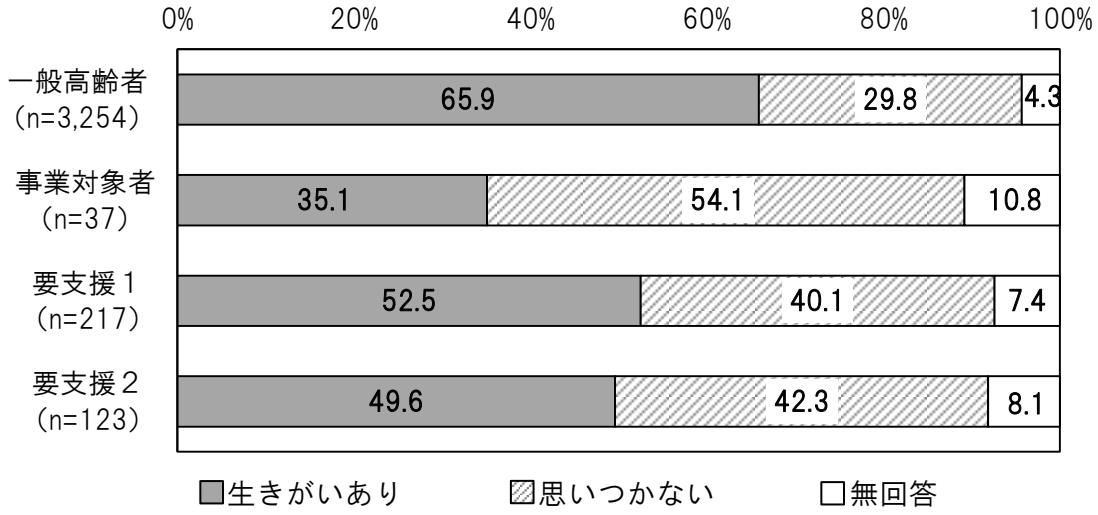
（15）生きがい

・生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が 64.3%と 6 割以上となっている。



「生きがい」の主な回答内容	
○孫の成長、家族の存在	○友人とのつながり
○スポーツ・音楽鑑賞などの趣味	○旅行
○仕事・ボランティア活動等への参加	○ペットの存在
○食事をすること	○健康であること　等

・介護度別にみると、「思いつかない」が、事業対象者では 54.1%、要支援 1 では 40.1%、要支援 2 では 42.3%と、一般高齢者（29.8%）より 10 ポイント以上高くなっている。



◆　手段的自立度（ＩＡＤＬ）

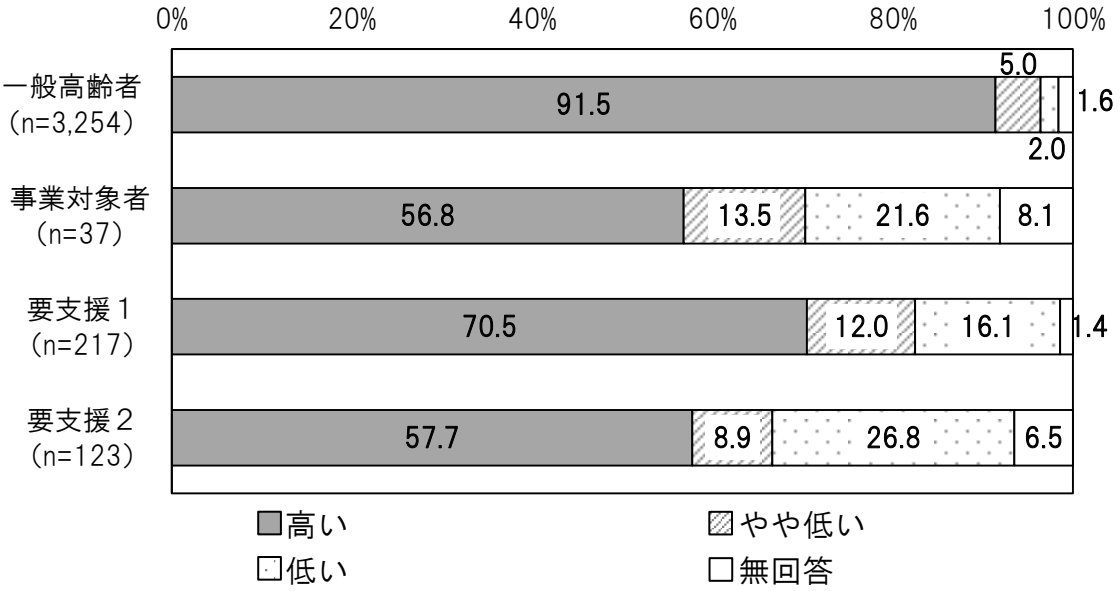
・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の５つの設問に対する回答から、手段的自立度（ＩＡＤＬ）に関して判定をしている。

・各設問に対し「できるし、している」または「できるけどしていない」を回答した場合を１点として、５点満点で評価し、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」として評価している。

問番号	設問	該当する選択肢
5（6）	バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）	できるし、している/ できるけどしていない を１点とした各問の合計
5（7）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
5（8）	自分で食事の用意をしていますか	
5（10）	自分で請求書の支払いをしていますか	
5（11）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

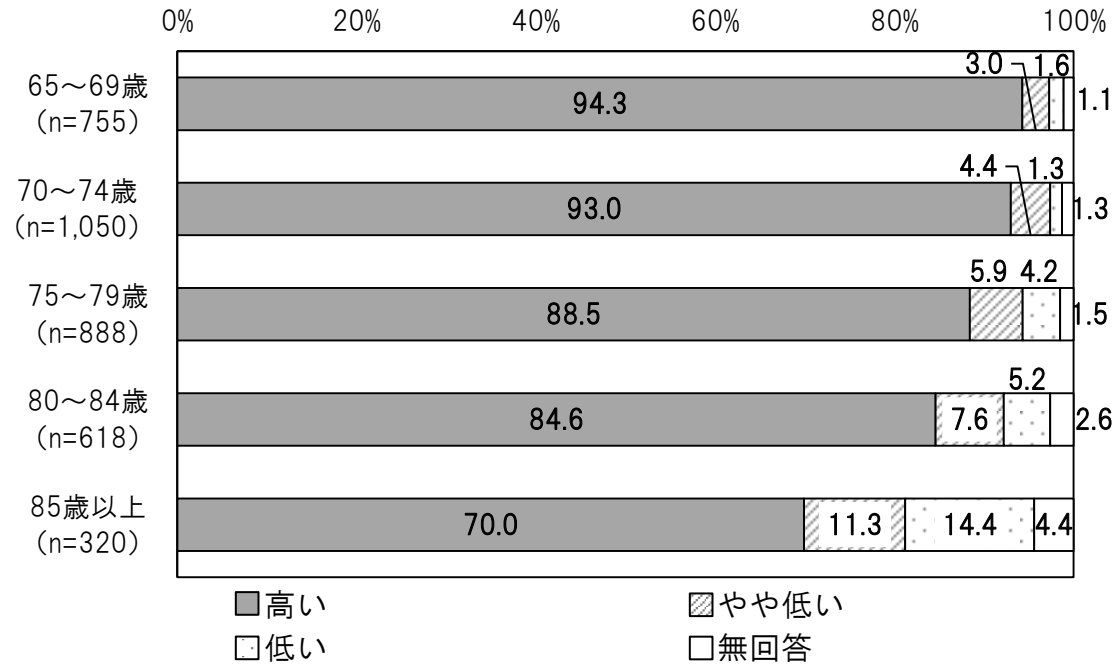
①介護度別判定

・介護度別にみると、「やや低い」・「低い」を合わせた４点以下の『低い』の割合については、事業対象者で 35.1%、要支援１で 28.1%、要支援２で 35.7%と、一般高齢者（7.0%）より 20 ポイント以上高くなっている。



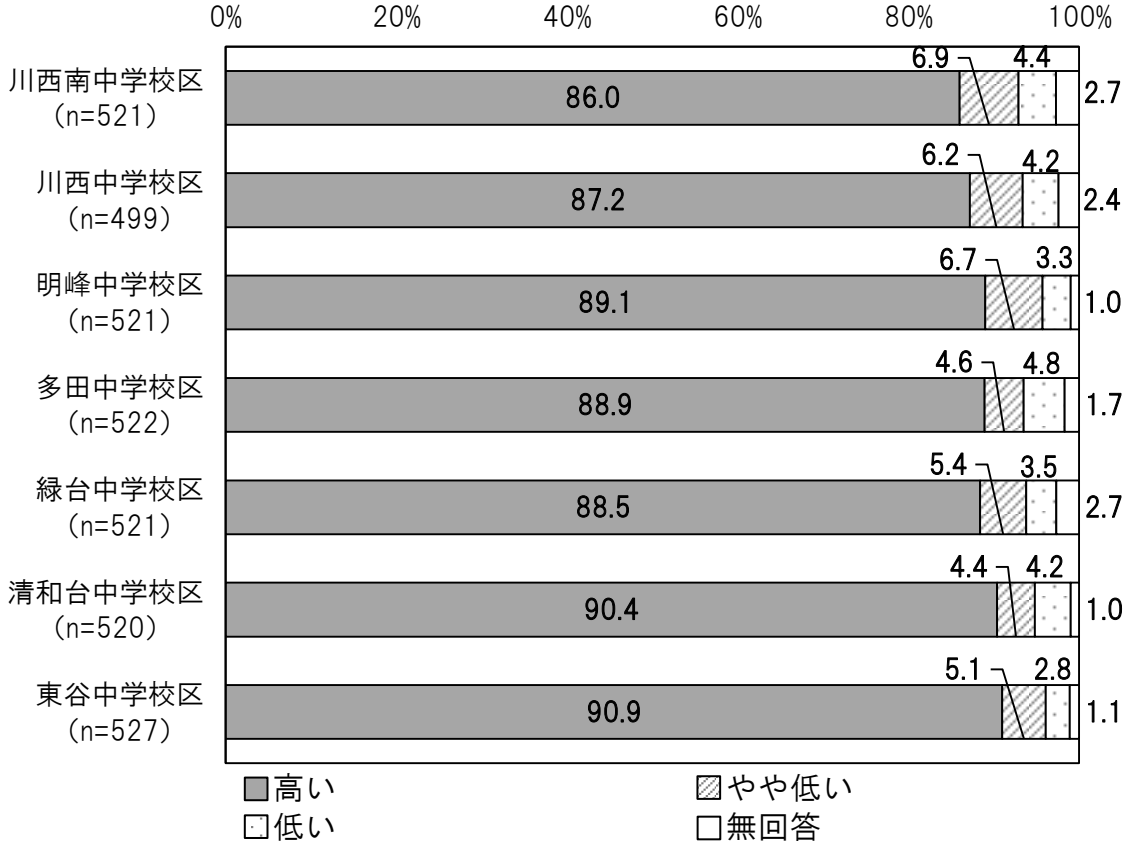
②年齢別判定

・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『低い』の割合が高くなっており、85 歳以上では 25.7%と 2 割以上となっている。



③日常生活圏域（中学校区）別判定

・日常生活圏域別にみると、川西南中学校区で『低い』の割合が 11.3%と最も高くなっている。

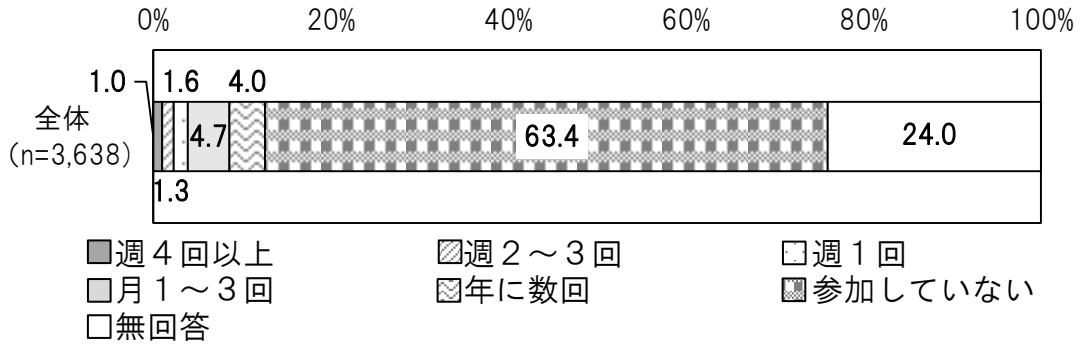


6．地域での活動について

（1）地域の会・グループの参加頻度

①　ボランティアのグループ

・ボランティアのグループへの参加頻度については、「参加していない」が 63.4%と 6 割以上を占め最も高く、参加者の割合は 12.6%となっている。



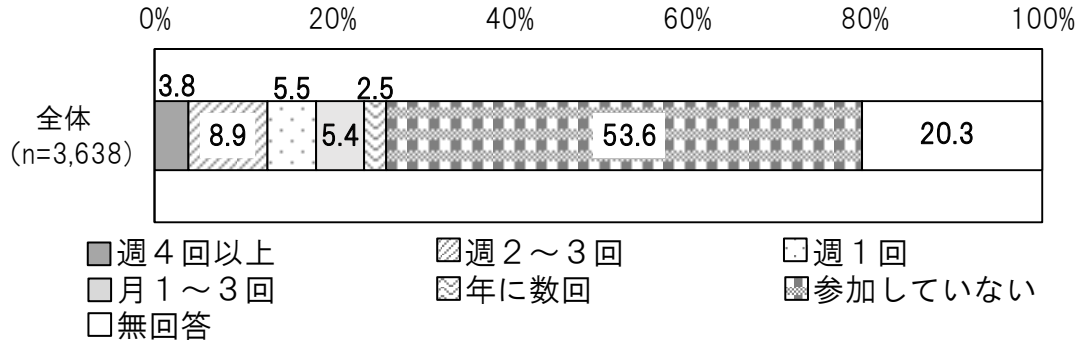
・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。
・年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっている。
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 67.2%と最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	1.1	1.3	1.7	5.1	4.1	**63.6**	23.1
事業対象者	37	－	－	2.7	－	－	**67.6**	29.7
要支援１	217	－	1.4	1.4	1.4	3.2	**60.4**	32.3
要支援２	123	－	1.6	0.8	1.6	2.4	**61.8**	31.7
65～69歳	755	0.4	1.2	1.7	4.0	3.8	**74.0**	14.8
70～74歳	1,050	1.3	1.5	1.7	5.8	4.1	**67.0**	18.6
75～79歳	888	1.2	1.7	2.1	6.2	5.3	**56.8**	26.7
80～84歳	618	1.3	0.8	1.0	3.4	3.6	**57.1**	32.8
85歳以上	320	0.3	0.6	0.9	1.3	1.3	**56.9**	38.8
川西南中学校区	521	1.3	1.7	0.4	3.8	3.6	**63.0**	26.1
川西中学校区	499	0.4	1.2	1.6	3.8	2.6	**64.1**	26.3
明峰中学校区	521	0.6	1.5	1.9	4.8	4.6	**61.4**	25.1
多田中学校区	522	0.4	0.4	2.3	5.6	4.0	**67.2**	20.1
緑台中学校区	521	1.3	0.8	1.9	4.2	4.6	**61.8**	25.3
清和台中学校区	520	1.2	1.5	1.0	6.2	3.7	**62.9**	23.7
東谷中学校区	527	1.9	1.9	2.3	4.6	4.7	**63.2**	21.4

② スポーツ関係のグループやクラブ

・スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度については、「参加していない」が 53.6%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は 26.1%となっている。



・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっているものの、事業対象者で 59.5%、要支援１で 58.5%、要支援２で 59.3%と、一般高齢者（52.9%）より５ポイント以上高くなっている。また、一般高齢者の参加者の割合が 27.8%である一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では２割未満となっている。

・年齢別にみると、65～69 歳で「参加していない」が 61.3%と６割以上となっている。

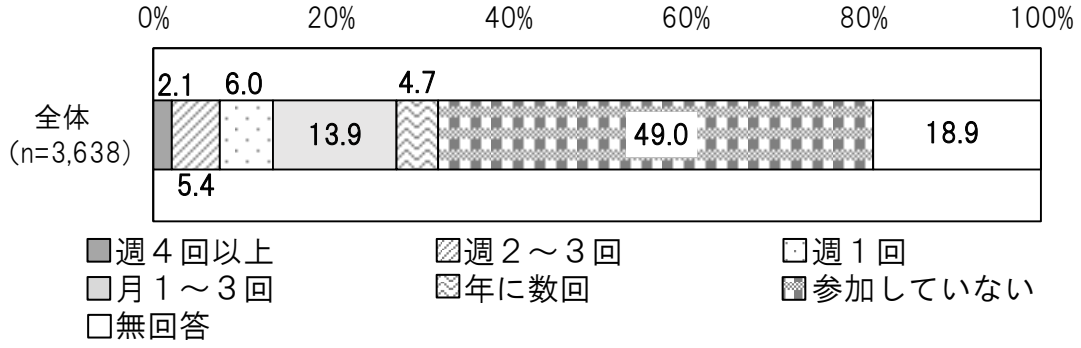
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 59.0%と６割近くを占め最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	4.1	9.6	5.5	5.9	2.7	**52.9**	19.3
事業対象者	37	－	2.7	8.1	－	－	**59.5**	29.7
要支援１	217	1.8	1.8	5.5	1.8	1.4	**58.5**	29.0
要支援２	123	0.8	5.7	3.3	2.4	0.8	**59.3**	27.6
65～69歳	755	3.3	9.4	5.4	6.5	1.7	**61.3**	12.3
70～74歳	1,050	3.7	10.4	5.6	4.5	3.0	**57.4**	15.4
75～79歳	888	5.5	8.6	6.4	6.6	3.0	**46.8**	23.0
80～84歳	618	2.9	8.6	4.7	5.5	2.4	**48.1**	27.8
85歳以上	320	2.2	4.7	4.1	2.8	1.9	**51.6**	32.8
川西南中学校区	521	3.6	6.7	5.0	3.8	2.1	**55.9**	22.8
川西中学校区	499	2.8	7.2	4.4	4.8	2.8	**54.3**	23.6
明峰中学校区	521	4.0	10.4	6.7	6.0	3.5	**49.9**	19.6
多田中学校区	522	4.0	7.3	5.0	5.2	1.5	**59.0**	18.0
緑台中学校区	521	3.8	10.6	6.0	7.1	2.5	**48.9**	21.1
清和台中学校区	520	4.6	9.8	5.2	4.6	2.5	**52.9**	20.4
東谷中学校区	527	3.6	10.4	6.1	6.6	2.8	**53.9**	16.5

③　趣味関係のグループ

・趣味関係のグループへの参加頻度については、「参加していない」が 49.0%と半数近くを占め最も高く、参加者の割合は 32.1%と 3 割以上となっている。



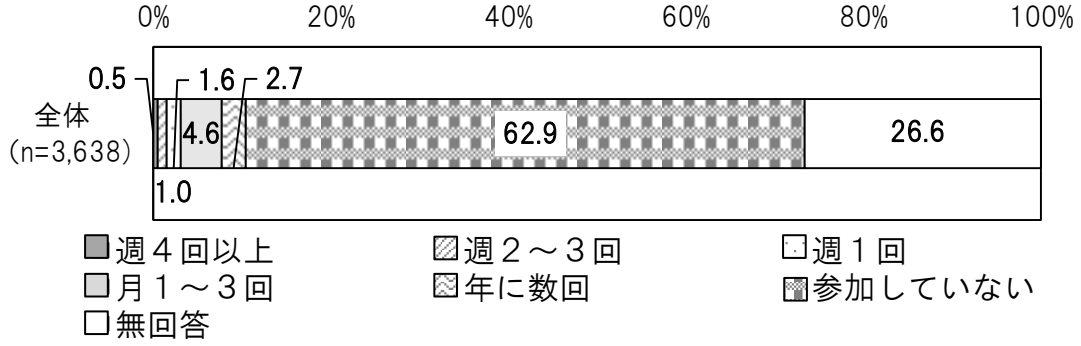
・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっており、事業対象者・要支援 1 ・要支援 2 では半数以上を占めている。一般高齢者の参加者の割合が 3 割以上である一方で、要支援 2 では 17.0%と 2 割未満となっている。
・年齢別にみると、65～69 歳で「参加していない」が 60.0%と 6 割となっている。
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 54.0%と最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	2.0	5.8	6.4	14.3	4.9	**48.4**	18.2
事業対象者	37	5.4	5.4	－	10.8	－	**56.8**	21.6
要支援１	217	3.2	1.8	3.7	12.0	2.3	**52.1**	24.9
要支援２	123	0.8	2.4	2.4	8.1	3.3	**54.5**	28.5
65～69歳	755	1.6	4.4	4.5	13.6	4.2	**60.0**	11.7
70～74歳	1,050	1.6	6.4	6.4	14.5	5.9	**50.2**	15.0
75～79歳	888	2.4	5.9	7.3	15.7	3.9	**42.6**	22.3
80～84歳	618	3.4	6.0	5.7	13.1	4.9	**42.6**	24.4
85歳以上	320	1.6	2.8	5.6	9.1	3.4	**48.4**	29.1
川西南中学校区	521	1.5	3.3	4.4	11.1	4.8	**53.4**	21.5
川西中学校区	499	2.2	4.8	5.6	11.0	3.2	**50.7**	22.4
明峰中学校区	521	3.1	6.1	6.3	16.1	5.2	**44.5**	18.6
多田中学校区	522	1.5	5.0	6.3	11.3	4.4	**54.0**	17.4
緑台中学校区	521	2.3	6.3	6.5	16.1	4.8	**45.5**	18.4
清和台中学校区	520	2.5	5.6	6.9	16.2	3.5	**46.9**	18.5
東谷中学校区	527	1.5	7.0	6.1	15.2	6.8	**47.4**	15.9

④　学習・教養サークル

・学習・教養サークルへの参加頻度については、「参加していない」が 62.9％と６割以上を占め最も高く、参加者の割合は 10.4％と１割以上となっている。



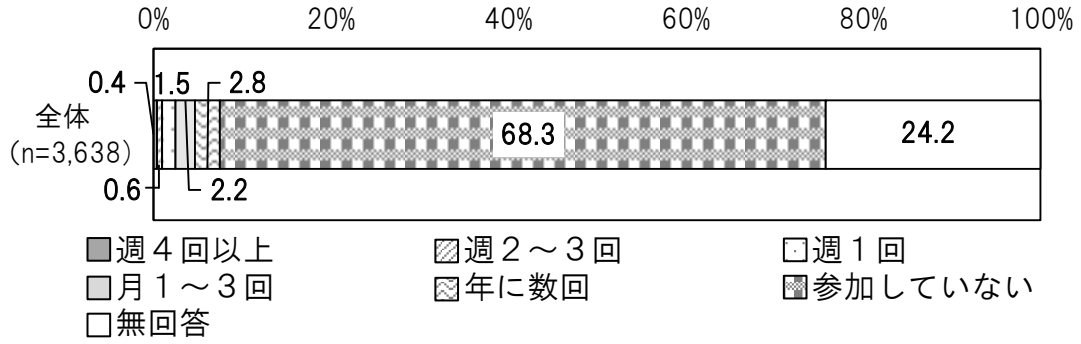
・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。一般高齢者の参加者の割合が１割以上である一方で、事業対象者・要支援１・要支援２ではいずれも１割未満となっている。
・年齢別にみると、65～69 歳で「参加していない」が 75.1％と７割以上となっている。
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 67.2％と最も高くなっている。

（％）

	全体（件数）	週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	0.5	1.0	1.7	4.9	2.9	**63.5**	25.6
事業対象者	37	－	2.7	－	2.7	2.7	**64.9**	27.0
要支援１	217	0.9	0.5	0.5	1.4	1.8	**59.4**	35.5
要支援２	123	－	1.6	1.6	2.4	1.6	**55.3**	37.4
65～69歳	755	0.4	0.9	1.5	4.0	2.3	**75.1**	15.9
70～74歳	1,050	0.5	1.0	2.2	4.7	2.8	**68.5**	20.5
75～79歳	888	0.6	0.9	1.2	5.7	3.6	**56.1**	31.9
80～84歳	618	0.6	1.5	1.6	5.0	2.8	**52.8**	35.8
85歳以上	320	0.6	0.6	0.9	1.9	1.6	**55.0**	39.4
川西南中学校区	521	0.2	0.6	0.8	2.1	1.5	**64.9**	29.9
川西中学校区	499	0.8	0.6	1.8	4.8	1.8	**61.9**	28.3
明峰中学校区	521	0.6	1.3	1.7	7.5	2.3	**59.7**	26.9
多田中学校区	522	0.6	0.4	2.1	3.6	2.3	**67.2**	23.8
緑台中学校区	521	0.6	1.0	1.5	5.8	3.8	**61.2**	26.1
清和台中学校区	520	0.4	1.3	1.9	4.2	3.1	**62.5**	26.5
東谷中学校区	527	0.6	1.7	1.3	4.2	4.4	**63.2**	24.7

⑤　介護予防のための通いの場

・介護予防のための通いの場への参加頻度については、「参加していない」が 68.3%と最も高く、参加者の割合は 7.5%と１割未満となっている。



・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。

・年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっており、65～69 歳では 80.8%と８割以上となっている。

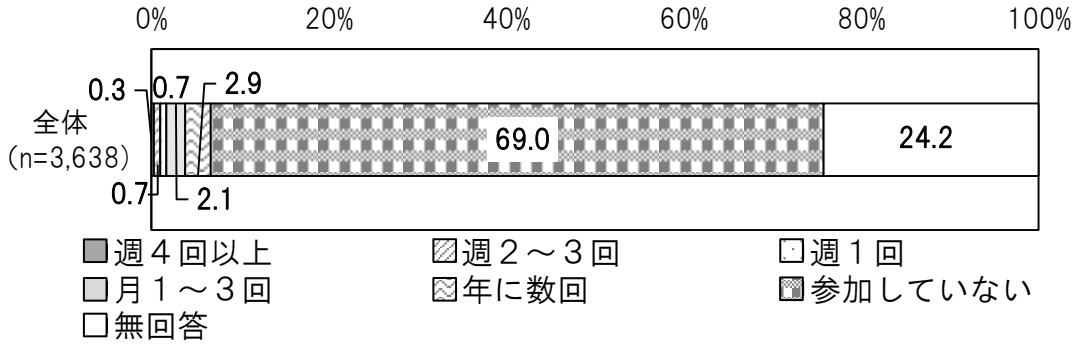
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 72.2%と最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	0.4	0.5	1.3	2.3	2.7	**69.2**	23.6
事業対象者	37	－	2.7	－	－	5.4	**64.9**	27.0
要支援１	217	0.5	0.5	4.6	1.8	4.1	**60.4**	28.1
要支援２	123	0.8	3.3	1.6	0.8	3.3	**58.5**	31.7
65～69歳	755	－	0.1	0.4	0.8	2.0	**80.8**	15.9
70～74歳	1,050	0.8	0.3	1.0	2.3	2.6	**73.8**	19.3
75～79歳	888	0.3	0.9	2.5	3.3	4.4	**61.3**	27.4
80～84歳	618	0.8	0.8	1.6	2.6	1.9	**60.4**	31.9
85歳以上	320	－	1.3	2.8	1.3	3.1	**55.3**	36.3
川西南中学校区	521	0.4	0.6	2.3	3.6	2.5	**65.6**	25.0
川西中学校区	499	0.2	0.6	1.4	2.0	3.0	**66.3**	26.5
明峰中学校区	521	0.8	0.8	1.2	1.5	3.6	**67.4**	24.8
多田中学校区	522	0.4	0.8	1.9	2.3	3.1	**72.2**	19.3
緑台中学校区	521	0.4	0.4	1.0	2.1	1.0	**68.5**	26.7
清和台中学校区	520	0.4	0.4	1.3	2.1	3.8	**67.3**	24.6
東谷中学校区	527	0.6	0.6	1.3	1.5	2.8	**70.4**	22.8

⑥　老人クラブ

・老人クラブへの参加頻度については、「参加していない」が 69.0％と７割近くを占め最も高く、参加者の割合は 6.7％と１割未満となっている。



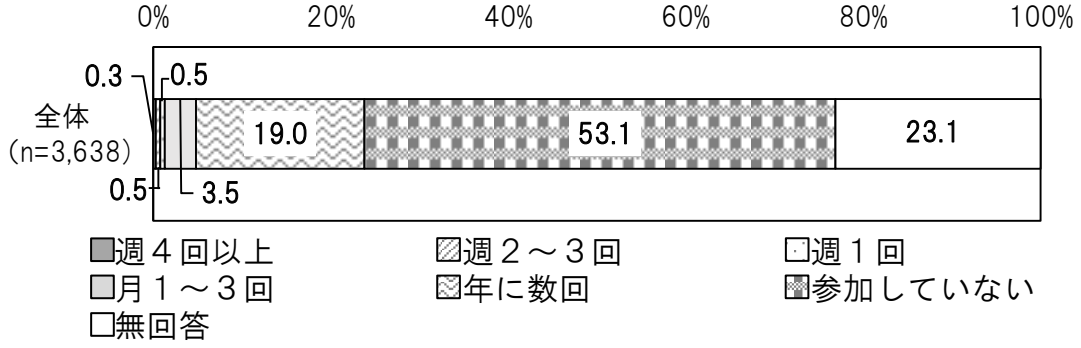
・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。
・年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっており、65～69 歳では 82.4％と８割以上となっている。
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 73.8％と最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	0.3	0.6	0.6	2.0	2.9	**69.8**	23.8
事業対象者	37	－	2.7	－	2.7	8.1	**62.2**	24.3
要支援１	217	0.5	0.5	1.8	2.8	3.2	**61.3**	30.0
要支援２	123	－	2.4	1.6	4.1	0.8	**64.2**	26.8
65～69歳	755	－	0.1	0.3	0.4	0.9	**82.4**	15.9
70～74歳	1,050	0.1	0.3	0.9	2.0	2.4	**74.9**	19.5
75～79歳	888	0.2	1.1	0.7	1.7	4.1	**63.9**	28.4
80～84歳	618	0.8	1.1	0.8	4.7	3.7	**57.6**	31.2
85歳以上	320	0.6	1.3	1.3	3.1	4.7	**54.7**	34.4
川西南中学校区	521	0.2	0.6	1.0	2.7	5.8	**65.3**	24.6
川西中学校区	499	－	0.8	0.2	2.0	3.2	**67.1**	26.7
明峰中学校区	521	0.2	0.6	0.8	3.8	1.3	**68.9**	24.4
多田中学校区	522	0.4	0.2	0.2	1.1	3.6	**73.8**	20.7
緑台中学校区	521	0.2	1.2	1.2	1.7	2.1	**67.8**	25.9
清和台中学校区	520	0.4	0.8	0.8	1.2	1.2	**70.2**	25.6
東谷中学校区	527	0.6	0.8	0.9	2.5	3.2	**70.0**	22.0

⑦　町内会・自治会

・町内会・自治会への参加頻度については、「参加していない」が 53.1%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は 23.8%と 2 割以上となっている。



・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。一般高齢者の参加者の割合が 25.0%と 2 割以上である一方で、事業対象者では 16.2%、要支援 1 では 15.7%と 2 割未満、要支援 2 では 8.9%と 1 割未満となっている。

・年齢別にみると、65～69 歳で「参加していない」が 63.2%と 6 割以上となっている。

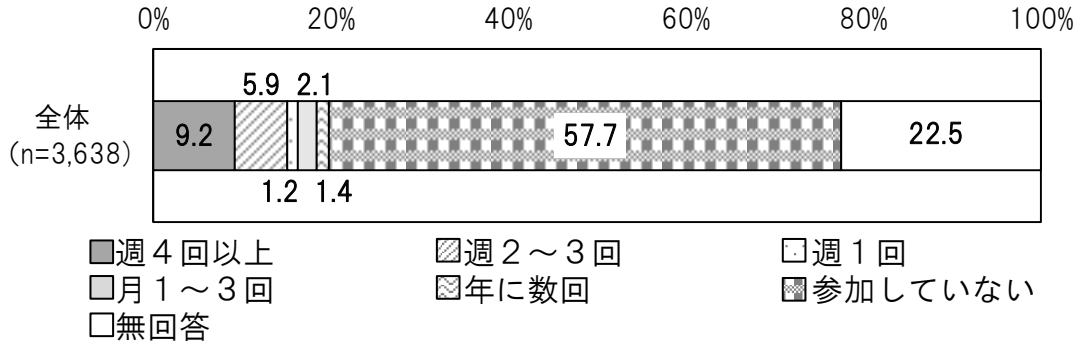
・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 58.6%と最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	0.2	0.5	0.6	3.7	20.0	**52.8**	22.2
事業対象者	37	－	－	－	－	16.2	**54.1**	29.7
要支援１	217	0.9	－	0.5	2.8	11.5	**54.4**	30.0
要支援２	123	－	1.6	－	0.8	6.5	**59.3**	31.7
65～69歳	755	－	0.1	0.9	2.3	19.1	**63.2**	14.4
70～74歳	1,050	0.1	0.5	0.5	4.7	22.1	**54.1**	18.1
75～79歳	888	0.6	0.7	0.5	4.6	18.7	**48.6**	26.4
80～84歳	618	0.5	0.8	0.5	2.4	18.6	**46.6**	30.6
85歳以上	320	0.3	0.3	0.3	1.6	10.3	**51.3**	35.9
川西南中学校区	521	0.4	0.8	1.0	5.2	17.5	**52.6**	22.6
川西中学校区	499	0.2	0.6	0.4	3.2	16.6	**53.3**	25.7
明峰中学校区	521	－	0.2	0.6	3.8	21.5	**50.7**	23.2
多田中学校区	522	0.4	0.2	0.4	2.5	18.2	**58.6**	19.7
緑台中学校区	521	－	0.8	0.8	1.9	20.5	**50.9**	25.1
清和台中学校区	520	0.6	0.6	0.2	3.7	17.7	**53.5**	23.8
東谷中学校区	527	0.4	0.4	0.6	4.2	20.9	**52.4**	21.3

⑧　収入のある仕事

・収入のある仕事への参加頻度については、「参加していない」が 57.7%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は 19.8%と 2 割近くとなっている。



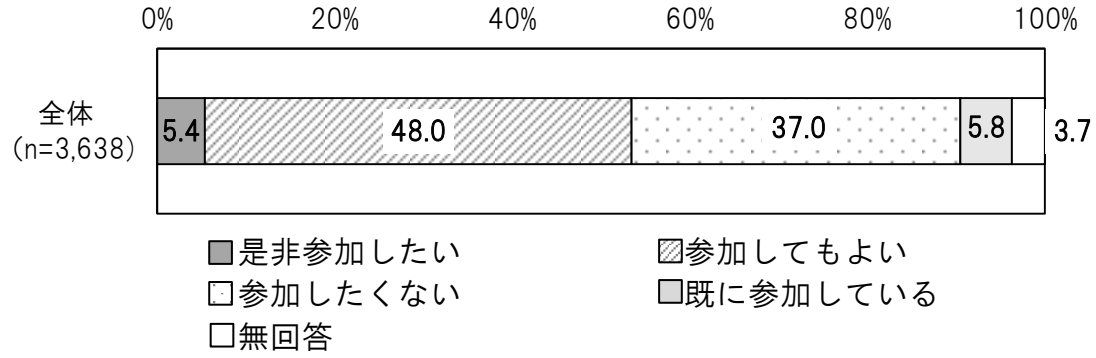
・介護度別にみると一般高齢者の参加者の割合が 21.7%と 2 割以上である一方で、事業対象者では 2.7%、要支援 1 では 2.9%、要支援 2 では 1.6%と 1 割未満となっている。
・年齢別にみると、65～69 歳で参加者の割合が 39.7%と 4 割近くとなっており、「週 4 回以上」参加している人の割合は 23.3%と 2 割以上となっている。
・中学校区別にみると、東谷中学校区で「参加していない」が 62.6%と最も高くなっている。

（%）

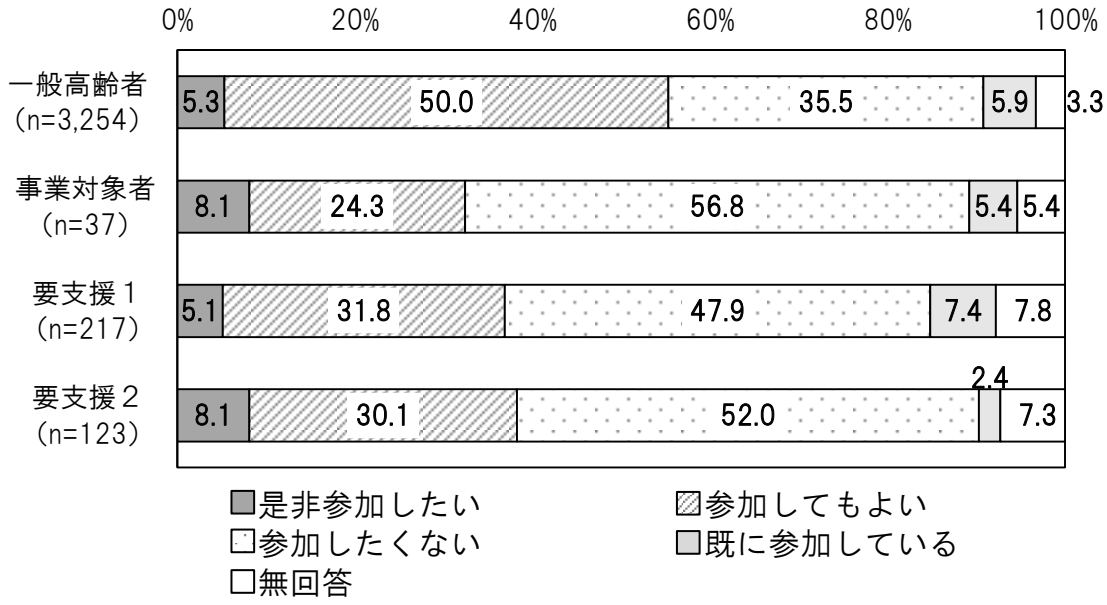
	全体（件数）	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
一般高齢者	3,254	10.1	6.5	1.4	2.2	1.5	**56.9**	21.3
事業対象者	37	－	2.7	－	－	－	**62.2**	35.1
要支援１	217	0.5	1.4	－	0.5	0.5	**65.0**	32.3
要支援２	123	0.8	－	－	0.8	－	**65.0**	33.3
65～69歳	755	23.3	11.3	1.2	2.4	1.5	**49.9**	10.5
70～74歳	1,050	10.5	8.5	1.5	2.5	1.8	**58.7**	16.6
75～79歳	888	3.7	3.5	1.5	2.7	1.7	**60.1**	26.8
80～84歳	618	1.6	1.5	1.0	0.6	0.6	**61.2**	33.5
85歳以上	320	0.9	0.3	0.3	0.9	0.6	**59.4**	37.5
川西南中学校区	521	11.3	6.1	0.8	2.7	0.8	**54.9**	23.4
川西中学校区	499	12.6	6.0	0.8	1.2	2.0	**51.9**	25.5
明峰中学校区	521	6.0	5.8	1.0	1.9	1.5	**61.8**	22.1
多田中学校区	522	12.3	6.3	1.1	2.1	0.8	**57.5**	19.9
緑台中学校区	521	5.8	5.8	1.0	2.9	1.7	**58.9**	24.0
清和台中学校区	520	9.8	7.1	1.2	1.5	1.7	**56.0**	22.7
東谷中学校区	527	6.5	4.4	2.8	2.1	1.3	**62.6**	20.3

（2）地域活動への参加者としての参加意向

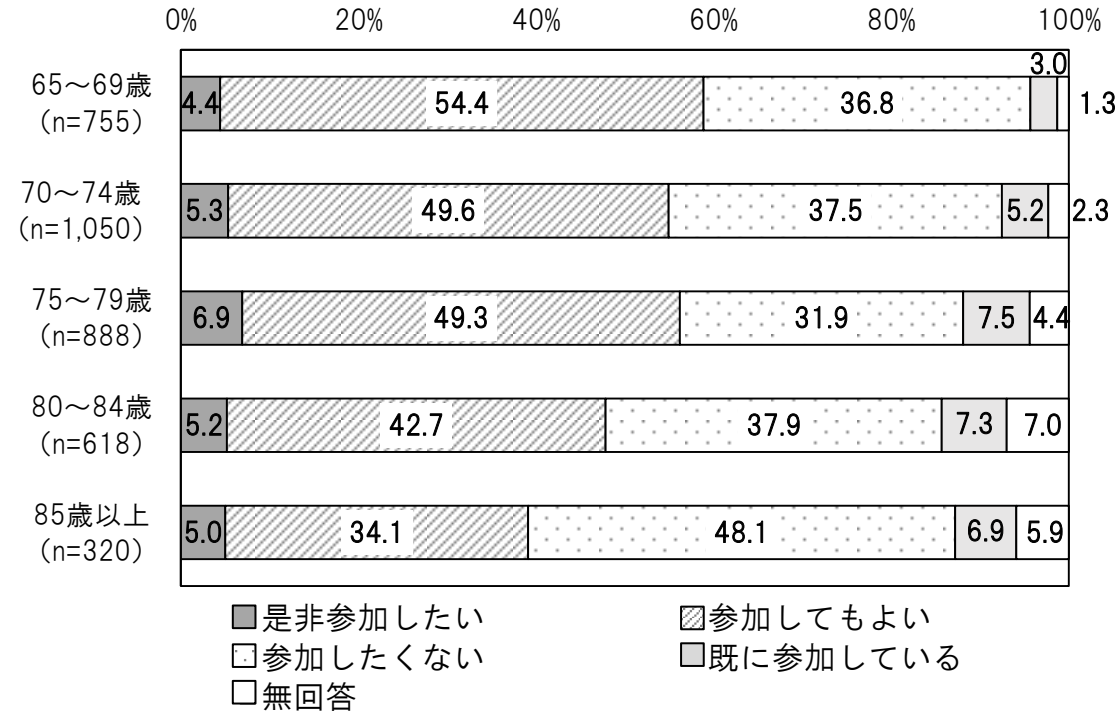
・地域活動への参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が 48.0%と最も高く、「是非参加したい」（5.4%）と合わせると 53.4%と、半数以上の人に参加意向があることがわかる。



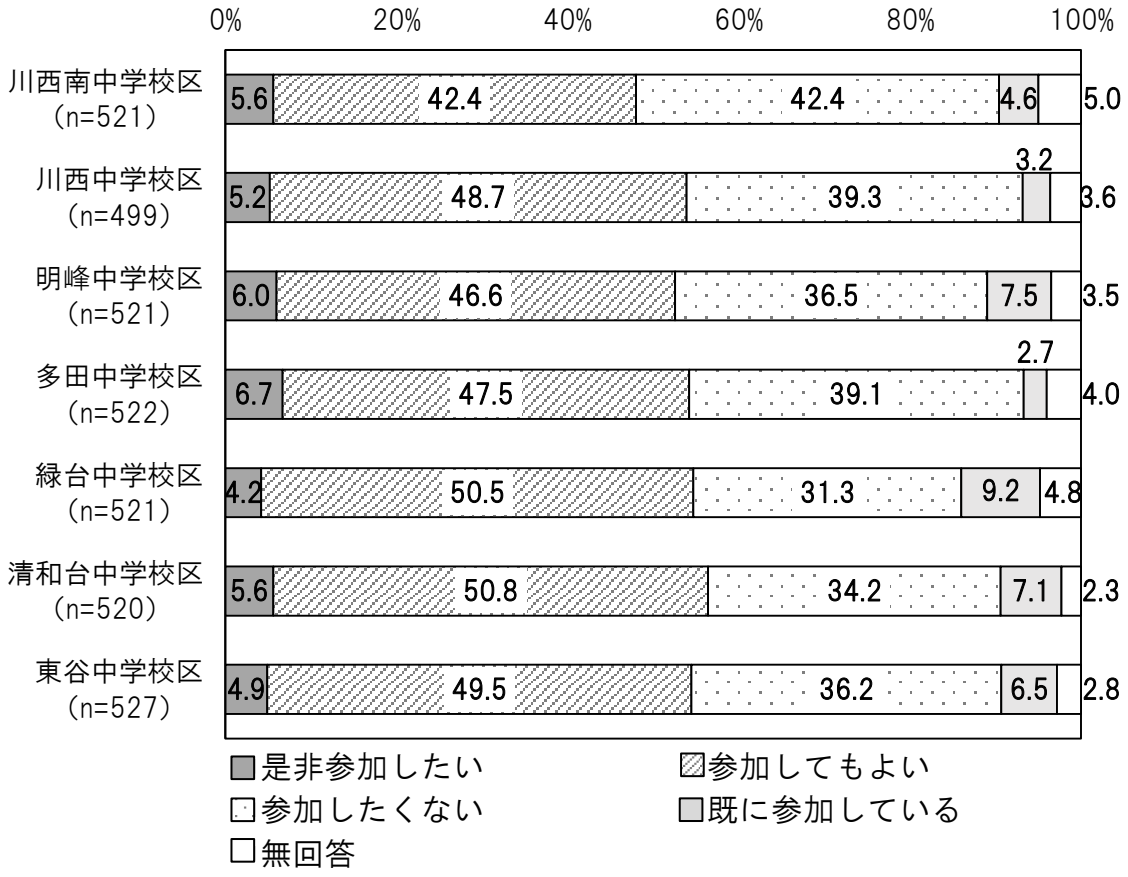
・介護度別にみると、「参加したくない」が事業対象者では 56.8%、要支援 1 では 47.9%、要支援 2 では 52.0%と、一般高齢者（35.5%）より 10 ポイント以上高くなっている。



・年齢別にみると、85 歳以上で「参加したくない」が 48.1%と 4 割以上となっている。

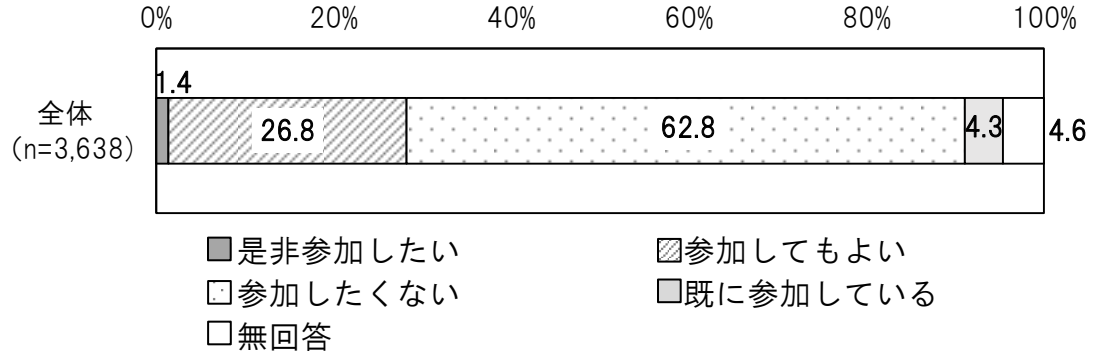


・中学校区別にみると、「参加したくない」が、川西南中学校区で 42.4%と最も高くなっている。

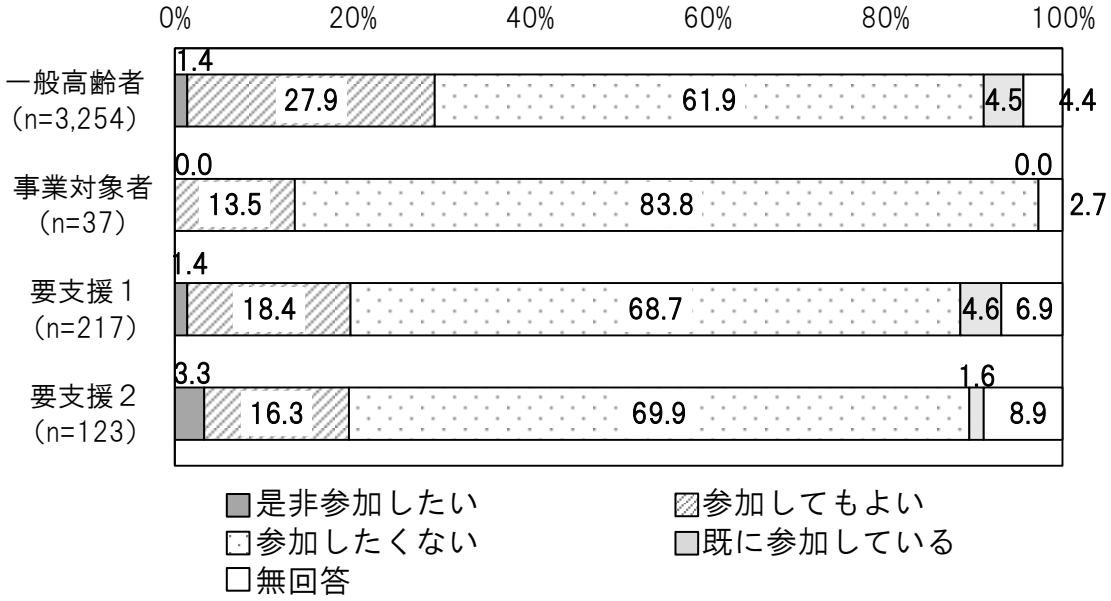


（3）地域活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向

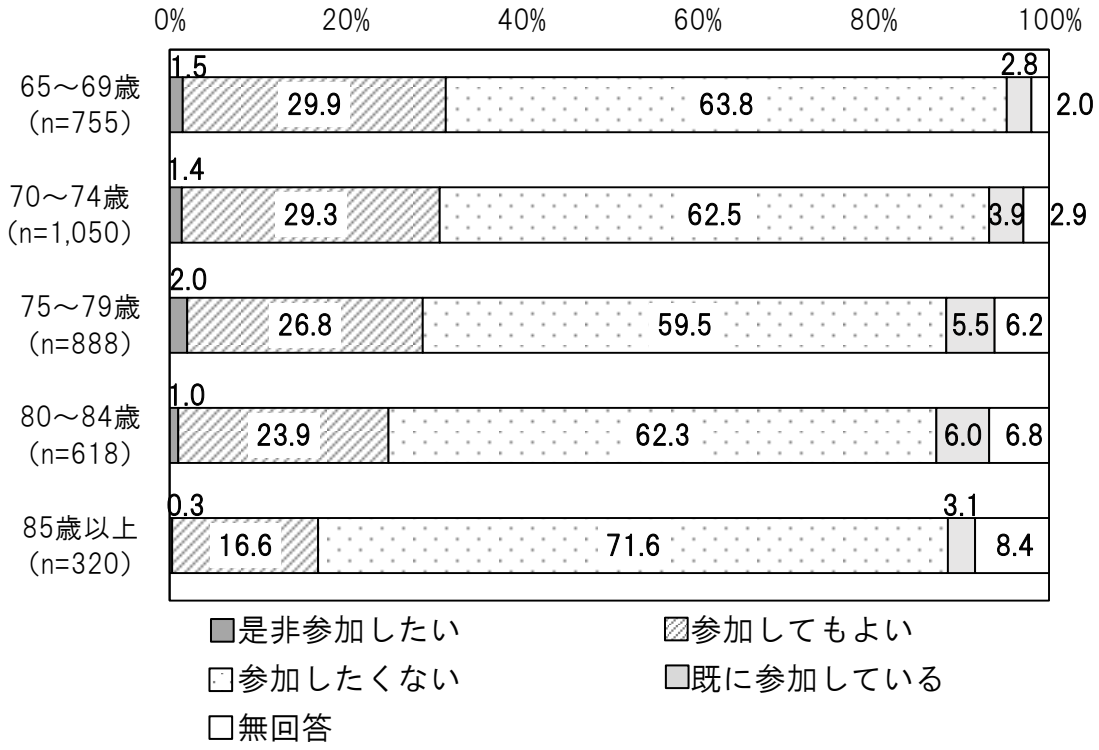
・地域活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向については、「参加したくない」が 62.8%と 6 割以上を占め最も高く、「是非参加したい」・「参加してもよい」を合わせた『参加意向がある』人の割合は、28.2%となっており、参加者としての参加意向からは 25.2 ポイント減少している。



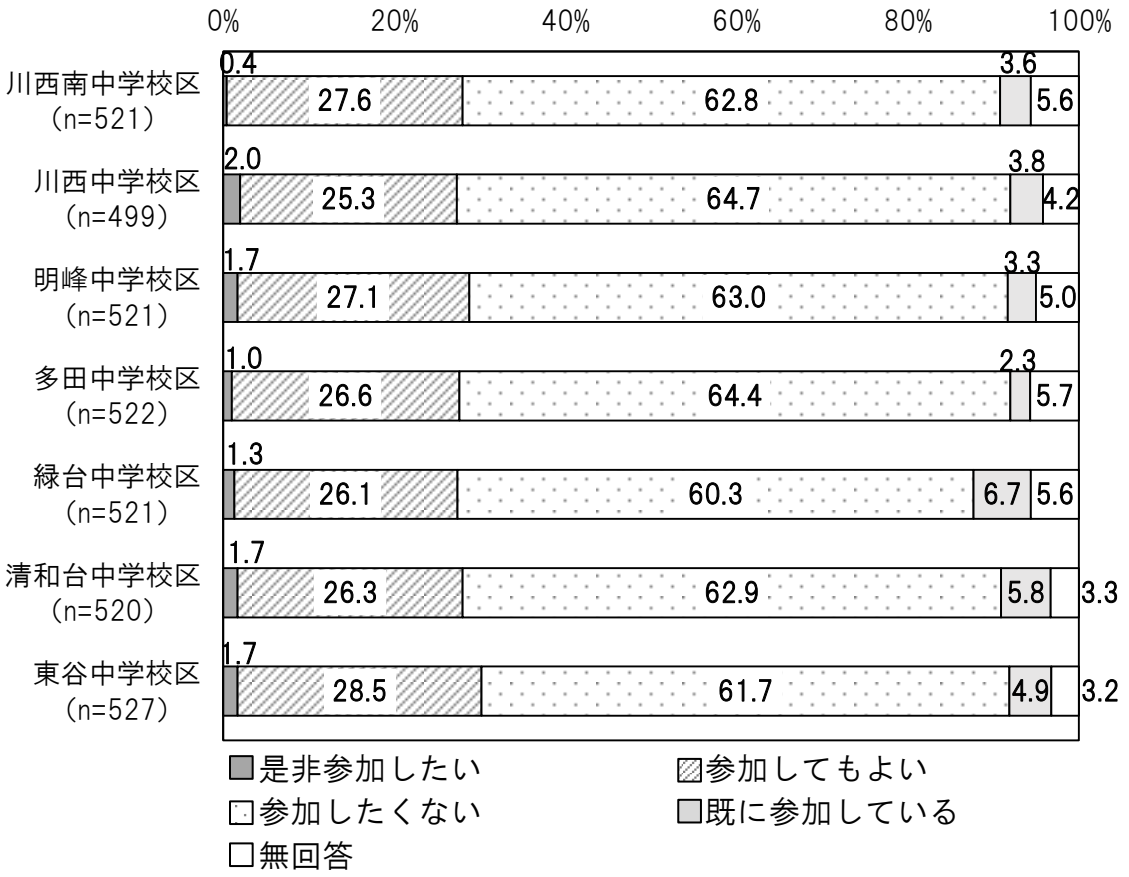
・介護度別にみると、「参加したくない」が、事業対象者で 83.8%、要支援 2 で 68.7%、要支援 2 で 69.9%と、一般高齢者（61.9%）より 5 ポイント以上高くなっている。



・年齢別にみると、85 歳以上で「参加したくない」が 71.6％と 7 割以上となっている。



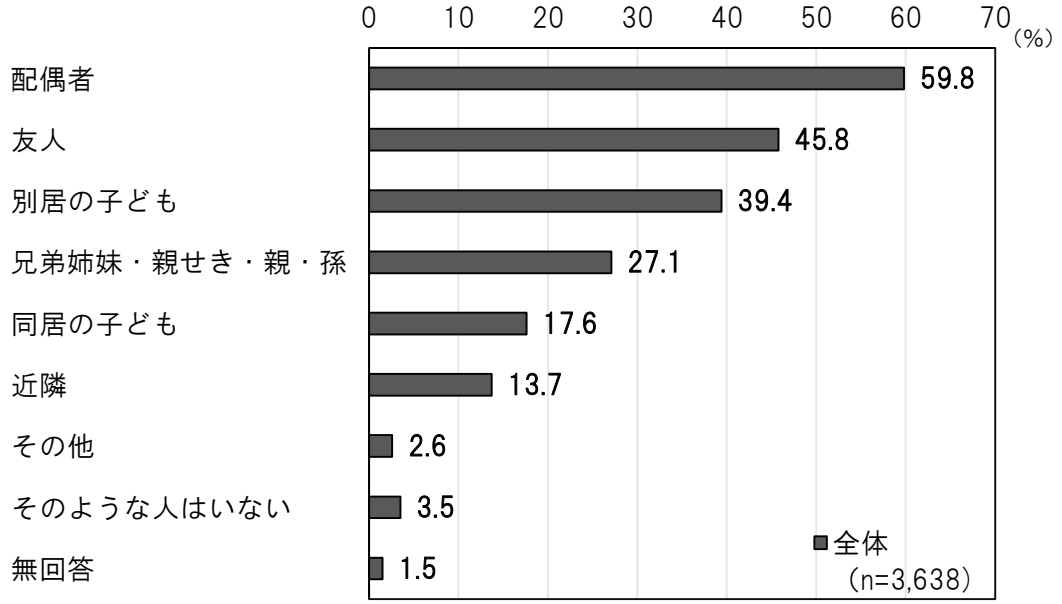
・中学校区別にみると、「参加したくない」が、川西中学校区で 64.7％と最も高くなっている。



7．たすけあいについて

（1）心配事や愚痴を聞いてくれる人

・心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 59.8%と 6 割近くを占め最も高く、次いで「友人」（45.8%）、「別居の子ども」（39.4%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○職場仲間	○ボランティア仲間
○趣味仲間	○愚痴は言わない　等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援１・要支援２で「配偶者」が最も高いものの、要支援１では 43.8%、要支援２では 46.3%と一般高齢者（61.6%）より 15 ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「別居の子ども」が 54.1%と半数以上を占め最も高くなっている。

(%)

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	**61.6**	17.5	39.1	27.5	13.2	47.4	2.6	3.4	1.3
事業対象者	37	32.4	21.6	**54.1**	27.0	18.9	16.2	2.7	2.7	2.7
要支援１	217	**43.8**	17.5	41.9	24.0	19.8	31.8	1.4	3.2	3.2
要支援２	123	**46.3**	15.4	39.0	22.8	14.6	39.8	4.1	6.5	4.1

・年齢別にみると、65～84 歳までで「配偶者」が最も高くなっている一方で、85 歳以上では「別居の子ども」が 43.1%と 4 割以上を占め最も高くなっている。また、年代が上がるにつれ「配偶者」の割合が低くなっており、85 歳以上では 38.1%と 4 割未満となっている。

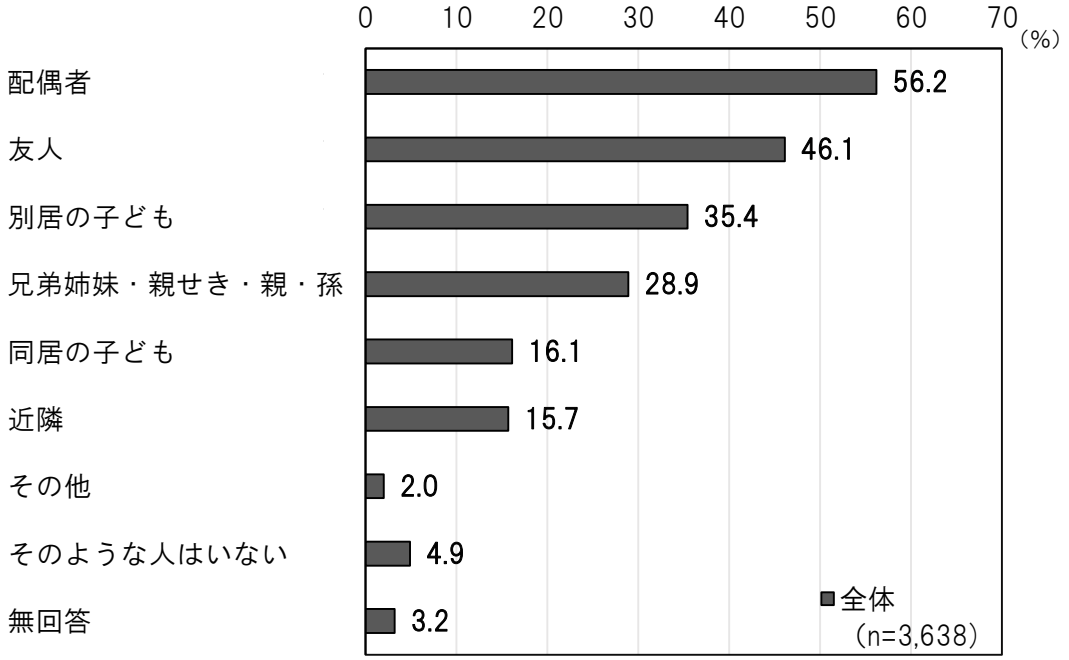
・中学校区別にみると、全ての地区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で 6 割未満とやや低くなっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	**68.2**	18.5	33.6	27.5	11.3	51.8	2.9	3.7	0.7
70～74歳	1,050	**62.0**	16.0	39.4	28.3	13.3	50.8	2.7	3.7	1.5
75～79歳	888	**60.2**	16.3	42.3	27.7	17.6	49.1	2.5	2.9	1.2
80～84歳	618	**56.0**	16.7	40.5	23.9	13.3	36.4	2.1	2.8	2.1
85歳以上	320	38.1	24.7	**43.1**	26.6	11.3	25.0	2.8	5.0	3.4
川西南中学校区	521	**50.1**	19.6	36.3	27.4	16.5	42.2	2.1	5.2	3.1
川西中学校区	499	**52.7**	16.2	38.1	26.9	11.8	48.1	3.6	3.4	1.8
明峰中学校区	521	**64.9**	18.2	42.4	27.8	12.7	43.4	2.1	2.9	0.6
多田中学校区	522	**61.5**	19.3	35.8	27.8	14.0	49.2	2.7	3.4	1.1
緑台中学校区	521	**61.6**	16.7	41.7	25.5	14.6	45.1	2.3	3.6	1.5
清和台中学校区	520	**65.0**	16.2	39.0	28.3	12.9	47.5	2.3	2.9	1.7
東谷中学校区	527	**62.0**	16.1	42.7	26.0	13.7	45.5	3.0	2.8	0.9

（2）心配事や愚痴を聞いてあげる人

・心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 56.2%と最も高く、次いで「友人」（46.1%）、「別居の子ども」（35.4%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○職場仲間	○ボランティア仲間　　等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援１で「配偶者」が最も高い一方で、事業対象者では「別居の子ども」、要支援２では「友人」が最も高くなっている。また、要支援２では「そのような人はいない」が 14.6%と１割以上となっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	**58.4**	16.5	36.3	29.5	16.0	47.6	2.1	4.3	2.8
事業対象者	37	27.0	21.6	**43.2**	27.0	10.8	18.9	2.7	5.4	5.4
要支援１	217	**38.7**	11.5	25.3	24.4	13.8	31.8	0.5	8.8	7.4
要支援２	123	35.8	11.4	27.6	20.3	12.2	**39.8**	1.6	14.6	4.9

・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85 歳以上では 35.6%と 4 割未満となっている。

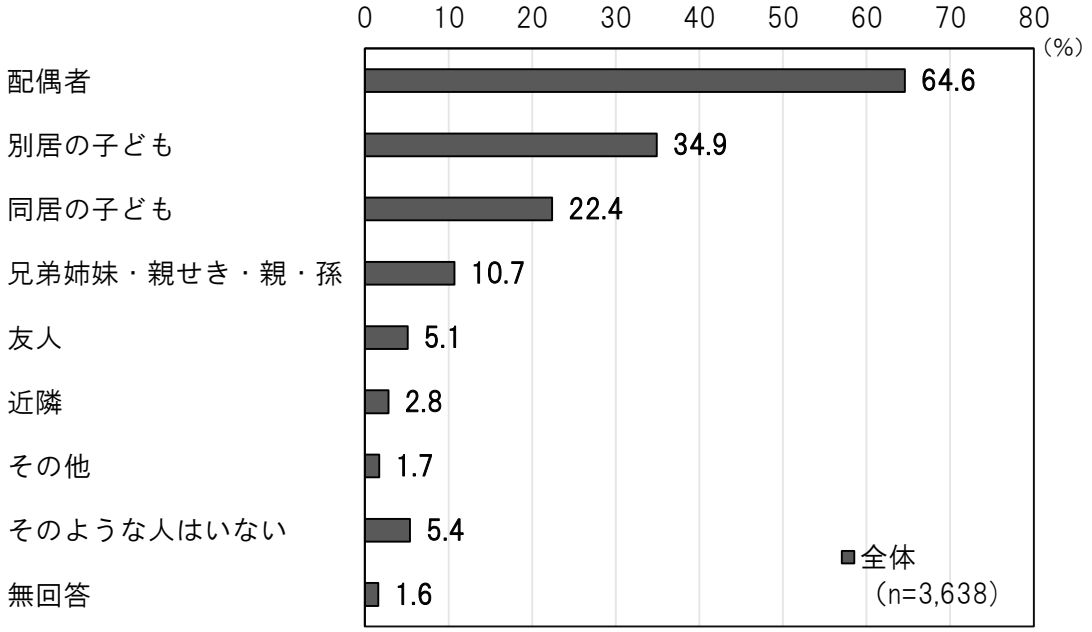
・中学校区別にみると、川西中学校区で「友人」が最も高く、その他の地区では「配偶者」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	**66.4**	19.3	35.2	31.4	12.2	52.1	2.0	3.2	1.2
70～74歳	1,050	**58.7**	15.6	38.3	30.8	16.4	49.8	2.6	4.1	2.3
75～79歳	888	**55.4**	14.0	36.4	28.9	20.0	49.7	1.9	4.8	3.0
80～84歳	618	**51.1**	13.8	32.2	24.8	15.0	37.4	1.3	5.8	5.5
85歳以上	320	**35.6**	20.3	30.3	24.7	10.6	26.9	1.6	10.3	6.9
川西南中学校区	521	**47.4**	17.9	31.1	30.1	16.7	41.5	2.5	6.7	5.8
川西中学校区	499	48.5	15.2	32.9	29.7	15.2	**49.7**	1.8	4.2	3.6
明峰中学校区	521	**62.0**	16.1	39.5	28.2	16.7	43.0	1.2	5.4	2.9
多田中学校区	522	**56.9**	17.8	34.1	29.5	16.7	49.2	2.3	3.8	2.1
緑台中学校区	521	**58.7**	14.6	34.9	27.8	15.0	44.1	1.5	5.2	3.5
清和台中学校区	520	**59.8**	16.0	37.7	29.0	13.7	48.1	2.3	3.5	2.9
東谷中学校区	527	**59.4**	15.0	37.8	27.9	15.7	47.2	2.3	5.7	1.7

（3）看病や世話をしてくれる人

・看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 64.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」（34.9%）、「同居の子ども」（22.4%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○看護師・ヘルパー等の施設の人	○全て自分で対処する　等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援１・要支援２で「配偶者」が最も高いものの、要支援１では 46.5%、要支援２では 44.7%と一般高齢者（66.9%）より 20 ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「別居の子ども」が 54.1%と半数以上を占め最も高くなっている。

(%)

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	**66.9**	22.2	34.2	10.8	2.7	5.2	1.5	5.3	1.3
事業対象者	37	27.0	27.0	**54.1**	24.3	2.7	－	5.4	5.4	2.7
要支援１	217	**46.5**	23.5	38.7	9.2	4.6	6.5	2.8	6.5	4.6
要支援２	123	**44.7**	22.0	40.7	7.3	3.3	3.3	3.3	6.5	3.3

・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85 歳以上では 37.8%と 4 割未満となっている。また、年代が上がるにつれ、「別居の子ども」の割合が高くなっている。

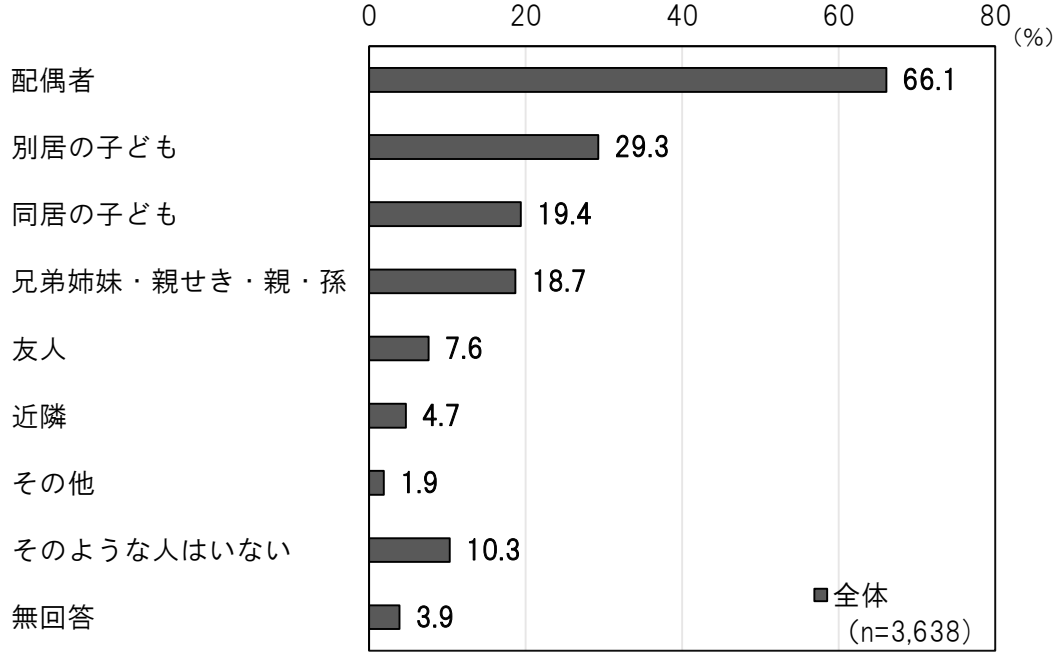
・中学校区別にみると、全ての中学校区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で 6 割未満とやや低くなっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	**73.4**	23.4	29.9	11.8	2.3	4.2	1.2	5.4	0.5
70～74歳	1,050	**69.3**	20.7	33.3	10.2	2.7	5.7	1.2	5.9	1.5
75～79歳	888	**64.1**	21.5	36.8	10.1	3.7	6.9	2.1	5.5	1.0
80～84歳	618	**60.2**	21.4	37.7	9.7	2.6	4.9	1.5	4.7	2.4
85歳以上	320	**37.8**	29.4	41.3	13.1	2.5	1.3	3.8	4.7	4.1
川西南中学校区	521	**59.3**	23.0	36.9	11.5	2.5	5.6	1.7	6.7	3.3
川西中学校区	499	**55.1**	22.6	34.9	14.8	3.4	5.8	3.0	7.8	1.4
明峰中学校区	521	**69.1**	21.5	34.0	11.3	4.0	4.6	1.9	4.8	0.4
多田中学校区	522	**66.7**	26.4	33.9	8.6	1.5	4.4	1.7	5.6	1.1
緑台中学校区	521	**66.4**	20.5	35.1	9.2	3.5	6.5	0.8	5.0	1.7
清和台中学校区	520	**70.0**	20.2	34.2	9.0	2.5	4.8	0.8	4.6	1.5
東谷中学校区	527	**64.9**	22.0	35.5	10.4	2.3	4.4	2.1	3.4	1.5

（4）看病や世話をしてあげる人

・看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 66.1%と最も高く、次いで「別居の子ども」（29.3%）、「同居の子ども」（19.4%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○年齢的にできない	○今のところいない　等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援１・要支援２で「配偶者」が最も高いものの、要支援１では 49.3%、要支援２では 42.3%と一般高齢者（68.5%）より 15 ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「そのような人はいない」が 35.1%と３割以上を占め最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	**68.5**	19.9	30.7	19.8	4.8	7.7	1.5	9.0	3.4
事業対象者	37	29.7	21.6	18.9	10.8	2.7	－	2.7	**35.1**	8.1
要支援１	217	**49.3**	15.2	21.2	10.1	5.1	7.8	4.1	16.6	7.8
要支援２	123	**42.3**	10.6	10.6	5.7	3.3	4.9	8.1	25.2	9.8

・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85 歳以上では 40.9%と半数未満となっている。また、年代が上がるにつれ、「そのような人はいない」の割合が高くなっており、75 歳以上で 1 割以上を占めている。

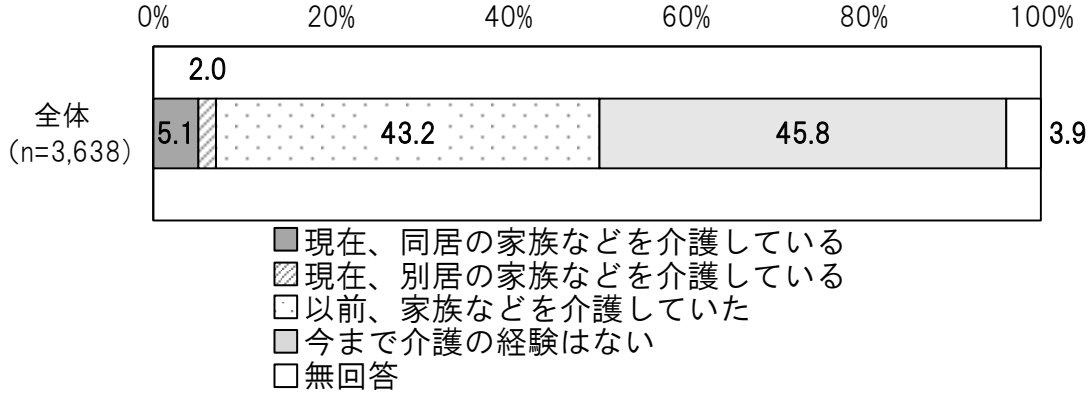
・中学校区別にみると、全ての中学校区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で 6 割未満とやや低くなっている。

（%）

	全体（件数）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親せき・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	**75.0**	23.3	31.7	24.6	4.4	7.2	1.7	8.2	1.2
70～74歳	1,050	**70.9**	19.5	34.4	21.0	4.1	7.8	1.9	8.2	2.9
75～79歳	888	**66.6**	18.8	29.6	18.5	6.2	9.7	1.8	10.4	3.3
80～84歳	618	**59.5**	16.0	23.1	11.8	5.0	6.6	1.0	12.0	6.8
85歳以上	320	**40.9**	17.2	18.1	10.6	2.8	3.4	4.4	18.8	10.3
川西南中学校区	521	**58.7**	21.9	29.8	17.7	5.8	7.5	2.5	10.6	5.8
川西中学校区	499	**58.9**	16.4	28.1	23.0	6.2	8.8	2.6	12.6	3.0
明峰中学校区	521	**70.4**	19.4	29.8	17.7	4.8	7.5	1.0	10.2	2.9
多田中学校区	522	**68.2**	22.4	28.9	19.3	4.8	7.7	1.9	10.0	3.3
緑台中学校区	521	**67.0**	17.5	28.0	18.0	4.6	7.1	2.3	9.8	4.8
清和台中学校区	520	**70.6**	19.6	29.2	16.7	2.9	6.0	1.2	8.3	3.8
東谷中学校区	527	**68.5**	18.0	31.3	18.4	4.0	8.3	1.9	10.8	4.0

（5）家族などの介護の経験

・家族などの介護の経験については、「今まで介護の経験はない」が 45.8%と最も高く、次いで「以前、家族などを介護していた」（43.2%）となっている。「現在、同居の家族などを介護している」・「現在、別居の家族などを介護している」・「以前、家族などを介護していた」を合わせた『介護の経験がある』人の割合は 50.3%と半数以上となっている。



・介護度別にみると、一般高齢者では「今まで介護の経験はない」が最も高い一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では「以前、家族などを介護していた」が最も高くなっている。

・年齢別にみると、75～79 歳・85 歳以上で「以前、家族などを介護していた」が最も高くなっている。

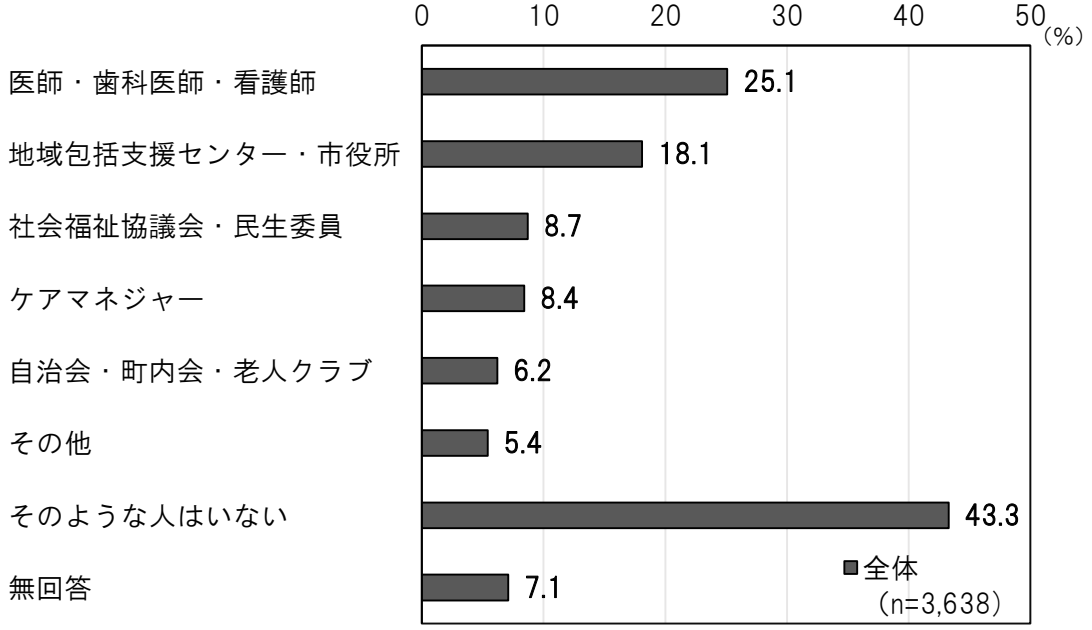
・中学校区別にみると、緑台中学校区・東谷中学校区で「以前、家族などを介護していた」が最も高く、その他の地区では「今まで介護の経験はない」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	現在、同居の家族などを介護している	現在、別居の家族などを介護している	以前、家族などを介護していた	今まで介護の経験はない	無回答
一般高齢者	3,254	4.8	2.2	42.5	**47.1**	3.4
事業対象者	37	8.1	－	**62.2**	27.0	2.7
要支援１	217	8.3	－	**49.3**	34.1	8.3
要支援２	123	6.5	－	**46.3**	39.8	7.3
65～69歳	755	3.8	4.2	44.5	**45.4**	2.0
70～74歳	1,050	4.5	2.5	42.8	**47.0**	3.2
75～79歳	888	6.0	1.4	**45.3**	44.0	3.4
80～84歳	618	5.3	0.2	38.3	**49.8**	6.3
85歳以上	320	6.9	0.3	**45.9**	40.3	6.6
川西南中学校区	521	6.1	0.8	39.2	**48.9**	5.0
川西中学校区	499	6.4	1.8	43.7	**44.1**	4.0
明峰中学校区	521	4.8	2.1	45.1	**45.5**	2.5
多田中学校区	522	3.6	1.7	40.6	**48.3**	5.7
緑台中学校区	521	3.6	2.3	**46.4**	44.7	2.9
清和台中学校区	520	6.2	3.3	41.5	**45.8**	3.3
東谷中学校区	527	4.7	1.9	**46.3**	43.6	3.4

（6）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が 43.3%と最も高くなっている。相談する相手の中では「医師・歯科医師・看護師」が 25.1%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」（18.1%）なっている。



「その他」の主な回答内容	
○相談の内容により相談先を変える	○弁護士
○職場仲間	○趣味仲間　等

・介護度別にみると、一般高齢者では「そのような人はいない」が最も高い一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では「ケアマネジャー」が最も高くなっている。また、「地域包括支援センター・市役所」が要支援１では２割以上、事業対象者・要支援２では３割以上を占め一般高齢者（17.1%）より５ポイント以上高くなっている。

（%）

	全体（件数）	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	6.5	8.5	5.1	24.6	17.1	5.3	**45.9**	7.1
事業対象者	37	8.1	10.8	**45.9**	43.2	32.4	2.7	10.8	8.1
要支援１	217	4.1	10.1	**34.6**	29.5	22.6	7.4	24.9	6.9
要支援２	123	1.6	13.0	**39.8**	25.2	31.7	7.3	16.3	7.3

・年齢別にみると、85 歳以上で「医師・歯科医師・看護師」が最も高く、その他の年代では「そのような人はいない」が最も高くなっている。また、85 歳以上で「ケアマネジャー」が 21.3%と 2 割以上を占め高くなっている。

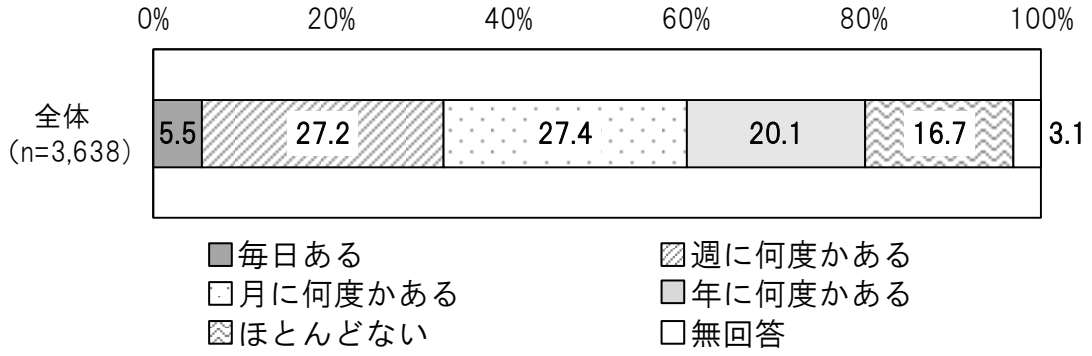
・中学校区別にみると、全ての地区で「そのような人はいない」が最も高くなっている。また、緑台中学校区で「医師・歯科医師・看護師」が 31.1%と 3 割以上を占めやや高くなっている。

（%）

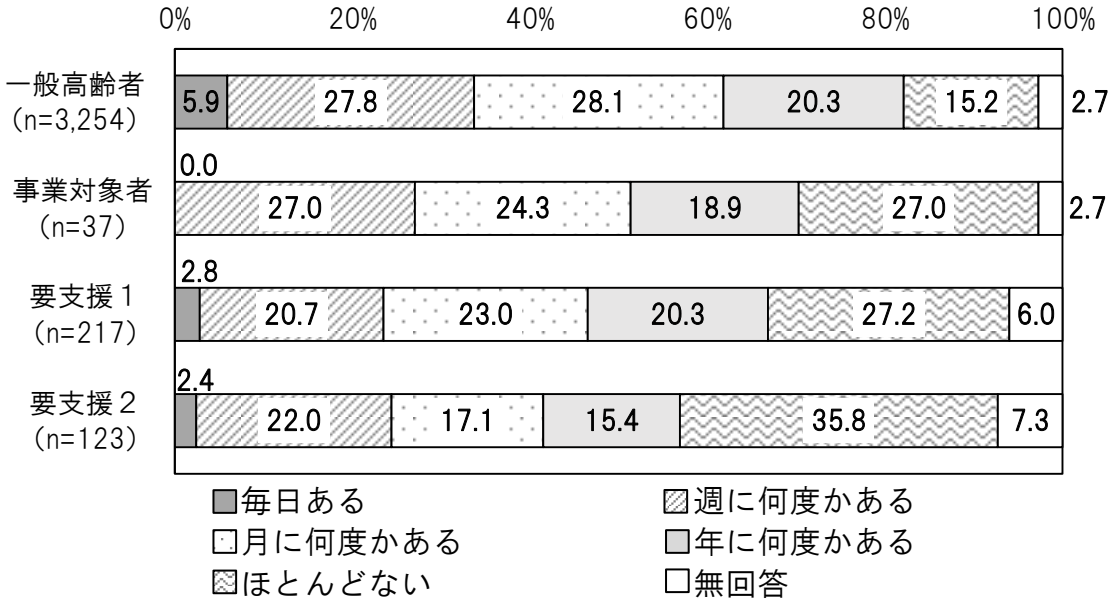
	全体（件数）	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	3.8	5.0	5.6	21.3	17.9	4.2	**54.4**	4.2
70～74歳	1,050	6.5	8.7	6.5	23.4	16.7	5.0	**49.0**	6.2
75～79歳	888	6.0	10.6	7.5	27.7	18.8	5.2	**37.7**	8.3
80～84歳	618	8.3	10.2	9.9	24.9	19.1	7.1	**36.1**	9.1
85歳以上	320	7.8	9.7	21.3	**32.5**	18.8	7.2	28.1	9.4
川西南中学校区	521	8.6	11.3	8.1	20.0	16.5	3.8	**44.7**	9.0
川西中学校区	499	7.8	5.8	9.0	23.4	14.8	4.8	**45.3**	6.2
明峰中学校区	521	6.3	7.9	6.9	22.6	22.5	6.0	**41.5**	7.5
多田中学校区	522	5.7	8.2	8.6	25.3	18.2	4.4	**45.6**	6.7
緑台中学校区	521	5.0	10.0	7.5	31.1	18.8	6.7	**39.3**	6.7
清和台中学校区	520	6.7	8.5	8.7	26.0	18.1	6.0	**43.8**	6.9
東谷中学校区	527	3.4	9.3	10.2	27.1	17.3	6.3	**43.1**	6.5

（7）友人・知人と会う頻度

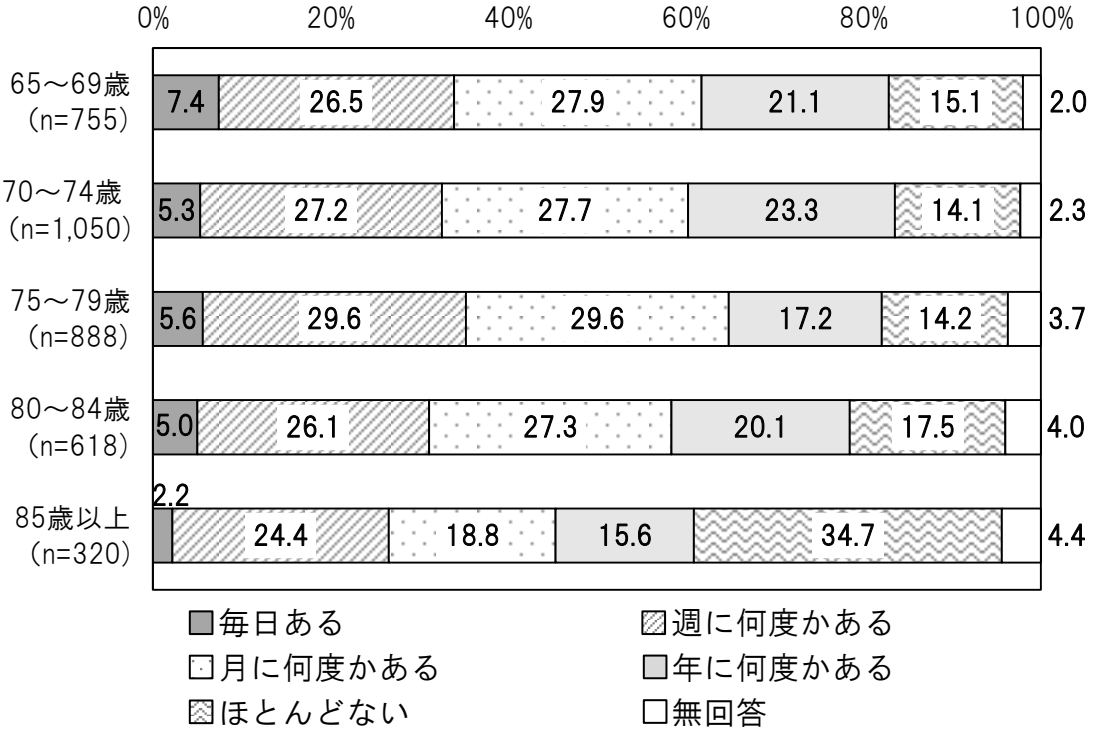
・友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が 27.4%と最も高く、次いで「週に何度かある」（27.2%）、「年に何度かある」（20.1%）となっている。「毎日ある」・「週に何度かある」・「月に何度かある」を合わせた『月に１回以上ある』人の割合は 60.1%と 6 割以上となっている。



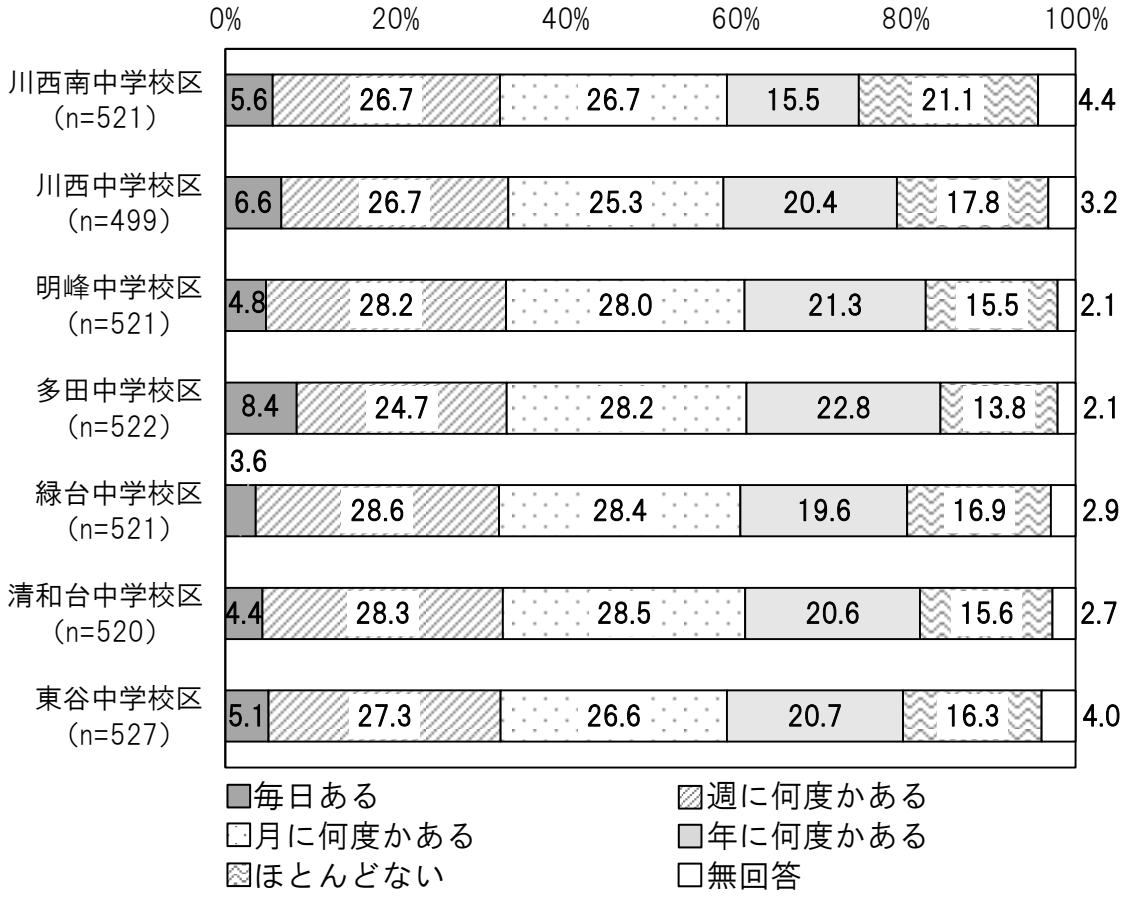
・介護度別にみると、「ほとんどない」が、事業対象者では 27.0%、要支援２では 27.2%、要支援２では 35.8%と、一般高齢者（15.2%）より 10 ポイント以上高くなっている。また、『月に１回以上ある』人の割合は、一般高齢者で 6 割以上である一方で、要支援１では 46.5%、要支援２では 41.5%と半数未満となっている。



・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれ、「ほとんどない」が高くなっており、85 歳以上で 34.7％と 3 割以上となっている。また、『月に 1 回以上ある』人の割合は、80～84 歳で 58.4％、85 歳以上で 45.4％と 6 割未満となっている。

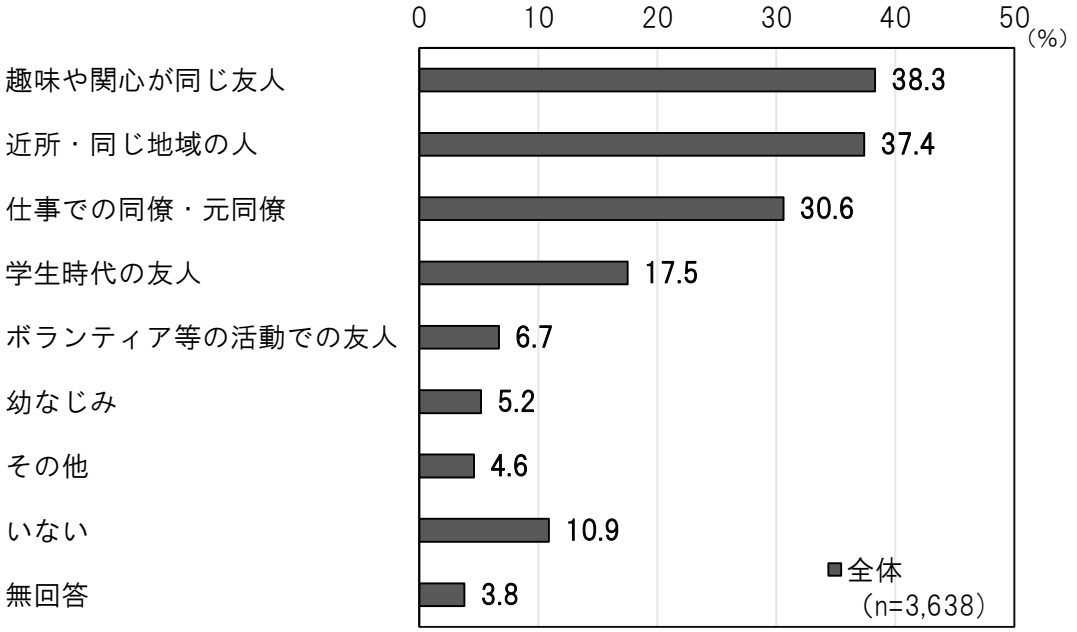


・中学校区別で大きな差はみられない。



（8）よく会う友人・知人との関係

・よく会う友人・知人との関係については、「趣味や関心が同じ友人」が 38.3%と最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」（37.4%）、「仕事での同僚・元同僚」（30.6%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○ママ友	○お客様
○通院での友達	○教会の人　等

・介護度別にみると、一般高齢者では「趣味や関心が同じ友人」が最も高くなっている一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では「近所・同じ地域の人」が最も高くなっている。また、よく会う知人・友人が「いない」人の割合が、事業対象者では 21.6%、要支援１では 15.2%、要支援２では 23.6%と一般高齢者（10.0%）より５ポイント以上高くなっている。

(%)

	全体（件数）	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
一般高齢者	3,254	37.0	5.4	18.4	32.5	**39.5**	7.0	4.3	10.0	3.6
事業対象者	37	**54.1**	－	2.7	8.1	16.2	8.1	8.1	21.6	5.4
要支援１	217	**41.5**	2.8	8.3	15.7	31.8	5.1	5.5	15.2	5.5
要支援２	123	**35.0**	4.1	13.8	13.0	26.0	2.4	8.9	23.6	7.3

・年齢別にみると、65～69 歳では「仕事での同僚・元同僚」が、70～74 歳では「趣味や関心が同じ友人」が最も高く、その他の年代では「近所・同じ地域の人」が最も高くなっている。また、85 歳以上でよく会う知人・友人が「いない」人の割合が 19.1％と 2 割近くとなっている。

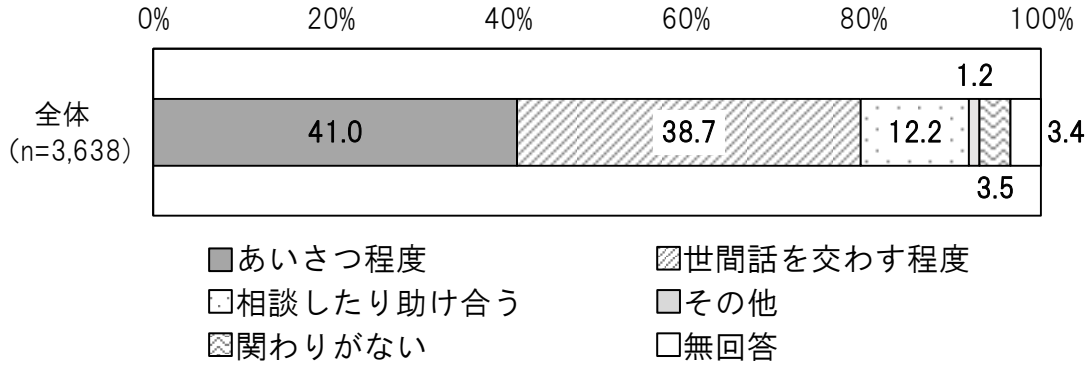
・中学校区別にみると、川西南中学校区・川西中学校区で「近所・同じ地域の人」が最も高く、その他の地区では「趣味や関心が同じ友人」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
65～69歳	755	27.4	5.0	23.0	**44.9**	35.0	6.0	3.2	9.9	2.6
70～74歳	1,050	34.7	5.6	17.1	34.7	**40.2**	8.0	5.5	10.0	2.8
75～79歳	888	**46.1**	6.4	17.2	26.2	41.6	8.6	5.0	9.3	3.8
80～84歳	618	**42.4**	4.7	14.7	22.0	39.6	4.5	3.4	11.8	4.7
85歳以上	320	**36.3**	1.6	11.3	11.9	29.1	3.4	5.9	19.1	8.4
川西南中学校区	521	**41.1**	5.4	11.3	30.5	30.1	5.2	2.1	14.8	5.8
川西中学校区	499	**33.1**	6.8	17.4	30.9	32.1	6.2	5.4	10.8	4.6
明峰中学校区	521	37.2	3.5	20.3	30.5	**42.0**	5.4	4.2	10.0	3.3
多田中学校区	522	36.6	4.4	17.0	33.7	**36.8**	7.3	5.4	9.6	2.7
緑台中学校区	521	38.8	5.6	17.7	28.2	**44.7**	6.0	4.2	10.7	2.9
清和台中学校区	520	36.2	4.4	21.3	31.9	**42.3**	8.8	5.8	9.2	3.8
東谷中学校区	527	38.7	6.3	17.1	28.3	**40.2**	8.2	4.9	11.4	3.8

（9）実際に行っている近所づきあい

・実際行っている近所づきあいについては、「あいさつ程度」が 41.0%と 4 割以上を占めており、次いで「世間話を交わす程度」（38.7%）、「相談したり助け合う」（12.2%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○一緒に散歩に行く	○同じ趣味をする
○地域の見守り活動をしている	○料理のおすそ分け　等

・介護度別にみると、全ての介護度で「あいさつ程度」が最も高くなっているものの、事業対象者で 48.6%と、一般高齢者（40.9%）より 5 ポイント以上高くなっている。

（%）

	全体（件数）	あいさつ程度	世間話を交わす程度	相談したり助け合う	その他	関わりがない	無回答
一般高齢者	3,254	**40.9**	39.3	12.2	1.2	3.3	3.0
事業対象者	37	**48.6**	37.8	8.1	－	2.7	2.7
要支援１	217	**38.2**	35.9	15.7	0.5	4.1	5.5
要支援２	123	**46.3**	26.8	9.8	1.6	7.3	8.1

・年齢別にみると、70～79 歳で「世間話を交わす程度」が最も高く、その他の年代では「あいさつ程度」が最も高くなっている。

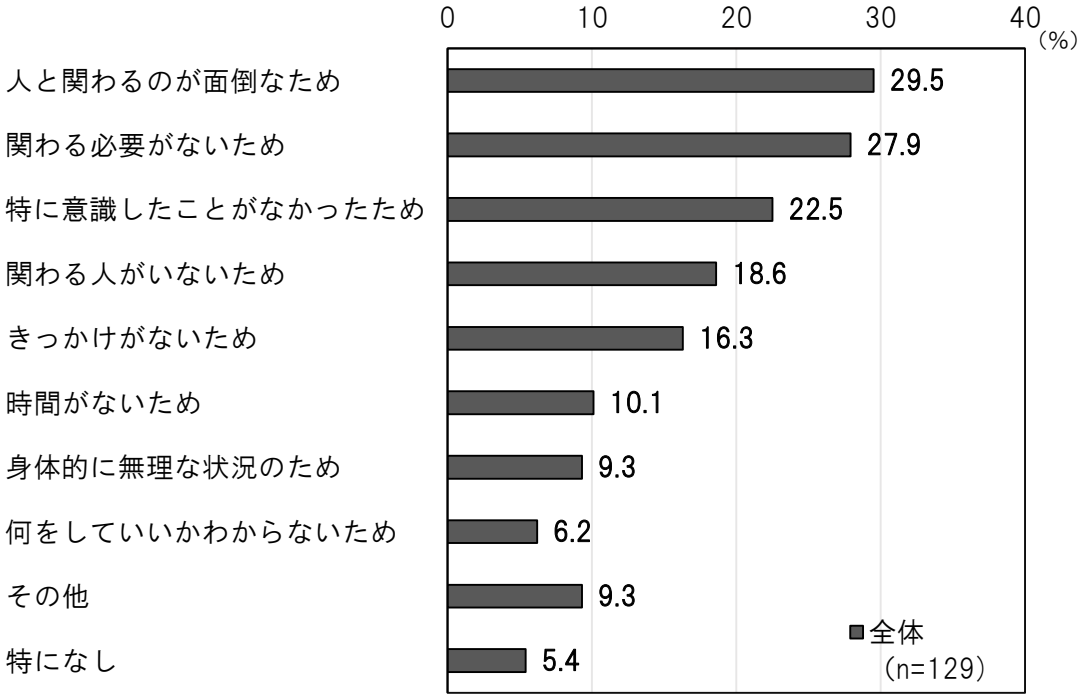
・中学校区別にみると、川西南中学校区・川西中学校区・多田中学校区で「あいさつ程度」が最も高く、その他の地区では「世間話を交わす程度」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	あいさつ程度	世間話を交わす程度	相談したり助け合う	その他	関わりがない	無回答
65～69歳	755	**47.7**	35.5	8.9	0.7	4.8	2.5
70～74歳	1,050	37.7	**41.0**	13.2	1.3	3.6	3.0
75～79歳	888	35.9	**41.0**	16.1	1.5	2.3	3.3
80～84歳	618	**43.2**	37.9	10.8	0.8	3.2	4.0
85歳以上	320	**46.3**	33.8	9.1	1.6	4.1	5.3
川西南中学校区	521	**40.7**	36.5	14.0	0.6	3.5	4.8
川西中学校区	499	**48.9**	31.5	11.4	1.4	3.4	3.4
明峰中学校区	521	39.5	**40.5**	11.5	1.2	3.8	3.5
多田中学校区	522	**41.4**	38.7	12.8	1.5	3.1	2.5
緑台中学校区	521	39.2	**42.0**	11.7	1.5	3.1	2.5
清和台中学校区	520	38.8	**40.6**	11.5	1.2	4.8	3.1
東谷中学校区	527	39.1	**40.8**	12.7	0.8	2.8	3.8

（9－①）近所との関わりがない理由　※（9）で「関わりがない」と回答した方のみ

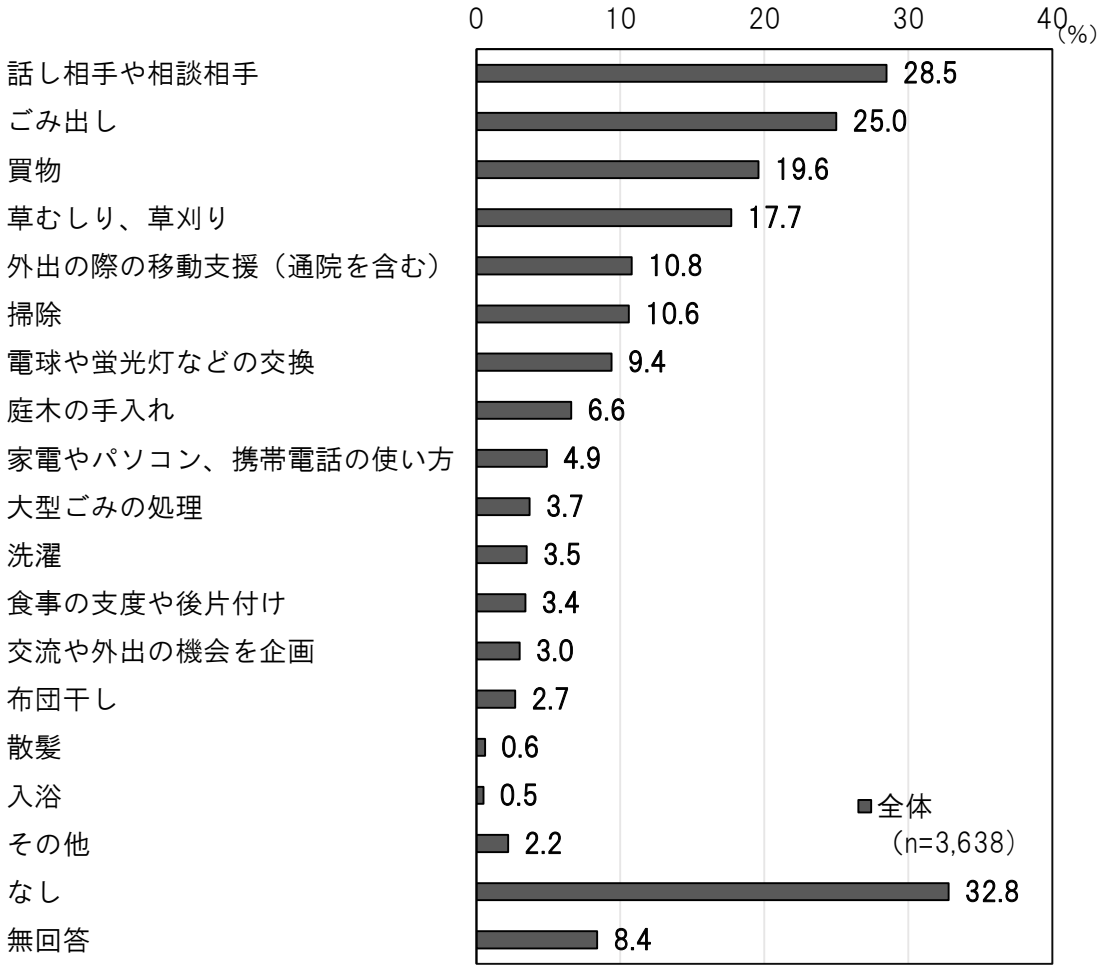
・近所との関わりがない理由については、「人と関わるのが面倒なため」が 29.5％と３割近くを占め最も高く、次いで「関わる必要がないため」(27.9％)、「特に意識したことがなかったため」（22.5％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○引っ越しをしたため	○他人に家に入ってほしくない　等

（10）近所で手助けや協力ができること

・近所で手助けや協力ができることについては、「なし」が 32.8％と３割以上を占め最も高くなっている。手助け・協力の内容としては「話し相手や相談相手」が 28.5％と最も高く、次いで「ごみ出し」（25.0％）、「買物」（19.6％）となっている。



「その他」の主な回答内容
○時間の都合が合えば何でも手伝う
○お願いされれば、できることは手伝う
○建物等の修理
○食事・食べ物を届ける
○自分のことで精いっぱいでできない
○手助けしたいが、身体的に困難な状況
○仕事をしているので、時間的に手助けできない　等

・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「なし」が最も高くなっているものの、事業対象者で 54.1%、要支援 1 で 49.8%、要支援 2 で 56.9%と、一般高齢者（30.5%）より 15 ポイント以上高くなっている。また、「なし」以外では、「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	外出の際の移動支援（通院を含む）	交流や外出の機会を企画	話し相手や相談相手	食事の支度や後片付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し
一般高齢者	3,254	11.6	3.2	29.5	3.7	21.3	11.3	3.8	3.0	26.7
事業対象者	37	－	－	21.6	5.4	16.2	8.1	2.7	2.7	13.5
要支援１	217	3.7	1.4	18.9	1.4	3.7	5.5	0.9	0.5	10.6
要支援２	123	3.3	1.6	19.5	－	5.7	2.4	－	0.8	7.3

	電球や蛍光灯などの交換	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	家電やパソコン、携帯電話の使い方	その他	なし	無回答
一般高齢者	10.2	7.1	19.0	4.0	0.6	0.4	5.3	2.2	**30.5**	8.0
事業対象者	2.7	－	10.8	－	－	2.7	－	2.7	**54.1**	5.4
要支援１	2.3	2.3	7.4	1.8	0.5	0.9	1.8	2.3	**49.8**	11.5
要支援２	3.3	1.6	4.1	0.8	－	－	2.4	0.8	**56.9**	15.4

・年齢別にみると、70～79 歳で「話し相手や相談相手」が、その他の年代で「なし」が最も高くなっている。「なし」以外では、65～69 歳で「ごみ出し」が、80 歳以上で「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	外出の際の移動支援（通院を含む）	交流や外出の機会を企画	話し相手や相談相手	食事の支度や後片付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し
65～69歳	755	13.2	2.4	27.4	4.8	26.8	13.6	5.0	4.6	31.1
70～74歳	1,050	11.7	4.1	**30.8**	3.6	23.9	11.2	3.7	2.9	28.0
75～79歳	888	11.6	3.5	**31.4**	4.1	18.8	11.1	3.8	2.5	25.0
80～84歳	618	7.8	2.8	25.9	1.8	11.5	7.1	2.3	1.3	17.8
85歳以上	320	5.3	0.3	20.3	1.3	6.9	6.9	0.6	1.3	14.1

	電球や蛍光灯などの交換	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	家電やパソコン、携帯電話の使い方	その他	なし	無回答
65～69歳	13.6	8.3	22.8	4.8	0.9	0.4	9.0	1.7	**31.4**	4.8
70～74歳	9.9	7.0	19.0	4.1	0.9	0.6	5.4	2.2	29.9	6.8
75～79歳	9.1	6.9	18.6	3.9	0.2	0.8	3.6	2.8	29.5	8.6
80～84歳	5.5	4.2	12.5	2.6	0.2	－	2.9	1.3	**36.4**	12.6
85歳以上	5.9	4.7	9.1	1.3	0.3	0.3	1.3	3.4	**47.5**	14.1

・中学校別にみると、明峰中学校区で「話し相手や相談相手」が、その他の地区では「なし」が最も高くなっている。また、「なし」以外では、川西中学校区で「ごみ出し」が、その他の地区では「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

（%）

	全体（件数）	外出の際の移動支援（通院を含む）	交流や外出の機会を企画	話し相手や相談相手	食事の支度や後片付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し
川西南中学校区	521	9.2	1.9	26.9	3.1	18.6	10.4	3.8	2.9	26.7
川西中学校区	499	8.4	3.0	23.0	4.2	18.0	10.6	3.4	2.8	25.7
明峰中学校区	521	12.1	3.1	**32.8**	3.3	20.7	10.2	3.3	2.3	27.4
多田中学校区	522	9.2	2.5	27.2	4.0	20.7	12.6	4.8	3.6	26.2
緑台中学校区	521	10.2	1.9	29.4	2.5	17.7	7.5	1.7	1.3	23.8
清和台中学校区	520	13.1	5.0	30.4	3.1	22.3	12.1	3.8	3.3	22.7
東谷中学校区	527	13.1	3.8	29.4	4.0	19.4	11.0	3.6	2.8	22.2

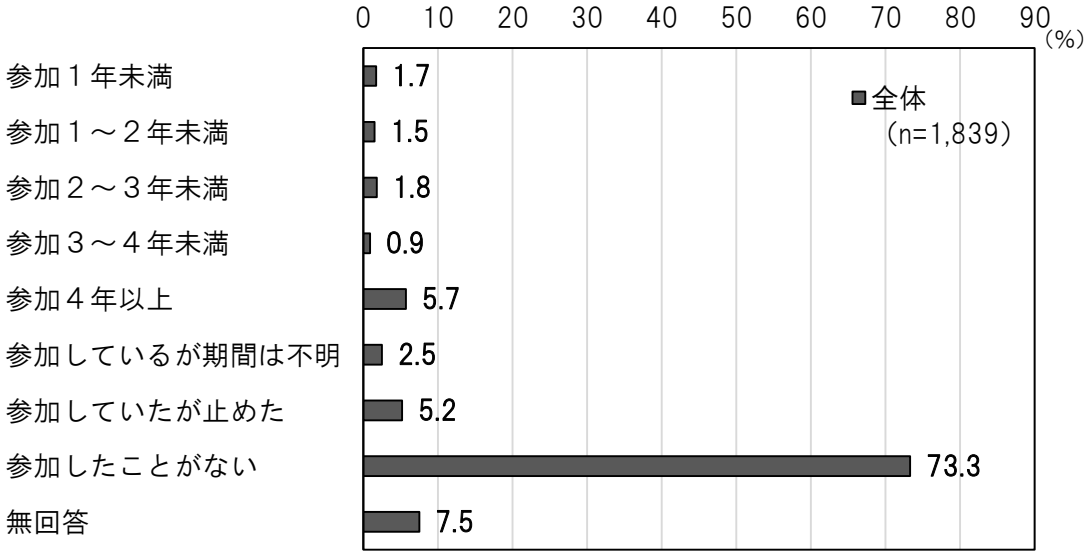
	電球や蛍光灯などの交換	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	家電やパソコン、携帯電話の使い方	その他	なし	無回答
川西南中学校区	7.3	5.2	19.4	2.9	0.8	0.6	2.9	1.2	**34.0**	9.4
川西中学校区	8.8	6.2	18.6	3.8	0.8	0.6	4.2	2.4	**36.7**	10.0
明峰中学校区	10.4	7.5	15.7	3.3	0.4	0.8	5.2	1.2	29.9	7.3
多田中学校区	9.8	6.7	19.5	4.4	1.0	0.6	5.9	1.9	**33.1**	7.9
緑台中学校区	6.9	5.8	15.4	3.1	0.2	0.2	6.0	2.1	**33.8**	8.3
清和台中学校区	11	7.7	18.1	4.0	0.4	0.4	5.4	2.7	**32.3**	8.8
東谷中学校区	11.6	7.0	17.1	4.4	0.4	0.2	4.9	4.0	**29.8**	7.4

8．自治体や地域住民が開催する通いの場(サロンやカフェ)への参加について

＊本調査では設問数の増加による回答者の負担を軽減するため、一部の設問が異なる調査票を２種類作成し実施した。
８については、片方の調査票にのみ掲載した設問のため、全体の回答者数が異なっている。

（1）通いの場（サロン）への参加期間

・通いの場（サロン）への参加期間については、「参加したことがない」が 73.3%と 7 割以上を占め最も高くなっており、参加している方では「参加４年以上」が 5.7%と最も高くなっている。



・介護度別にみると、一般高齢者では「参加したことがない」が７割以上である一方で、事業対象者・要支援１・要支援２では７割未満となっている。また、要支援１では「参加していたが止めた」が 11.8%と１割以上となっている。

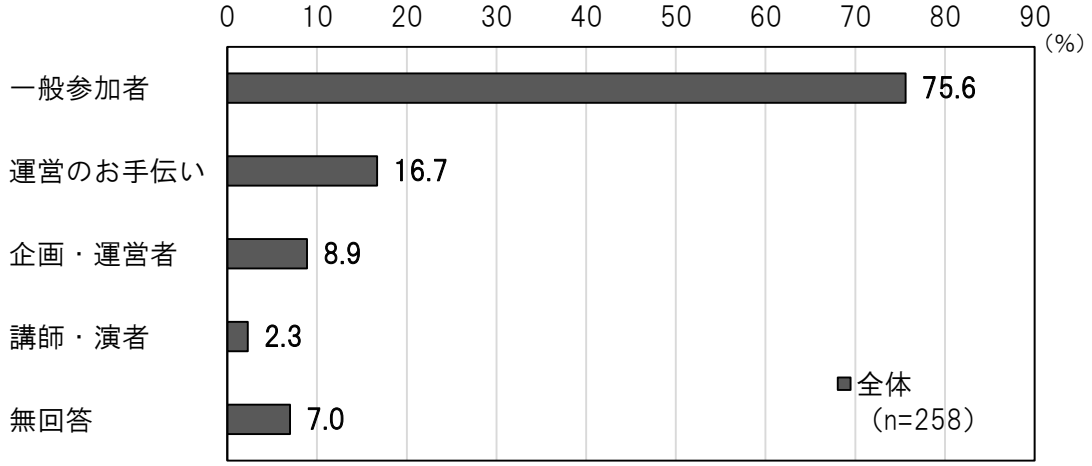
(%)

	全体（件数）	参加1年未満	参加1～2年未満	参加2～3年未満	参加3～4年未満	参加4年以上	参加しているが期間は不明	参加していたが止めた	参加したことがない	無回答
一般高齢者	1,642	1.6	1.3	1.6	0.9	5.9	2.4	4.7	**74.4**	7.2
事業対象者	10	－	10.0	20.0	－	－	－	－	**60.0**	10.0
要支援１	110	2.7	3.6	1.8	1.8	4.5	4.5	11.8	**62.7**	6.4
要支援２	72	1.4	1.4	5.6	－	2.8	1.4	6.9	**66.7**	13.9

（２）通いの場（サロン）での役割

※（１）で「参加していたが止めた」または「参加したことがない」以外を回答した方のみ

・通いの場（サロン）での役割については、「一般参加者」が 75.6％と７割以上を占め最も高く、次いで「運営のお手伝い」（16.7％）、「企画・運営者」（8.9％）となっている。

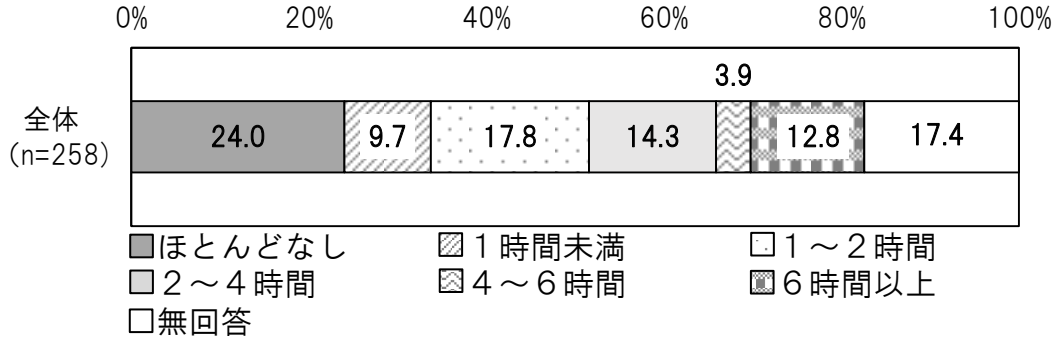


（３）通いの場での活動別の１か月あたりの時間

※（１）で「参加していたが止めた」または「参加したことがない」以外を回答した方のみ

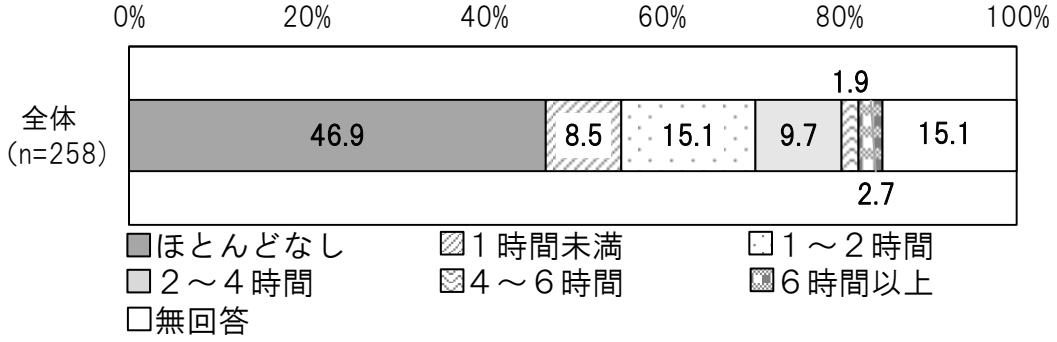
①　体操

・体操の１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 24.0％と最も高く、次いで「1～２時間」（17.8％）、「２～４時間」（14.3％）となっている。



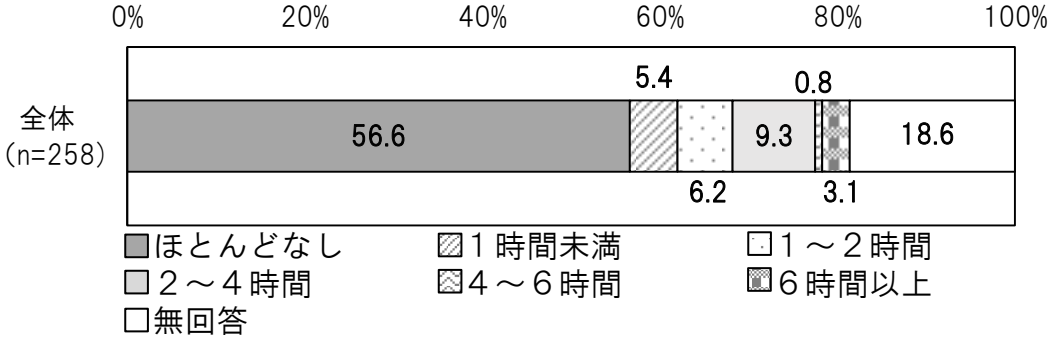
② 音楽（歌唱や演奏）

・音楽の１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 46.9%と最も高く、次いで「1～２時間」（15.1%）、「２～４時間」（9.7%）となっている。



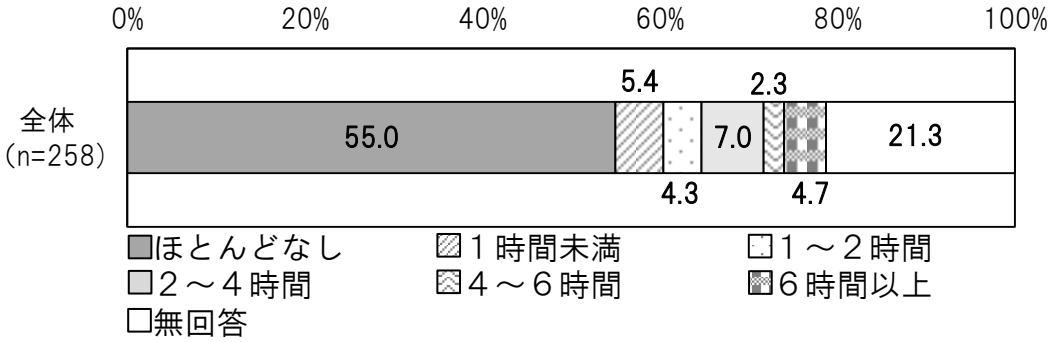
③ 創作活動（手工芸など）

・創作活動の１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 56.6%と最も高く、次いで「２～４時間」（9.3%）、「1～２時間」（6.2%）となっている。



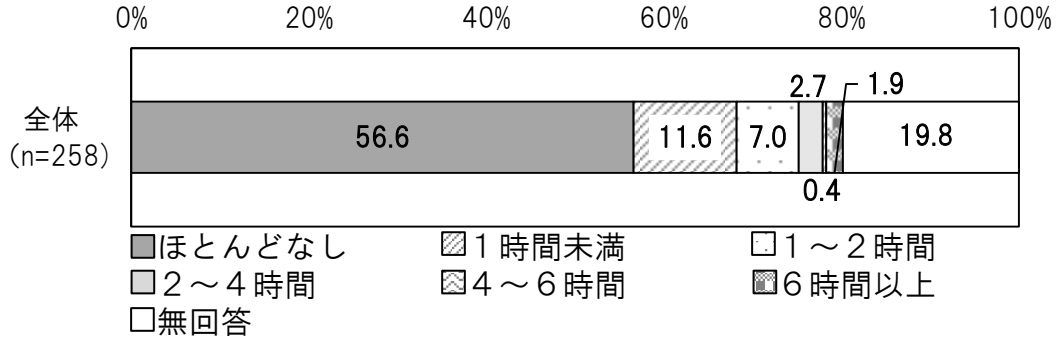
④ 室内ゲーム（囲碁と将棋、麻雀やレクリエーションゲームなど）

・室内ゲームの１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 55.0%と最も高く、次いで「２～４時間」（7.0%）、「1 時間未満」（5.4%）となっている。



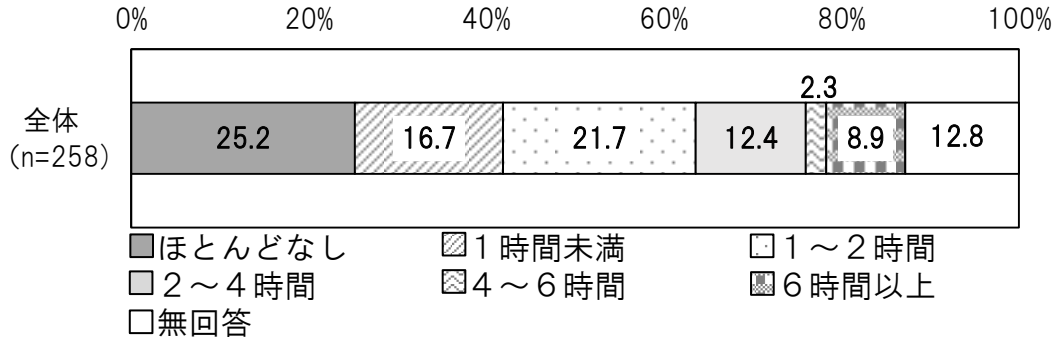
⑤　脳トレーニング

・脳トレーニングの１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 56.6％と最も高く、次いで「１時間未満」（11.6％）、「１～２時間」（7.0％）となっている。



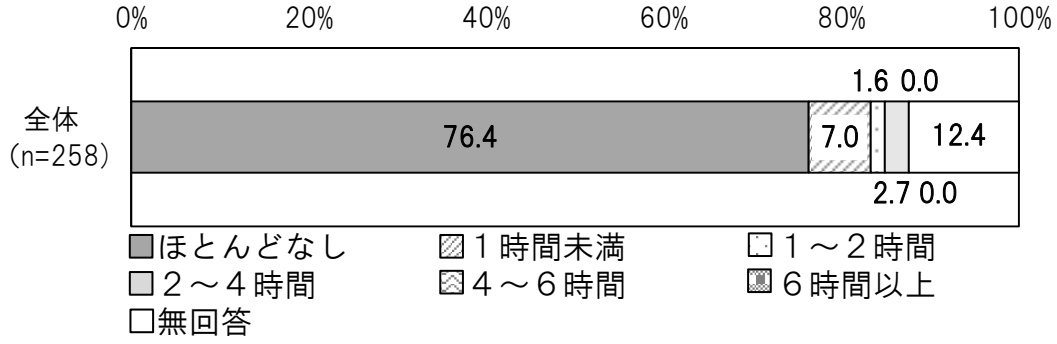
⑥　おしゃべり（お茶含む）

・おしゃべりの１か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が 25.2％と最も高く、次いで「1～２時間」（21.7％）、「1 時間未満」（16.7％）となっている。



⑦　地域の子どもとの交流

・地域の子どもとの交流の活動時間は「ほとんどなし」が 76.4％と最も高く、次いで「1 時間未満」（7.0％）となっている。

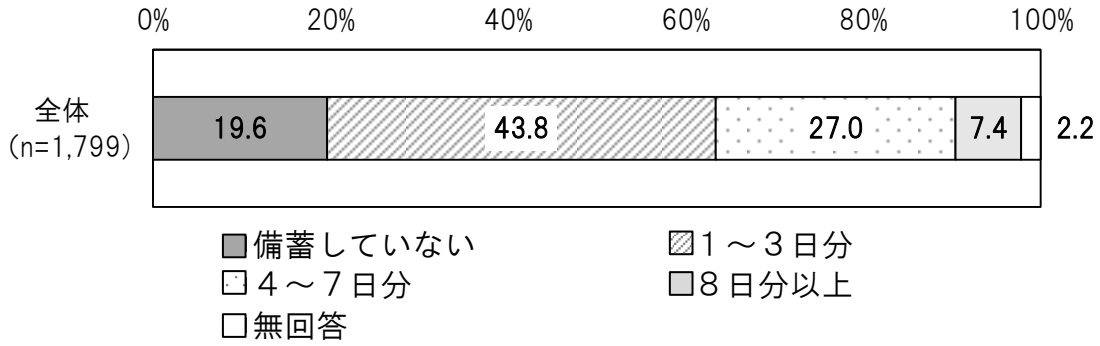


9．災害に対するそなえについて

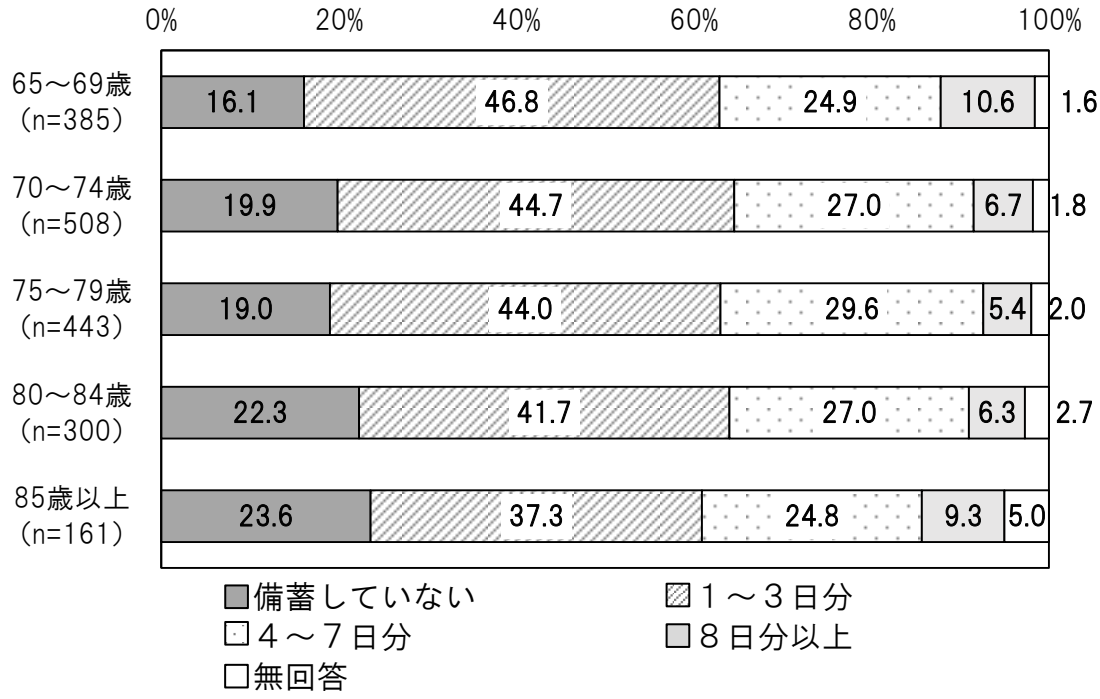
＊本調査では設問数の増加による回答者の負担を軽減するため、一部の設問が異なる調査票を２種類作成し実施した。
９については、片方の調査票にのみ掲載した設問のため、全体の回答者数が異なっている。

（１）家での水や食料の備蓄状況

・家で水や食料を何日分備蓄しているかについては、「１～３日分」が 43.8％と最も高く、次いで「４～７日分」(27.0％)、「備蓄していない」(19.6％）となっている。「１～３日分」・「４～７日分」・「８日分以上」を合わせた『備蓄している』割合は 78.2％となっている。

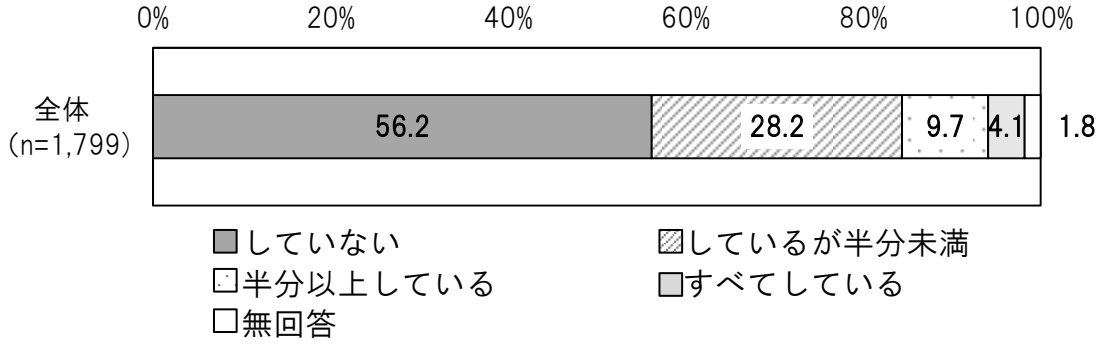


・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「備蓄していない」が高くなっており、80 歳以上では２割以上となっている。



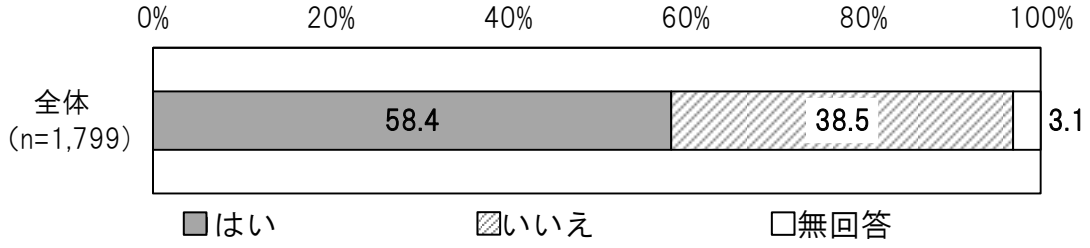
（2）家の大きい家具等の固定状況

・家の大きい家具や冷蔵庫を地震で倒れないように固定しているかについては、「していない」が 56.2%と半数以上を占め最も高く、次いで「しているが半分未満」(28.2%）となっている。「しているが半分未満」・「半分以上している」・「すべてしている」を合わせた『固定している』割合は 42.0%となっている。

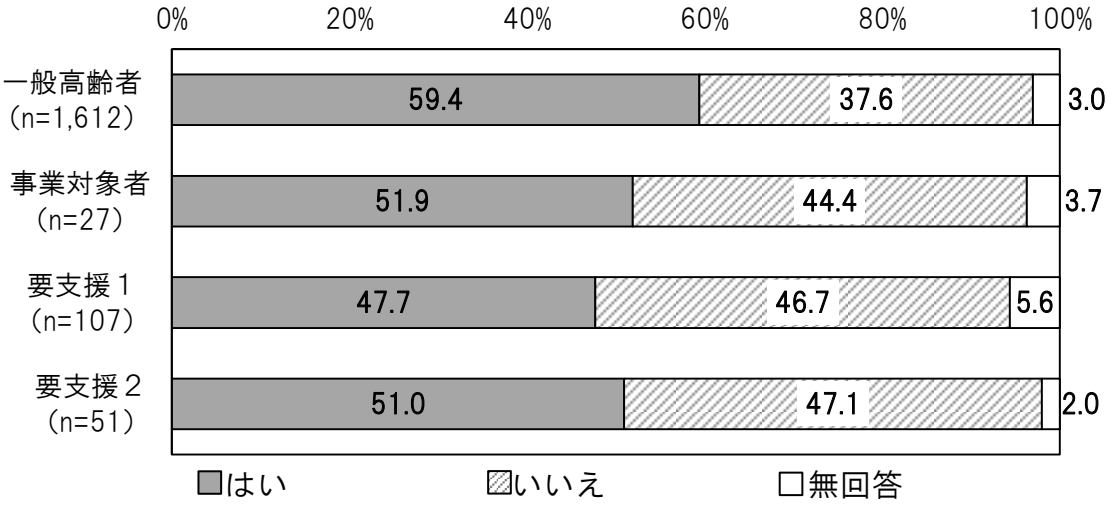


（3）地震保険・共済の加入状況

・地震保険・共済に加入しているかについては、「はい」が 58.4%と半数以上を占め最も高くなっている。

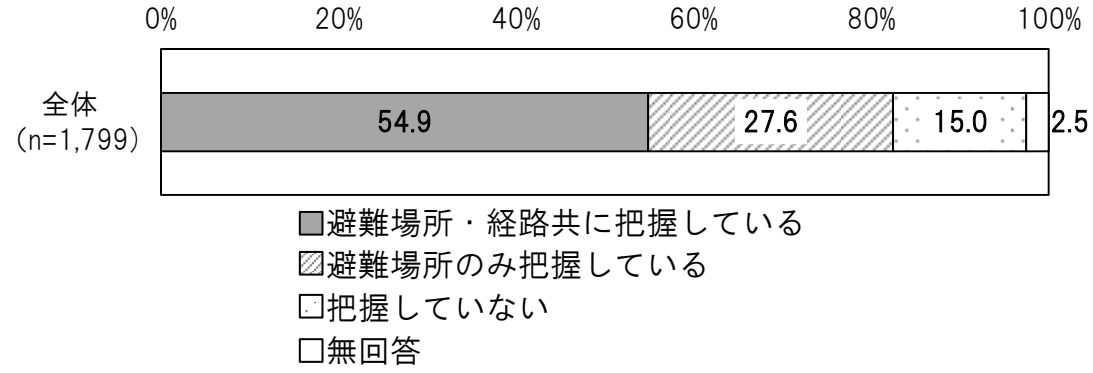


・介護度別にみると、「いいえ」が、事業対象者で 44.4%、要支援 1 で 46.7%、要支援 2 で 47.1%と、一般高齢者（37.6%）より 5 ポイント以上高くなっている。

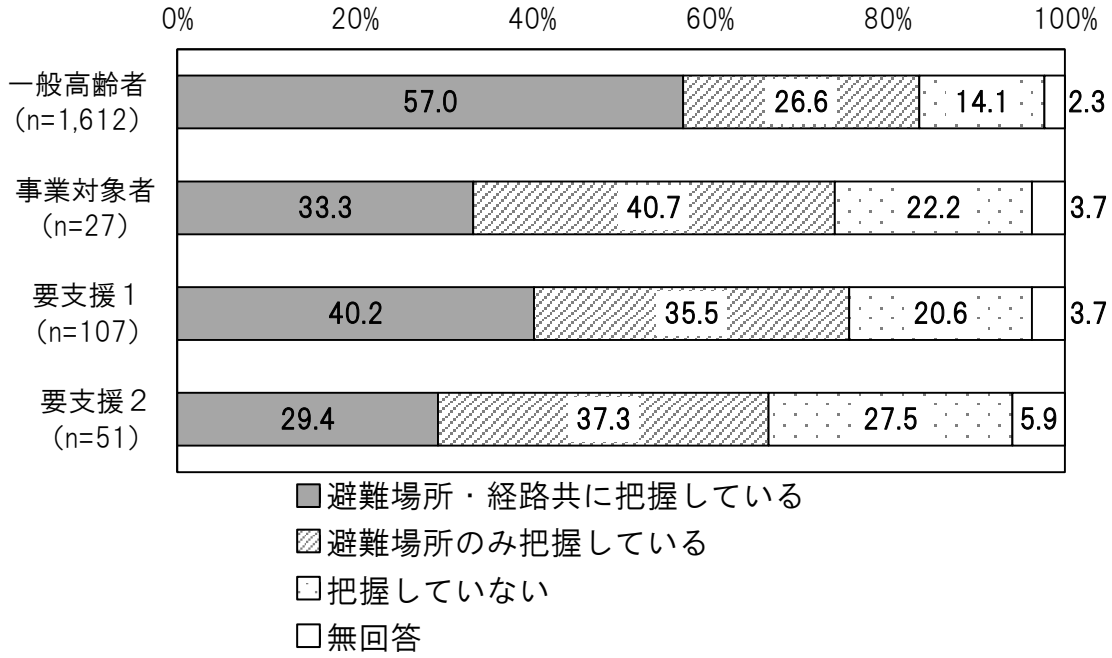


（４）地域の避難場所や経路の把握状況

・地域の避難場所やそこまでの経路を把握しているかについては、「避難場所・経路共に把握している」が 54.9％と半数以上を占め最も高く、次いで「避難場所のみ把握している」（27.6％）となっている。「把握していない」は 15.0％となっており、１割以上の人は避難場所やそこまでの経路を把握していないことがわかる。

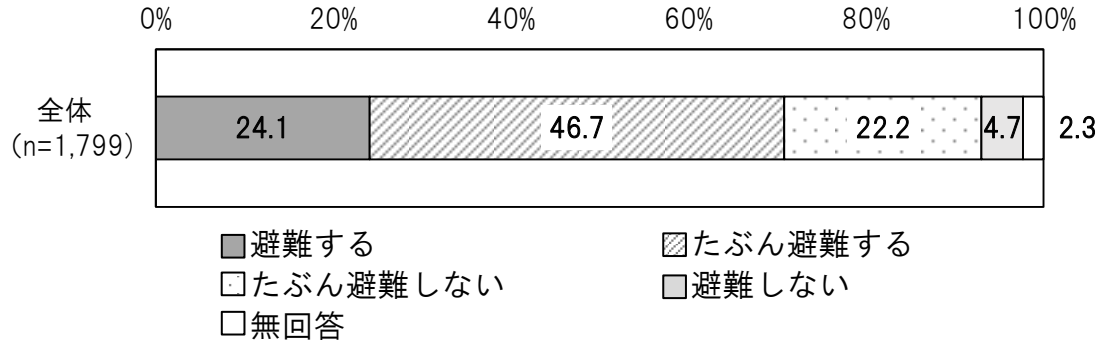


・介護度別にみると、「避難場所・経路共に把握している」が、事業対象者では 33.3％、要支援１では 40.2％、要支援２では 29.4％と、一般高齢者（57.0％）より 15 ポイント以上低くなっている。また、「把握していない」が、事業対象者・要支援１・要支援２で２割以上を占めやや高くなっている。

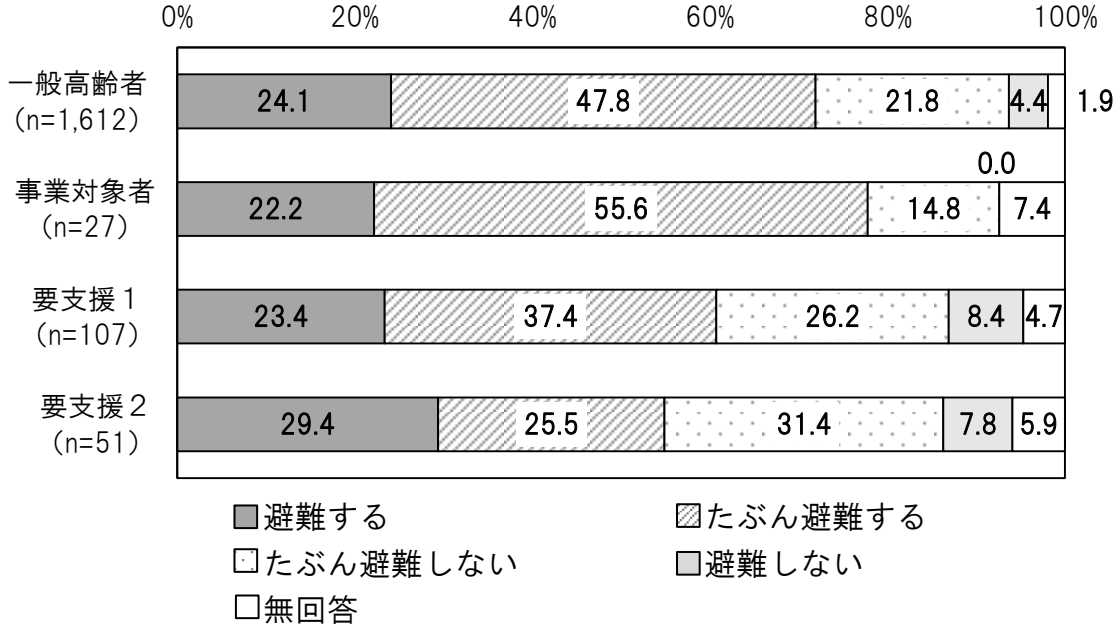


（５）「避難準備・高齢者等避難開始」発令時の行動

・災害時、行政機関から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたらすぐに避難するかについては、「たぶん避難する」が 46.7％と最も高く、「避難する」と合わせた『避難する』割合は 70.8％と７割以上となっている。

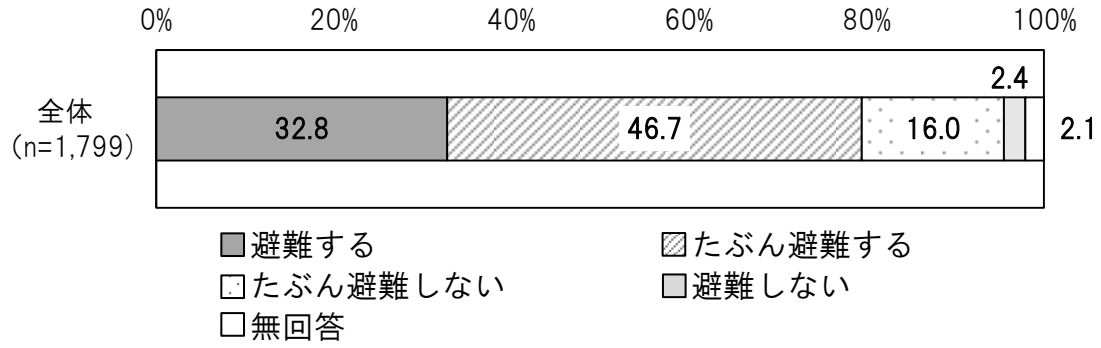


・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援１では 60.8％、要支援２では 54.9％と一般高齢者（71.9％）より 10 ポイント以上低くなっている。

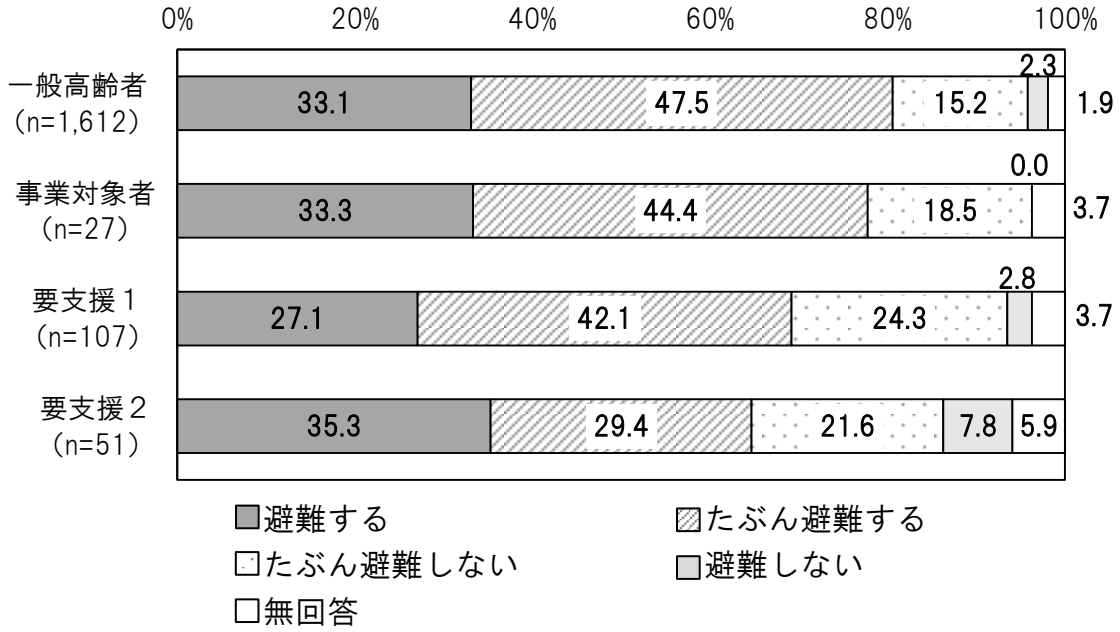


（6）「避難勧告」発令時の行動

・災害時、行政機関から「避難勧告」が発令されたらすぐに避難するかについては、「たぶん避難する」が 46.7%と最も高く、「避難する」と合わせた『避難する』割合は 79.5%と 8 割未満となっている。

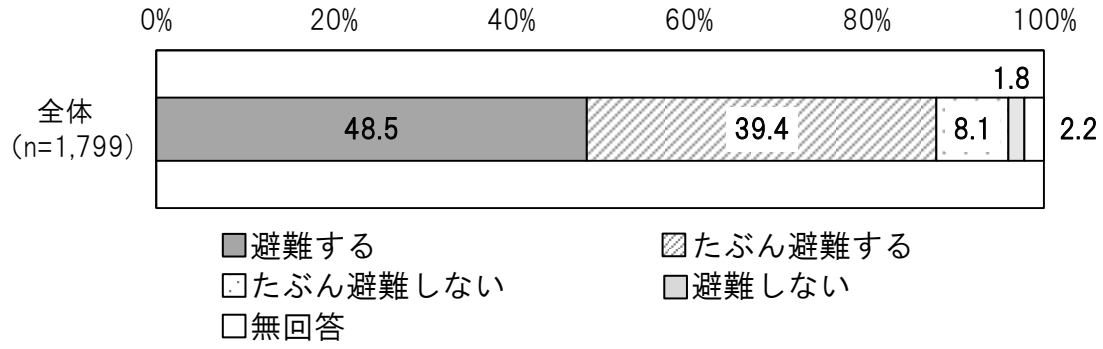


・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援 1 では 69.2%、要支援 2 では 64.7%と、一般高齢者（80.6%）より 10 ポイント以上低くなっている。

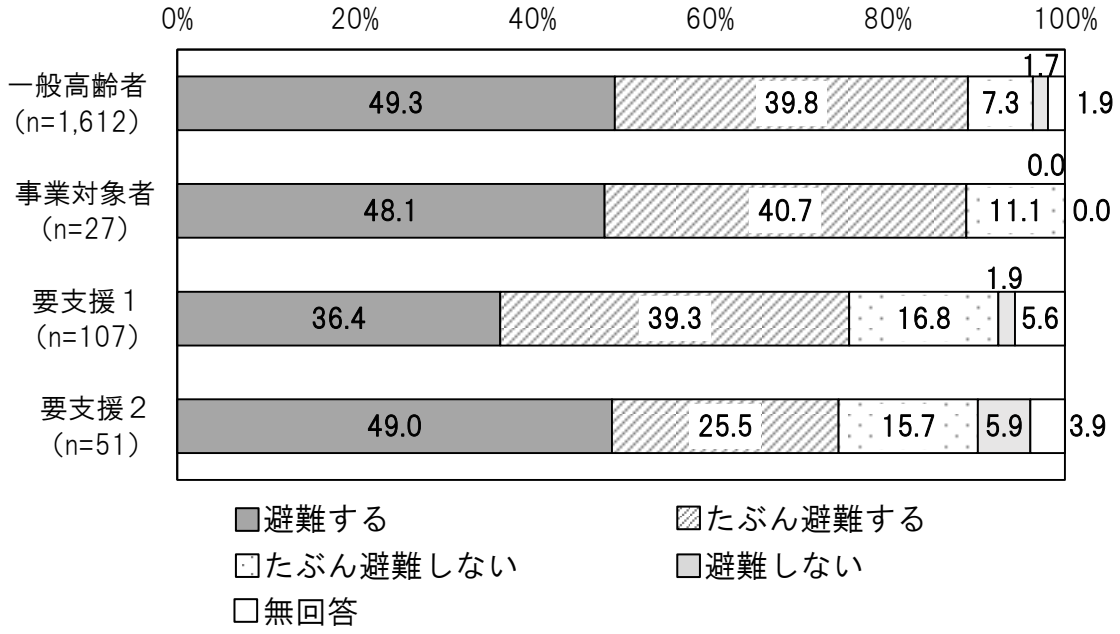


（7）「避難指示（緊急）」発令時の行動

・災害時、行政機関から「避難指示（緊急）」が発令されたらすぐに避難するかについては、「避難する」が 48.5%と最も高く、「たぶん避難する」と合わせた『避難する』割合は 87.9%となっている。

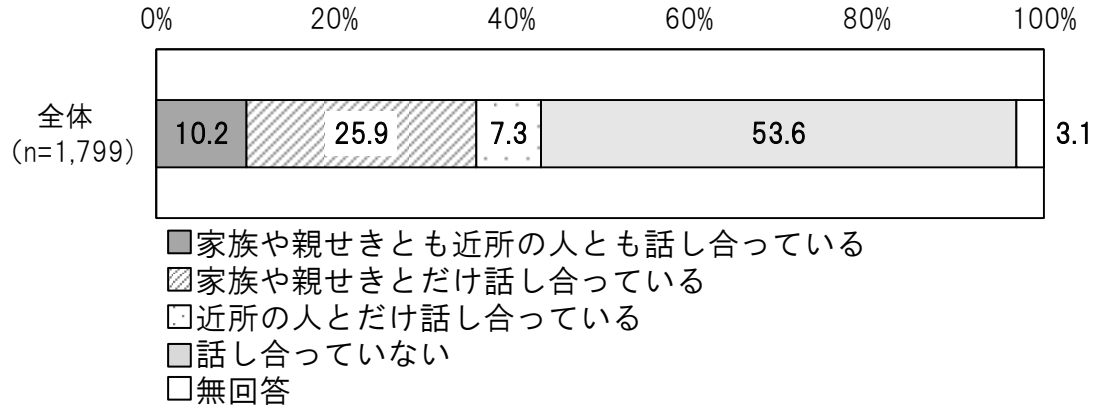


・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援 1 では 75.7%、要支援 2 では 74.5%と、一般高齢者（89.1%）より 10 ポイント以上低くなっている。

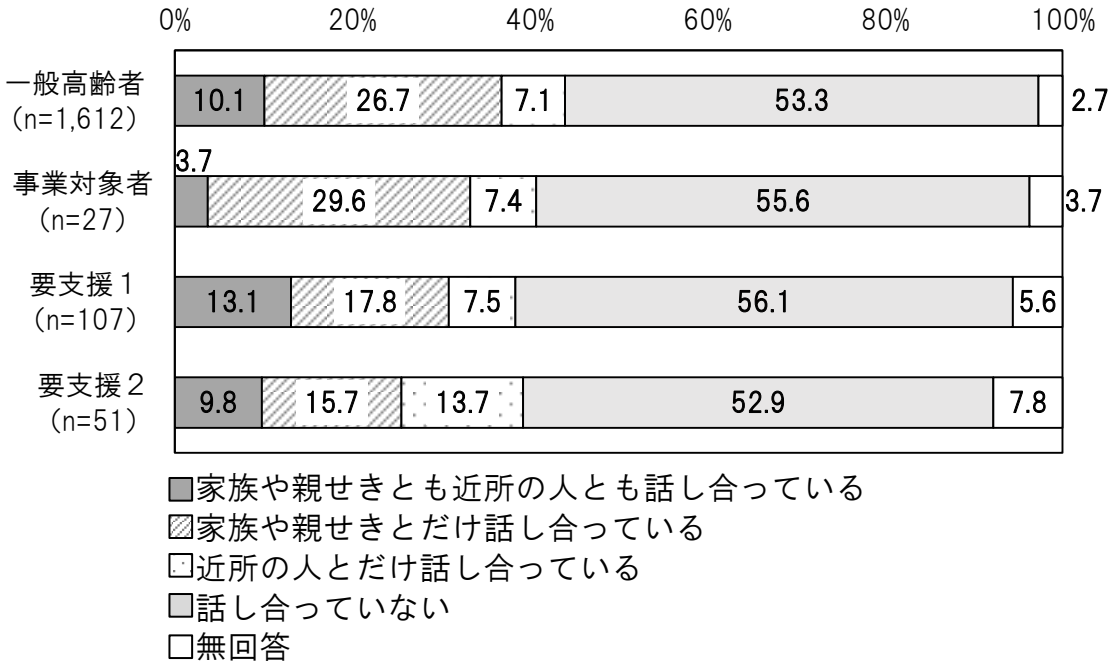


（8）家族・親せき・近所との災害時の安否確認や集合場所についての情報共有

・家族や親せき、近所の人と災害時の安否確認や集合場所について話し合っているかについては、「話し合っていない」が 53.6%と半数以上を占め最も高く、次いで「家族や親せきとだけ話し合っている」（25.9%）となっている。「家族や親せきとも近所の人とも話し合っている」・「家族や親せきとだけ話し合っている」・「近所の人とだけ話し合っている」を合わせた『話し合っている』割合は 43.4%と 4 割以上となっている。

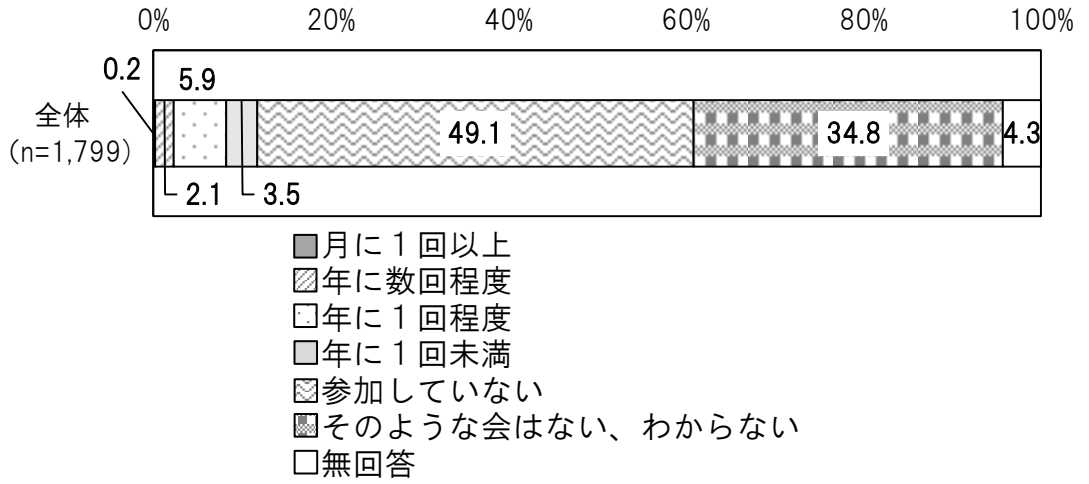


・介護度別にみると、『話し合っている』割合は、要支援 1 では 38.4%と一般高齢者（43.9%）より 5.5 ポイント低くなっている。

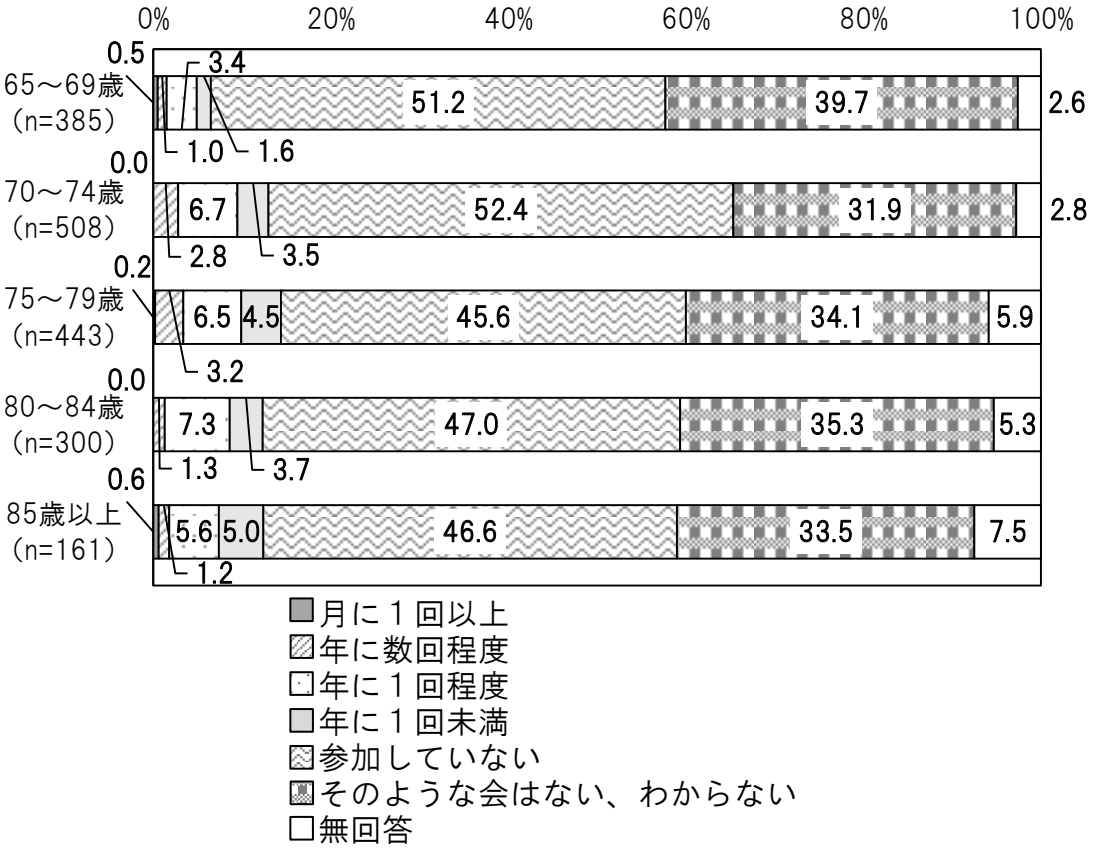


（9）災害時の助け合いのための話し合いや計画づくりを行う会の参加状況

・地域の人と災害時の助け合いのための話し合いや計画づくりを行う会に参加しているかについては、「参加していない」が 49.1%と半数近くを占め最も高く、次いで「そのような会はない、わからない」（34.8%）となっている。「月に 1 回以上」・「年に数回程度」・「年に 1 回程度」・「年に 1 回未満」を合わせた『参加している』割合は 11.7%と 1 割以上となっている。

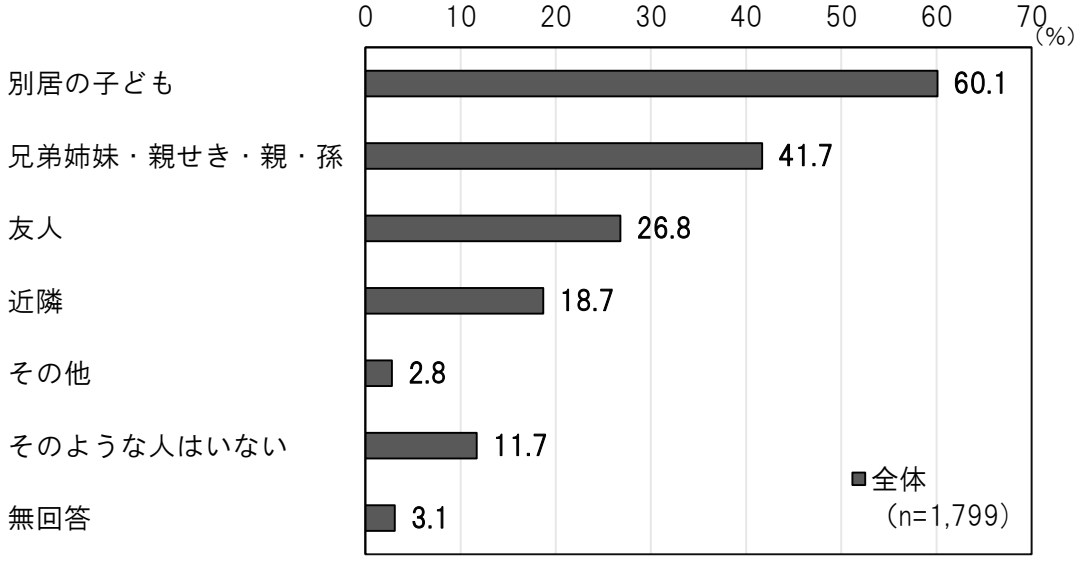


・年齢別にみると、『参加している』割合が 65～69 歳では 6.5%である一方で、70 歳以上では 1 割以上となっている。



（10）定期的に声をかけてくれる人

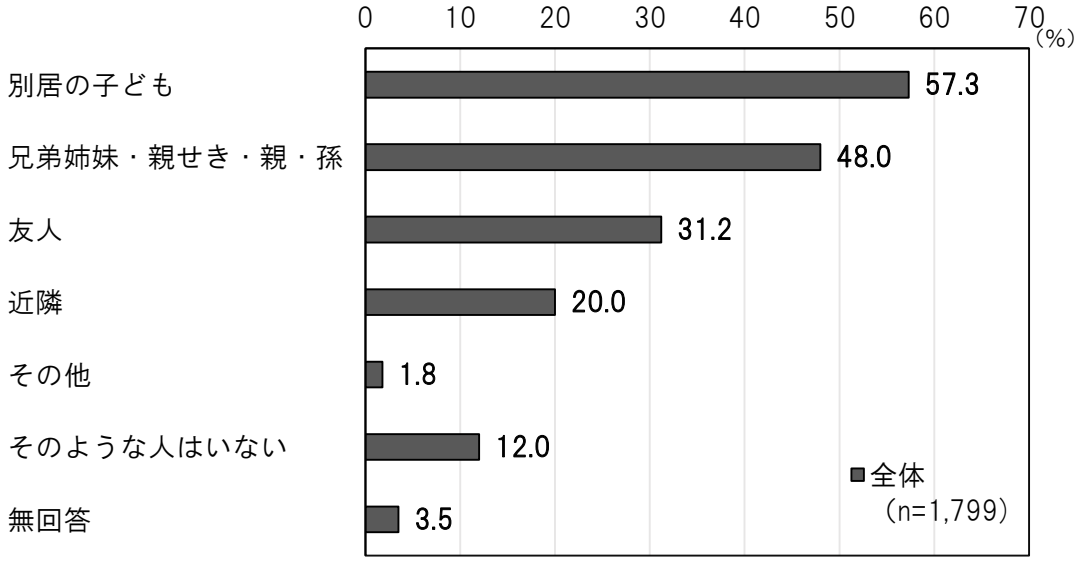
・あなたのことを気にかけて、定期的に声をかけてくれる人については、「別居の子ども」が 60.1%と 6 割以上を占めて最も高く、次いで「兄弟姉妹・親せき・親・孫」（41.7%）、「友人」（26.8%）となっている。また、「そのような人はいない」は 11.7%と 1 割以上となっている。



「その他」の主な回答内容	
○同居人	○民生委員など福祉関係者　等

（11）定期的に声をかける人

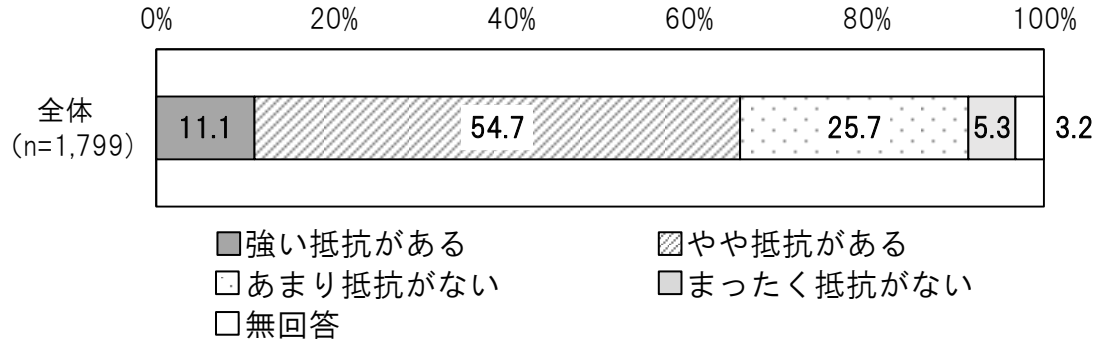
・あなたから気にかけて、定期的に声をかける人については、「別居の子ども」が 57.3%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親せき・親・孫」（48.0%）、「友人」（31.2%）となっている。また、「そのような人はいない」は 12.0%と 1 割以上となっている。定期的に声をかけてくれる人と比べて、「兄弟姉妹・親せき・親・孫」がやや高くなっている。



「その他」の主な回答内容	
○同居人	○自分から声はかけない　等

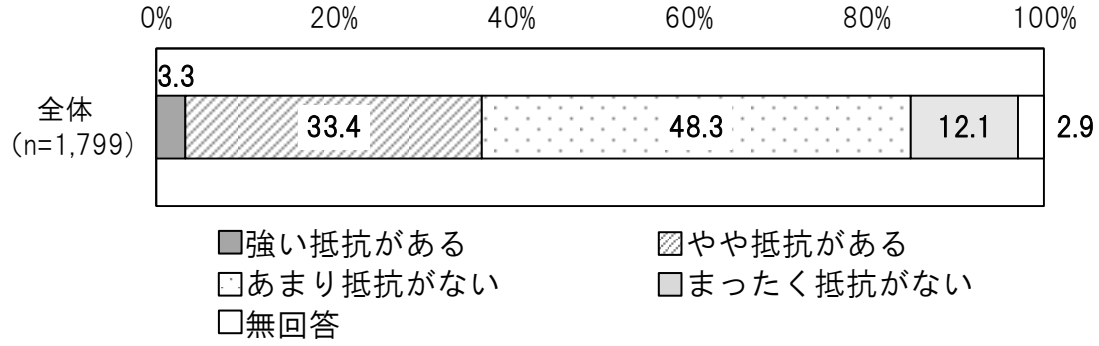
（12）家族以外の地域の人を頼ることへの抵抗

・家族以外の地域の人を頼ることに抵抗はあるかについては、「やや抵抗がある」が 54.7%と最も高く、「強い抵抗がある」を合わせた『抵抗がある』割合は 65.8%と 6 割以上となっている。「あまり抵抗がない」・「まったく抵抗がない」を合わせた『抵抗がない』割合は 31.0%と 3 割以上となっている。



（13）家族以外の地域の人に頼りにされることへの抵抗

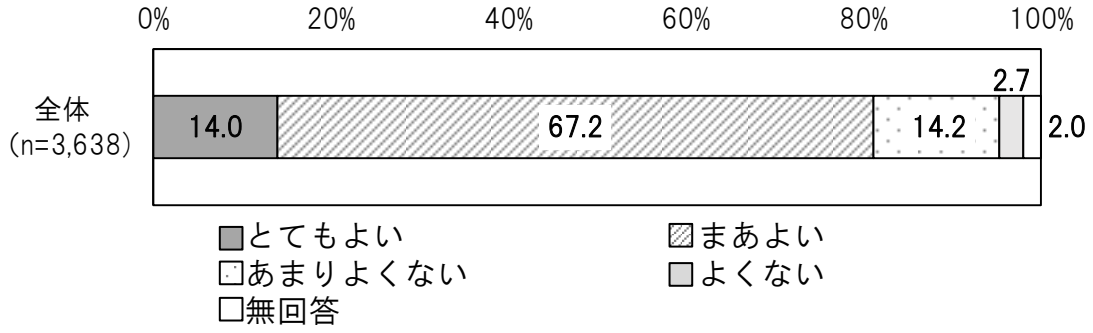
・家族以外の地域の人に頼りにされることに抵抗はあるかについては、「あまり抵抗がない」が 48.3%と最も高く、「まったく抵抗がない」を合わせた『抵抗がない』割合は 60.4%と 6 割以上となっている。家族以外の地域の人を頼ることへの抵抗と比較すると、『抵抗がない』割合は 29.4 ポイント高くなっており、頼りにされることについては抵抗感がない人が多いことが分かる。



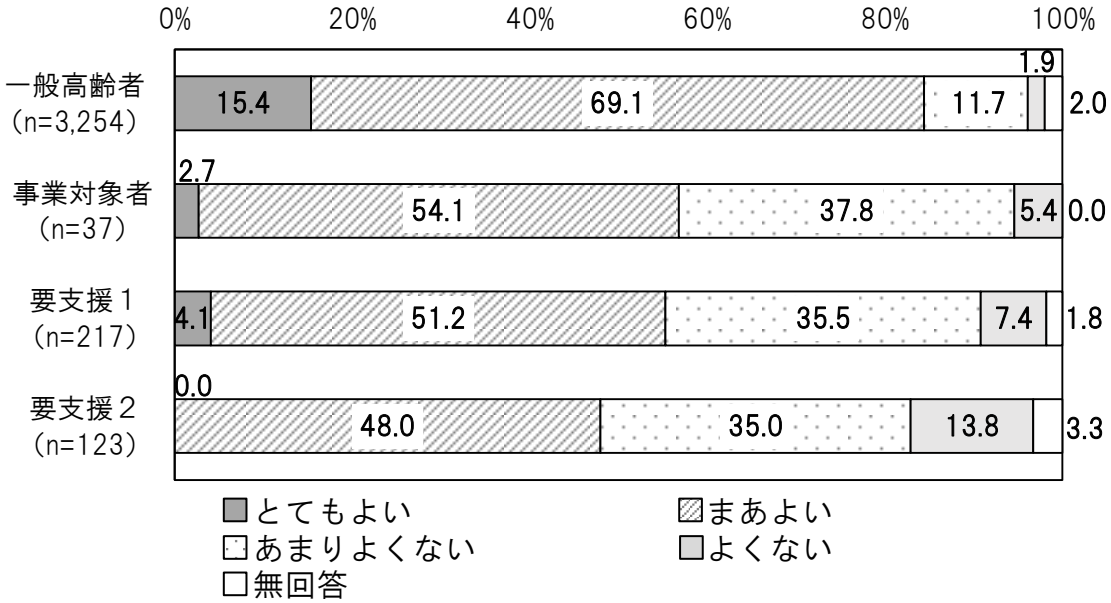
10. 健康について

（1）健康状態

・健康状態については、「まあよい」が 67.2%と 6 割以上を占めて最も高く、「とてもよい」と合わせた『よい』割合は 81.2%と 8 割以上となっている。「あまりよくない」・「よくない」を合わせた『よくない』割合は 16.9%と 1 割以上となっている。

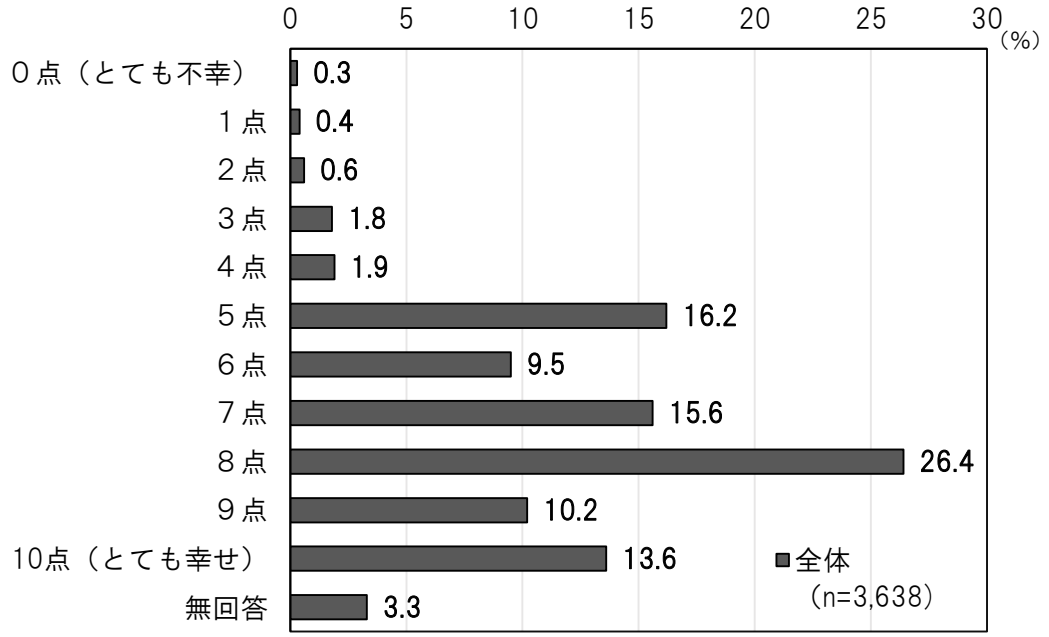


・介護度別にみると、『よくない』割合が、事業対象者では 43.2%、要支援 1 では 42.9%、要支援 2 では 48.8%と 4 割以上となっており、一般高齢者（13.6%）より 25 ポイント以上高くなっている。



（2）幸福度

・幸福度については、「8点」が26.4%と最も高く、次いで「5点」(16.2%)、「7点」(15.6%)となっており、平均点は7.25点となっている。



・介護度別にみると、幸福度の平均点は事業対象者で6.89点、要支援1で6.67点、要支援2で6.81 点と7点未満となっている。また、一般高齢者・要支援2で「8点」が最も高い一方で、事業対象者・要支援1で「5点」が最も高くなっている。

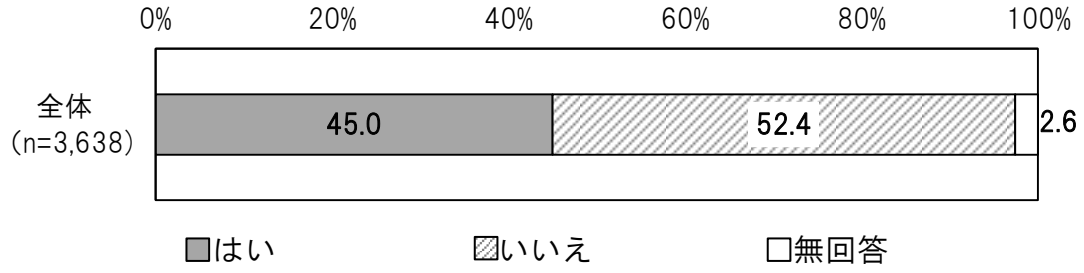
(%)

	全体（件数）	0点（とても不幸）	1点	2点	3点	4点	5点
一般高齢者	3,254	0.3	0.4	0.5	1.7	1.8	15.6
事業対象者	37	－	－	－	2.7	5.4	**27.0**
要支援1	217	0.5	0.9	1.4	3.7	2.8	**24.4**
要支援2	123	－	0.8	4.1	3.3	2.4	17.1

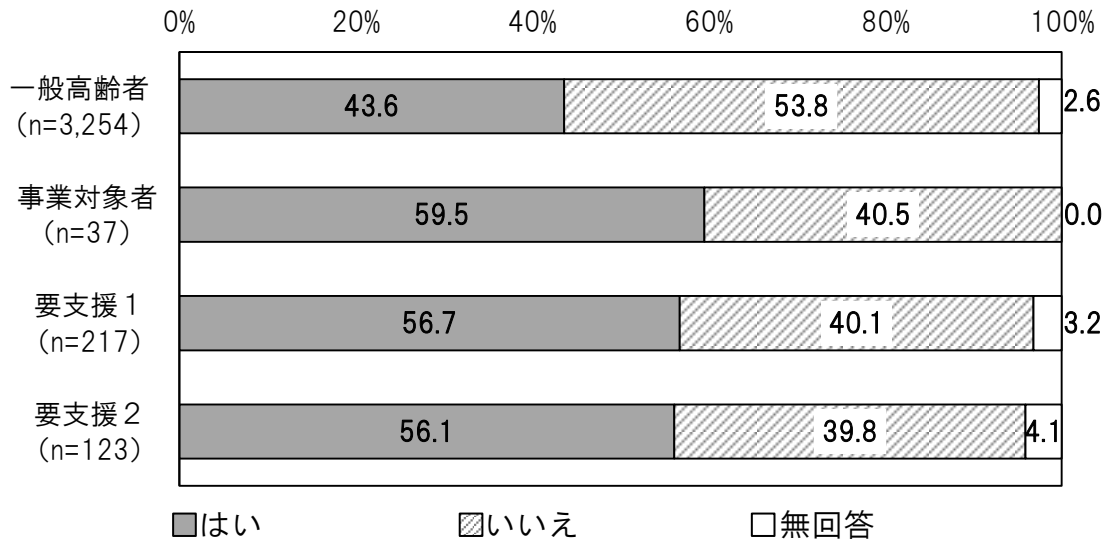
	全体（件数）	6点	7点	8点	9点	10点（とても幸せ）	無回答	平均点
一般高齢者	3,254	9.3	15.8	**27.2**	10.5	13.9	3.2	7.32
事業対象者	37	10.8	10.8	18.9	10.8	13.5	－	6.89
要支援1	217	9.7	15.7	19.4	7.4	10.6	3.7	6.67
要支援2	123	13.8	12.2	**22.0**	8.1	12.2	4.1	6.81

（3）ゆううつ感

・この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「いいえ」が 52.4％と半数以上を占めている。

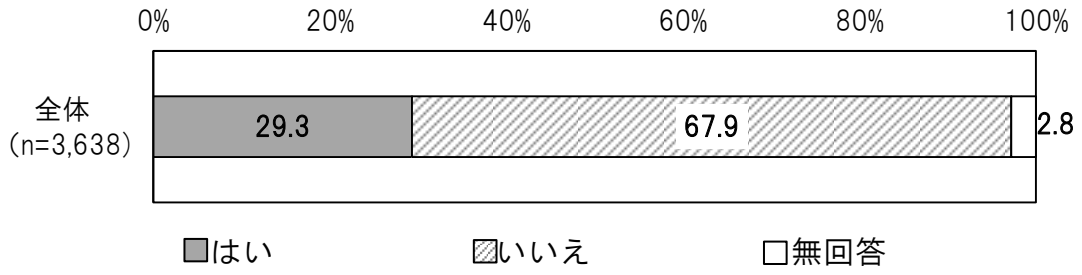


・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で 59.5％、要支援１で 56.7％、要支援２で 56.1％と半数以上となっており、一般高齢者（43.6％）より 10 ポイント以上高くなっている。

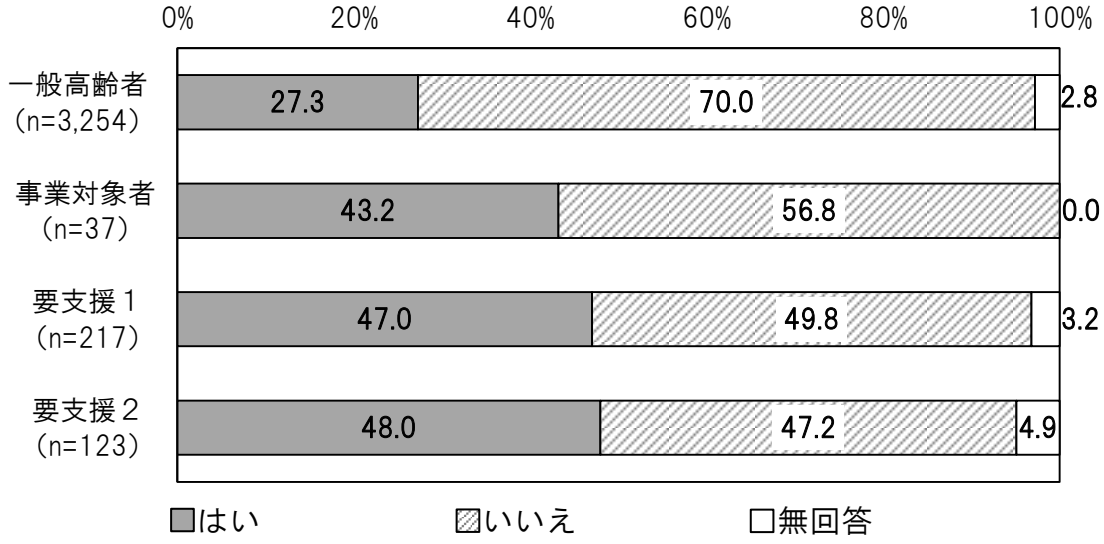


（４）無関心・虚無感

・この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「いいえ」が 67.9%と６割以上を占めている。

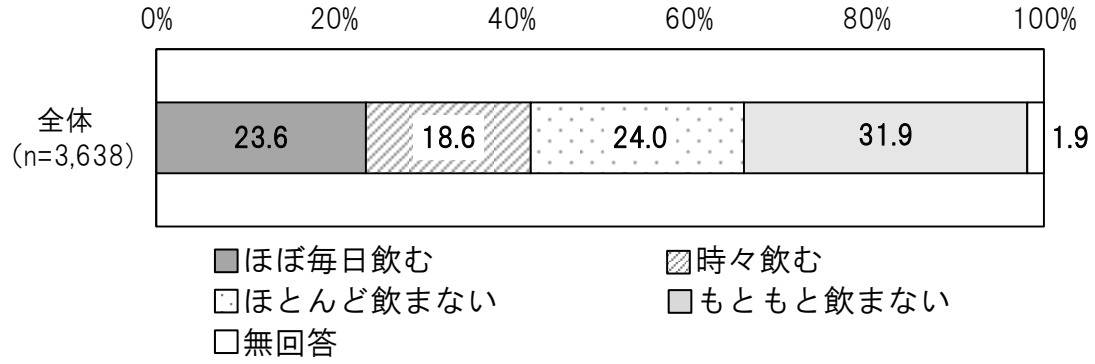


・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で 43.2%、要支援１で 47.0%、要支援２で 48.0%と４割以上となっており、一般高齢者（27.3%）より 15 ポイント以上高くなっている。

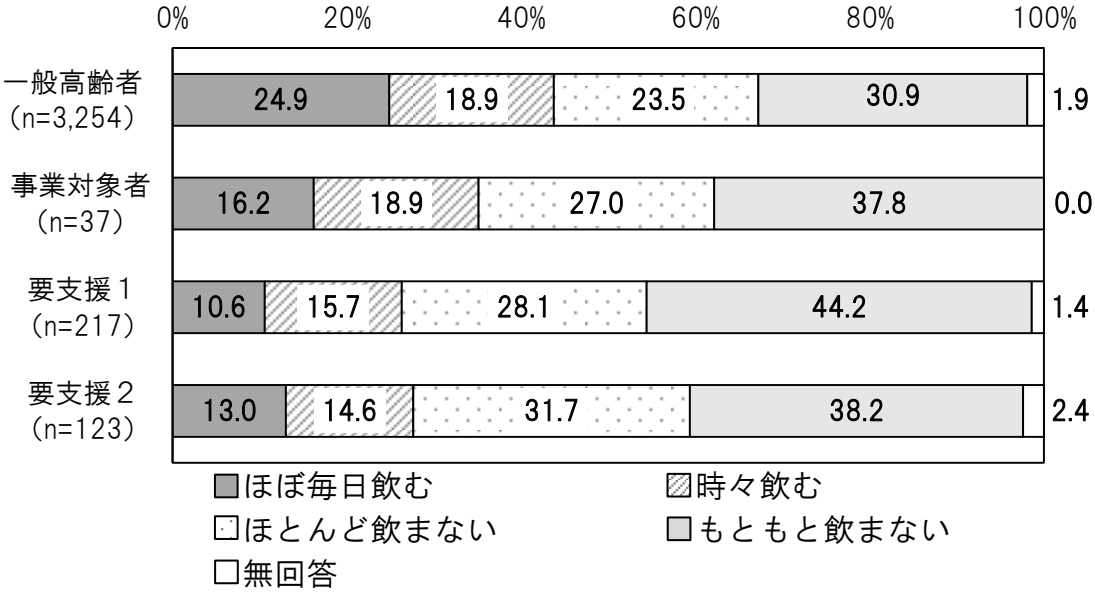


（５）飲酒習慣

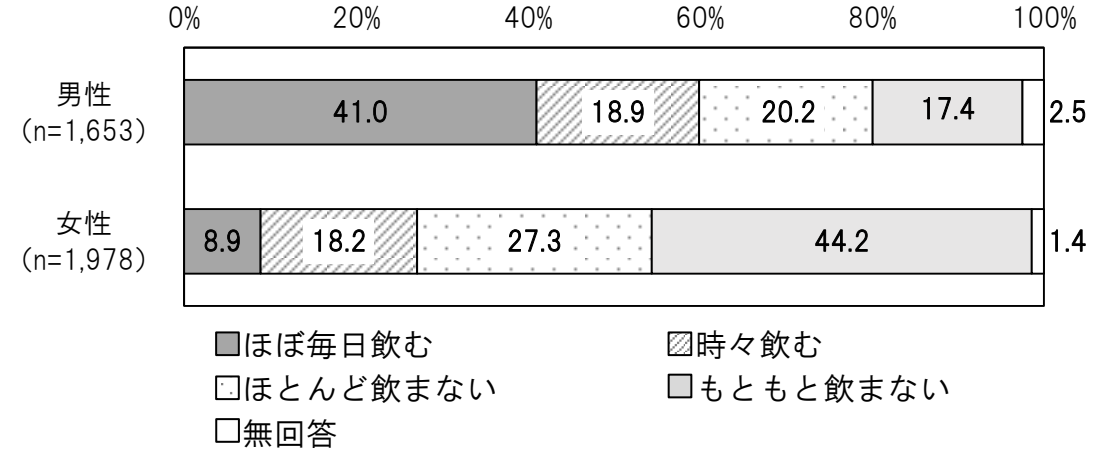
・飲酒習慣については、「もともと飲まない」が 31.9％と３割以上を占め最も高く、「ほとんど飲まない」と合わせた『飲まない』割合は 55.9％と半数以上の人が飲酒習慣はないことがわかる。また、「ほぼ毎日飲む」は 23.6％と２割以上となっている。



・介護度別にみると、一般高齢者で「ほぼ毎日飲む」が 24.9％と２割以上となっている。

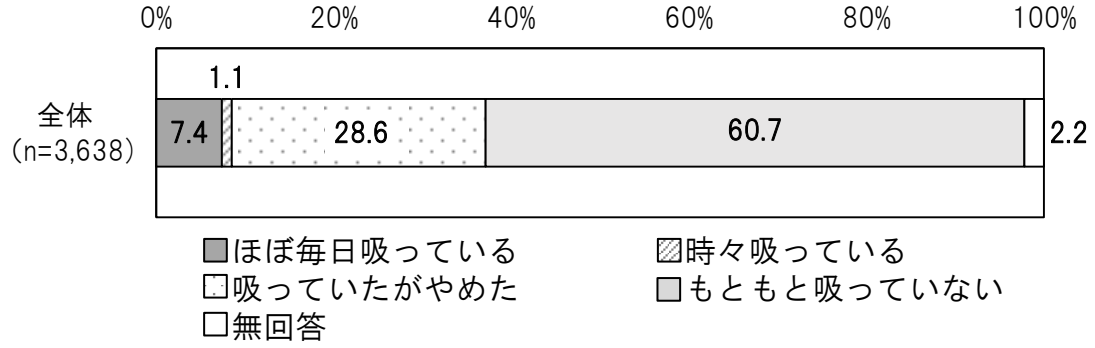


・性別にみると、男性で「ほぼ毎日飲む」が 41.0％と、女性より 32.1 ポイント高くなっている。

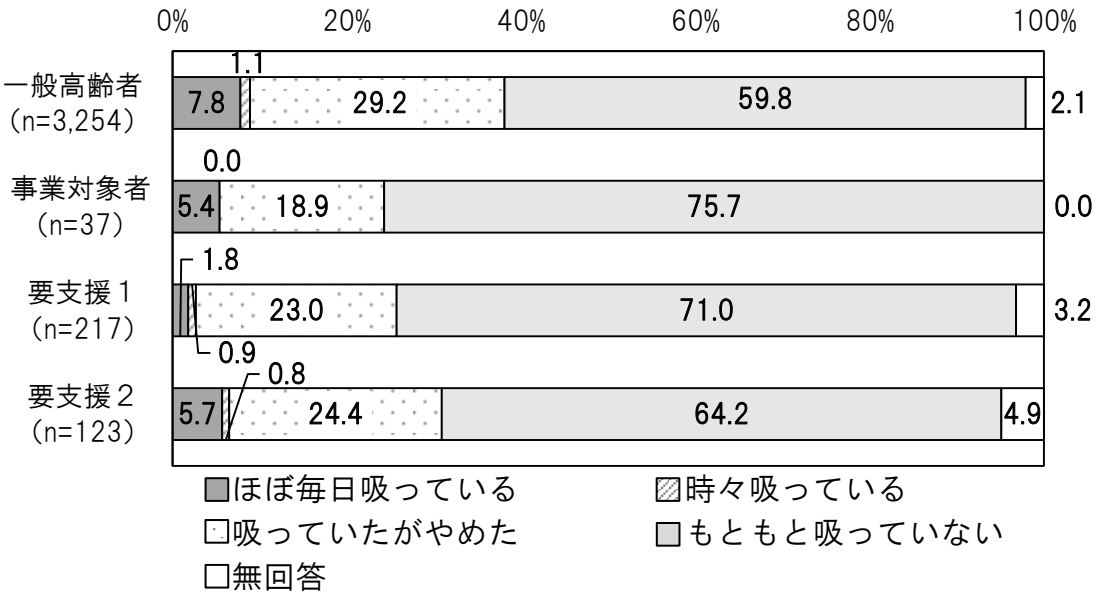


（６）喫煙習慣

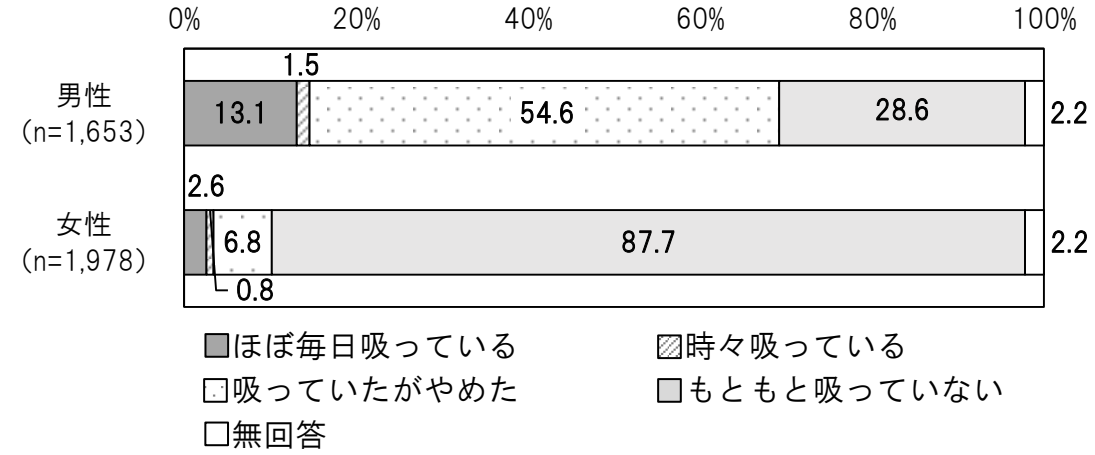
・喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が 60.7％と６割以上を占め最も高く、「吸っていたがやめた」と合わせた『吸っていない』割合は 89.3％と９割近くの人が喫煙習慣はないことがわかる。



・介護度別にみると、一般高齢者で「ほぼ毎日吸っている」・「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合が 8.9％となっている。

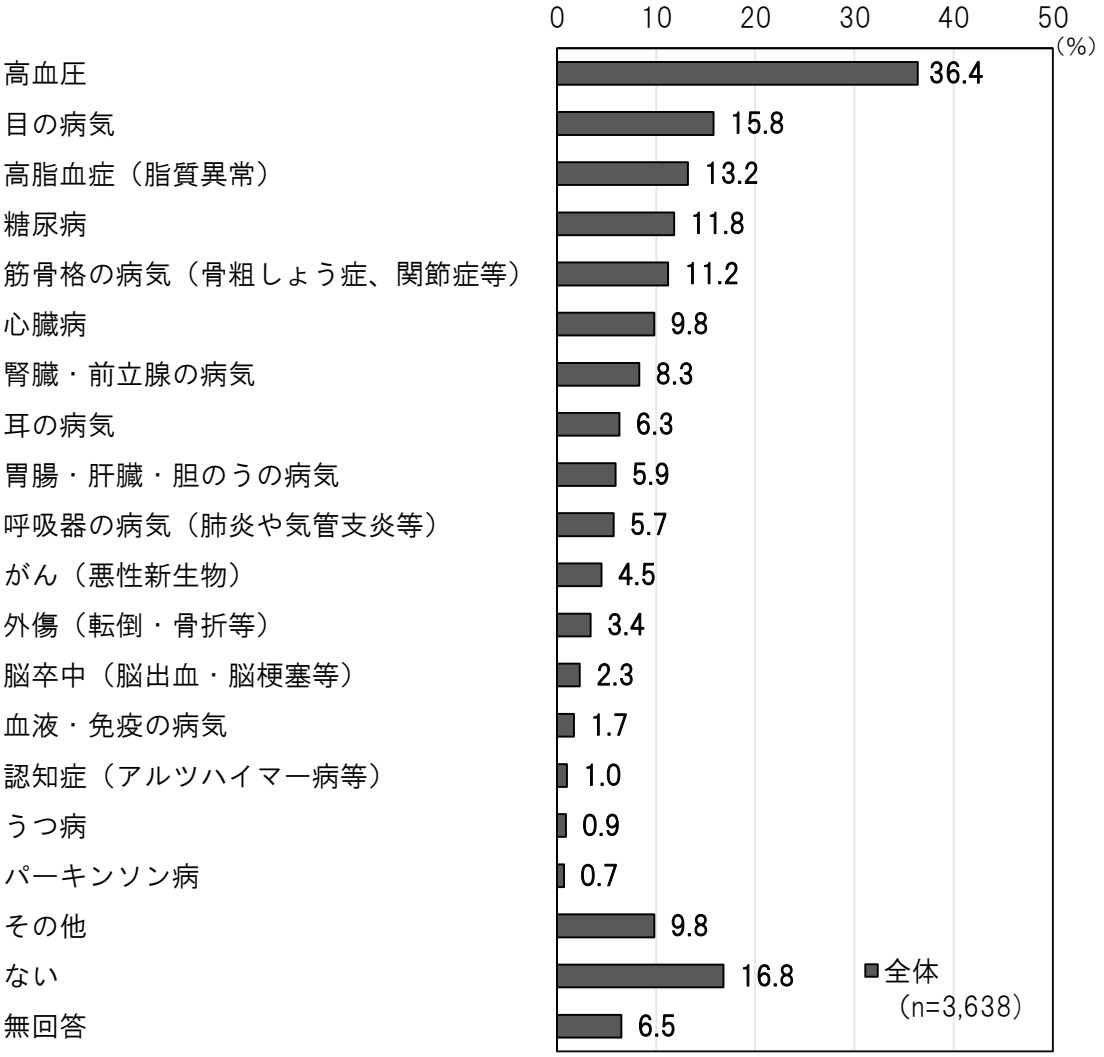


・性別にみると、男性で「ほぼ毎日吸っている」が 13.1％と１割以上を占めている。



（7）治療中、後遺症のある病気

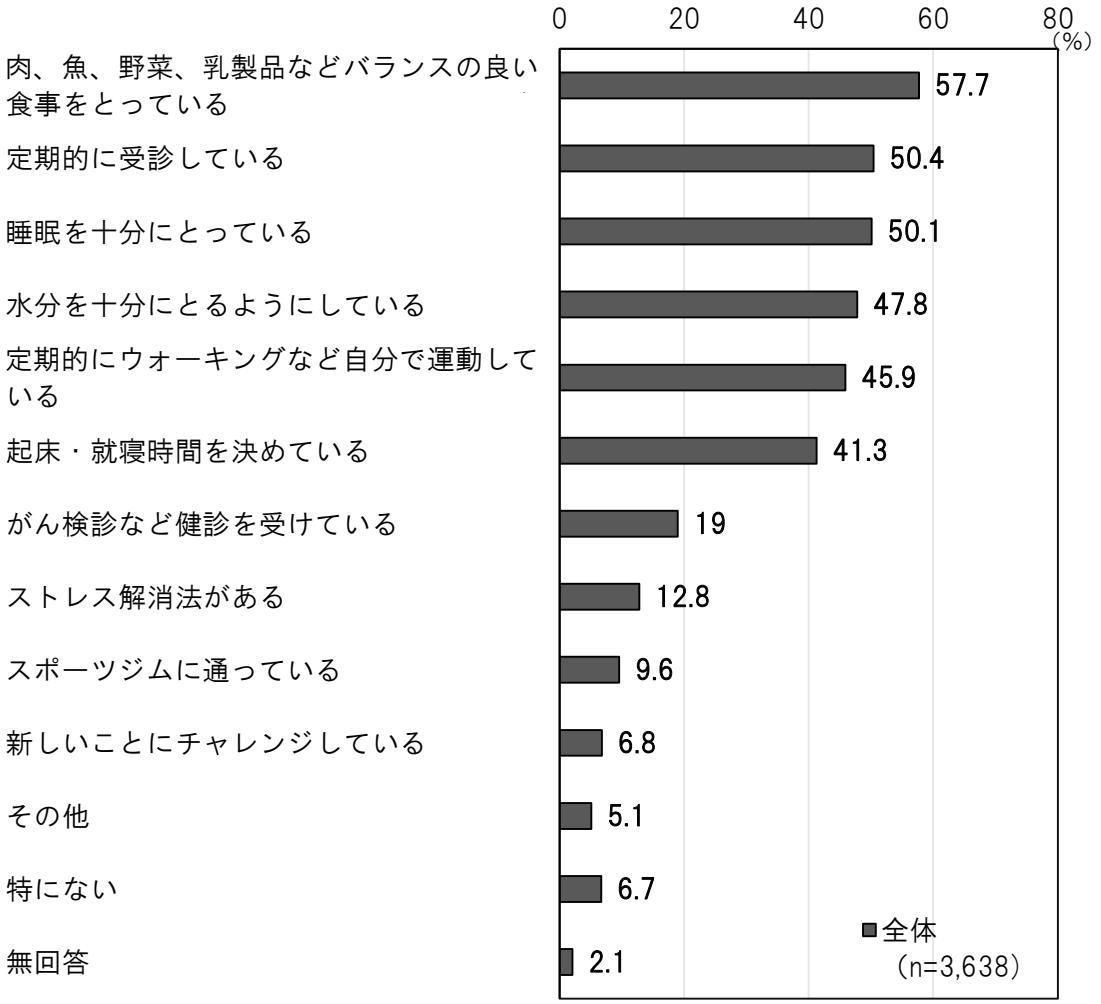
・現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が 36.4%と最も高く、次いで「目の病気」（15.8%）、「高脂血症（脂質異常）」（13.2%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○アレルギー	○リウマチ
○歯の病気	○腰痛・ひざ痛
○コレステロール	○甲状腺機能低下
○不整脈	○めまい・ふらつき　等

（8）健康の秘訣

・健康の秘訣については、「肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている」が 57.7%と最も高く、次いで「定期的に受診している」(50.4%)、「睡眠を十分にとっている」(50.1%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
○体操をする	○仕事をする
○前向きに考える	○声を出す
○サプリメント	○犬の散歩　等

◆　うつリスク

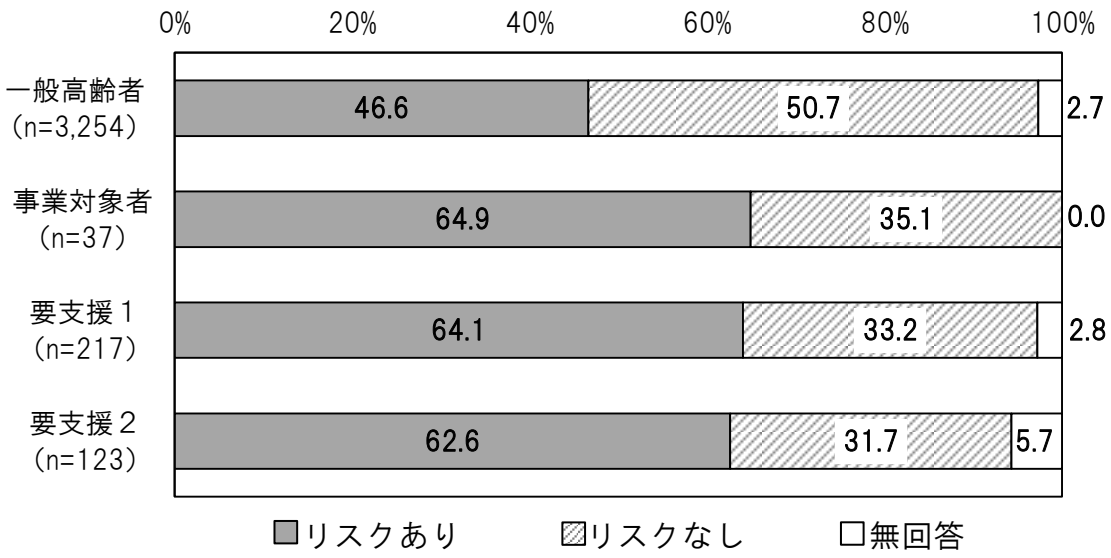
・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の２つの設問に対する回答から、高齢者のうつ状態に関してリスク判定をしている。

・今回の調査票に含まれる以下の設問２問中１問以上に該当した場合にうつ状態の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
10（3）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
10（4）	この１か月間、どうしても物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

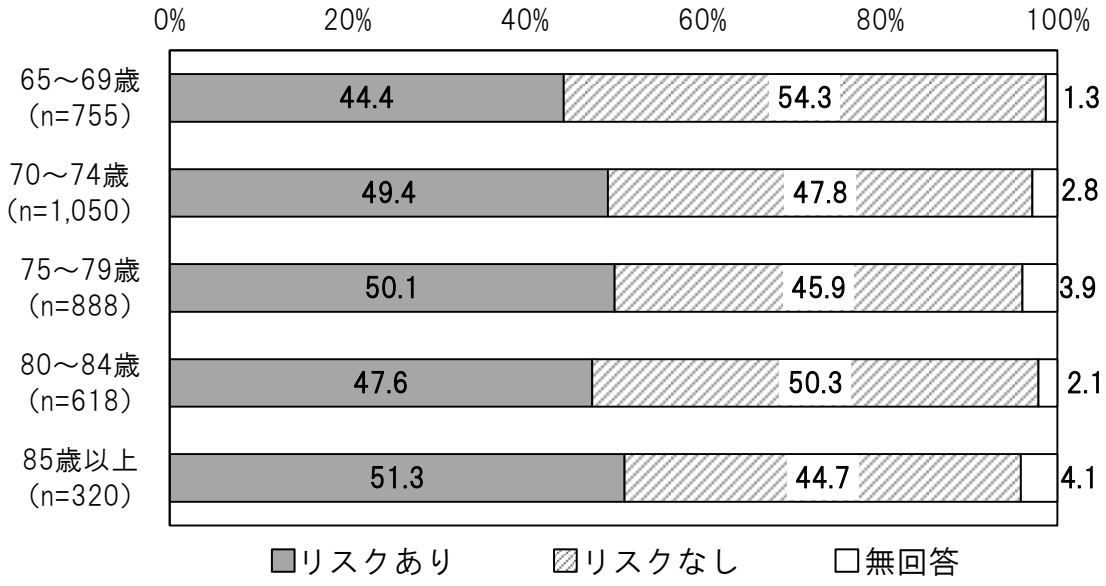
①介護度別判定

・介護度別にみると、うつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合は、事業対象者で 64.9%、要支援１で 64.1%、要支援２で 62.6%と６割以上となっており、一般高齢者（46.6%）より 15 ポイント以上高くなっている。



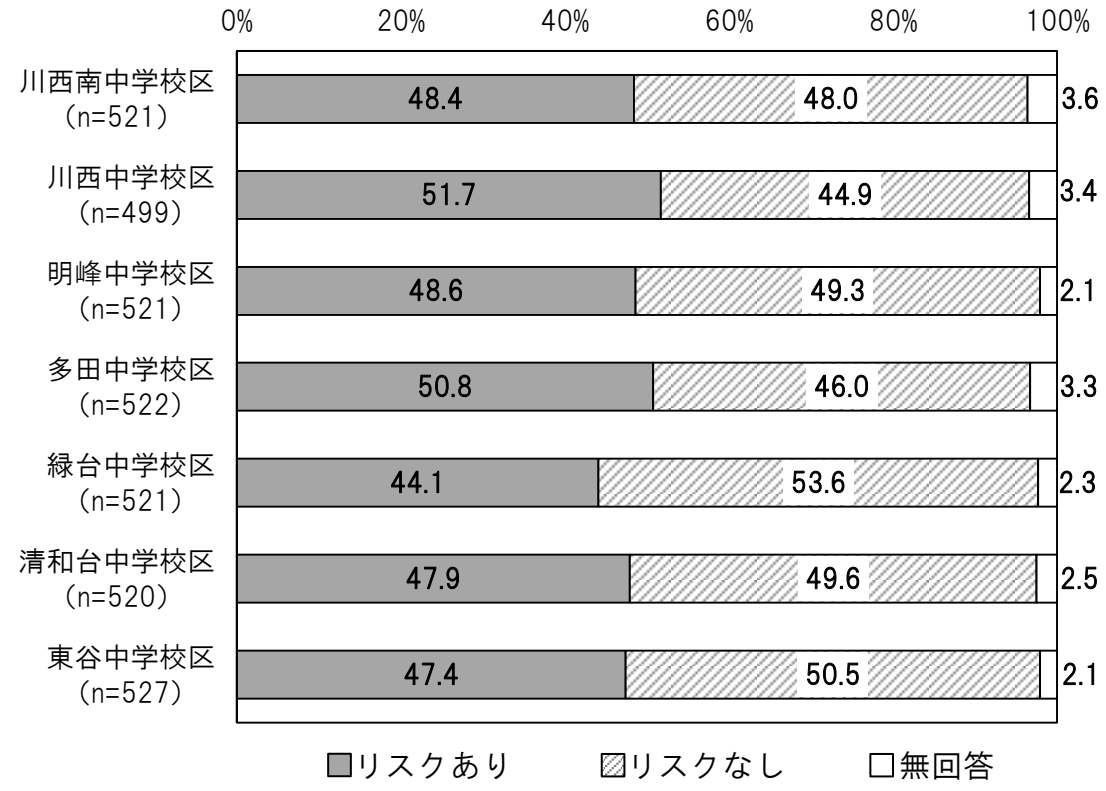
②年齢別判定

・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれてうつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっている。



③日常生活圏域（中学校区）別判定

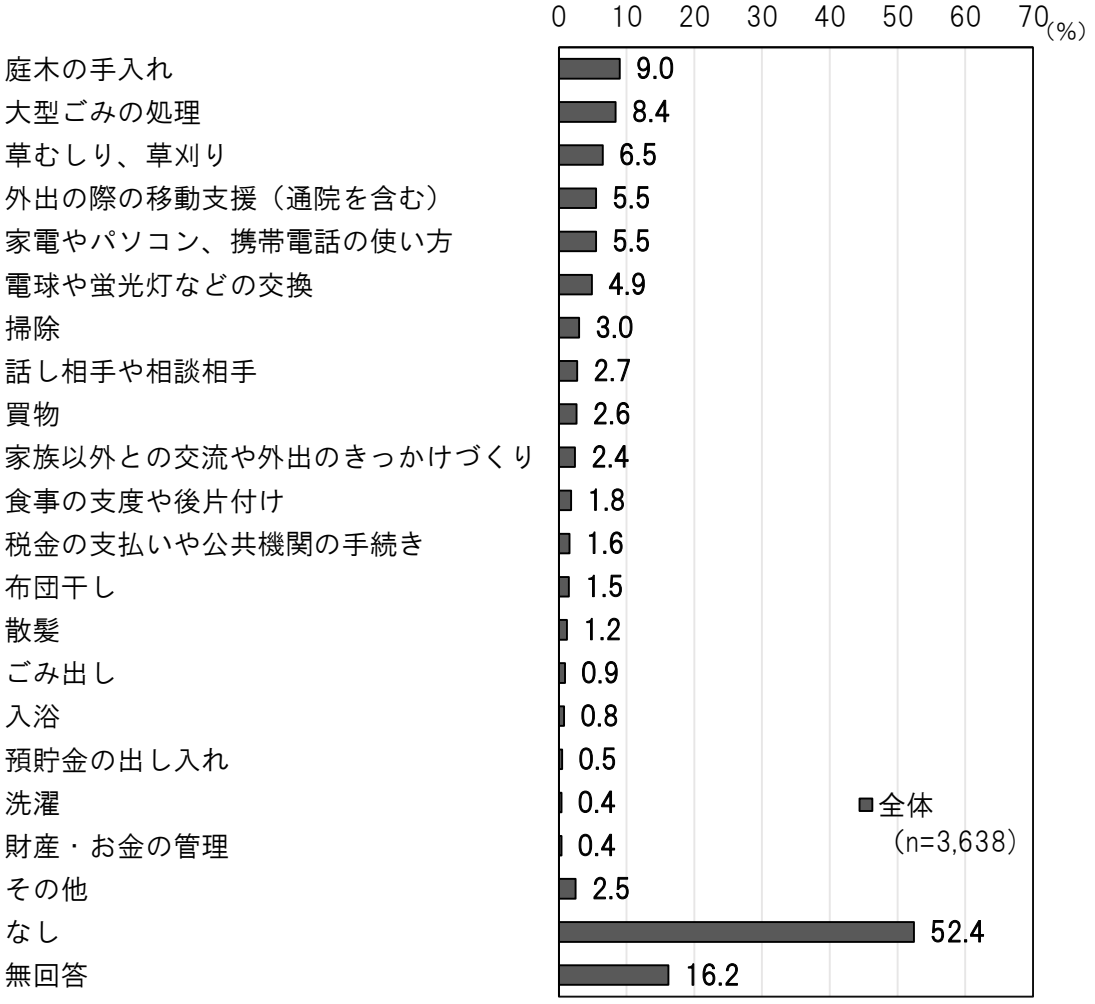
・日常生活圏域別にみると、うつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合は川西中学校区で51.7%と最も高くなっている。



11. 必要となる支援について

（1）日常生活の中で手助けしてほしいと思うこと

・日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことについては、「なし」が 52.4％と半数以上を占め最も高くなっている。手助けの内容としては、「庭木の手入れ」が 9.0％と最も高く、次いで「大型ごみの処理」（8.4％）、「草むしり、草刈り」（6.5％）となっており、いずれも１割未満となっている。



「その他」の主な回答内容	
○交通機関の割引、タクシー利用券配布	○高いところの出し入れ
○力仕事	○自分、または家族間でできている　等

・介護度別にみると、一般高齢者では「なし」が最も高くなっている一方で、事業対象者では「掃除」・「庭木の手入れ」が、要支援１・要支援２では「外出の際の移動支援（通院を含む）」が最も高くなっている。

（%）

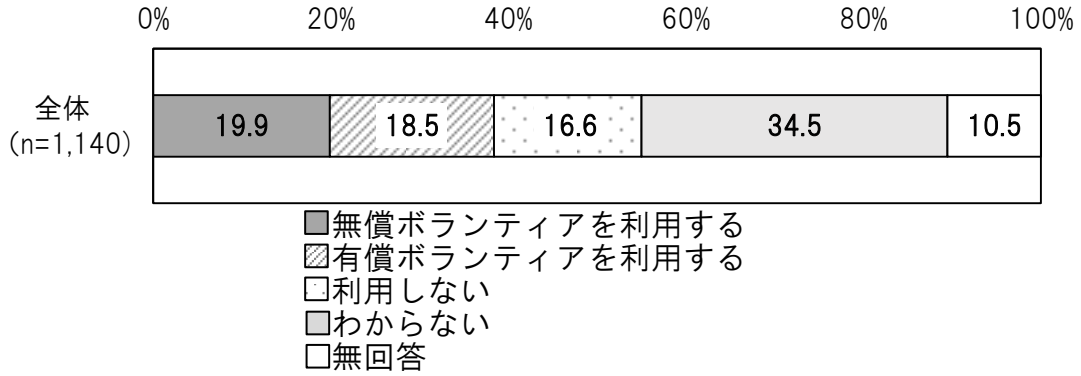
	全体（件数）	外出の際の移動支援（通院を含む）	家族以外との交流や外出のきっかけづくり	話し相手や相談相手	食事の支度や後片付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し	電球や蛍光灯などの交換
一般高齢者	3,254	3.3	2.3	2.2	1.4	1.6	1.8	0.2	1.0	0.5	3.9
事業対象者	37	21.6	8.1	8.1	5.4	21.6	**29.7**	2.7	2.7	5.4	5.4
要支援１	217	**22.6**	4.6	7.4	5.5	8.3	12.4	2.8	3.7	2.8	13.4
要支援２	123	**30.1**	1.6	6.5	2.4	13.8	10.6	2.4	10.6	6.5	17.1

	全体（件数）	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	家電やパソコン、携帯電話の使い方	預貯金の出し入れ	税金の支払いや公共機関の手続き	財産・お金の管理	その他
一般高齢者	3,254	8.1	5.9	7.3	0.8	0.3	5.5	0.2	1.3	0.3	2.2
事業対象者	37	**29.7**	16.2	24.3	5.4	5.4	5.4	2.7	10.8	2.7	5.4
要支援１	217	16.1	11.5	15.7	3.7	3.2	5.5	3.2	3.2	2.3	2.8
要支援２	123	13.8	11.4	17.1	4.1	7.3	7.3	1.6	2.4	－	8.1

	全体（件数）	なし	無回答
一般高齢者	3,254	**56.3**	16.3
事業対象者	37	18.9	16.2
要支援１	217	20.7	14.7
要支援２	123	16.3	14.6

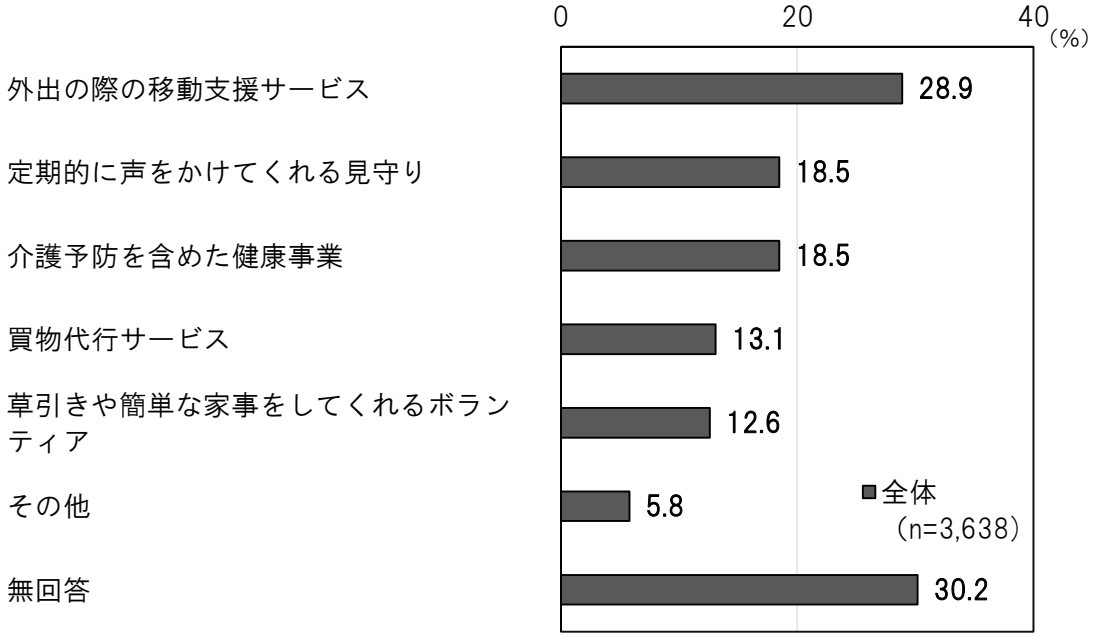
（1－①）ボランティアによる支援の利用意向　※（1）で「なし」以外を回答した方のみ

・ボランティアによる支援があれば利用するかについては、「わからない」が 34.5％と最も高くなっている。「無償ボランティアを利用する」・「有償ボランティアを利用する」を合わせた『利用する』割合は 38.4％と 3 割以上となっている。



（2）住んでいる地域でずっと暮らし続けるために必要なサービス

・住んでいる地域でずっと暮らし続けるために必要なサービスについては、「外出の際の移動支援サービス」が 28.9%と最も高く、次いで「定期的に声をかけてくれる見守り」（18.5%）、「介護予防を含めた健康事業」（18.5%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○交通費補助	○パソコン、スマホの使い方の説明
○移動マーケット・宅配サービス	○ごみ捨て・ごみの戸別収集　　等

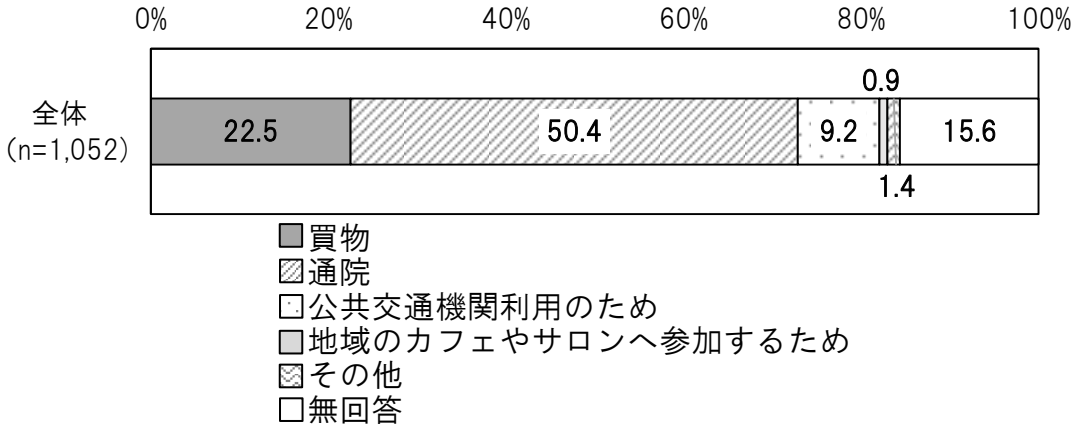
・介護度別にみると、全ての介護度で「外出の際の移動支援サービス」が最も高くなっているものの、事業対象者で 45.9%、要支援 1 で 35.5%、要支援 2 で 39.8%と、一般高齢者（27.9%）より 5 ポイント以上高くなっている。

（%）

	全体（件数）	外出の際の移動支援サービス	買物代行サービス	草引きや簡単な家事をしてくれるボランティア	定期的に声をかけてくれる見守り	介護予防を含めた健康事業	その他	無回答
一般高齢者	3,254	**27.9**	12.9	12.2	18.6	18.5	6.0	30.6
事業対象者	37	**45.9**	18.9	27.0	27.0	21.6	－	13.5
要支援１	217	**35.5**	13.8	15.2	16.6	17.5	5.1	30.0
要支援２	123	**39.8**	15.4	15.4	16.3	17.9	4.1	23.6

（２－①）移動支援サービスを利用したい時　※（２）で「外出の際の移動支援サービス」と回答した方のみ

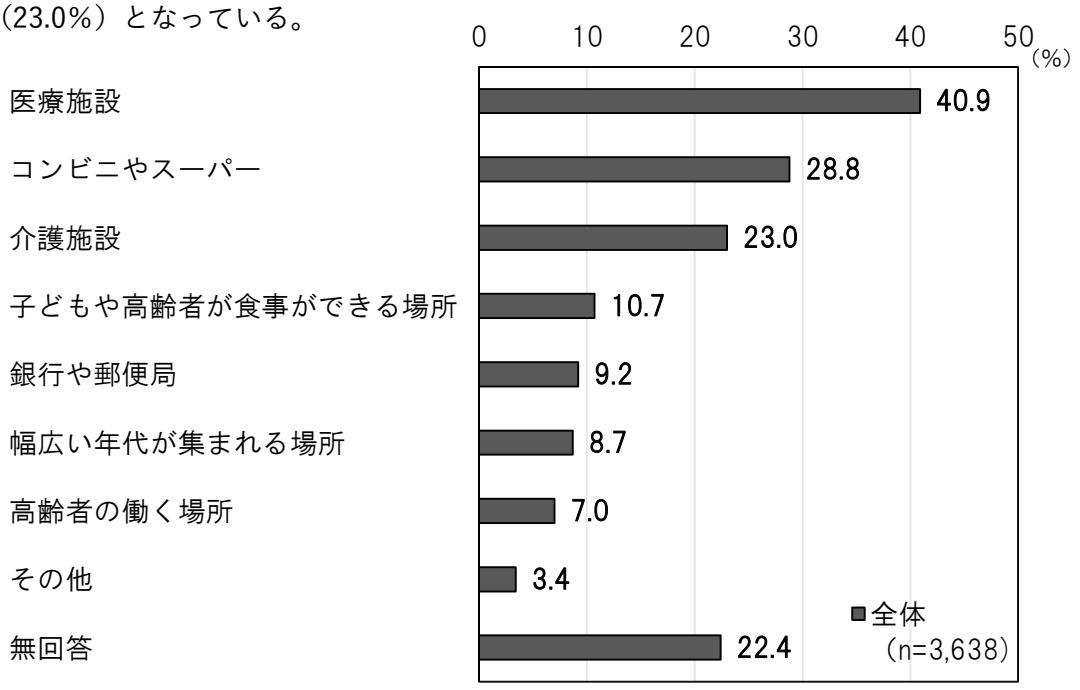
・どのような時に移動支援サービスを利用したいかについては、「通院」が 50.4％と半数以上を占め最も高く、次いで「買物」（22.5％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○坂道の移動時	○免許返納時　等

（３）住んでいる地域でずっと暮らし続けるために必要な施設

・住んでいる地域でずっと暮らし続けるためにどのような施設が必要かについては、「医療施設」が 40.9％と４割以上を占め最も高く、次いで「コンビニやスーパー」（28.8％）、「介護施設」（23.0％）となっている。

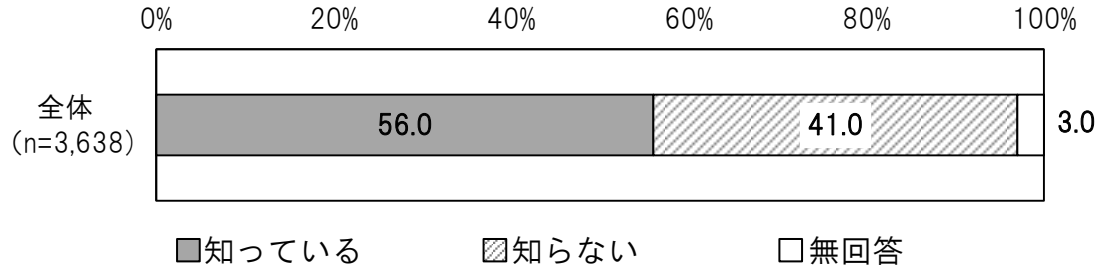


「その他」の主な回答内容	
○バス停、バスの運行	○公園
○本屋・図書館	○今は特にない、充実している　等

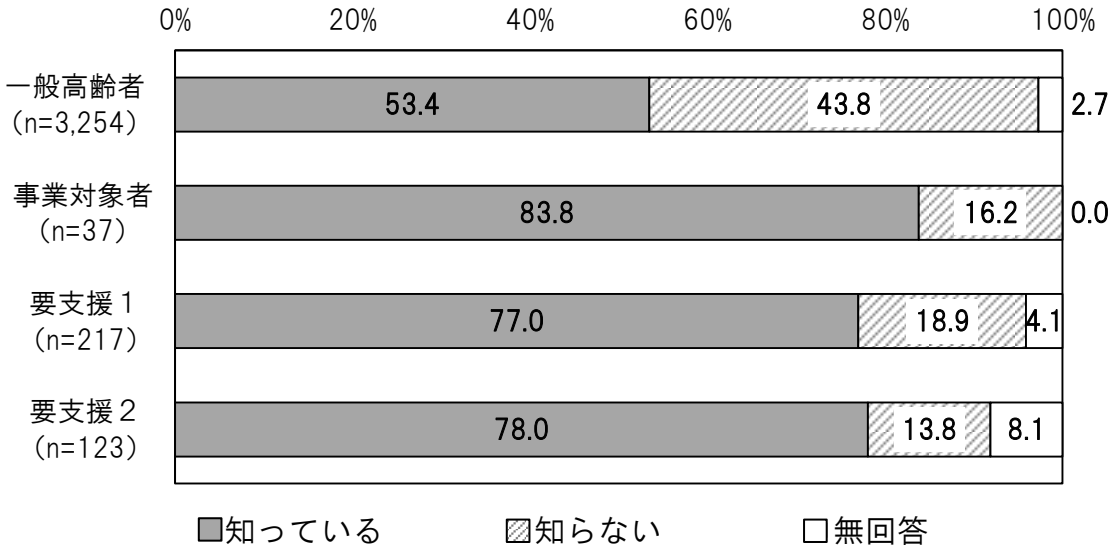
12. 地域包括支援センターについて

（1）地域包括支援センターが市内にあることの認知度

・地域包括支援センターが市内にあるのを知っているかについては、「知っている」が 56.0%と半数以上となっている。

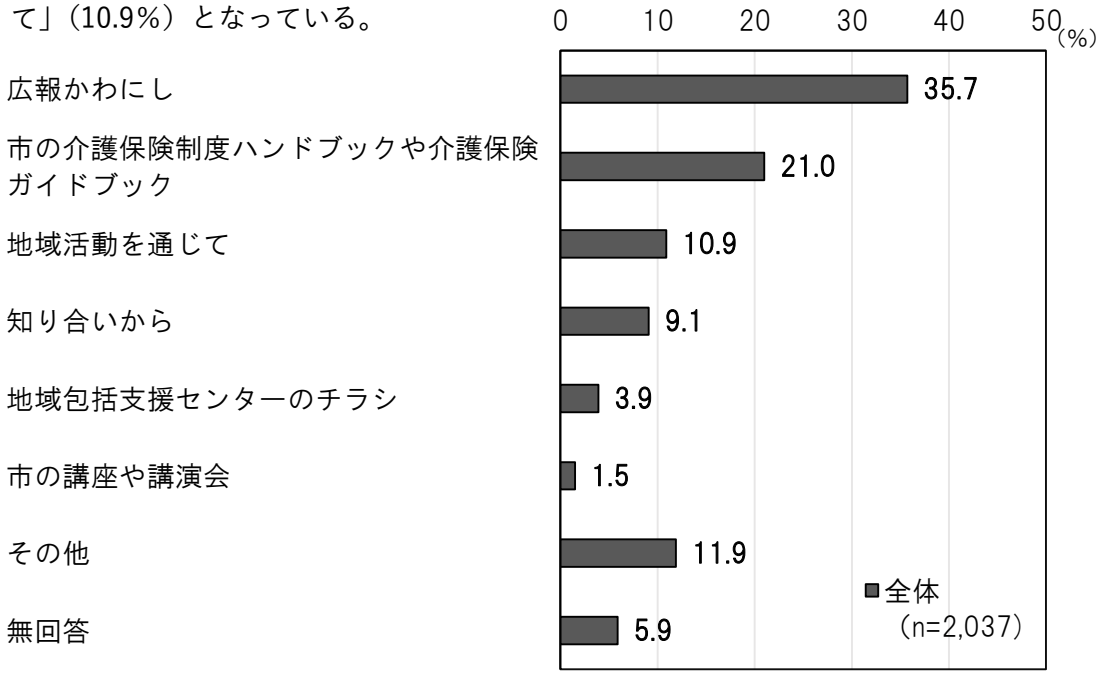


・介護度別にみると、「知っている」割合が、事業対象者で 83.8%、要支援１で 77.0%、要支援２で 78.0%と７割以上となっており、一般高齢者（53.4%）より 20 ポイント以上高くなっている。



（1－①）地域包括支援センターを知った媒体　※（1）で「知っている」と回答した方のみ

・地域包括支援センターをどこで知ったかについては、「広報かわにし」が 35.7%と最も高く、次いで「市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック」(21.0%)、「地域活動を通じて」(10.9%）となっている。



「その他」の主な回答内容
○家族に地域包括支援センター利用者がいるため
○仕事の関係で知った
○病院で教えてもらった、入院時に知った　等

・介護度別にみると、一般高齢者で「広報かわにし」が最も高く、事業対象者・要支援１・要支援２では「市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック」が最も高くなっている。

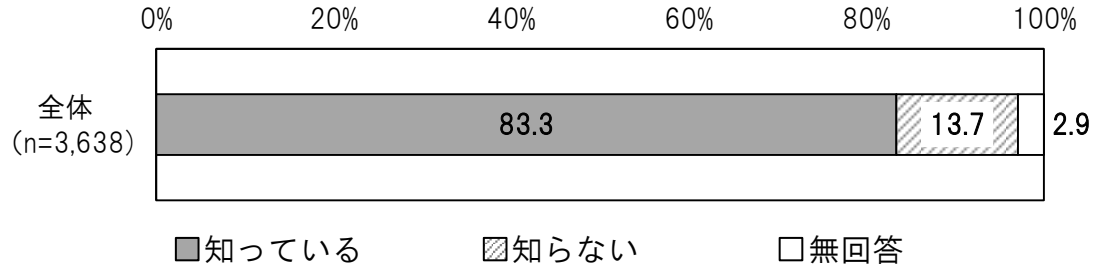
（%）

	全体（件数）	市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック	広報かわにし	地域包括支援センターのチラシ	市の講座や講演会	地域活動を通じて	知り合いから	その他	無回答
一般高齢者	1,739	18.6	**38.6**	3.4	1.6	11.5	8.7	11.5	6.0
事業対象者	31	**45.2**	16.1	9.7	－	6.5	3.2	16.1	3.2
要支援１	167	**31.7**	19.8	6.0	0.6	10.8	12.6	12.0	6.6
要支援２	96	**36.5**	16.7	7.3	1.0	3.1	11.5	18.8	5.2

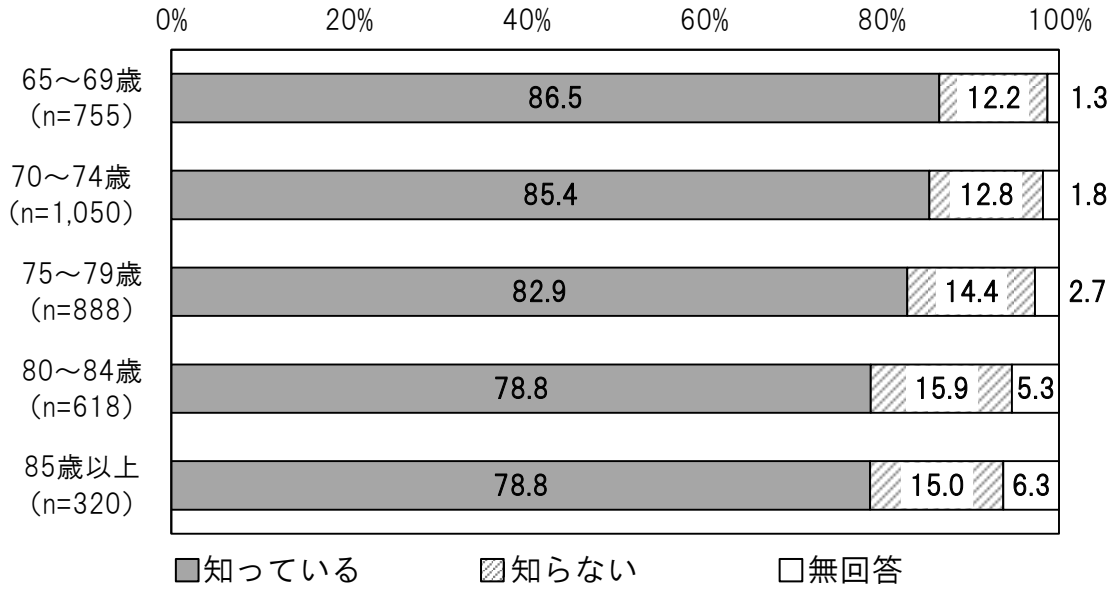
13. 介護保険制度について

（1）介護保険制度の認知度

・介護保険制度を知っているかについては、「知っている」が 83.3%と 8 割以上となっている。

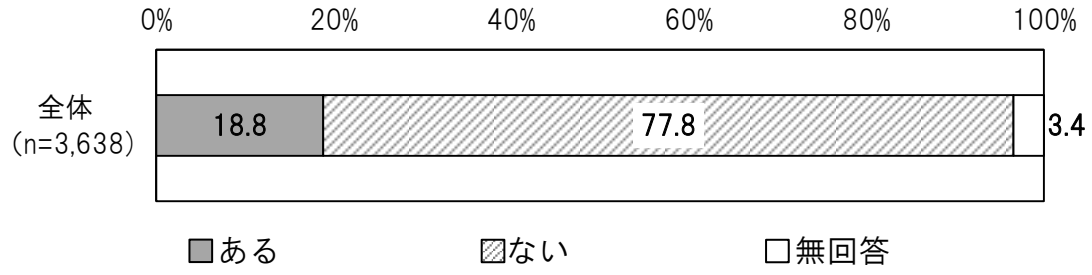


・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「知らない」が高くなっており、80 歳以上では「知っている」が 8 割未満となっている。

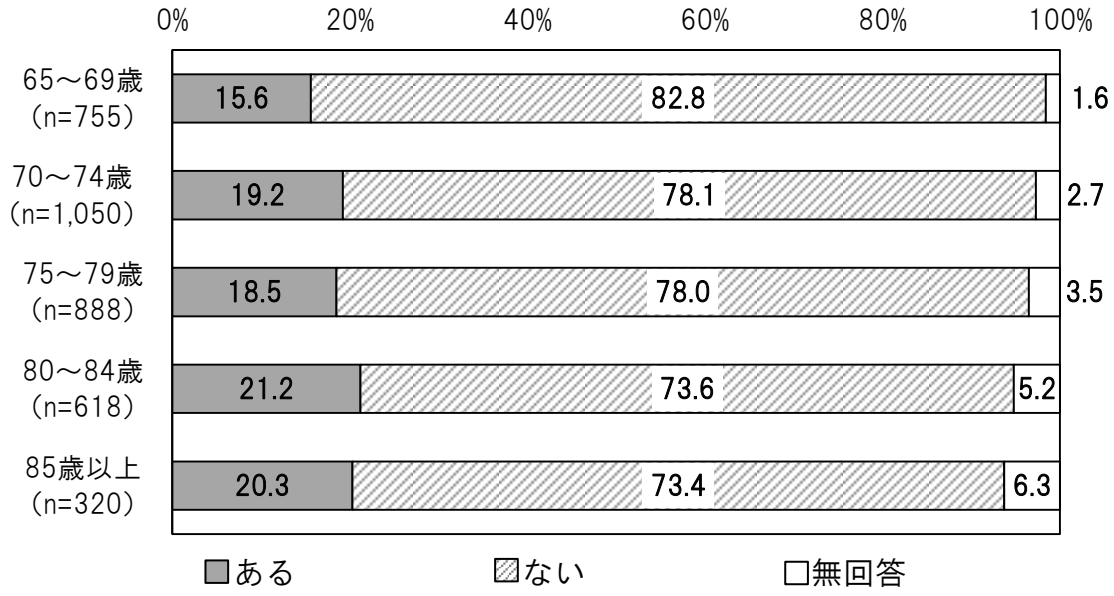


（2）介護保険の申請や介護保険サービスの利用への抵抗

・介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗があるかについては、「ない」が 77.8%と 7 割以上となっている。



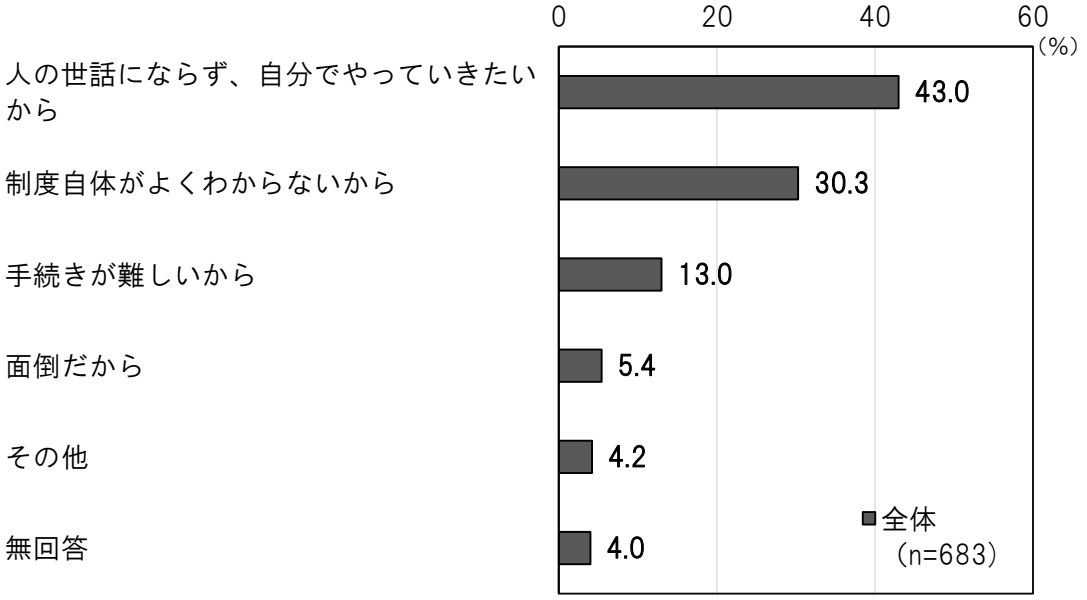
・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「ない」が低くなっており、80 歳以上で抵抗が「ある」人の割合が 2 割以上となっている。



（２－①）介護保険の申請や介護保険サービスの利用への抵抗がある理由

※（２）で「ある」と回答した方のみ

・介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗がある理由については、「人の世話にならず、自分でやっていきたいから」が 43.0%と 4 割以上を占め最も高く、次いで「制度自体がよくわからないから」（30.3%）となっている。



「その他」の主な回答内容
○申請しても認定されないケースが多い、条件が厳しいから
○他人が家に入ることが不安　等

・年齢別にみると、全ての年代で「人の世話にならず、自分でやっていきたいから」が最も高くなっている。また、85 歳以上で「手続きが難しいから」が 2 割以上となっている。

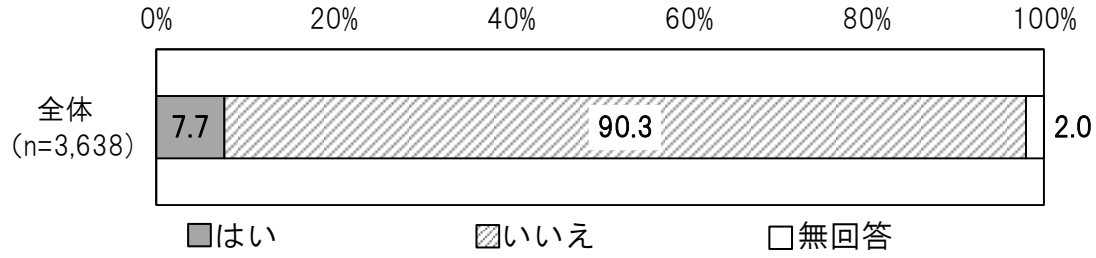
（%）

	全体（件数）	手続きが難しいから	制度自体がよくわからないから	面倒だから	人の世話にならず、自分でやっていきたいから	その他	無回答
65～69歳	118	6.8	37.3	6.8	**42.4**	3.4	3.4
70～74歳	202	11.4	30.7	6.4	**44.1**	4.0	3.5
75～79歳	164	17.1	26.8	5.5	**45.7**	4.3	0.6
80～84歳	131	12.2	33.6	3.8	**38.9**	3.1	8.4
85歳以上	65	21.5	20.0	3.1	**41.5**	7.7	6.2

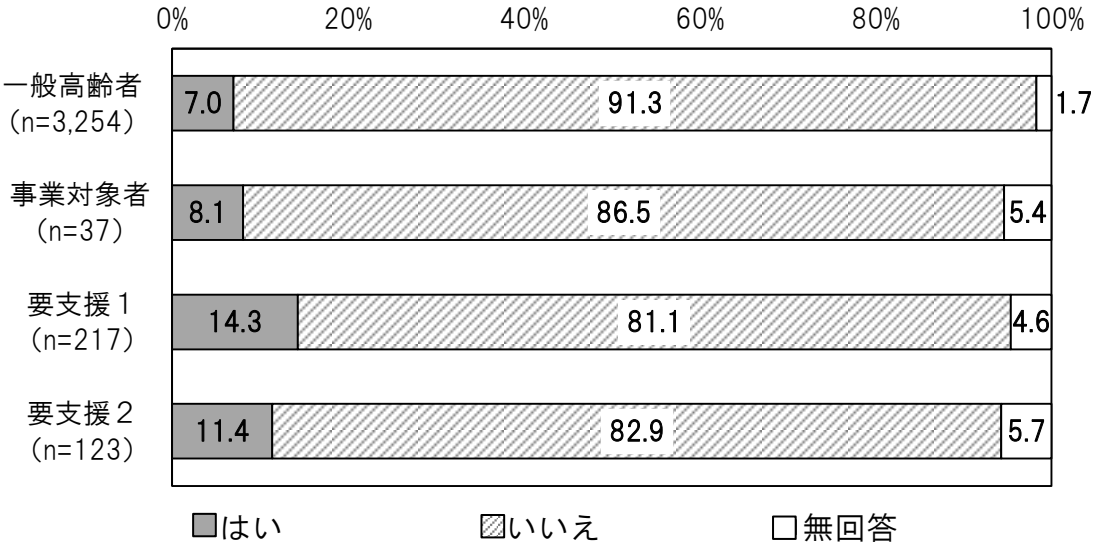
14. 認知症にかかる相談窓口の把握について

（1）認知症の症状がある人の有無

・認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「いいえ」が 90.3％と 9 割以上となっている。

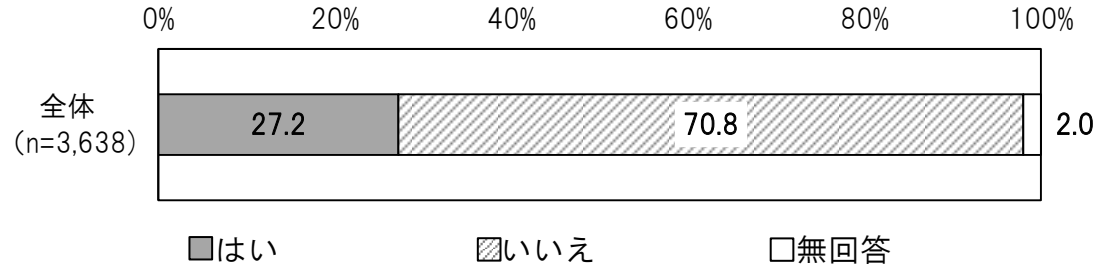


・介護度別にみると、「はい」が要支援 1 では 14.3%、要支援 2 では 11.4%とともに 1 割以上となっている。



（2）認知症に関する相談窓口の認知度

・認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」が 70.8%と 7 割以上となっている。

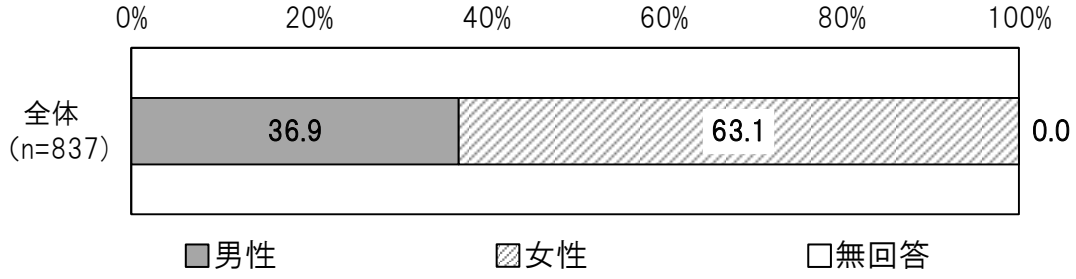


Ⅲ　在宅介護実態調査　調査結果

１．回答者の属性

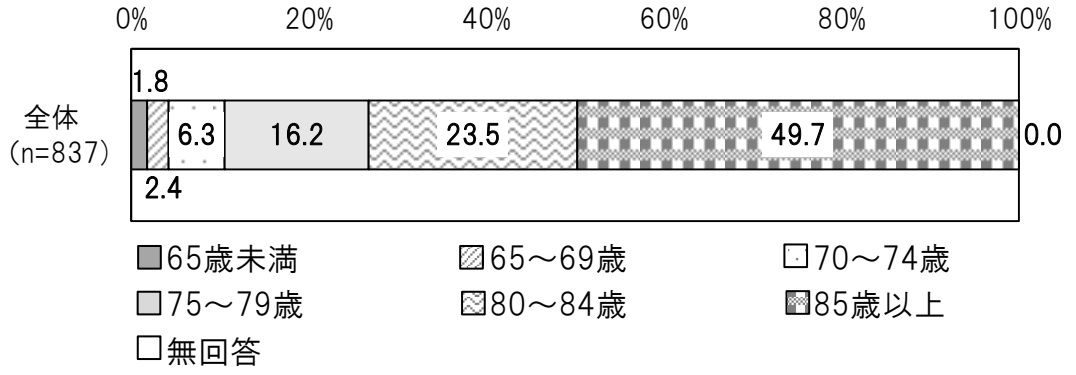
（１）性別

・回答者の性別は「男性」が 36.9%、「女性」が 63.1%となっている。



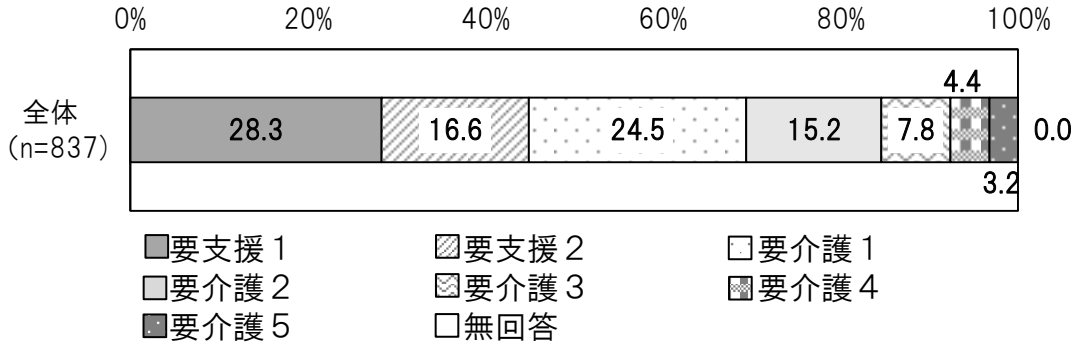
（２）年齢

・回答者の年齢は「85 歳以上」が 49.7%と半数近くを占め最も高く、次いで「80～84 歳」(23.5%)、「75～79 歳」（16.2%）となっている。



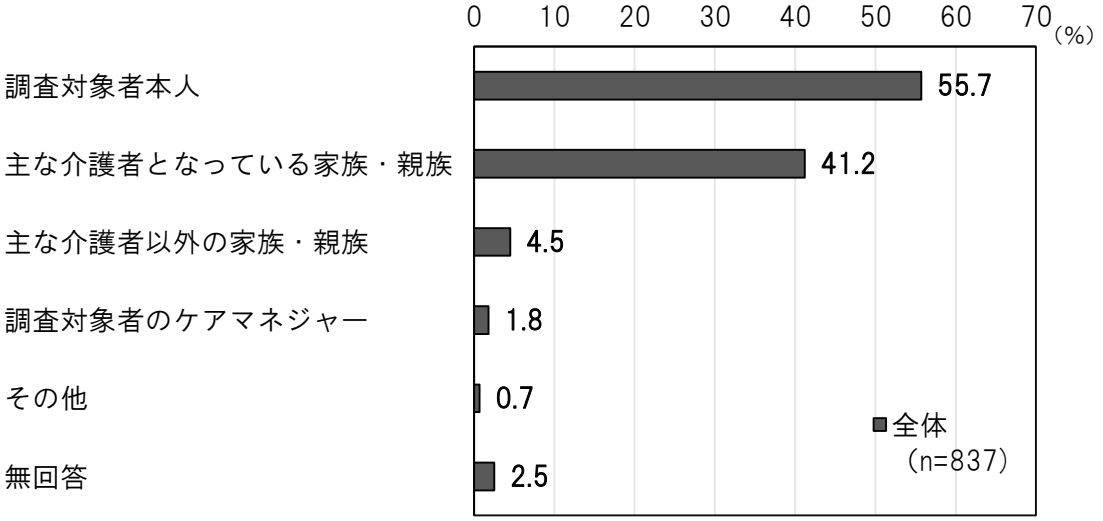
（３）介護度

・回答者の介護度は、「要支援１」が 28.3%と最も高く、次いで「要介護１」(24.5%)、「要支援２」（16.6%）となっている。



（4）調査票記入者

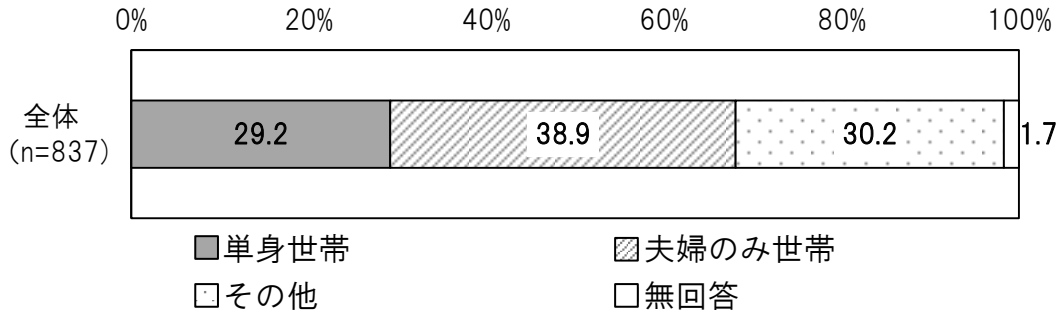
・調査票記入者は、「調査対象者本人」が 55.7％と半数以上を占め最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」（41.2％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○同居人	等

（5）世帯類型

・回答者の世帯類型については、「夫婦のみ世帯」が 38.9％で最も高くなっているものの、「単身世帯」が 29.2％と 3 割近くを占めている。

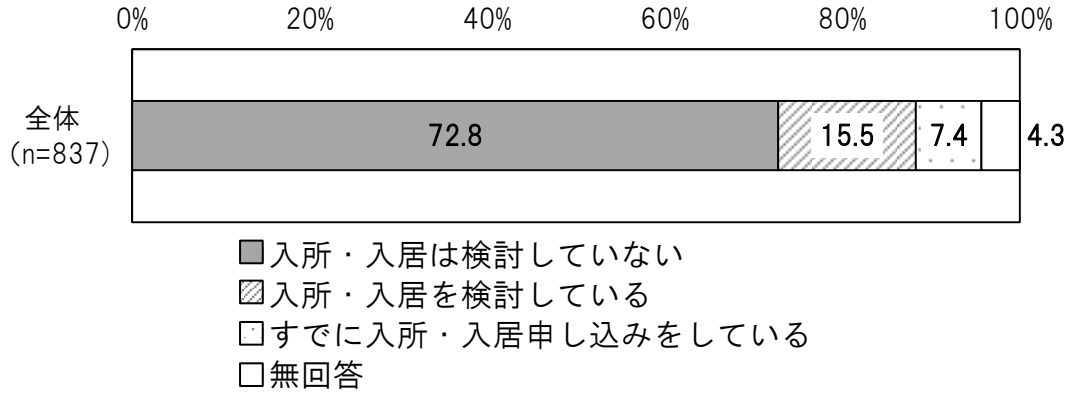


「その他」の主な回答内容		
○親と子の 2 世代世帯	○親と子と孫の 3 世代世帯	等

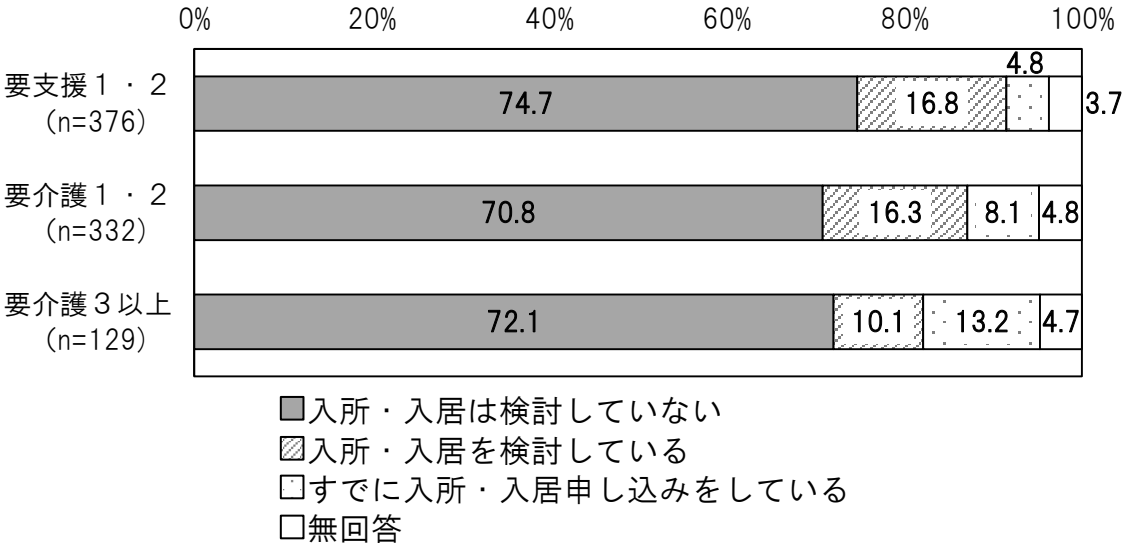
２．必要な介護やサービスの利用などについて

（１）施設等への入所・入居の検討状況

・施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 72.8％と最も高く、「入所・入居を検討している」・「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた『施設利用意向者』の割合は 22.9％と２割以上となっている。

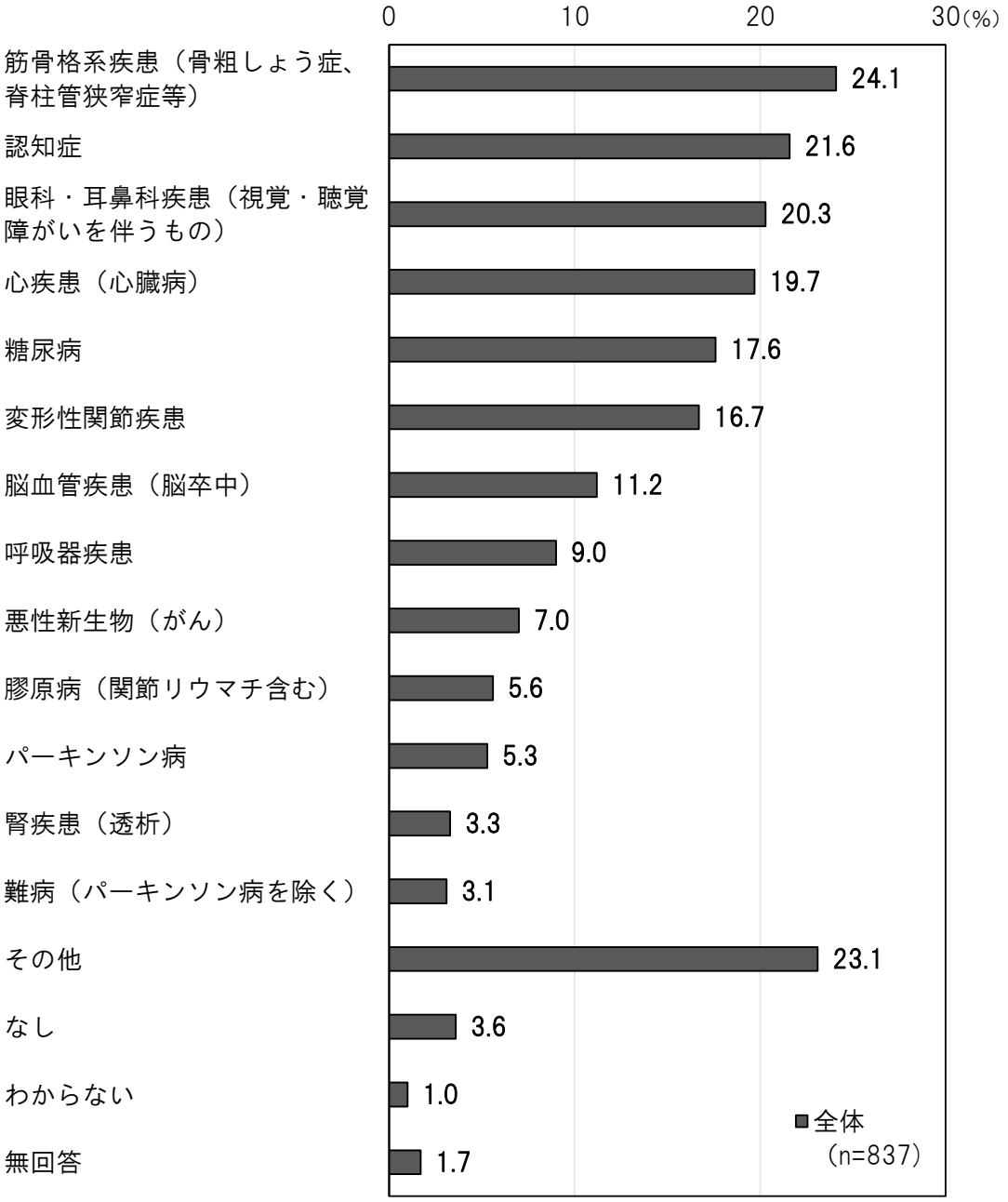


・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「すでに入所・入居申し込みをしている」が高くなっており、『施設利用意向者』の割合は全ての介護度で２割以上となっている。



（2）現在抱えている傷病

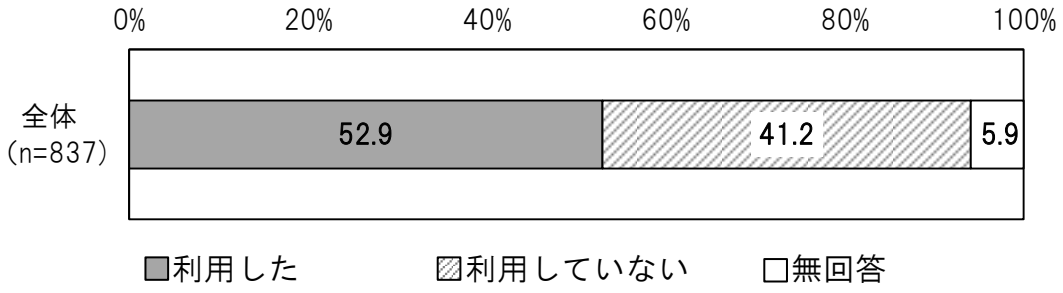
・現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 24.1％と最も高く、次いで「認知症」（21.6％）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」（20.3％）となっている。



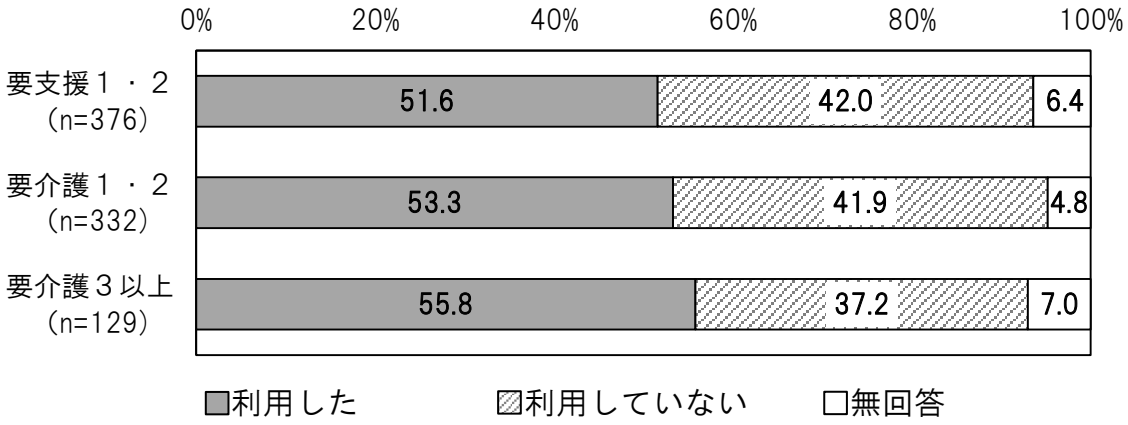
「その他」の主な回答内容	
○高血圧	○足・腰の痛み
○骨折	○うつ病、統合失調症などの精神病
○歩行困難	○前立腺がん　等

（3）介護保険サービスの利用状況（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）

・介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が 52.9%と半数以上となっている。

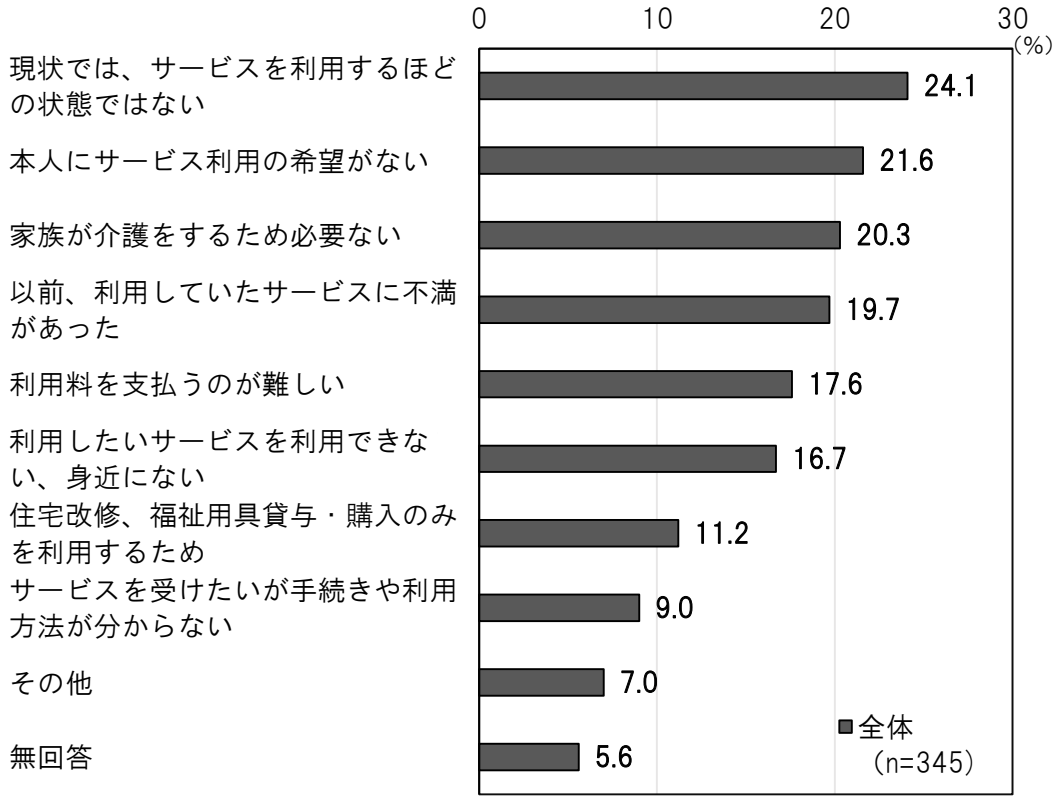


・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「利用した」が高くなっている。



（3－①）介護保険サービスを利用していない理由　※（3）で「利用していない」と回答した方のみ

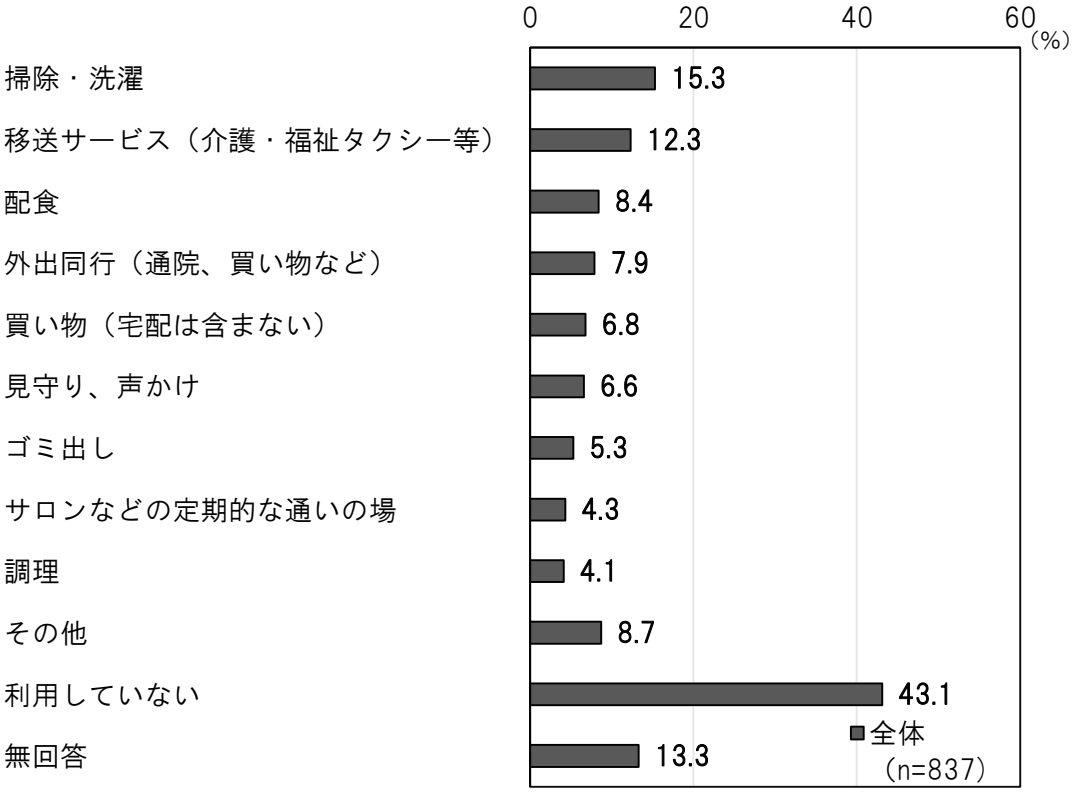
・介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 24.1％と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」（21.6％）、「家族が介護をするため必要ない」（20.3％）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○新型コロナウイルスの影響により停止	○利用を検討中
○以前利用していた	○どんなサービスがあるのか知らない　等

（4）介護保険サービス以外で利用している支援・サービス

・介護保険サービス以外で利用している支援・サービスについては、「利用していない」が 43.1%と最も高くなっている。利用している支援・サービスの内容では「掃除・洗濯」が 15.3%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等)」(12.3%)、「配食」(8.4%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○デイサービス	○手すりの設置
○訪問介護	○ベッドの貸出　等

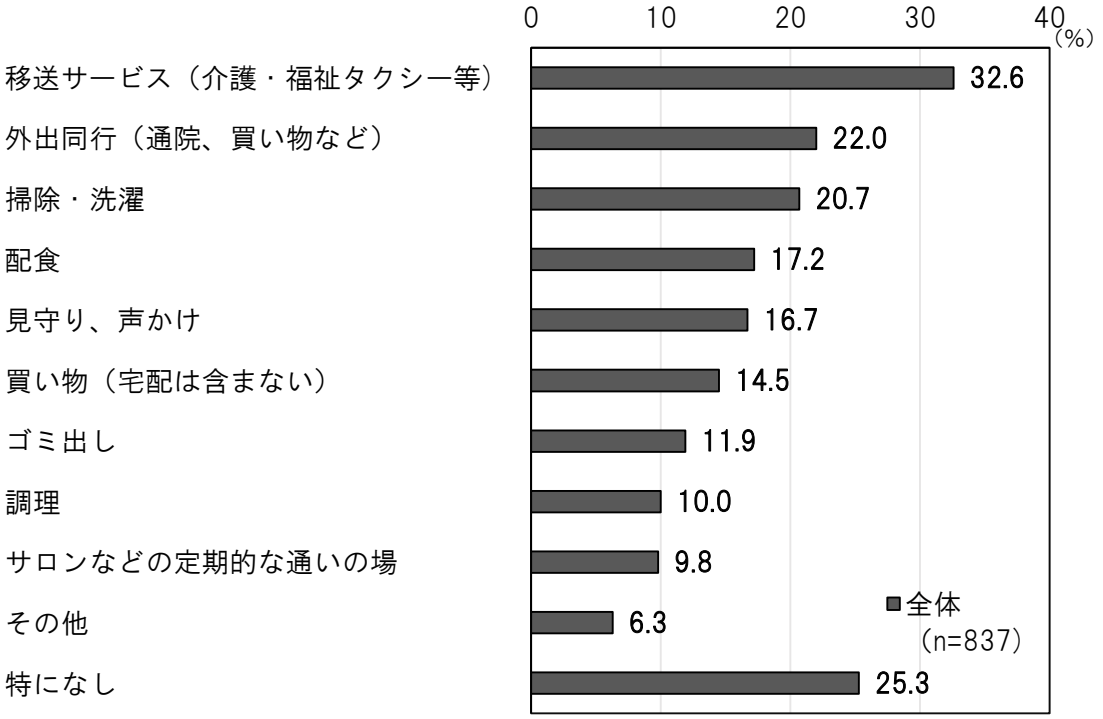
・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「外出同行（通院、買い物など）」や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が高くなっており、外出支援に関する支援・サービスの利用が多くなっていることが分かる。

（%）

	全体（件数）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）
要支援１・２	376	9.0	4.0	15.7	6.1	5.1	6.4
要介護１・２	332	8.4	3.0	12.7	6.9	6.0	8.7
要介護３以上	129	6.2	7.0	20.9	8.5	3.9	10.1
	全体（件数）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
要支援１・２	376	9.8	6.1	3.7	9.0	**46.5**	12.8
要介護１・２	332	13.6	5.1	4.5	10.5	**42.8**	12.3
要介護３以上	129	16.3	11.6	5.4	3.1	**34.1**	17.1

（５）今後の在宅生活の継続に必要な支援・サービス

・今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）については、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 32.6%と３割以上を占め最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（22.0%）、「掃除・洗濯」（20.7%）となっている。「特になし」は 25.3%と２割以上となっている。



「その他」の主な回答内容	
○入浴介助	○介護者の急な体調不良の場合等の支援
○リハビリ	○デイサービス　等

・介護度別にみると、介護度が上がるにつれ「外出同行（通院、買い物など）」が高くなっている。
また、「見守り、声かけ」も高くなっており、要介護３以上では２割以上となっている。

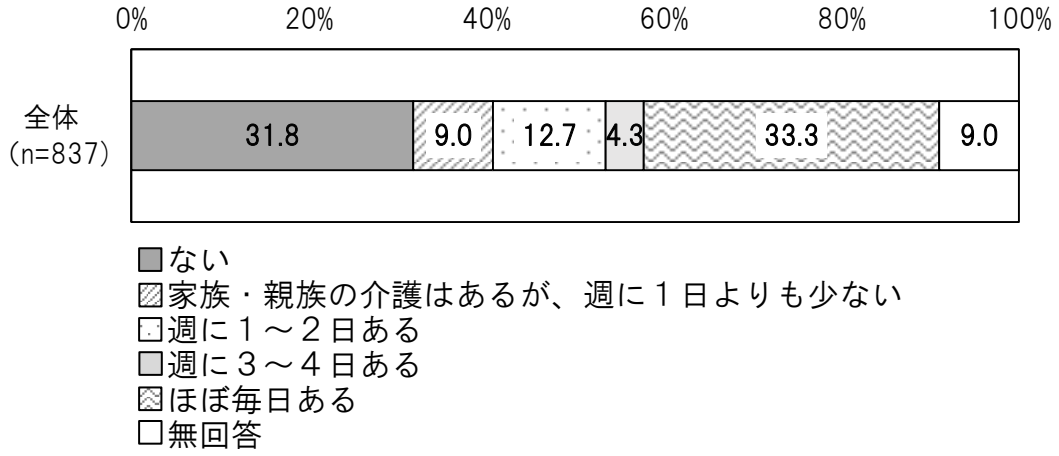
（%）

	全体（件数）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）
要支援１・２	376	17.8	7.7	18.9	15.2	11.2	19.1
要介護１・２	332	15.7	11.1	22.3	13.0	13.3	23.5
要介護３以上	129	19.4	14.0	21.7	16.3	10.9	26.4

	全体（件数）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
要支援１・２	376	**33.0**	15.7	9.0	6.6	27.7	8.0
要介護１・２	332	**31.6**	16.3	10.8	6.6	25.9	9.9
要介護３以上	129	**34.1**	20.9	9.3	4.7	17.1	14.7

（6）家族や親族からの介護

・家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が 33.3%と最も高い一方で、「ない」が 31.8%と３割以上となっている。



・介護度別にみると、要支援１・２では「ない」が３割以上を占め最も高い一方で、要介護１以上では「ほぼ毎日ある」が最も高くなっている。

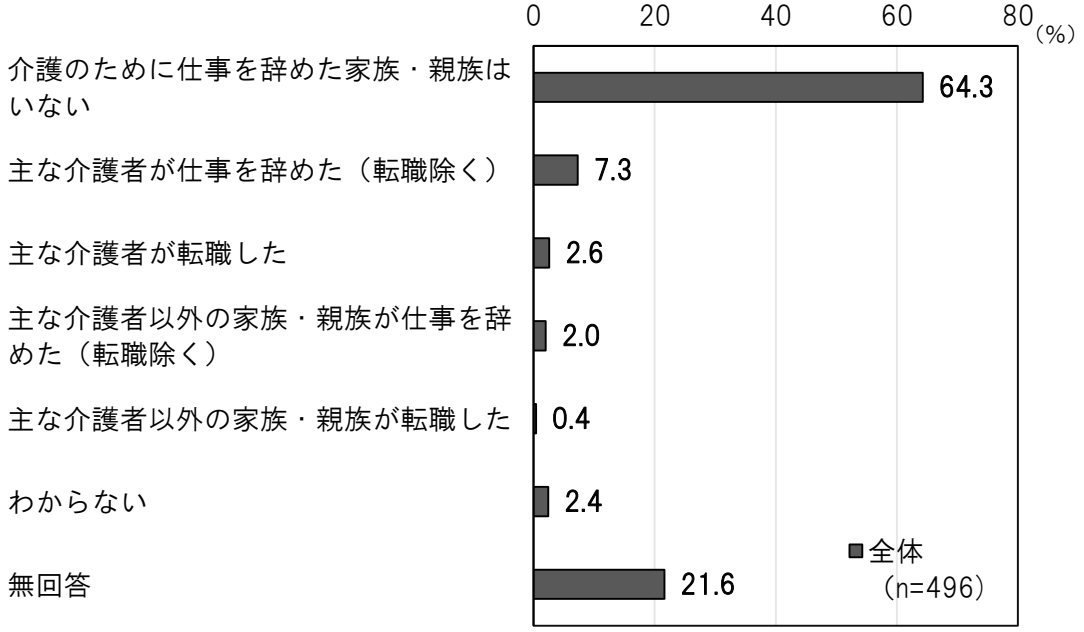
（%）

	全体（件数）	ない	家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない	週に１～２日ある	週に３～４日ある	ほぼ毎日ある	無回答
要支援１・２	376	**35.9**	8.5	11.2	4.5	30.6	9.3
要介護１・２	332	28.0	8.4	13.9	5.1	**35.8**	8.7
要介護３以上	129	29.5	11.6	14.0	1.6	**34.9**	8.5

3．主な介護者について　【介護者への質問】

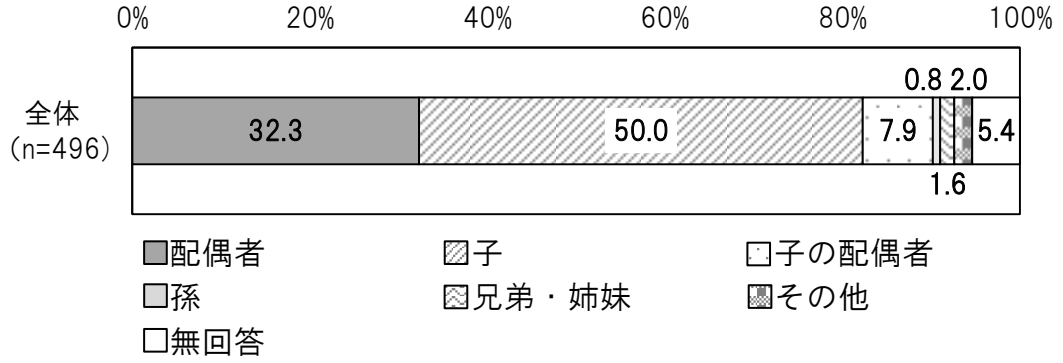
（1）介護を理由として仕事を辞めた人の有無

・介護を理由として仕事を辞めた人の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 64.3%と 6 割以上を占めて最も高くなっている。「主な介護者が仕事を辞めた」・「主な介護者が転職した」・「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」・「主な介護者以外の家族・親族が転職した」を合わせた『主な介護者や家族・親族が仕事を辞めたり転職をした』割合は 12.3%と 1 割以上となっている。



（2）主な介護者の続柄

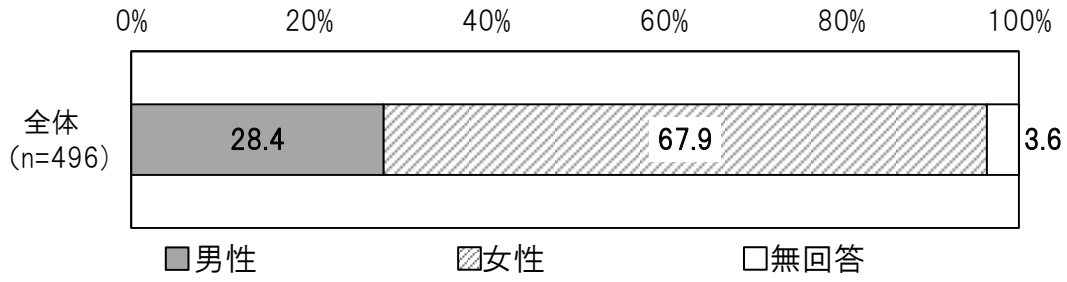
・主な介護者の続柄については、「子」が 50.0%と半数を占めて最も高く、次いで「配偶者」(32.3%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
○子と友達	○子どもとその配偶者　等

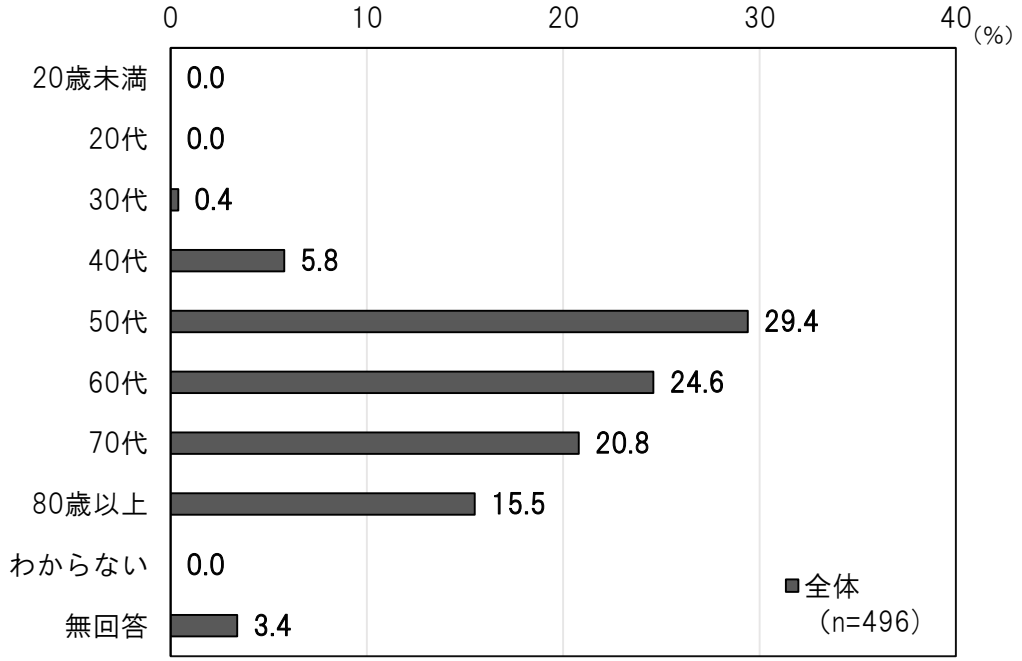
（3）主な介護者の性別

・主な介護者の性別については、「男性」が 28.4%、「女性」が 67.9%となっている。



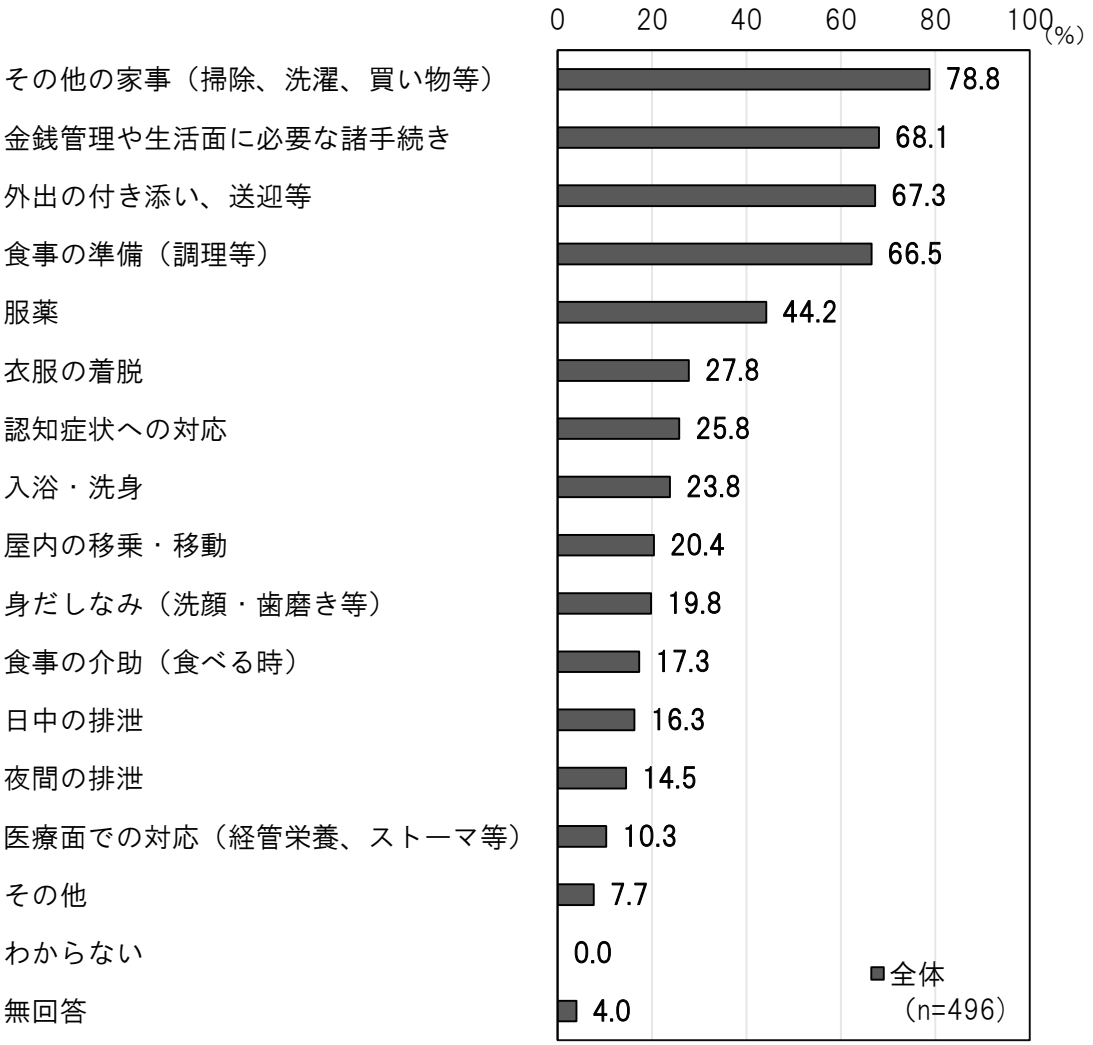
（4）主な介護者の年齢

・主な介護者の年齢については、「50 代」が 29.4%と 3 割近くを占め最も高く、次いで「60 代」（24.6%）、「70 代」（20.8%）となっている。主な介護者が『60 歳以上』である割合は 6 割以上となっている。



（5）主な介護者が行っている介護

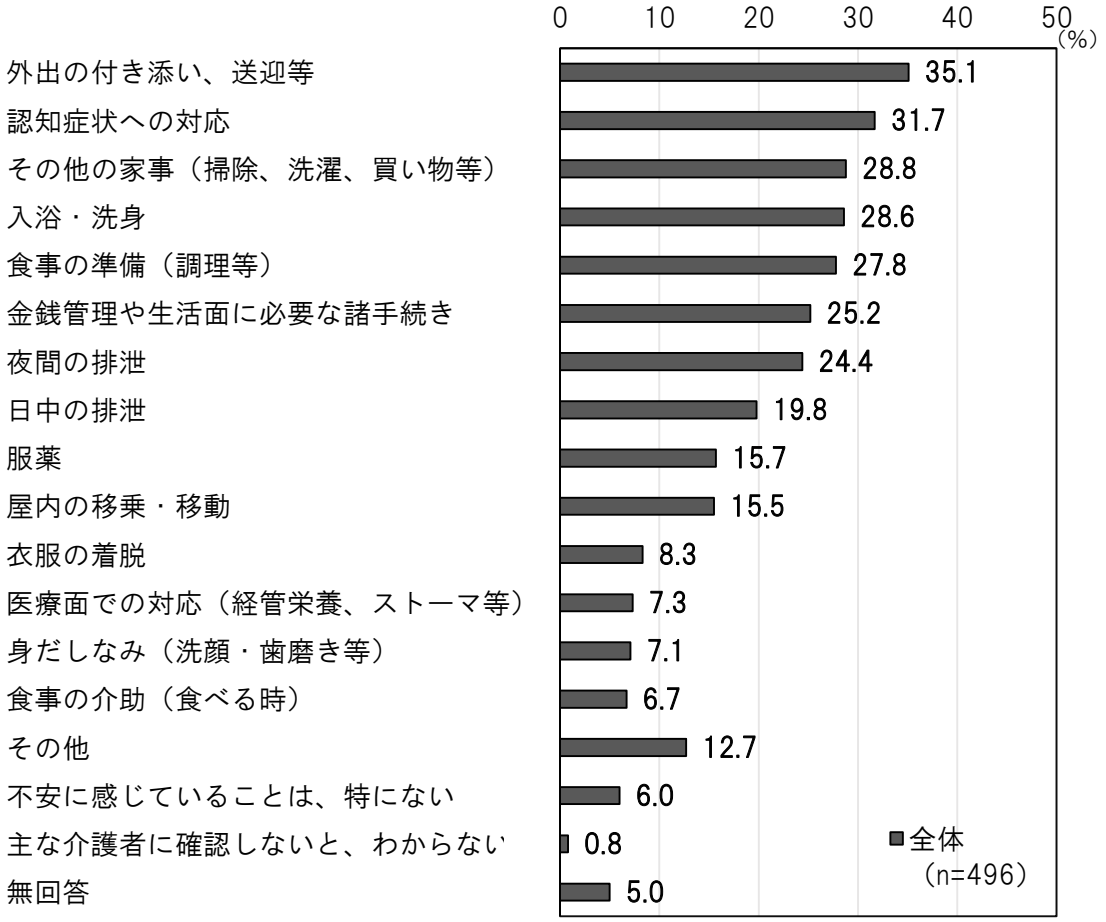
・主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 78.8%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（68.1%）、「外出の付き添い、送迎等」（67.3%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○ヘルパー等との連絡	○健康管理
○見守り	○情緒面での支持　等

（6）主な介護者が不安に感じる介護

・主な介護者が不安に感じる介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が 35.1％と３割以上を占め最も高く、次いで「認知症状への対応」(31.7％)、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等)」（28.8％）となっている。

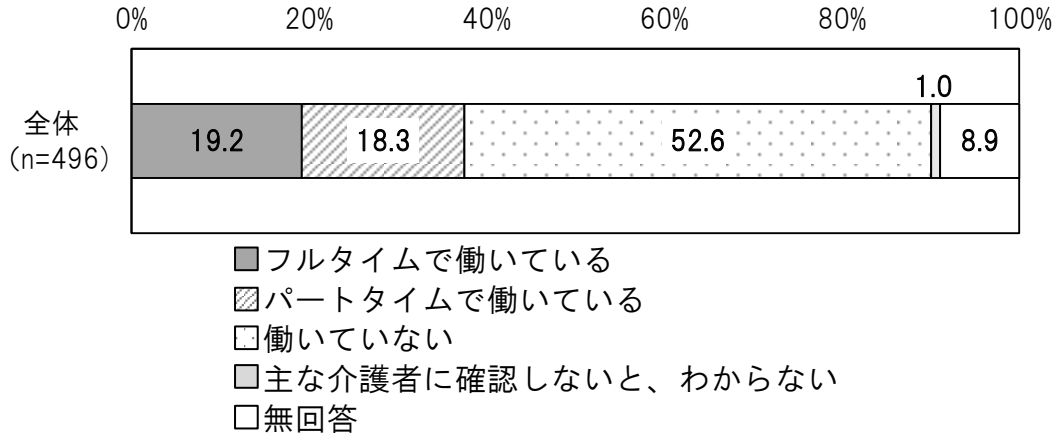


「その他」の主な回答内容	
○自分が介護できなくなった時のこと	○精神面の不安定さ
○歩けなくなること	○本人のデイサービス等の利用拒否　　等

4．主な介護者の就労について　【介護者への質問】

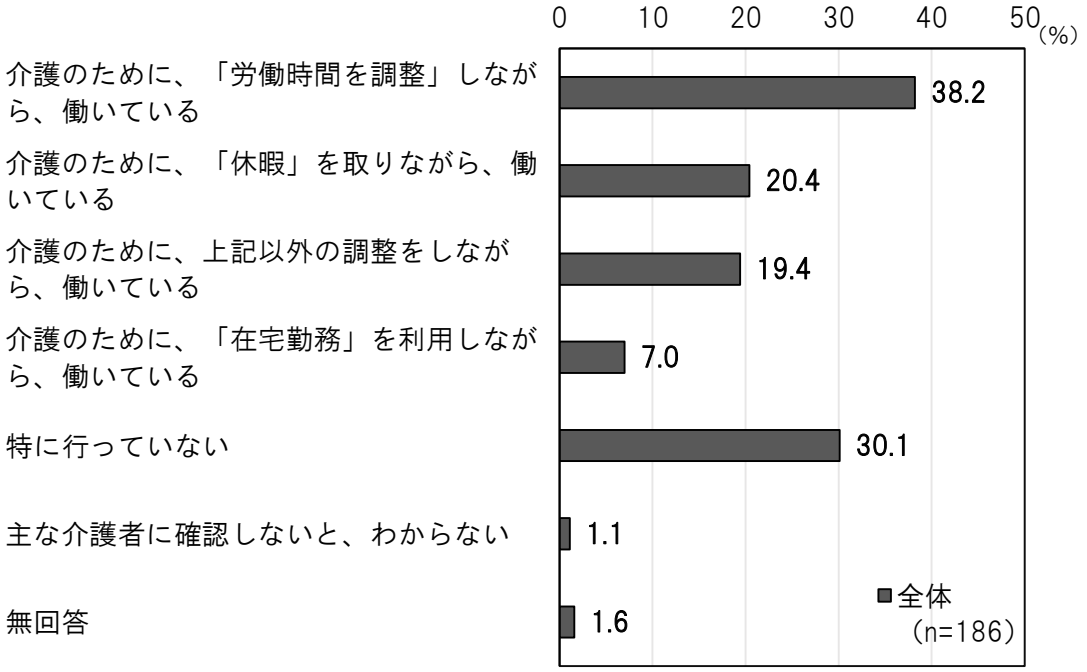
（1）主な介護者の勤務形態

・主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が 52.6％と半数以上を占め最も高くなっている。「フルタイムで働いている」・「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は 37.5％となっている。



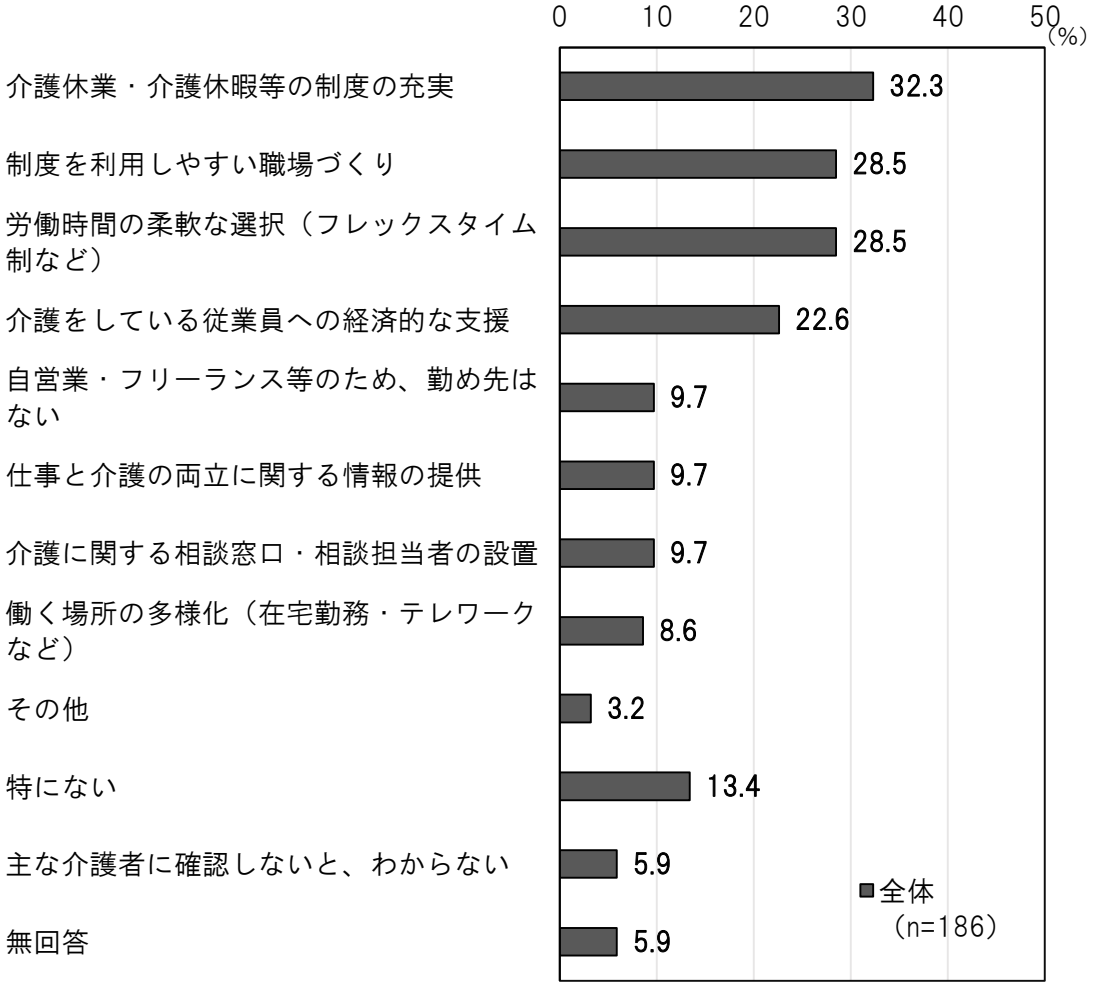
（1－①）介護のための働き方の調整　※（1）で『働いている』と回答した方のみ

・介護のために働き方の調整をしているかについては、「介護のために「労働時間を調整」しながら働いている」が 38.2％と最も高くなっている。「特に行っていない」は３割以上となっている。



（1－②）仕事と介護の両立のために望む勤め先からの支援　※（1）で『働いている』と回答した方のみ

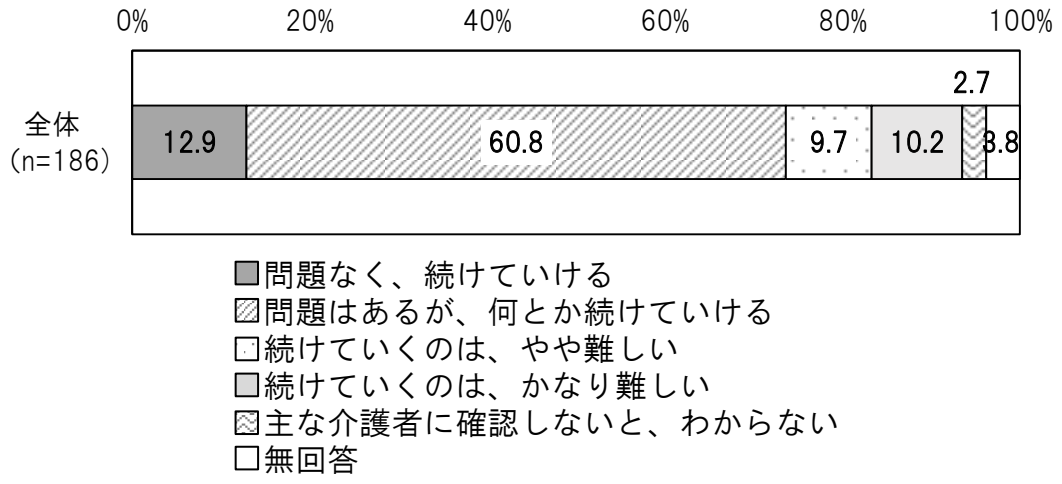
・仕事と介護の両立のために望む勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 32.3%と３割以上を占め最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」（28.5%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（28.5%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（22.6%）となっている。



「その他」の主な回答内容	
○介護サービスの内容の充実	○周りの人の理解　等

（1－③）今後の仕事と介護の両立に関する継続意向　※（1）で『働いている』と回答した方のみ

・今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が60.8％と６割以上となっている。「続けていくのは、やや難しい」・「続けていくのはかなり難しい」を合わせた『難しい』と感じている人の割合は19.9％と２割近くとなっている。



Ⅳ　関係団体等意向調査　調査結果

1．活動地域において特に課題・問題となっていること・支援を必要とすること、求められる取組みについて

（1）高齢者の社会参加や生きがいづくりについて

主な意見
○高齢者の生きがいについては、「趣味・スポーツ活動」、「多様な立場の人との交流の場」、「高齢者自身が活躍できる場」といった意見が多くなっています。 ○一方で社会参加・生きがいづくりの問題については、「活動の参加者が固定化している」、「交流・活動参加にあたっての移動手段がない」、「コロナ禍における活動の制限」、「活動の担い手の高齢化」などが多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶様々な活動への参加は、生きがいづくり、そして介護予防にもつながることの啓発を図り、活動への参加を促進するとともに、参加しやすい環境づくりについても検討していく必要があります。 ▶また、新型コロナウイルス感染症対策により、活動方法・コミュニケーションの取り方についても新しい観点での見直しや工夫が必要となってきます。 ▶高齢化が進み、今後活動の担い手不足が深刻化することが予測されます。生きがいづくりの観点からも、元気な高齢者が活躍できる場を作れるよう、人材バンクのような仕組みづくりも検討していく必要があります。

（具体的な意見）

○現状・問題	○求められる取り組み
・閉じこもり傾向にある高齢者の割合がやや高い ・生きがいがあると回答した高齢者の割合がやや低い ・要支援・要介護認定率が高く、将来、認定者数が大幅に増加する見込み ・健康ではないが、介護保険適用に至らない層の増加 ・参加者の固定化 ・活動に全く参加しない方（ひとり暮らし男性など）の参加促進方法が分からない ・コロナ禍における活動、コミュニケーションの取り方が困難 ・活動者の高齢化による世代交代が困難 ・カフェ・サロンへの若い世代の参画がない ・コロナ禍による生活の楽しみの縮小、心身機能の低下・うつ病・認知症の増加 ・気軽に集える場所がない、場所が狭い ・地域デビューのきっかけがない ・社会参加が介護予防に繋がることの認識不足	・外に出る機会、会話をする機会を増やすこと ・趣味活動・グループ活動、サロンの内容の充実及び物的・人的支援 ・居場所・交流の場への移動手段の確保 ・特技を生かせる場の提供、人材バンクのような仕組みづくり ・世代間交流の促進 ・生きがいづくりの場を住民主体でつくる ・高齢者であっても ICT 環境の整備に適応できるようにする（ICT 導入講座などの実施） ・SNS 等を使った情報発信、SNS が活用できる人の参画 ・近所の人や知人への個別の誘いが必要 ・継続しての福祉委員等（無償ボランティア）の確保 ・運営に携わるボランティアの確保 ・既存の居場所や交流の場のバリアフリー化 ・活動時の専門職の参加 ・周りの人や本人の意識改革が必要

（2）介護予防の取り組みについて

主な意見
○介護予防の取り組みについて、「いきいき百歳体操・いきいき元気倶楽部の参加者は比較的多く、好評である」という意見が多く、地区によっては独自の活動を展開しているという意見もありました。 ○一方で介護予防の取り組みの問題については、「福祉講座や認知症予防活動（脳活）等への参加者が少ない」、「介護予防への無関心層への働きかけが必要」、「活動場所への移動手段の確保」、「活動のお世話係の不足」といった意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶いきいき百歳体操等は好評で参加者も多い一方、福祉講座や認知症予防の取り組みへの参加者が少なくなっています。認知症をはじめ、介護予防の取り組みについて、その重要性を理解してもらうための啓発が必要です。 ▶また、参加したい人が安心して参加できるよう、活動場所への移動手段の確保や開催場所・開催方法の検討も行っていく必要があります。 ▶介護予防活動の運営にあたって、人的・金銭的・用具提供といった整備・拡充が必要です。

（具体的な意見）

○現状・問題	○求められる取り組み
・要支援から自立を目指すために利用者が選択できるだけの社会資源が整っていない ・いきいき元気倶楽部の参加者は多いが、地域で１カ所のため周知ができていない ・健幸マイレージ・いきいき元気倶楽部・いきいき百歳体操は好評 ・自主的にラジオ体操を行う場がある ・認知症予防の取り組み（脳活）について、参加者が少ない ・福祉健康講座、いきいきクラブなど開催しているが、年々参加者が減少している ・介護講座・認知症カフェを実施しているが参加者が少ない ・介護予防ケアマネジメント需要の増加により、包括的支援事業・一般介護予防事業がおろそかになっている ・前期高齢者を中心とした無関心層への働きかけができていない ・一般介護予防事業の５事業について目的を理解して実施できていない、地域支援事業と連動して実施できていない ・自治会単位の拠点不足 ・コロナの為、高齢者が外出できない ・事業運営にあたってのスタッフ・世話人の不足	・いきいき元気倶楽部・いきいき百歳体操の継続 ・運動型デイ以上一般ジム未満のレベルの運動・集まりの場づくり ・コロナ禍をふまえた新たな介護予防の提案 ・自主運営に繋がる介護予防教室 ・要支援状態・認知症のある人も安心して参加できる場づくり、会の運営 ・認知所の理解を深めるための講座の実施 ・キャラバンメイト活動の推進 ・映像を見ての参加ではなく体験型の参加 ・総合事業の現行担当事業以外の事業制度、仕組みの整備 ・ケアプランから「通いの場」へ移行する連動性あるシステムの整備 ・健康づくり・認知症予防を意識した啓発 ・福祉委員会の活用、地域包括ケアシステムにおける位置づけの理解・認識を進める ・活動にあたって、人的・金銭的・用具提供などの整備・拡充 ・訪問医療をしてくれる医療機関が各地に必要 ・居場所までの移動手段の確保 ・コロナ対策に必要な広い場所の確保 ・地域包括支援センターとの連携 ・若い社会福祉の専門家を育てる

（3）保健・医療・健康について

主な意見
○保健・医療・健康の現状については、「在宅医療への関心が高い」、「健幸マイレージ等への参加啓発を行っている」という意見が多くなっています。 ○一方で保健・医療・健康の問題については、「かかりつけ医による判断で主治医意見書を書いてもらえない、介護認定は受けない、などの個別ケースへの対応が困難」や「単身高齢者・閉じこもり高齢者の孤立化」といった意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶現行の健幸マイレージ等を活用した健康寿命延伸活動が引き続き重要です。 ▶単身高齢者や閉じこもり高齢者が安心して集える場づくり、活動への参加促進が必要です。 ▶また、地域ケア会議をはじめとした各関係機関等の連携による地域課題への対応も充実させていく必要があります。

（具体的な意見）

○現状・問題	○求められる取り組み
・かかりつけ医の判断で、介護保険の対象でないため、主治医意見書を書けないと断られるケースが少なくない ・地域の中に入っての実態把握ができていない ・かかりつけ医がいない、介護認定は受けないといった個別ケースがあり、状態悪化を招いている ・精神疾患の高齢者への支援が困難であり、近隣トラブルも解決に至らない事例がある ・保健事業と介護保険事業が別々に同じ内容の事について取り組んでいる ・医療介護従事者不足 ・生活困窮世帯など、経済的理由で病院への受診を控える傾向がある ・夏のエアコン使用について、節約して使用を控える場合がある ・在宅医療については関心が高い ・在宅医療・介護施設等の存在や活用方法が十分に周知されていない ・健康講座の開催、健幸マイレージ等への参加啓発を行っている ・まちの保健室が市保健センターと看護師協会で二重に行っている ・認知症予防対策の推進として、講座の開催、特定健診の受講の促進、自分の健康に目を向ける対策を講じている ・病院移転に伴う医療体制の不安	・介護認定を受けていない方の中で、介護リスクが高い人へのアプローチが必要 ・健康への関心を高める働きかけが必要 ・本人、家族の介護に対する意識改革が必要 ・閉じこもりがちな人の社会参加の促進、安心して集える場づくり ・各人の日頃の健康づくり、趣味活動などによって健康寿命を伸ばす取り組みの促進 ・「健幸マイレージ」の一層の促進 ・保健師と連携した健康づくりの事業推進 ・保健事業と介護保険事業を連動させ「介護予防」「健康増進」についての取り組みを効果的に実施すること ・単身高齢者かつ要支援の方が安心して通院できる体制・支援が必要（タクシー利用、付き添いサービス） ・地域包括支援センターやケアマネジャー、地域の民生委員、行政なども含め PR やきめ細かい対応が必要（合同での情報交換、ケア会議なども新設・改革検討） ・医療講演会の実施、充実 ・整形外科やリハビリ科の設置 ・まちの保健室の開催数の増加 ・地域包括ケアシステムの構築（第１層及び第２層生活支援コーディネーターの連携） ・在宅医療体制の充実 ・医療機関の充実

（4）生活支援・福祉サービスについて

主な意見
○生活支援・福祉サービスの問題については、「担い手の高齢化」、「地域のつながりの希薄化による孤立化」、「生活支援コーディネーターが少ない」といった意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶担い手の不足・高齢化に対し、担い手になるための動機づけの検討（有償ボランティアの導入等）を行っていく必要があります。 ▶併せて、ボランティアについての積極的な PR や、支え合う関係づくりの構築に向けた意識啓発も必要です。 ▶また、単体の活動では対応しきれない事例については、関係機関と情報を共有し連携するなど、地域全体で支えていく体制づくりが重要です。

（具体的な意見）

○現状・問題	○求められる取り組み
・緊急通報システムについて、固定電話回線がないと使えない、ボタンを押さないと使えないなど、認知症の方の SOS 発信に問題がある、セコムの GPS も実用性に乏しい ・移送サービスはあるが、台数制限により思うように利用できない ・生活支援コーディネーターが少ない ・担い手の高齢化、若い世代への引継ぎができていない ・団塊の世代の地域への興味が薄い、地域デビューを行うきっかけができにくい ・体に負担のかかるゴミ当番などができない ・ボランティアグループはあるが、高齢化により内容が限られる ・買物代行などの活動ができていない ・ゴミ屋敷と思われる住宅の解決のための支援が困難、協力が得られない ・「自助」の弱まりが「互助」「共助」「公助」を圧迫している ・地域を構成する一員である商店・民間企業が協議体に入っていない ・自治会加入率が低い、住民間のつながりが弱い、孤立しがちな人が多い ・ボランティアへの依頼が少ない ・各自治会に出向いて、地域での課題点を吸い上げ、福祉活動の参考にしている ・様々なサービスがあるが、単発での実施が現状 ・日常生活支援事業の利用率が低い	・緊急通報システムをはじめとした福祉サービスについて、時代に合った機器の活用 ・買物や通院の為の移送支援 ・若年性認知症の方の居場所 ・高齢で元気な方の状態を維持させること ・担い手になる動機づけについての検討 ・有償ボランティアの発足 ・ボランティアの積極的な PR が必要 ・より身近な町・丁目・自治会ごとの近隣住民同士、ボランティアグループなどによる支援のしくみづくりが必要 ・対応できない問題を他の機関へ繋ぐ、紹介するという機能が重要 ・後退気味の介護保険サービスの維持、向上が必要 ・支え、支えられる関係づくりに向けて、住民の意識変容が必要 ・様々なつながり団体における「互助活動」の意識化、取り組みの推進 ・各種福祉サービスについて、類似した内容のサービスの一元化 ・各種福祉施設のサービスの違い、活用法の周知 ・各関係機関との連携、情報共有 ・介護が必要になる前の情報提供と相談体制の充実 ・介護認定者以外の日常的生活支援の充実 ・デイサービスの利用時間の検討 ・生活困窮者への経済的な支援

（5）その他

主な意見
○その他意見では、「認知症への理解不足」や「介護者のストレス」といった認知症関連の問題や、「災害時の支援体制の確立ができていない」、「避難場所の整備不足」といった災害時の問題が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶認知症の方への支援の一層の充実に併せて、市民に対する認知症の正しい理解の啓発、介護者が相談しあえる場の設置が必要です。 ▶併せて、災害時の支援体制づくり、避難場所の整備を行っていく必要があります。また、災害時だけでなく、日頃からの備えや見守り体制の構築などの重要性についても啓発していく必要があります。

（具体的な意見）

○現状・問題	○求められる取り組み
・市内の要支援以下の軽度者向けのサ高住や施設、生活保護者の施設は現状、受け入れができていない ・コミュニティからの自治会の脱退や自治会の解散等により、孤立してしまう高齢者の増加 ・家族関係の希薄化・支援者不在 ・若年性認知症の方が高齢者の多いデイにも地域にもなじめなく、家族しか対応できない課題 ・認知症における本人視点の施策ができていない ・認知症をネガティブにとらえられている状態を拭うことが出来ていない ・キャラバンメイトの高齢化 ・認知症の方を介護する介護者が様々なストレスを抱えている、高齢者虐待の要因となることがある ・「認知症ケアネット」の利用が浸透していない ・認知症関連の研修等への参加者が固定化している ・坂が多く、身体が弱ると外に出られなくなる ・空き家の増加 ・災害時の避難行動への支援体制の確立と共有化が出来ていない ・水害については、避難する場所が整備されていない ・コロナウイルス感染拡大防止のため、活動自粛していたが、サロン会再開の声が多く寄せられ、重要性を再認識した ・「成年後見制度」の利用促進を掲げているが低迷している	・若い世代への普及（認知症高齢者への理解や担い手づくり） ・依存症の方への理解や支援策 ・権利意識の強い方への対応 ・「認知症ポジティブ」といった新しい考え方を元に本人の声を聞いて施策に反映させていく流れを意識した取り組み ・認知症の啓発活動を行っていくメンバーを多世代で再構成し、市民の全体的な取り組みにしていく ・認知症の方を介護する介護者のストレスや思いを吐き出す場や同じ境遇の者同士が集える機会や場を設ける ・単身世帯や認知症の方への見守り、緊急時の連絡支援 ・災害時における要支援者の安否確認や避難行動 ・認知症に係る地域活動における役割の整備が必要 ・地域包括やケアマネとの情報共有や情報交換が必要 ・安心して生活ができると共に外出の機会を増やす ・移動手段の方法や買物支援 ・企業、商店等の連携 ・多様な情報発信媒体の活用（SNS の利用） ・高齢者の新型コロナウイルス感染予防 ・新型コロナウイルスによる生活様式の変化への対応 ・成年後見制度の周知

２．１の課題等について、団体で今後取り組みたいと考えていること

主な意見
○団体で今後取り組みたいことについては、「福祉委員会や民生委員児童委員等をはじめとした関係機関との連携の強化」、「実施している事業内容の充実」、「幅広い方に参加してもらうための広報の充実」、「担い手の発掘」、「小地域での活動の実施・充実」といった意見が多くなっています。 ○また、団体によっては既に有償ボランティアの取り組みを実施しているといった意見もありました。

（具体的な意見）

○必要な取り組み、取り組んでいきたいこと
・送迎者や付添者等の移送支援が必要、支援者・要支援者の把握 ・空き家、ゴミ屋敷等、他者に被害が出ている状態に対する行政の介入 ・社会資源の発掘と連携によるネットワークづくり ・参加している方から支援者になってくれる人の発掘 ・福祉委員会や民生児童委員、コミュニティとの連携の強化 ・公的機関以外の社会資源の理解と協力、積極的なつながりを持って資源開発を進めていく ・地域ケア会議や担当圏域の地域ケア推進会議をできるだけ開催する ・自主運営できる交流の場、きっかけづくりのお手伝い ・認知症カフェ、福祉委員主催のカフェ、居場所への支援 ・誰もが負担なく参加できる地域活動について検討 ・地域でのふれあいを楽しめる場や機会を作り上げていきたい ・参加者を増やすための開催内容の見直し ・地域の通いやすい場所での介護予防事業の開催、内容の充実 ・小地域でのつながりづくり、見守り、居場所づくり、支え合い活動の推進 ・小地区単位での居場所の開設、複数の居場所づくり、交流できる場 ・既に取り組んでいるサロン・喫茶のより一層の充実 ・サロンに併設しているふれあい相談、出張喫茶の充実 ・オンラインを利用した交流 ・一般介護予防の PR 広報の配布・支援者の募集 ・できるだけ幅広い人の参加の促進 ・広報等を通じた情報発信、各団体との情報共有 ・担当圏域の日常生活を把握するためのアンケートの実施（年１回） ・認知症対策として、チェックシート使用のきめ細やかな調査活動の模索 ・支援が必要な人の増加の伸びを抑える取り組みも検討していく ・認知症の正しい知識に関する啓発、本人視点の重要性の確認、取り組み内容の充実 ・認知症ケアネットの啓発、利用方法の検討 ・認知症介護教室の実施、認知症発症遅延に対する事業の実施 ・災害時要支援者の安否確認、認知症行方不明の際の探索支援 ・災害時要支援者の対象を日中独居の方まで広げる ・地域に密着した有償ボランティア活動 ・生活支援ボランティアの利用料と活動費の見直し ・安心して来ることが出来る環境づくり（コロナ対策等）と仲間づくり ・新型コロナウイルスに関する情報提供と感染対策方法を伝える

3．地域の課題について、特に行政の支援が必要だと感じること

主な意見
○行政の支援が必要だと感じることについては「移動支援の確保」、「地域活動支援者等への報酬などの助成金支援」、「生活支援コーディネーター等の人員不足に対する支援、育成支援」、「市の管理施設や空き家の有効利用などといった福祉活動を行う施設の支援」、「地元交番など諸機関との連携、協議の場の設定」などの意見が多くなっています。

（具体的な意見）

○必要な支援

・総合事業の「訪問型サービス D」を活用する等、送迎者や付添者等の移動支援が必要
・不便な地域と街をつなぐ手段の拡充（循環バス、のりあいタクシー等）
・少しでも社会参加をしたいと思っている高齢者が参加しやすいきっかけづくり
・福祉サービスの見直し、日常生活支援事業の拡大
・いきいき百歳体操の検討（DVD 個人配布を増やすなど）
・若年性認知症対応型デイサービスの立ち上げ
・行政も巡回して社会参加事業等の状況を把握してほしい
・地域包括ケアシステム構築の必要性について説明会の定期開催
・地域の生活は「我が事」で考えないといけないという意識啓発
・住民による介護予防活動運営への助成金の検討
・認知症サポーター講座で使用するテキスト等を市で購入する
・地域での助け合い事業など、支え手に報酬の設定をするなど、支え手の人材育成の費用助成
・介護予防サポーターや生活援助のできるヘルパー育成システムの本格的な実施
・ケアマネジャーの資質向上、育成システムの実施
・市社協への支援（コミュニティワーカー、生活支援コーディネーターの増員）
・第１層生活支援コーディネーターの育成
・第２層協議体のコーディネーター、コミュニティワーカー等をはじめとした人員不足課題への対応
・民生委員の担当範囲が広すぎること、担い手不足への対策
・地域で行う取り組みのリーダー養成
・生活支援コーディネーターにリーダーシップをとってほしい、生活支援コーディネーターの増員
・各課題に対して、行政主導で解決に向けて具体的なノウハウの指導をしてほしい
・精神疾患の高齢者支援について、警察との連携や医療等のサポート体制の指導
・地元交番を交えた協議の場の設定
・コロナ感染者の受け入れ施設を指定して対応できるような準備
・居場所の確保に向けた市の管理施設の有効利用
・福祉事業をやる中で、参加者に対し場所が狭い、現状を見て欲しい
・福祉活動を行う施設が必要、一層のハード面の支援をお願いしたい、空き家の有効活用
・避難行動要支援者支援名簿の整備
・地域活動拠点への支援（高熱水費他基本的な経費の補助、継続）
・市担当職員の現在取り組んでいる地区福祉委員会活動への関心と理解の促進
・自治会など自主的な地域活動組織へのバックアップ（加入促進、加入者へのメリット付加、地域活動者への恩恵付加）
・行政からの情報発信が十分でない、できる限りの発信をお願いしたい
・医療体制の充実

4．10 年後をイメージした時に地域の状況や団体活動において、特に大きな問題になると思われること

主な意見
○10 年後をイメージした時の地域の状況や団体活動において、特に大きな問題になると思われることについては、高齢化が進むことによる「認定者の増加」、「一人暮らし世帯、老々介護・認認介護世帯の増加」、「空き家の増加」、「地域活動・介護施設・ボランティア等、様々な機関での担い手の不足」、「担い手の不足による介護難民の増加」、「地域のつながり不足による孤立死の増加」といった意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶高齢化が進み、一人暮らし世帯、老々介護・認認介護世帯が増加すると予測される一方で、地域活動や介護事業所においても高齢化が進み担い手が不足することによる介護難民や孤立死の増加が懸念されています。 ▶国民の 4 人に 1 人が 75 歳以上になる 2025 年、団塊ジュニア世代が 65 歳以上となる 2040 年を見据え、介護予防活動・地域活動への参加促進、地域活動の担い手育成、連携・見守り体制づくり等に関する取り組みを推進していくことが重要です。

（具体的な意見）

○大きな問題になると思われること
・要支援・介護認定率高く、将来的に認定者が大幅に増加する見込み ・担い手の高齢化、地域活動の縮小 ・独居高齢者、認知症の増加 ・高齢者世帯の増加、空き家の増加 ・居宅 CM 等介護施設職員不足、介護保険サービス事業所の減少による介護難民の増加 ・8050 問題（他機関への連携場所問題・社協か保健所かなど） ・介護保険利用者の増加 ・坂の上の難民の増加 ・ゴミが出せない高齢者の増加、引きこもり親子の高齢化 ・老々介護・認認介護世帯の増加 ・孤立死の増加 ・近所づきあい、支え合いなど地域福祉活動への無関心層の増加 ・ボランティアも有償でなければならない、コミュニティビジネスの時代が来る ・出生率の減少 ・就労の場がなく、子どもたちが出ていってしまう ・移動手段の減少 ・「買物難民」「医療難民」「IT 難民」の増加

5．地域で支援が必要な方を把握する方法や、把握した情報の共有方法についての問題

主な意見
○支援が必要な方の把握方法については、「民生委員等からの情報提供による把握」、「見守り活動等による把握」、「サロン活動や相談窓口での相談内容による把握」といった意見が多くなっています。 ○一方で把握した情報の共有の問題については、「民生委員が欠員している地域の情報把握が困難」、「民生委員が共有した情報が一方通行であり、その後の対応等の情報は共有されない」、「個人情報保護の観点により情報の共有が難しい」といった意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶民生委員をはじめ、情報の把握は一定の方法でできているものの、そこから対応した結果の情報共有がされていないため、各機関との連携体制がうまく取れていないといった課題が見受けられます。 ▶切れ目のない支援のための仕組みづくりに向けて地域ケア会議等を一層充実させていく必要があります。

（具体的な意見）

○把握方法	○問題・必要なこと
・エリア内の居宅介護支援事業所・民生委員等との定期的な交流会、介護予防教室等から地域で支援が必要な方を把握している ・把握した情報の共有方法としては、個別地域ケア会議の開催が有効的 ・病院、薬局等医療機関からの情報 ・支援が必要な方の把握先で多いのは、市や病院以外では民生委員が多い ・民生児童委員の活動、各自治会長・老人会からの情報 ・見守り情報、相談窓口への来訪相談 ・見守り活動などによる情報の把握 ・サロンなどに参加していた方がいない時、知人を通じて調べる ・居場所での話の中から困ったことを受け止める ・近隣の方との交流を深める ・住民からの相談 ・民間機関、商店からの情報 ・自治会の地区幹事の活用 ・65 歳以上の独居高齢者をきんたくん名簿で確認しつつ、地域の福祉委員、協力委員等からあがってくる情報を確認し、民生委員で処理が難しい場合は地域包括と連携しながら解決している	・地域ケア推進会議兼第１層協議体の充実 ・民生委員が欠員している地域は情報把握が難しい ・災害時の要支援者の対応がいまひとつ整理できていない、災害時に様々な機関からバラバラに連絡が入ることがあった ・個人情報保護により情報の共有が難しい、課題を抱えた方について一定のルールで共有できるようにしてほしい ・個人情報保護と情報共有の間の壁がある ・地域の各団体が連携できる仕組みが必要 ・福祉委員の人には情報を伝えてほしい ・民生委員を含む福祉委員と包括職員との間で十分に共有されない、依頼後も連絡がなく一方的な関係になっている、見守り活動・訪問活動に支障がでるため結果だけでも報告してほしい ・民生委員を除く福祉委員やコミュニティ委員には守秘義務がなく、プライバシーの保護の観点から調査は無理、市行政で調査を実施されるのが良いのではないか ・自治会長が単年で変わる地域があり、自治会の中での情報共有が難しい ・独居男性の対応が難しい

6．支援が必要な人を発見した場合の、地域内での連携や関係機関のつなぎにおける問題

主な意見
○地域内での連携や関係機関のつなぎにおける問題については、「各機関の役割分担が明確でなく、どこにつないでよいか分からない」、「各機関の人員不足」などの意見が多くなっています。
主な意見からみられる課題
▶今後高齢者が増加し、支援内容も複合化・複雑化することが予測されます。各機関の役割分担の明確化に加え、相互連携体制の充実を図っていくことが必要です。 ▶また、複合的な課題のケースに対応できるよう研修などを行い、対応力を向上させていく必要があります。

（具体的な意見）

○問題・必要なこと

・今後、認知症に起因して行方不明になるケースの増加が見込まれることから、見守り登録希望者について、ご本人を支援するための人的・物的（GPS・ステッカー等）ネットワークを構築していくことが必要
・「見守り登録制度」はまだまだ地域に浸透しているとはいえない
・介護保険の対象ではない 65 歳未満の相談を受けた際のつなぎ先が分からない
・役割分担が十分でなく、どこの相談が適切なのか分からない時がある
・地域包括支援センターに連絡しているが、包括の業務オーバーが心配
・地域包括支援センターにつないだ後の情報共有がない、その後の対応が難しい
・異変をキャッチした場合の対応マニュアルを作成しているが、各地区の活動レベルを揃えるため行政で統一したマニュアルがあればよい
・同行訪問での対応など増やしたい（連携の強化）
・作成した書類等についても、どのように保管、活かしていくのかの検討が必要
・個人情報の観点から、対象者に訪問の経緯が説明できず、訪問介入を拒絶されることがある
・コミュニティ・各自治会・老人会などとの連携を強化したい
・日常的に支援が必要な方は、近隣、知人の方や福祉委員など情報を共有して見守りを依頼する
・社会福祉協議会の人員的な充実
・生活支援コーディネーターの増員
・向こう三軒隣と仲良くできる環境、連携が必要
・相談員・福祉委員・安心サポーターに対し、仕組み・地域資源・傾聴などの研修が必要
・自治会への加入が減っており難しい
・もっと「助けて」と気軽に言え、手助けする環境をつくる必要がある
・大半の委員はコミュニティ、各委員会、自治会等にも所属しているため、このネット網を活用した取り組みを民生委員と考えていきたい
・地域の方が民生委員を知らない
・公的機関に頼ることが恥だと捉える高齢者がいる
・若い担い手が育ってほしい
・今後、民生委員の不足が予測されるため、色々な人が関わり、ともに考える仕組みが必要

7．次期計画に向けた要望・意見

主な意見
○次期計画に向けた要望・意見では、「高齢者が担い手になる人材バンクのような仕組みづくり」や「地域包括支援センターの業務体制・業務内容の検討」、「民生委員・福祉委員をはじめとした各関係機関との連携」といった意見が多くなっています。

（具体的な意見）

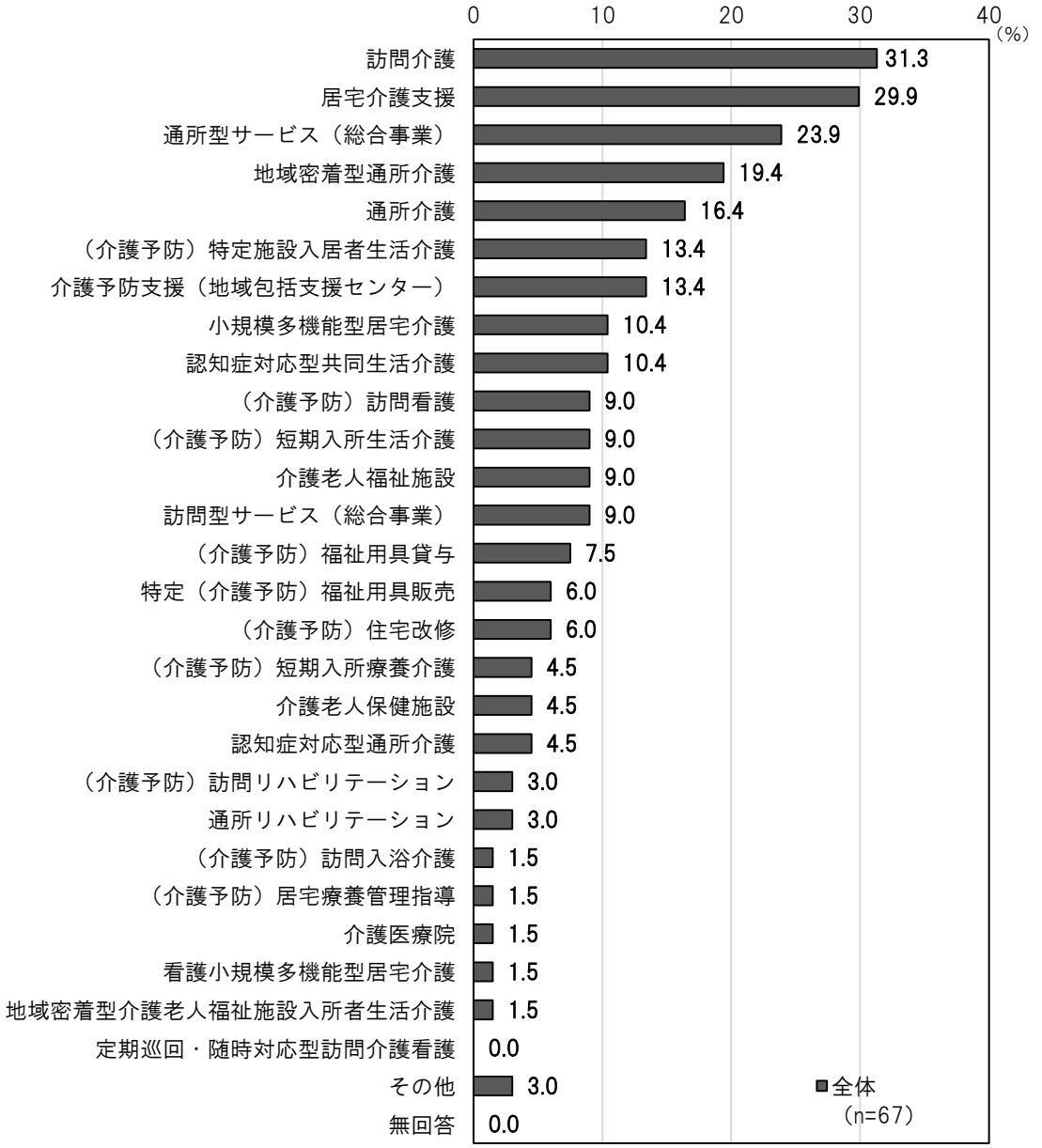
○要望・意見

・川西南地域の共同利用施設の廃止後の活動場所の確保が必要
・幼稚園の跡地をサロンとして活用しているが、制約があり使用しにくい
・高齢者が担い手になる体制づくり、社会参加や生きがいづくりにもつながる人材バンクの構築
・事業対象者の利用するサービスづくり
・地域包括支援センターは地域活動・総合相談（虐待含む）に専念する方がよいのでは
・地域包括支援センターについて、介護予防ケアマネジメントが業務全体の多くを占め、委託しなければ需要にこたえられない状況だが、委託先を見つけられていない
・委託先が困らないような報酬額の設定、予防プランで改善した場合のインセンティブ付加
・地域包括支援センターの業務体制についての検討
・同行訪問など民生委員・福祉委員がお互い協力し合い地域の見守りを行うことが必要
・民生委員と福祉委員会が連携、協力できるよう市で方針を出してほしい
・各関係機関との連携が取れるような体制づくり
・生活支援コーディネーターの増員
・第１層・第２層協議体の連携が必要
・第２層協議体コーディネーターやコミュニティワーカーが現在のような欠員状態では相互に協働しての計画を実行していくことも不可能
・いかに活動し、担い手をいかに募集するのか、活動内容も含め具体的なシステムを構築、運営する方法など知恵とともに企画立案に参加しプロとしての的確なアドバイスや情報提供が出来る体制が必要
・ケアマネ、地域包括、民生委員の会議をする
・行政の相談窓口の役割の明確化、周知により、行政や社協との円滑な連携を行える環境をお願いしたい
・行政職員も地域活動に参加し理解を広げ、行政・関係機関・地域が一体となって歩んでいけるよう計画を策定し、実行してほしい
・専門用語よりも誰でも理解できる優しい言葉で計画書の作成を
・「老々介護」、「認認介護」、「孤立化」が進む中での地域、社会のあり方、行政施策についての検討
・国の最近の地域福祉施策の最大の理念であり、目標でもある『地域共生社会づくり』を記載する
・第８期介護保険事業計画について今後の活動の進め方の参考に、福祉委員会の会員と説明を受けたい
・意向調査の時期の検討、調査時に参考資料を添付してほしい
・第７期計画の進捗状況について教えてほしい
・川西市の福祉施策について、もっとスピード感を持った対応をお願いしたい
・地区内乗り合いバスの運行（買物難民を無くす・通院の為）
・介護保険や総合事業と通いの場が連動し、重度化防止から自立支援に向かう仕組みの構築
・若い世代と高齢者が共存できるような街づくり
・地域の生活支援事業に予算をお願いしたい

Ⅴ　介護サービス事業所調査　調査結果

1．川西市内で実施しているサービス

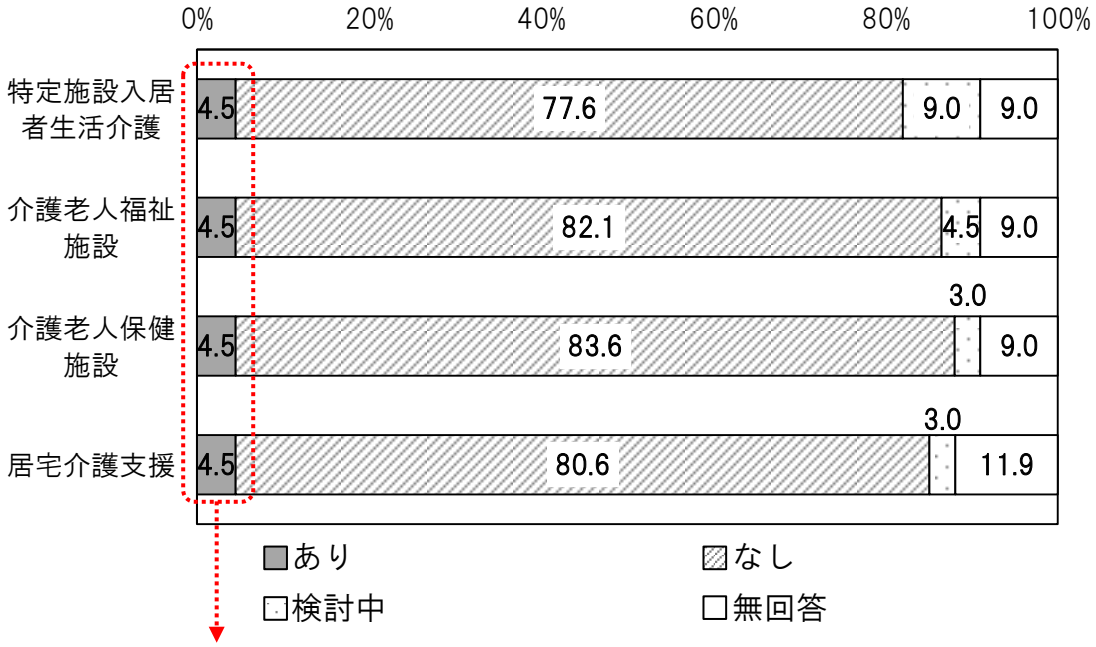
・川西市内で実施しているサービスについては、「訪問看護」が 31.3%と３割以上を占め最も高く、次いで「居宅介護支援」（29.9%）、「通所型サービス（総合事業）」（23.9%）、「地域密着型通所介護」（19.4%）となっている。



2．第８期介護保険事業計画（令和３～５年度）において、川西市内に参入意向のあるサービス

（１）施設サービス・居宅介護支援

・施設サービス・居宅介護支援については、「特定施設入居者生活介護」において、「検討中」が 9.0%と１割近くを占めているものの、「介護老人福祉施設」・「介護老人保健施設」・「居宅介護支援」には、参入意向「なし」が８割以上となっている。

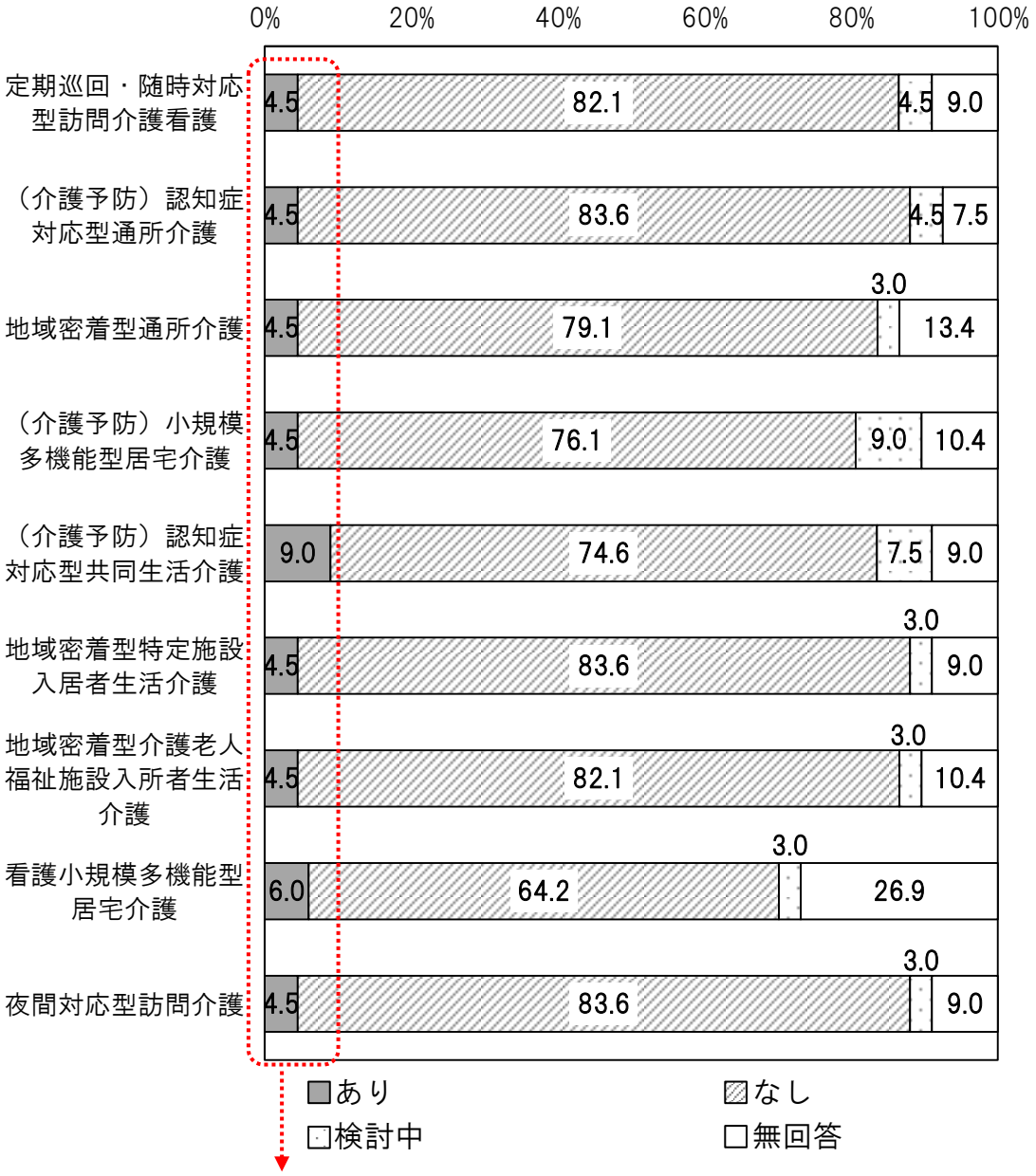


・参入意向「あり」と回答した事業の予定時期・想定規模（定員）は下記の通りとなっている。
（※回答があったものを全て掲載している）

参入意向事業	予定時期	想定規模（定員）
特定施設入所者生活介護	22 年度	40 人
介護医療院	2022 年	5 室 10 床

（２）地域密着型サービス

・地域密着型サービスについては、「(介護予防）認知症対応型共同生活介護」において、参入意向「あり」が 9.0%と１割近くを占めている。また、「(介護予防）小規模多機能型居宅介護」では、「検討中」が 9.0%と１割近くとなっている。



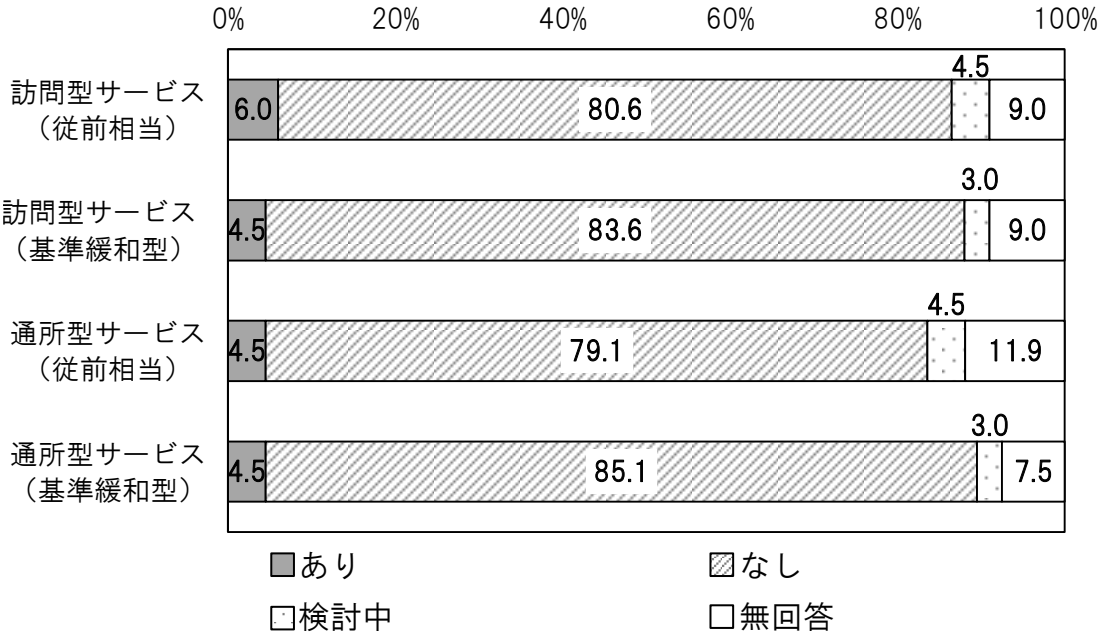
・参入意向「あり」と回答した事業の予定時期・想定規模（定員）は下記の通りとなっている。

（※回答があったものを全て掲載している）

参入意向事業	予定時期	想定規模（定員）
（介護予防）認知症対応型共同生活介護	令和４～５年度	18 人
	令和４年度	18 人
	令和４年度	18 人
看護小規模多機能型居宅介護	令和４～５年度	29 人

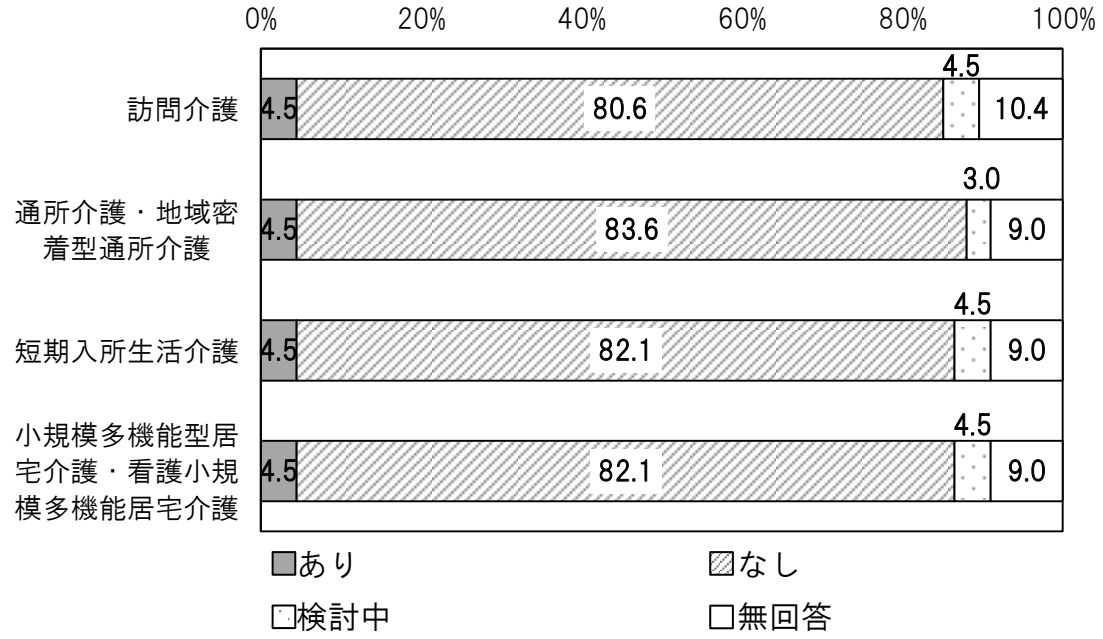
（3）介護予防・日常生活支援総合事業（基準緩和型サービス）

・介護予防・日常生活支援総合事業（基準緩和型サービス）については、「訪問型サービス（従前相当）」・「訪問型サービス（基準緩和型）」・「通所型サービス（従前相当）」・「通所型サービス（基準緩和型）」のいずれにおいても、参入意向「なし」が８割程度となっている。



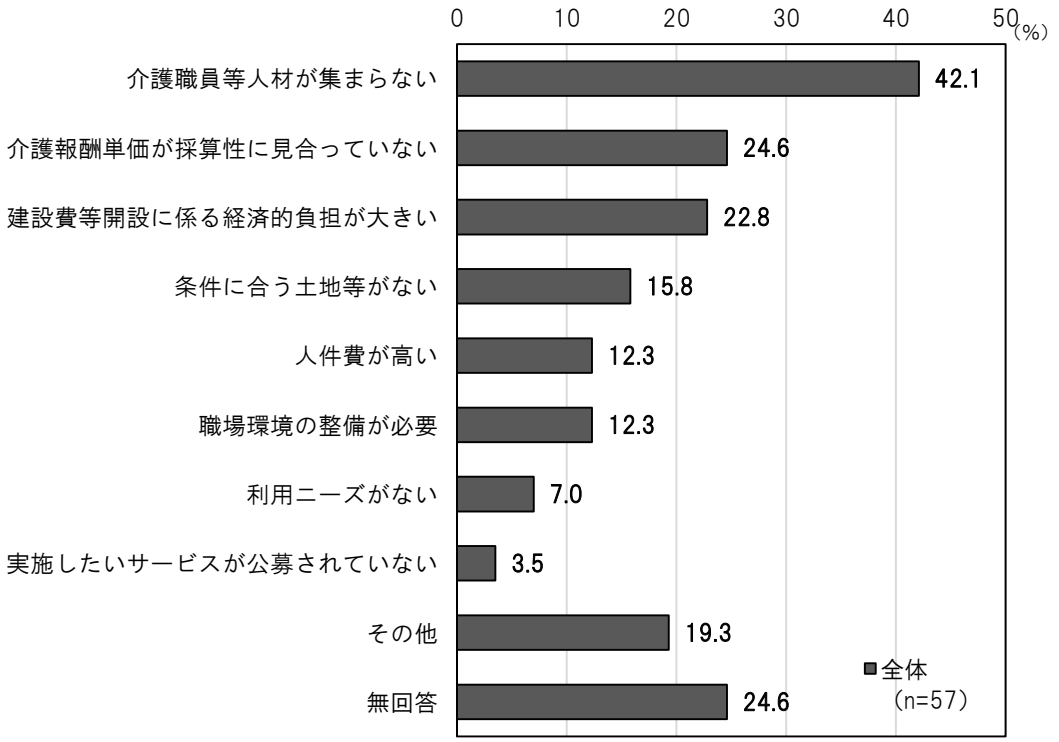
（4）共生型サービス（同一の事業所で一体的に介護保険と障害福祉のサービスを提供するもの）

・共生型サービス（同一の事業所で一体的に介護保険と障害福祉のサービスを提供するもの）については、「訪問介護」・「通所介護・地域密着型通所介護」・「短期入所生活介護」・「小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能居宅介護」のいずれにおいても、参入意向「なし」が８割以上となっている。



（5）地域密着型サービスにおいて参入意向「なし」を選択した理由

・地域密着型サービスにおいて参入意向「なし」を選択した理由については、「介護職員等人材が集まらない」が 42.1％と 4 割以上を占め最も高く、次いで、「介護報酬単価が採算性に見合っていない」（24.6％）、「建設費等開設に係る経済的負担が大きい」（22.8％）、「条件に合う土地等がない」（15.8％）となっている。

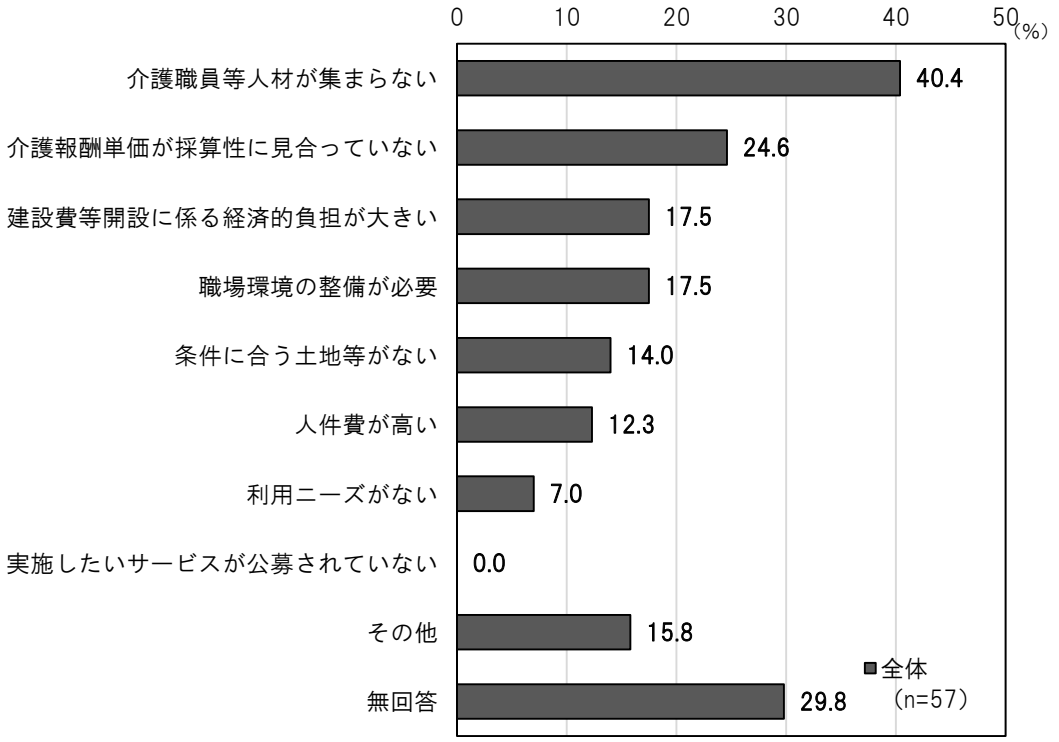


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○全く新しい形のデイサービスをしたいが、今後の介護保険制度の見通しが不透明すぎる
○新型コロナウイルス感染拡大のため
○現状の特定施設サービス付高齢者住宅の運営はしっかり継続、その他のサービス展開は現状無し
○事業所として市の委託事業のため
○本社・法人の意向
○法人内に現時点でそのような計画がなされていないため
○興味がない
○広げるつもりがない

（6）介護予防・日常生活支援総合事業において参入意向「なし」を選択した理由

・介護予防・日常生活支援総合事業において参入意向「なし」を選択した理由については、「介護職員等人材が集まらない」が 40.4％と 4 割以上を占め最も高く、次いで、「介護報酬単価が採算性に見合っていない」（24.6％）、「建設費等開設に係る経済的負担が大きい」（17.5％）、「職場環境の整備が必要」（17.5％）となっている。

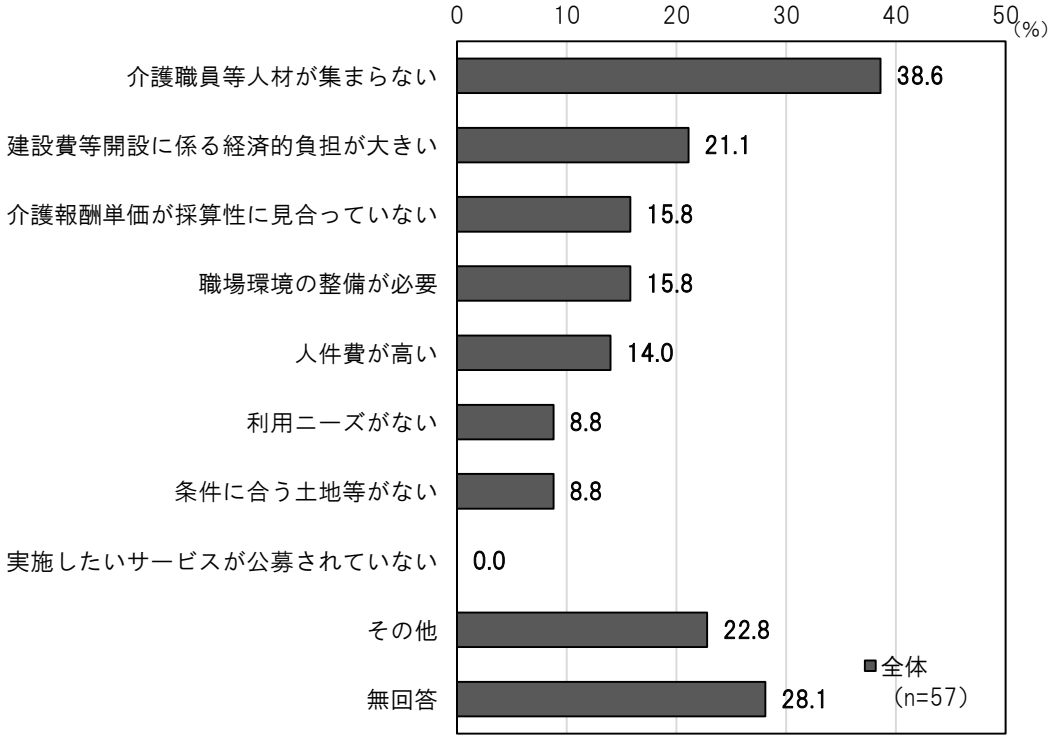


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○川西市が行っている、基準緩和型従事者研修修了者に対して、市内事業所で働いてもらう仕組みを構築するなど、自治体として介護保険制度に安定を図る仕組みがないと、今後事業所がますますしんどくなると思うから
○現状の特定施設サービス付高齢者住宅の運営はしっかり継続、その他のサービス展開は現状無し
○事業所として市の委託事業のため
○本社・法人の意向
○法人内に現時点でそのような計画がなされていないため
○興味がない
○広げるつもりがない

（7）共生型サービスにおいて参入意向「なし」を選択した理由

・共生型サービスにおいて参入意向「なし」を選択した理由については、「介護職員等人材が集まらない」が 38.6％と 4 割近くを占め最も高く、次いで、「建設費等開設に係る経済的負担が大きい」（21.1％）、「介護報酬単価が採算性に見合っていない」（15.8％）、「職場環境の整備が必要」（15.8％）となっている。

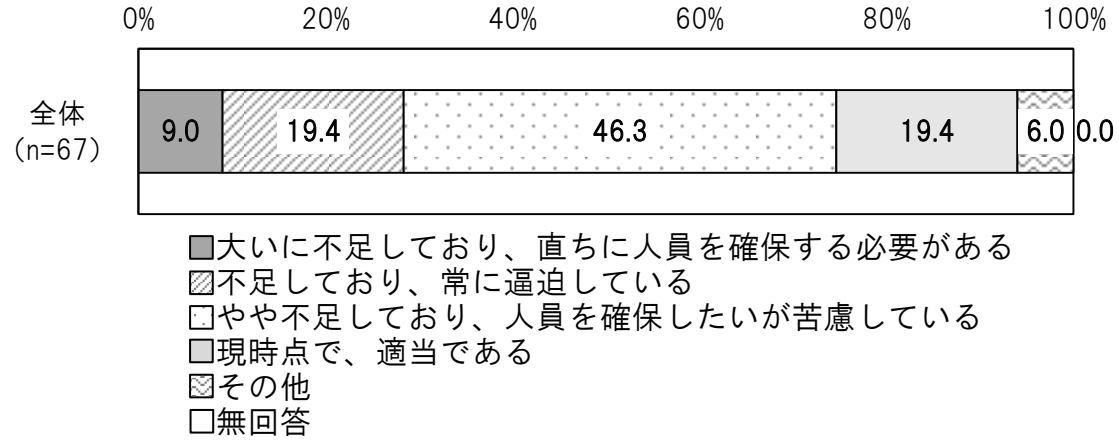


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○共生型サービスの認知度が低く、参入リスクが高いと感じる
○共生型サービスの運営実績がないため
○各々に指定を受けているため
○現状の特定施設サービス付高齢者住宅の運営はしっかり継続、その他のサービス展開は現状無し
○事業所として市の委託事業のため
○本社・法人の意向
○法人内に現時点でそのような計画がなされていないため
○興味がない
○広げるつもりがない

3．職員の配置状況について

・職員の配置状況については、「やや不足しており、人員を確保したいが苦慮している」が 46.3%と 4 割以上を占め最も高く、「大いに不足しており、直ちに人員を確保する必要がある」(9.0%)・「不足しており、常に逼迫している」(19.4%) と合わせた『不足している』割合は 74.7%と 7 割以上となっている。

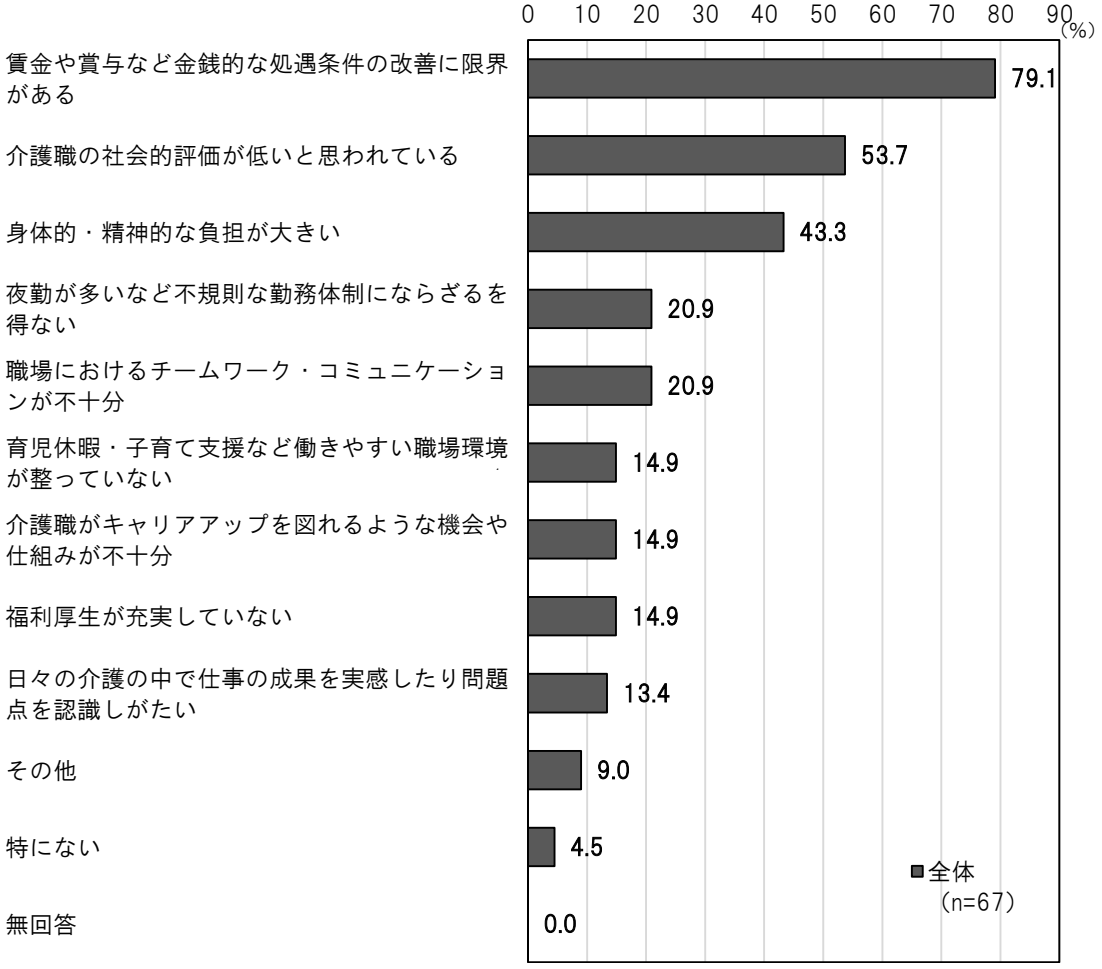


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○新型コロナウイルス感染拡大のため活動休止中
○求人募集をしても応募すらない
○紹介会社の金額が高すぎる
○やや不足しているが、人員確保のために進行中
○ほぼ適当だが、非常時に備え人員確保を続けている

4．職員の採用や離職の防止について課題と感じること

・職員の採用や離職の防止について課題と感じることについては、「賃金や賞与など金銭的な処遇条件の改善に限界がある」が 79.1％と８割近くを占め最も高く、次いで「介護職の社会的評価が低いと思われている」（53.7％）、「身体的・精神的な負担が大きい」（43.3％）、「夜勤が多いなど不規則な勤務体制にならざるを得ない」（20.9％）、「職場におけるチームワーク・コミュニケーションが不十分」（20.9％）となっている。

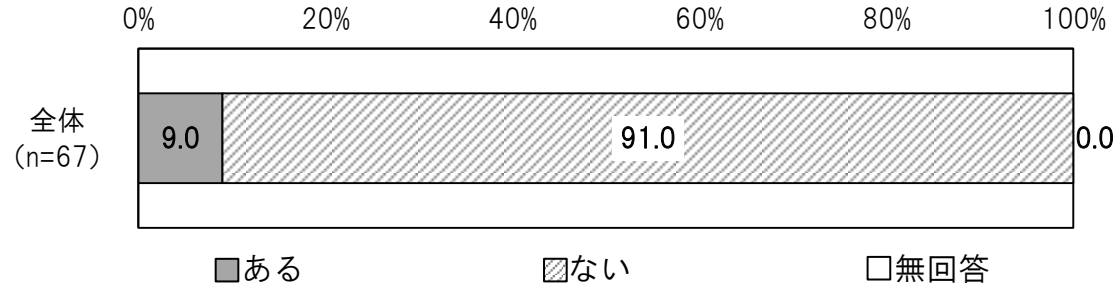


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○人手不足でオーバーワークとなり、離職するケースがある
○人手不足から新規の利用者を受け入れられなくなり、事業収益を上げることができずに、賃金を上げることができず、適正な評価をすることができない
○報酬単価が低すぎるから賃金があがらない
○介護職の社会的地位が低く求職応募者全体に高齢化がみられる
○専門職としてのスキルと意識の向上
○介護福祉士や社会福祉士が名称独占でしかないことから専門職としての評価が上がっていかない
○ハローワークから営利事業所に情報が渡るシステムに変わり、ハローワークから採用の面接相談が一切来なくなった

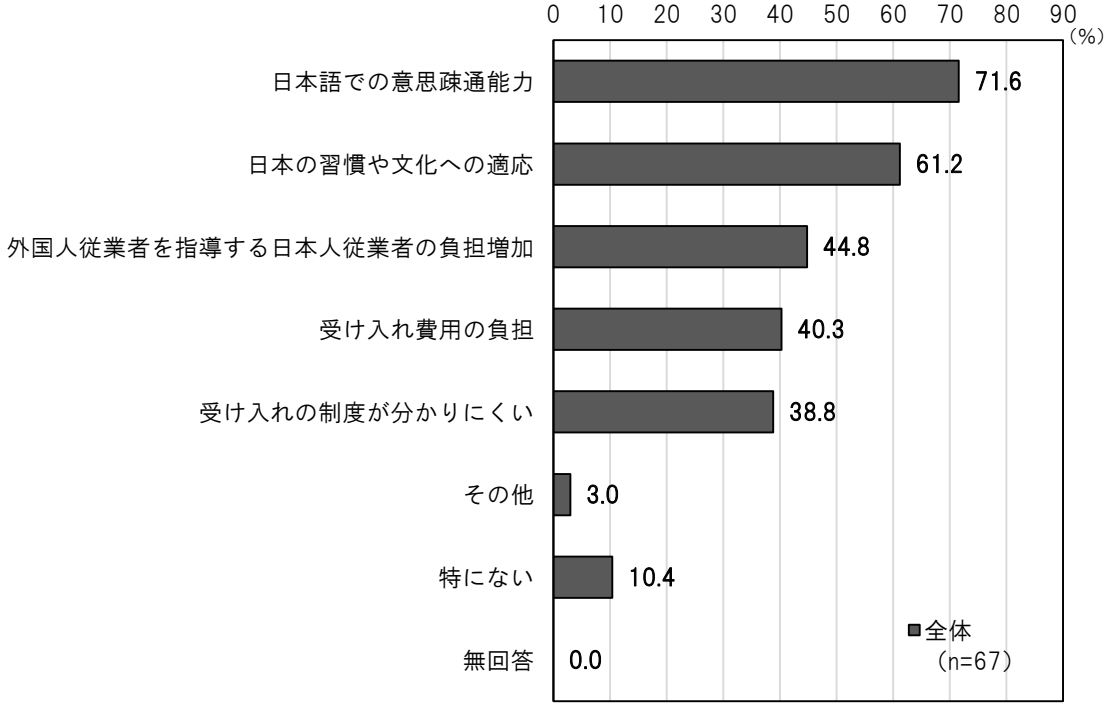
5．過去１年間の外国人介護従事者の雇用実績について

・過去１年間の外国人介護従事者の雇用実績については、「ない」が 91.0%と９割以上となっている。



6．外国人介護従事者を雇用する上での課題について

・外国人介護従事者を雇用する上での課題については、「日本語での意思疎通能力」が 71.6%と７割以上を占め最も高く、次いで「日本の習慣や文化への適応」（61.2%）、「外国人従業者を指導する日本人従業者の負担増加」（44.8%）となっている。

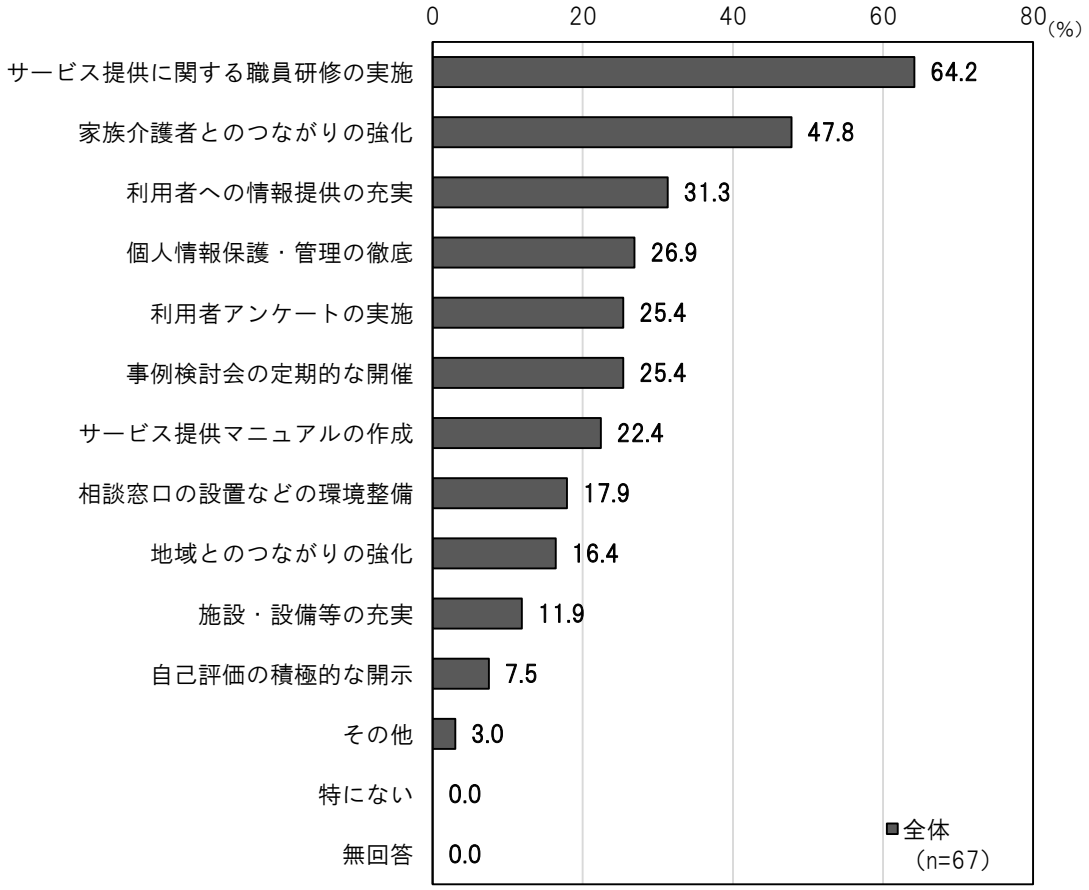


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○小規模事業所はパート職員が多く、外国人の方に社会保険に加入させる余裕はない
○車の運転ができない
○プライベートの世話（フォロー）までしないといけないと聞いたことがある、そこまで面倒を見ることができない
○面接の場所、住居の費用、ビザの問題等不明な点が多く、わざわざ外国人従事者を雇うメリットを感じない

7．サービスの質の向上に向けて特に取り組んでいること

・サービスの質の向上に向けて特に取り組んでいることについては、「サービス提供に関する職員研修の実施」が 64.2％と 6 割以上を占め最も高く、次いで「家族介護者とのつながりの強化」（47.8％）、「利用者への情報提供の充実」（31.3％）となっている。

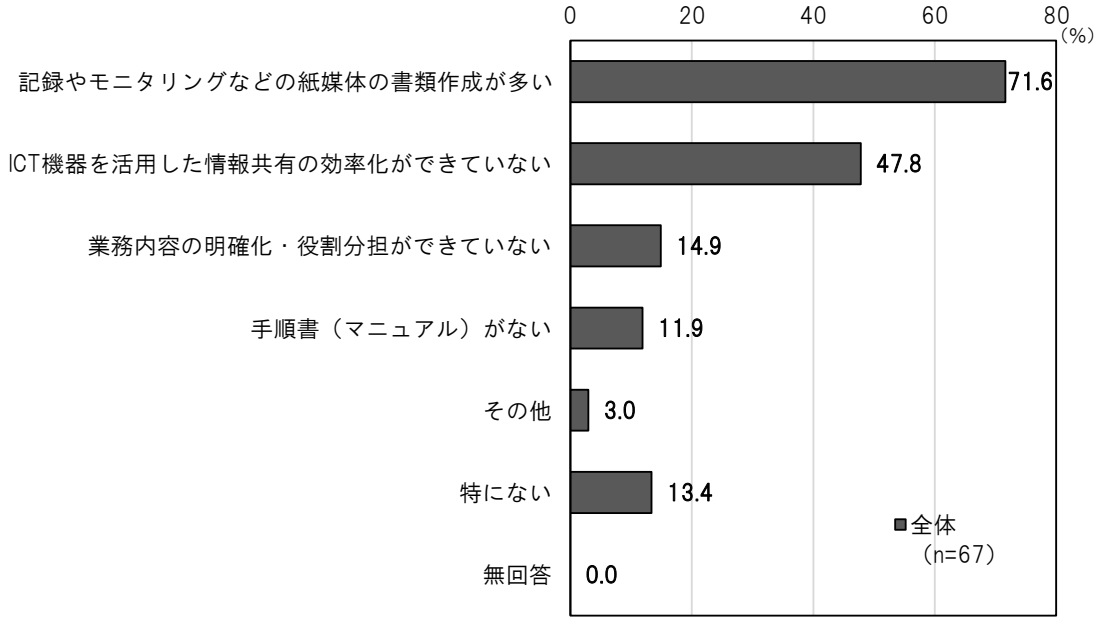


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○施設のモットー「ことばづかい」「チームワーク」を常に職員全員が等しくできるよう、会議やフロア張り出しなど徹底している ○関係事業所間の情報提供の充実

8．業務効率化についての課題

・業務効率化についての課題については、「記録やモニタリングなどの紙媒体の書類作成が多い」が71.6％と７割以上を占め最も高く、次いで「ＩＣＴ機器を活用した情報共有の効率化ができていない」（47.8％）、「業務内容の明確化・役割分担ができていない」（14.9％）となっている。

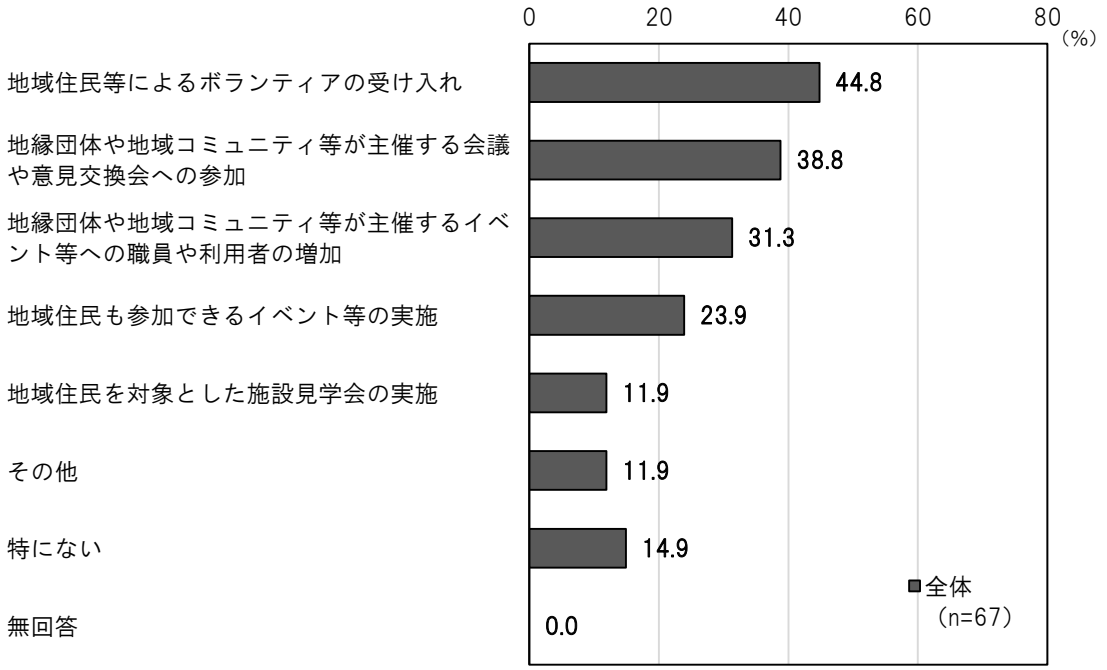


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○パソコン操作に不慣れな人が多い
○ご利用者との契約行為等のサインが大変で時間がかかる
○手が不自由な方がいるのに矛盾していると感じる、簡素化してほしい

9．地域社会の一員として、特に取り組んでいること

・地域社会の一員として、特に取り組んでいることについては、「地域住民等によるボランティアの受け入れ」が 44.8%と 4 割以上を占め最も高く、次いで「地縁団体や地域コミュニティ等が主催する会議や意見交換会への参加」(38.8%)、「地縁団体や地域コミュニティ等が主催するイベント等への職員や利用者の増加」(31.3%）となっている。

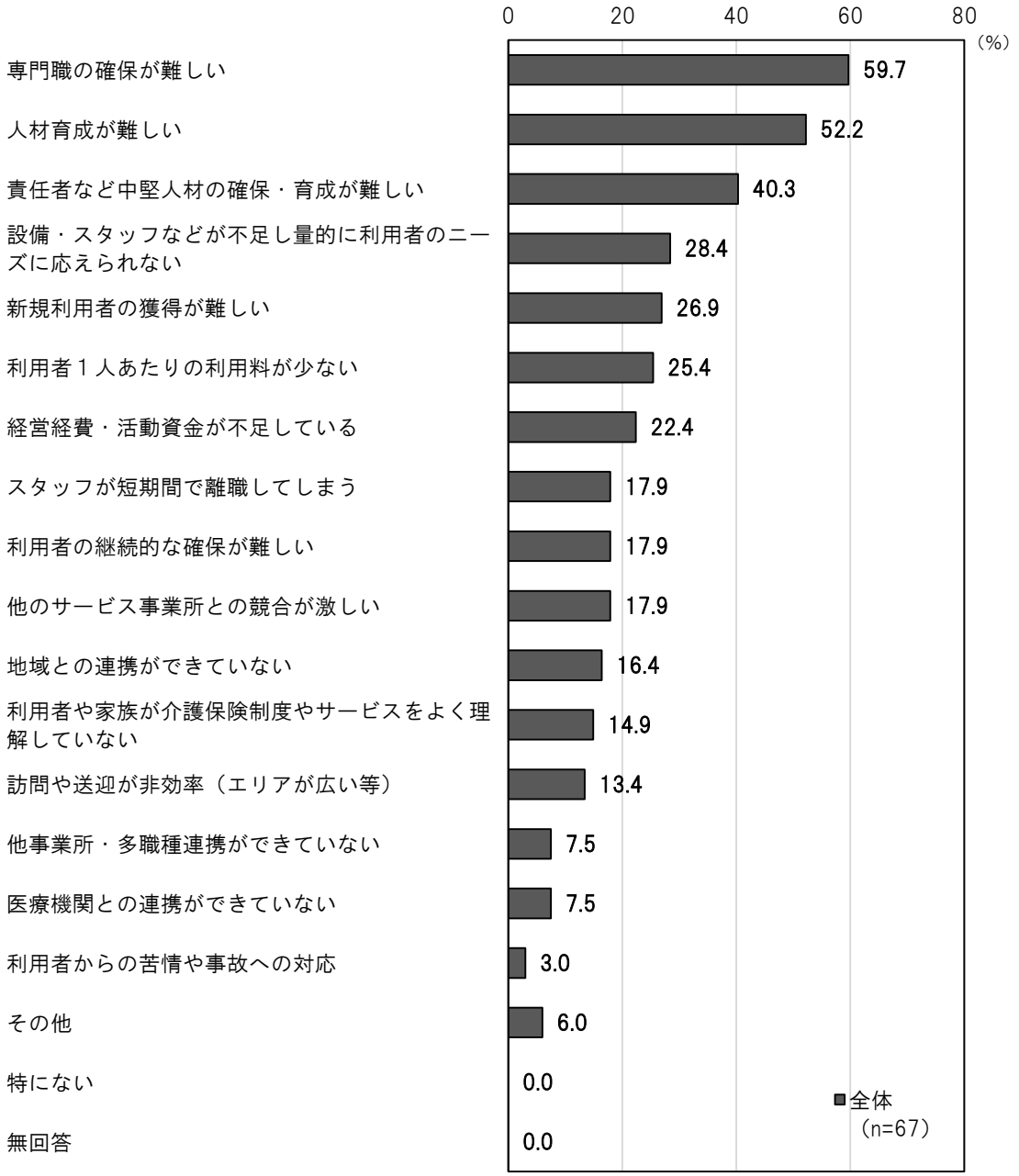


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○コロナの影響ですべて中止
○地域への各方面への参加を実施したいが、コロナで出来ていない
○毎年夏祭り時、近隣住民も参加できるよう声掛けを行っていたが、コロナの影響で実施出来ず
○コロナの影響もあり、地域行事の情報が分からない

10. 事業所運営における課題

・事業所運営における課題については、「専門職の確保が難しい」が 59.7％と６割近くを占め最も高く、次いで「人材育成が難しい」(52.2％)、「責任者など中堅人材の確保・育成が難しい」(40.3％)、「設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない」(28.4％) となっている。

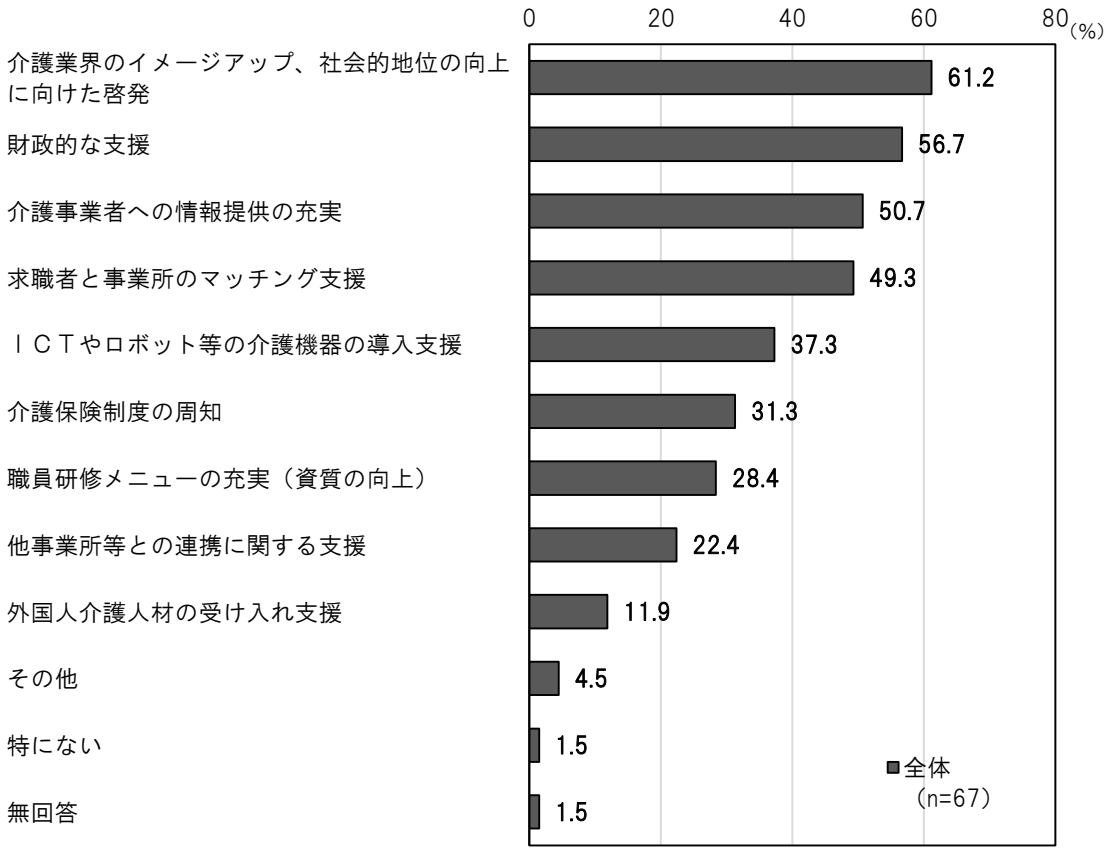


・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○総合事業利用者の利用料が安すぎる
○介護報酬は下がり続けているのに、最低賃金は毎年上がり、これ以上事業努力ができない
○新しい人材が見つからない、若い方の入職が困難、職員の高齢化
○家族の後押しが少ないのでデイを休みがちの利用者がいる
○介護予防支援を受託する場合の単価が低い

11. 行政に求める支援

・行政に求める支援については、「介護業界のイメージアップ、社会的地位の向上に向けた啓発」が61.2％と６割以上を占め最も高く、次いで「財政的な支援」（56.7％）、「介護事業者への情報提供の充実」（50.7％）、「求職者と事業所のマッチング支援」（49.3％）となっている。



・また、「その他」意見については下記の通りとなっている。

「その他」意見
○一昔前より、少し改善されたが、窓口職員の知識が低いと感じたことがあった
○職員によって対応が異なるなど、混乱させられることがある
○実地指導は必要であるのは十分に理解できるが、態度が悪かったり、言葉遣いが上から発言すぎることがある
○賃金を上げられるような施策が一番必須
○若い人材が集まるようにしてほしい、過酷で休みがなく低賃金をなくす施策
○現状の報酬単価ではどこも運営は厳しいので賃金は上げたくても限度がある、行政からの支援を何とか考えてもらいたい

12. 高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定に関する要望や意見

・高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定に関する要望や意見ついては下記の通りとなっている。

高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定に関する要望や意見
【人材不足・人材育成に関する意見】 〇ケアマネジャーの不足が常態化している 〇在宅高齢者が増える一方で介護保険サービスだけでは対応できず、様々な方法を利用して自立を支援すべきと考えるが、人材不足がとても大きな課題となっている 〇基準緩和型従事者研修の開催を増やし、修了者を市内事業所で働けるような仕組みを構築してほしい 〇予防支援のプランを行う介護支援専門員の確保が難しく、このままでいくと予防プランの待機者がでかねない、介護支援専門員を確保できるような支援をお願いしたい 〇ケアマネジャーの質や技能、介護サービスへの理解度が低く、ケアマネジャーの代替資格若しくは併用できる資格を許認可してほしい
【報酬単価・経済的支援に関する意見】 〇軽度介護者からの報酬単価を毎回のように下げられるが、政府は自立支援を推奨している、短時間のリハビリ特化型のデイで、歩行機能の維持を頑張ってやっているのに単価が低く経営困難になっているのをもっと分かって欲しい 〇賃金が低ければ人材も育たない、求人費用もその都度かかることを本当に分かって欲しい
【業務効率化に関する意見】 〇ＩＣＴの充実とともに紙ベースでの記録等の簡略化が進み、効率的に事業が進むように制度を考えてほしい 〇計画書等公的書類のひな型を市で統一し、使用できる環境を整えてほしい
【介護保険制度・仕組みに関する意見】 〇地域密着通所介護で、猪名川町民の受け入れを認めてほしい（川西市と猪名川町で地域連携協定が取り交わされている観点から） 〇介護保険の仕組みの中、入院中・在宅中での使い方周知や認定期間の短縮等がなされるとより活用しやすい、より分かりやすい仕組みを希望する 〇在宅での看取り、介護を担う家族を支える仕組みについて考えてほしい 〇介護保険制度と併用して障害福祉サービス（重度訪問介護等）を利用できるようになっても対応できる事業所がない
【その他】 〇事業所間の情報交換ができやすい環境づくりをお願いしたい 〇地域での活動参加も形を変えて参加できる仕組みを考える必要性もあると感じる 〇特に介護予防に向けての取り組みを重視してもらいたい 〇訪問型サービスＢやＤについても、取り組んでもらいたい 〇2020 年はコロナで不可となった事が各方面にあったが、これに対応し、また今後の課題として適正な対策を考案し、入居されている方、また家族が不安なく過ごしていただけるように変えていかないといけない 〇人を閉じ込めるのではなく、人と人とが地域の中で共生してゆけるシステムが求められているが、コロナ禍により人とのつながりを保つための福祉の脆弱さが見えてきたように感じる 〇元気高齢者がイキイキと生活できるような仕組み（ボランティアポイント）をぜひとも進めてもらいたい

Ⅵ　資料（調査票）

１．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査①

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査にご協力ください

平素は、川西市の介護保険事業へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

川西市では、平成３０年３月に「川西市高齢者保健福祉計画・第７期介護保険事業計画」を策定し、高齢者保健福祉施策を推進してまいりました。この計画は３年毎に見直しを行うため、今回、地域の 65 歳以上の皆様の状況やご意見等をお伺いする「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施します。

この調査は、今後の保健福祉施策や令和３年度から令和５年度までの介護保険料を決定する大切な調査ですので、皆様のご協力をお願いいたします。

川西市長　越田 謙治郎

【 記 入 に 際 し て の お 願 い 】

1. この調査の対象者は、令和２年１月１日現在、要介護認定を受けていない65歳以上の方です。
2. ご回答にあたっては表紙ラベルのあて名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字は右詰め（ 例 | 6 | 2 | kg）でご記入ください。
4. 「○は１つ」の表記があれば、選択肢の１つに○をつけてください。「○はいくつでも」の表記があれば、その内容にしたがって○をつけてください。

【 個 人 情 報 の 取 り 扱 い に つ い て 】

個人情報の保護および利用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

1. ご回答いただいた内容は、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画策定に向けた基礎資料の作成、施策効果の評価及び地域の抱える課題の特定（地域診断）を目的として利用させていただきます。当該情報については、本市で適正に管理し、ご本人の同意なく、目的以外の利用はいたしません。
2. ご回答いただいた内容の集計・分析のため、厚生労働省から配布された集計分析ソフトを用います。川西市と他市町村等との比較・分析のため、国が運営する地域包括ケア「見える化」システムに登録する場合、氏名や住所等の個人を特定できないように処理し、いかなる場合においても個人を特定するような情報が公表されることはありません。
3. ご回答いただいた内容について、一般社団法人日本老年学的評価研究機構・国立長寿医療研究センター・千葉大学予防医学センターに分析を委託し、より詳細な地域診断を行うとともに、介護予防についての学術研究にも利用いたします。提供するデータにはご回答いただいた方の個人を識別できる情報は一切含まれません。また、研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合においても、個人を特定できる情報は利用しません。

※同意いただける場合は、下の□にチェック ☑ を入れてください※

□ 上記の個人情報の取り扱いに同意します。

≪この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。≫

＜問い合わせ先＞　川西市役所　介護保険課　電話：072-740-1148

調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、

４月 30 日（木）までに投函してください。

1

記　　入　　日	令和　　年　　月　　日

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

1．あて名のご本人が記入　　2．ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄　　）

3．その他

問1　あなたのご家族や生活状況について

（1）家族構成をお教えください（○は1つ）

1．1人暮らし　　2．夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）

3．夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）　　4．息子・娘との2世帯

5．その他（　　）

（2）あなたは、近居（おおむね30分以内程度で行き来できる範囲）の状況にある家族や親せきの方がいらっしゃいますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（3）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（○は1つ）

1．介護・介助は必要ない　　2．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

3．現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

【（3）において「2．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3．現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみにお聞きします】

（3）－① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（○はいくつでも）

1．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	2．心臓病	3．がん（悪性新生物）
4．呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	5．関節の病気（リウマチ等）	6．認知症（アルツハイマー病等）
7．パーキンソン病	8．糖尿病	9．腎疾患（透析）
10．視覚・聴覚障がい	11．骨折・転倒	12．脊椎損傷
13．高齢による衰弱	14．その他（　　）	15．不明

【(3) において「3. 現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみにお聞きします】

(3) ―② 主にどなたの介護、介助を受けていますか (○はいくつでも)

1. 配偶者 (夫・妻)	2. 息子	3. 娘
4. 子の配偶者	5. 孫	6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー	8. その他 ( )	

(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○は1つ)

1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

(5) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○は1つ)

1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (集合住宅)	3. 公営賃貸住宅
4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)	5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)	6. 借家
7. その他 ( )		

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○は1つ)

1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない

（5）転倒に対する不安は大きいですか（○は１つ）

1．とても不安である	2．やや不安である	3．あまり不安でない	4．不安でない

（6）週に１回以上は外出していますか（○は１つ）

1．ほとんど外出しない	2．週１回	3．週２~４回	4．週５回以上

（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか（○は１つ）

1．とても減っている	2．減っている	3．あまり減っていない	4．減っていない

（8）外出を控えていますか（○は１つ）

1．はい	2．いいえ

【（8）において「1．はい」（外出を控えている）と回答された方にお聞きします】

（8）―① 外出を控えている理由は、次のどれですか（○はいくつでも）

1．病気	2．障がい（脳卒中の後遺症など）
3．足腰などの痛み	4．トイレの心配（失禁など）
5．耳の障がい（聞こえの問題など）	6．目の障がい
7．外での楽しみがない	8．経済的に出られない
9．交通手段がない	10．その他（　　）

（9）外出する際の移動手段は何ですか（○はいくつでも）

1．徒歩	2．自転車	3．バイク
4．自動車（自分で運転）	5．自動車（人に乗せてもらう）	6．電車
7．路線バス	8．病院や施設のバス	9．車いす
10．電動車いす（カート）	11．歩行器・シルバーカー	12．タクシー
13．その他（　　）		

問3　食べることについて

（1）身長・体重

身長 ［　　］cm　　体重 ［　　］kg

（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（3）お茶や汁物等でむせることがありますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（4）口の渇きが気になりますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）（○は1つ）

1．自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用　　2．自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3．自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用　　4．自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

（6）―① 噛み合わせは良いですか

1．はい　　2．いいえ

【（6）において「1．自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3．自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみにお聞きします】

（6）―②　毎日入れ歯の手入れをしていますか

1．はい　　2．いいえ

（7）6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（8）どなたかと食事をともにする機会はありますか（○は1つ）

1．毎日ある	2．週に何度かある	3．月に何度かある
4．年に何度かある	5．ほとんどない	

問4　毎日の生活について

（1）物忘れが多いと感じますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（2）今日が何月何日かわからない時がありますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（3）5分前のことが思い出せますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（4）その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか（○は1つ）

1．困難なくできる	2．いくらか困難であるが、できる
3．だれかの合図や見守りが必要	4．ほとんど判断できない

（5）人に自分の考えをうまく伝えられますか（○は1つ）

1．伝えられる	2．いくらか困難であるが、伝えられる
3．あまり伝えられない	4．ほとんど伝えられない

（6）バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○は1つ）

1．できるし、している	2．できるけどしていない	3．できない

（7）自分で食品・日用品の買物をしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（8）自分で食事の用意をしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（9）自分で食事は食べることができますか（○は1つ）

1．できる　　2．一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる　　3．できない

（10）自分で請求書の支払いをしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（11）自分で預貯金の出し入れをしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（12）新聞を読んでいますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（13）健康についての記事や番組に関心がありますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（14）趣味はありますか（○は1つ）

1．趣味あり ⟶（　　）
2．思いつかない

（15）生きがいはありますか（○は1つ）

1．生きがいあり ⟶（　　）
2．思いつかない

問5　地域での活動について

（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑧のそれぞれに、１つずつ回答してください

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤「きんたくん健幸体操<転倒予防・いきいき百歳体操編>」「いきいき元気倶楽部」「認知症予防教室」や地域住民が開催するカフェやサロンなど介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○は１つ）

1．是非参加したい　2．参加してもよい　3．参加したくない　4．既に参加している

（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は１つ）

1．是非参加したい　2．参加してもよい　3．参加したくない　4．既に参加している

問6 自治体や地域住民が開催する通いの場(サロンやカフェ)への参加について

注：通いの場(サロン)の名称は場所ごとに異なりますが、以下の問6の（3）に示した会のことを指します。

（1）通いの場（サロン）への参加期間はどれくらいですか。複数参加している場合は最も長く参加している箇所についてお答えください（○は1つ）

1．参加１年未満　2．参加1～2年未満　3．参加2～3年未満
4．参加3～4年未満　5．参加４年以上　6．参加しているが期間は不明
7．参加していたが止めた　8．参加したことがない

【（1）で「1」～「6」と回答した方におうかがいします。】

（2）あなたは通いの場（サロン）でいずれかの役割で参加されていますか（○はいくつでも）

1．一般参加者　2．企画・運営者　3．運営のお手伝い　4．講師・演者

（3）（2）で回答したあなたの通いの場（サロン）での活動別の１ケ月あたりの時間を教えてください。複数の通いの場（サロンなど）に参加している人は合計してお答えください（○はそれぞれ1つ）

①体　操

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

②音楽（歌唱や演奏）

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

③創作活動（手工芸など）

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

④室内ゲーム（囲碁と将棋、麻雀やレクリエーションゲームなど）

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

⑤脳トレーニング

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

⑥おしゃべり（お茶含む）

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

⑦地域の子どもとの交流

1．ほとんどなし　2．1時間未満　3．1～2時間　4．2～4時間　5．4～6時間　6．6時間以上

問7　たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（○はいくつでも）

1．配偶者　2．同居の子ども
3．別居の子ども　4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣　6．友人
7．その他（　　）　8．そのような人はいない

（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（○はいくつでも）

1．配偶者　2．同居の子ども
3．別居の子ども　4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣　6．友人
7．その他（　　）　8．そのような人はいない

（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（○はいくつでも）

1．配偶者　2．同居の子ども
3．別居の子ども　4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣　6．友人
7．その他（　　）　8．そのような人はいない

（4）反対に、看病や世話をしてあげる人（○はいくつでも）

1．配偶者　2．同居の子ども
3．別居の子ども　4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣　6．友人
7．その他（　　）　8．そのような人はいない

（5）あなたは、家族などの介護をした経験がありますか（○は１つ）

1．現在、同居の家族などを介護している	2．現在、別居の家族などを介護している
3．以前、家族などを介護していた	4．今まで介護の経験はない

（6）家族や友人･知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（○はいくつでも）

1．自治会・町内会・老人クラブ	2．社会福祉協議会・民生委員
3．ケアマネジャー	4．医師・歯科医師・看護師
5．地域包括支援センター・市役所	6．その他（　　）
7．そのような人はいない	

（7）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（○は１つ）

1．毎日ある	2．週に何度かある	3．月に何度かある
4．年に何度かある	5．ほとんどない	

（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（○はいくつでも）

1．近所・同じ地域の人	2．幼なじみ	3．学生時代の友人
4．仕事での同僚・元同僚	5．趣味や関心が同じ友人	6．ボランティア等の活動での友人
7．その他（　　）	8．いない	

（9）あなたが実際に行っている近所づきあいはどのようなものですか（○は１つ）

1．あいさつ程度	2．世間話を交わす程度	3．相談したり助け合う
4．その他（　　）		5．関わりがない

【（9）において「5．関わりがない」と回答した方のみにお聞きします】

（9）―① 近所との関わりがない理由は何ですか（○はいくつでも）

1．時間がないため	2．何をしていいかわからないため	3．きっかけがないため
4．関わる人がいないため	5．身体的に無理な状況のため	6．関わる必要がないため
7．人と関わるのが面倒なため	8．特に意識したことがなかったため	
9．その他（　　）		
10．特になし		

（10）あなたご自身がご近所で手助けや協力ができることがありますか（○はいくつでも）

1．外出の際の移動支援（通院を含む）		2．交流や外出の機会を企画	
3．話し相手や相談相手		4．食事の支度や後片付け	
5．買物	6．掃除	7．洗濯	8．布団干し
9．ごみ出し	10．電球や蛍光灯などの交換		11．庭木の手入れ
12．草むしり、草刈り	13．大型ごみの処理		14．散髪
15．入浴	16．家電やパソコン、携帯電話の使い方		
17．その他（　　）			18．なし

問8　健康について

（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか（○は1つ）

1．とてもよい	2．まあよい
3．あまりよくない	4．よくない

（2）あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）（○は1つ）

とても不幸										とても幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか
（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（5）お酒は飲みますか（○は1つ）

1．ほぼ毎日飲む	2．時々飲む
3．ほとんど飲まない	4．もともと飲まない

（6）タバコは吸っていますか（○は1つ）

1．ほぼ毎日吸っている	2．時々吸っている
3．吸っていたがやめた	4．もともと吸っていない

（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（○はいくつでも）

1．ない	2．高血圧
3．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	4．心臓病
5．糖尿病	6．高脂血症（脂質異常）
7．呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	8．胃腸・肝臓・胆のうの病気
9．腎臓・前立腺の病気	10．筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
11．外傷（転倒・骨折等）	12．がん（悪性新生物）
13．血液・免疫の病気	14．うつ病
15．認知症（アルツハイマー病等）	16．パーキンソン病
17．目の病気	18．耳の病気
19．その他（　　）	

（8）あなたの健康の秘訣はなんですか（○はいくつでも）

1．定期的にウォーキングなど自分で運動している
2．スポーツジムに通っている
3．肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている
4．水分を十分にとるようにしている
5．睡眠を十分とっている
6．起床・就寝時間を決めている
7．ストレス解消法がある
8．新しいことにチャレンジしている
9．定期的に受診している
10．がん検診など健診を受けている
11．その他（　　）
12．特にない

問９　必要となる支援について

（1）現在、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか（○は3つまで）

1．外出の際の移動支援（通院を含む）	2．家族以外との交流や外出のきっかけづくり
3．話し相手や相談相手	4．食事の支度や後片付け
5．買物	6．掃除
7．洗濯	8．布団干し
9．ごみ出し	10．電球や蛍光灯などの交換
11．庭木の手入れ	12．草むしり、草刈り
13．大型ごみの処理	14．散髪
15．入浴	16．家電やパソコン、携帯電話の使い方
17．預貯金の出し入れ	18．税金の支払いや公共機関の手続き
19．財産・お金の管理	20．その他（　　）
21．なし	

【（1）において、日常生活の中で手助けしてほしい項目「1」～「20」を回答された方のみにお聞きします】

（1）―①　ボランティアによる支援があれば利用しますか（○は1つ）

1．無償ボランティアを利用する	2．有償ボランティアを利用する
3．利用しない	4．わからない

（2）あなたが住んでいる地域でずっと暮らし続けるためには、介護保険サービス以外にどのようなサービスがあればよいですか（○は2つまで）

1．外出の際の移動支援サービス	2．買物代行サービス
3．草引きや簡単な家事をしてくれるボランティア	4．定期的に声をかけてくれる見守り
5．介護予防を含めた健康事業	6．その他（　　）

【（2）において「1．外出の際の移動支援サービス」を回答された方のみにお聞きします】

（2）―①　どのような時に移動支援サービスを利用したいと思われますか（○は1つ）

1．買物	2．通院
3．公共交通機関利用のため	4．地域のカフェやサロンへ参加するため
5．その他（　　）	

（3）あなたが住んでいる地域でずっと暮らし続けるためにはどのような施設が必要ですか（○は2つまで）

1．介護施設	2．医療施設	3．コンビニやスーパー
4．銀行や郵便局	5．高齢者の働く場所	6．幅広い年代が集まれる場所
7．子どもや高齢者が食事ができる食堂		8．その他（　　）

問10 地域包括支援センターについて

（1）高齢者が自立して生活できるよう相談にのったり、福祉サービスの利用につないだりする支援や介護予防などを行っている「地域包括支援センター」が市内にあるのを知っていますか（○は1つ）

1．知っている　　2．知らない

【（1）において「1．知っている」を回答された方のみにお聞きします】

（1）－①　どこで知りましたか（○は1つ）

1．市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック　　2．広報かわにし
3．地域包括支援センターのチラシ　　4．市の講座や講演会
5．地域活動を通じて　　6．知り合いから
7．その他（　　）

問11 介護保険制度について

（1）介護保険制度を知っていますか（○は1つ）

1．知っている　　2．知らない

（2）介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗がありますか（○は1つ）

1．ある　　2．ない

【（2）において「1．ある」を回答された方のみにお聞きします】

（2）－①　理由はなんですか（○は1つ）

1．手続きが難しいから　　2．制度自体がよくわからないから　　3．面倒だから
4．人の世話にならず、自分でやっていきたいから
5．その他（　　）

問12 認知症にかかる相談窓口の把握について

（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

記入した調査票を3つ折りにして、同封した返信用封筒に入れ、

切手を貼らずに**4月30日（木）まで**に投函してください。

２．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査②

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査にご協力ください

平素は、川西市の介護保険事業へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

川西市では、平成３０年３月に「川西市高齢者保健福祉計画・第７期介護保険事業計画」を策定し、高齢者保健福祉施策を推進してまいりました。この計画は３年毎に見直しを行うため、今回、地域の 65 歳以上の皆様の状況やご意見等をお伺いする「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施します。

この調査は、今後の保健福祉施策や令和３年度から令和５年度までの介護保険料を決定する大切な調査ですので、皆様のご協力をお願いいたします。

川西市長　越田 謙治郎

【 記 入 に 際 し て の お 願 い 】

1. この調査の対象者は、令和２年１月１日現在、要介護認定を受けていない65歳以上の方です。
2. ご回答にあたっては表紙ラベルのあて名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字は右詰め（ 例 | 6 | 2 | kg）でご記入ください。
4. 「○は１つ」の表記があれば、選択肢の１つに○をつけてください。「○はいくつでも」の表記があれば、その内容にしたがって○をつけてください。

【 個 人 情 報 の 取 り 扱 い に つ い て 】

個人情報の保護および利用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

1. ご回答いただいた内容は、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画策定に向けた基礎資料の作成、施策効果の評価及び地域の抱える課題の特定（地域診断）を目的として利用させていただきます。当該情報については、本市で適正に管理し、ご本人の同意なく、目的以外の利用はいたしません。
2. ご回答いただいた内容の集計・分析のため、厚生労働省から配布された集計分析ソフトを用います。川西市と他市町村等との比較・分析のため、国が運営する地域包括ケア「見える化」システムに登録する場合、氏名や住所等の個人を特定できないように処理し、いかなる場合においても個人を特定するような情報が公表されることはありません。
3. ご回答いただいた内容について、一般社団法人日本老年学的評価研究機構・国立長寿医療研究センター・千葉大学予防医学センターに分析を委託し、より詳細な地域診断を行うとともに、介護予防についての学術研究にも利用いたします。提供するデータにはご回答いただいた方の個人を識別できる情報は一切含まれません。また、研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合においても、個人を特定できる情報は利用しません。

※同意いただける場合は、下の□にチェック ☑ を入れてください※

□　上記の個人情報の取り扱いに同意します。

≪この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。≫

＜問い合わせ先＞　川西市役所　介護保険課　電話：072-740-1148

調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、

4月 30 日（木）までに投函してください。

1

記　　入　　日	令和　　年　　月　　日

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

1．あて名のご本人が記入　　2．ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄　　）

3．その他

問1　あなたのご家族や生活状況について

（1）家族構成をお教えください（○は1つ）

1．1人暮らし　　2．夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）

3．夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）　　4．息子・娘との2世帯

5．その他（　　）

（2）あなたは、近居（おおむね30分以内程度で行き来できる範囲）の状況にある家族や親せきの方がいらっしゃいますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（3）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（○は1つ）

1．介護・介助は必要ない　　2．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

3．現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

【（3）において「2．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3．現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみにお聞きします】

（3）－① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（○はいくつでも）

1．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	2．心臓病	3．がん（悪性新生物）
4．呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	5．関節の病気（リウマチ等）	6．認知症（アルツハイマー病等）
7．パーキンソン病	8．糖尿病	9．腎疾患（透析）
10．視覚・聴覚障がい	11．骨折・転倒	12．脊椎損傷
13．高齢による衰弱	14．その他（　　）	15．不明

【(3) において「3. 現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみにお聞きします】

(3) ―② 主にどなたの介護、介助を受けていますか (○はいくつでも)

1. 配偶者 (夫・妻)	2. 息子	3. 娘
4. 子の配偶者	5. 孫	6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー	8. その他 ( )	

(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○は1つ)

1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

(5) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○は1つ)

1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (集合住宅)	3. 公営賃貸住宅
4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)	5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)	6. 借家
7. その他 ( )		

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか (○は1つ)

1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○は1つ)

1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない

（5）転倒に対する不安は大きいですか（○は1つ）

1．とても不安である	2．やや不安である	3．あまり不安でない	4．不安でない

（6）週に１回以上は外出していますか（○は1つ）

1．ほとんど外出しない	2．週1回	3．週2～4回	4．週５回以上

（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか（○は1つ）

1．とても減っている	2．減っている	3．あまり減っていない	4．減っていない

（8）外出を控えていますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

【（8）において「1．はい」（外出を控えている）と回答された方にお聞きします】

（8）―① 外出を控えている理由は、次のどれですか（○はいくつでも）

1．病気	2．障がい（脳卒中の後遺症など）
3．足腰などの痛み	4．トイレの心配（失禁など）
5．耳の障がい（聞こえの問題など）	6．目の障がい
7．外での楽しみがない	8．経済的に出られない
9．交通手段がない	10．その他（　　）

（9）外出する際の移動手段は何ですか（○はいくつでも）

1．徒歩	2．自転車	3．バイク
4．自動車（自分で運転）	5．自動車（人に乗せてもらう）	6．電車
7．路線バス	8．病院や施設のバス	9．車いす
10．電動車いす（カート）	11．歩行器・シルバーカー	12．タクシー
13．その他（　　）		

問3　食べることについて

（1）身長・体重

身長　　cm　　体重　　kg

（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（3）お茶や汁物等でむせることがありますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（4）口の渇きが気になりますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）（○は1つ）

1．自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用　　2．自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3．自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用　　4．自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

（6）―① 噛み合わせは良いですか

1．はい　　2．いいえ

【（6）において「1．自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3．自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみにお聞きします】

（6）―②　毎日入れ歯の手入れをしていますか

1．はい　　2．いいえ

（7）6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（8）どなたかと食事をともにする機会はありますか（○は1つ）

1．毎日ある	2．週に何度かある	3．月に何度かある
4．年に何度かある	5．ほとんどない	

問4　毎日の生活について

（1）物忘れが多いと感じますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（2）今日が何月何日かわからない時がありますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（3）5分前のことが思い出せますか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（4）その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか（○は1つ）

1．困難なくできる	2．いくらか困難であるが、できる
3．だれかの合図や見守りが必要	4．ほとんど判断できない

（5）人に自分の考えをうまく伝えられますか（○は1つ）

1．伝えられる	2．いくらか困難であるが、伝えられる
3．あまり伝えられない	4．ほとんど伝えられない

（6）バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○は1つ）

1．できるし、している	2．できるけどしていない	3．できない

（7）自分で食品・日用品の買物をしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（8）自分で食事の用意をしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（9）自分で食事は食べることができますか（○は1つ）

1．できる　　2．一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる　　3．できない

（10）自分で請求書の支払いをしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（11）自分で預貯金の出し入れをしていますか（○は1つ）

1．できるし、している　　2．できるけどしていない　　3．できない

（12）新聞を読んでいますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（13）健康についての記事や番組に関心がありますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（14）趣味はありますか（○は1つ）

1．趣味あり ⟶ （　　）
2．思いつかない

（15）生きがいはありますか（○は1つ）

1．生きがいあり ⟶ （　　）
2．思いつかない

問5　地域での活動について

（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑧のそれぞれに、１つずつ回答してください

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤「きんたくん健幸体操＜転倒予防・いきいき百歳体操編＞」「いきいき元気倶楽部」「認知症予防教室」や地域住民が開催するカフェやサロンなど介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○は１つ）

1．是非参加したい　2．参加してもよい　3．参加したくない　4．既に参加している

（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は１つ）

1．是非参加したい　2．参加してもよい　3．参加したくない　4．既に参加している

問6 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（○はいくつでも）

1．配偶者	2．同居の子ども
3．別居の子ども	4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣	6．友人
7．その他（　　）	8．そのような人はいない

（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（○はいくつでも）

1．配偶者	2．同居の子ども
3．別居の子ども	4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣	6．友人
7．その他（　　）	8．そのような人はいない

（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（○はいくつでも）

1．配偶者	2．同居の子ども
3．別居の子ども	4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣	6．友人
7．その他（　　）	8．そのような人はいない

（4）反対に、看病や世話をしてあげる人（○はいくつでも）

1．配偶者	2．同居の子ども
3．別居の子ども	4．兄弟姉妹・親せき・親・孫
5．近隣	6．友人
7．その他（　　）	8．そのような人はいない

（5）あなたは、家族などの介護をした経験がありますか（○は1つ）

1．現在、同居の家族などを介護している	2．現在、別居の家族などを介護している
3．以前、家族などを介護していた	4．今まで介護の経験はない

（6）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（○はいくつでも）

1．自治会・町内会・老人クラブ	2．社会福祉協議会・民生委員
3．ケアマネジャー	4．医師・歯科医師・看護師
5．地域包括支援センター・市役所	6．その他（　　）
7．そのような人はいない	

（7）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（○は1つ）

1．毎日ある	2．週に何度かある	3．月に何度かある
4．年に何度かある	5．ほとんどない	

（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（○はいくつでも）

1．近所・同じ地域の人	2．幼なじみ	3．学生時代の友人
4．仕事での同僚・元同僚	5．趣味や関心が同じ友人	6．ボランティア等の活動での友人
7．その他（　　）	8．いない	

（9）あなたが実際に行っている近所づきあいはどのようなものですか（○は1つ）

1．あいさつ程度	2．世間話を交わす程度	3．相談したり助け合う
4．その他（　　）		5．関わりがない

【（9）において「5．関わりがない」と回答した方のみにお聞きします】

（9）－① 近所との関わりがない理由は何ですか（○はいくつでも）

1．時間がないため	2．何をしていいかわからないため	3．きっかけがないため
4．関わる人がいないため	5．身体的に無理な状況のため	6．関わる必要がないため
7．人と関わるのが面倒なため	8．特に意識したことがなかったため	
9．その他（　　）		
10．特になし		

（10）あなたご自身がご近所で手助けや協力ができることがありますか（○はいくつでも）

1．外出の際の移動支援（通院を含む）		2．交流や外出の機会を企画	
3．話し相手や相談相手		4．食事の支度や後片付け	
5．買物	6．掃除	7．洗濯	8．布団干し
9．ごみ出し	10．電球や蛍光灯などの交換		11．庭木の手入れ
12．草むしり、草刈り	13．大型ごみの処理		14．散髪
15．入浴	16．家電やパソコン、携帯電話の使い方		
17．その他（　　）			18．なし

問7　災害に対するそなえについて

（1）あなたの家では水や食料をおよそ何日分備蓄していますか（○は１つ）

1．備蓄していない	2．１～3日分
3．４～7日分	4．８日分以上

（2）あなたの家では大きい家具や冷蔵庫を地震で倒れないように固定していますか（○は１つ）

1．していない	2．しているが半分未満
3．半分以上している	4．すべてしている

（3）あなたの住まいは地震保険・共済に加入していますか（○は１つ）

1．はい	2．いいえ

（4）あなたは地域の避難場所やそこまでの経路を把握していますか（○は１つ）

1．避難場所・経路共に把握している　2．避難場所のみ把握している　3．把握していない

（5）災害のとき、行政機関から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたらすぐに避難しますか（○は１つ）

1．避難する　2．たぶん避難する　3．たぶん避難しない　4．避難しない

（6）災害のとき、行政機関から「避難勧告」が発令されたらすぐに避難しますか（○は１つ）

1．避難する　2．たぶん避難する　3．たぶん避難しない　4．避難しない

（7）災害のとき、行政機関から「避難指示（緊急）」が発令されたらすぐに避難しますか（○は１つ）

1．避難する　2．たぶん避難する　3．たぶん避難しない　4．避難しない

（8）家族や親せき、近所の人と災害時の安否確認や集合場所について話し合っていますか（○は１つ）

1．家族や親せきとも近所の人とも話し合っている	2．家族や親せきとだけ話し合っている
3．近所の人とだけ話し合っている	4．話し合っていない

（9）あなたは地域の人と災害時の助け合いのための話し合いや計画づくりを行う会に参加していますか（○は１つ）

1．月に１回以上	2．年に数回程度	3．年に１回程度	4．年に１回未満
5．参加していない	6．そのような会はない、わからない		

（10）あなたのことを気にかけて、定期的に声をかける人はいますか（○はいくつでも）

1．別居の子ども	2．兄弟姉妹・親せき・親・孫	3．近隣	4．友人
5．その他（　　）		6．そのような人はいない	

（11）逆に、あなたから気にかけて、定期的に声をかける人はいますか（○はいくつでも）

1．別居の子ども	2．兄弟姉妹・親せき・親・孫	3．近隣	4．友人
5．その他（　　）		6．そのような人はいない	

（12）家族以外の地域の人に頼ることに抵抗はありますか（○は１つ）

1．強い抵抗がある	2．やや抵抗がある	3．あまり抵抗がない	4．まったく抵抗がない

（13）逆に、家族以外の地域の人に頼りにされることに抵抗はありますか（○は１つ）

1．強い抵抗がある	2．やや抵抗がある	3．あまり抵抗がない	4．まったく抵抗がない

問8　健康について

（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか（○は１つ）

1．とてもよい	2．まあよい
3．あまりよくない	4．よくない

（2）あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）（○は１つ）

とても不幸										とても幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（○は1つ）

1．はい	2．いいえ

（5）お酒は飲みますか（○は1つ）

1．ほぼ毎日飲む	2．時々飲む
3．ほとんど飲まない	4．もともと飲まない

（6）タバコは吸っていますか（○は1つ）

1．ほぼ毎日吸っている	2．時々吸っている
3．吸っていたがやめた	4．もともと吸っていない

（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（○はいくつでも）

1．ない	2．高血圧
3．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	4．心臓病
5．糖尿病	6．高脂血症（脂質異常）
7．呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	8．胃腸・肝臓・胆のうの病気
9．腎臓・前立腺の病気	10．筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
11．外傷（転倒・骨折等）	12．がん（悪性新生物）
13．血液・免疫の病気	14．うつ病
15．認知症（アルツハイマー病等）	16．パーキンソン病
17．目の病気	18．耳の病気
19．その他（　　）	

（8）あなたの健康の秘訣はなんですか（○はいくつでも）

1．定期的にウォーキングなど自分で運動している
2．スポーツジムに通っている
3．肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている
4．水分を十分にとるようにしている
5．睡眠を十分とっている
6．起床・就寝時間を決めている
7．ストレス解消法がある
8．新しいことにチャレンジしている
9．定期的に受診している
10．がん検診など健診を受けている
11．その他（　　）
12．特にない

問9　必要となる支援について

（1）現在、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか（○は3つまで）

1．外出の際の移動支援（通院を含む）	2．家族以外との交流や外出のきっかけづくり
3．話し相手や相談相手	4．食事の支度や後片付け
5．買物	6．掃除
7．洗濯	8．布団干し
9．ごみ出し	10．電球や蛍光灯などの交換
11．庭木の手入れ	12．草むしり、草刈り
13．大型ごみの処理	14．散髪
15．入浴	16．家電やパソコン、携帯電話の使い方
17．預貯金の出し入れ	18．税金の支払いや公共機関の手続き
19．財産・お金の管理	20．その他（　　）
21．なし	

【（1）において、日常生活の中で手助けしてほしい項目「1」～「20」を回答された方のみにお聞きします】

（1）―①　ボランティアによる支援があれば利用しますか（○は1つ）

1．無償ボランティアを利用する	2．有償ボランティアを利用する
3．利用しない	4．わからない

（2）あなたが住んでいる地域でずっと暮らし続けるためには、介護保険サービス以外にどのようなサービスがあればよいですか（○は2つまで）

1．外出の際の移動支援サービス	2．買物代行サービス
3．草引きや簡単な家事をしてくれるボランティア	4．定期的に声をかけてくれる見守り
5．介護予防を含めた健康事業	6．その他（　　）

【（2）において「1．外出の際の移動支援サービス」を回答された方のみにお聞きします】

（2）―①　どのような時に移動支援サービスを利用したいと思われますか（○は1つ）

1．買物	2．通院
3．公共交通機関利用のため	4．地域のカフェやサロンへ参加するため
5．その他（　　）	

（3）あなたが住んでいる地域でずっと暮らし続けるためにはどのような施設が必要ですか（○は2つまで）

1．介護施設	2．医療施設	3．コンビニやスーパー
4．銀行や郵便局	5．高齢者の働く場所	6．幅広い年代が集まれる場所
7．子どもや高齢者が食事ができる食堂		8．その他（　　）

問10　地域包括支援センターについて

（1）高齢者が自立して生活できるよう相談にのったり、福祉サービスの利用につないだりする支援や介護予防などを行っている「地域包括支援センター」が市内にあるのを知っていますか（○は1つ）

1．知っている	2．知らない

【（1）において「1．知っている」を回答された方のみにお聞きします】

（1）―①　どこで知りましたか（○は1つ）

1．市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック	2．広報かわにし
3．地域包括支援センターのチラシ	4．市の講座や講演会
5．地域活動を通じて	6．知り合いから
7．その他（　　）	

問11 介護保険制度について

（1）介護保険制度を知っていますか（○は1つ）

1．知っている　　2．知らない

（2）介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗がありますか（○は1つ）

1．ある　　2．ない

【（2）において「1．ある」を回答された方のみにお聞きします】

（2）―①　理由はなんですか（○は1つ）

1．手続きが難しいから　　2．制度自体がよくわからないから　　3．面倒だから
4．人の世話にならず、自分でやっていきたいから
5．その他（　　）

問12 認知症にかかる相談窓口の把握について

（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか（○は1つ）

1．はい　　2．いいえ

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

記入した調査票を3つ折りにして、同封した返信用封筒に入れ、

切手を貼らずに4月30日（木）までに投函してください。

3．在宅介護実態調査

「在宅介護実態調査」にご協力ください

平素は、川西市の介護保険事業へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この調査は、令和３年度から３年間の第８期介護保険事業計画策定にあたり「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」に有効な介護サービスの在り方を検討することを目的として、主に在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象に実施します。

なお、この調査は本市だけでなく、国の指針のもと全国的に実施されることになっております。

何卒、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

川西市長　越田 謙治郎

調査に際してのお願い

1．この調査の対象者は、令和元年１２月１日以前に要介護・要支援認定の更新申請もしくは区分変更申請による認定調査を受けた方です。
2．回答は、この調査票に直接、該当項目（番号）に○をつけてください。
3．この調査は【A票】【B票】とあります。各調査の対象者は以下の通りです。
【A票】…宛名の要支援・要介護認定者ご本人様（全９問）
【B票】…要支援・要介護認定者を介護している主な介護者の方（全１０問）

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および利用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

1．ご回答いただいた内容は、介護保険事業計画策定に向けた基礎資料の作成、施策効果の評価を目的として利用させていただきます。当該情報については、本市で適正に管理し、ご本人の同意なく、目的以外の利用はいたしません。
2．ご回答いただいた内容は、ご本人様の要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）と関連付け、厚生労働省から配布された集計分析ソフトを用いて集計・分析を行います。川西市と他市町村等との比較・分析のため、国が運営する地域包括ケア「見える化」システムに登録する場合、氏名や住所等の個人を特定できないように処理し、いかなる場合においても個人を特定するような情報が公表されることはありません。

※同意いただける場合は、下の□にチェック ☑を入れてください※

□ 上記の個人情報の取り扱いに同意します。

≪この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

＜問い合わせ先＞　川西市役所　介護保険課　電話：072-740-1148

調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、
４月 30 日（木）までに投函してください。

－ 1 －

記　入　日	令和　　年　　月　　日

在宅介護実態調査　調査票

A票　要支援・要介護認定者ご本人様について、お伺いします

問１　現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。（複数回答可）

１．調査対象者本人	２．主な介護者となっている家族・親族
３．主な介護者以外の家族・親族	４．調査対象者のケアマネジャー
５．その他（　　）	

問２　世帯類型について、ご回答ください。（１つを選択）

１．単身世帯	２．夫婦のみ世帯	３．その他（　　）

問３　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（１つを選択）

１．入所・入居は検討していない	２．入所・入居を検討している
３．すでに入所・入居申し込みをしている	

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問４　ご本人（認定調査対象者）様が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（複数選択可）

１．脳血管疾患（脳卒中）		２．心疾患（心臓病）
３．悪性新生物（がん）		４．呼吸器疾患
５．腎疾患（透析）	６．筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	
７．膠原病（関節リウマチ含む）		８．変形性関節疾患
９．認知症	10．パーキンソン病	11．難病（パーキンソン病を除く）
12．糖尿病	13．眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）	
14．その他（　　）	15．なし	16．わからない

問５　令和元年１２月の１か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。（１つを選択）

１．利用した　⇒問７へ	２．利用していない　⇒問６へ

問６　問５で「２．利用していない」と回答した方にお伺いします。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（複数選択可）

１．現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
２．本人にサービス利用の希望がない
３．家族が介護をするため必要ない
４．以前、利用していたサービスに不満があった
５．利用料を支払うのが難しい
６．利用したいサービスを利用できない、身近にない
７．住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
８．サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
９．その他（　　）

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問７　現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。（複数選択可）

１．配食　　２．調理　　３．掃除・洗濯
４．買い物（宅配は含まない）　５．ゴミ出し　　６．外出同行（通院、買い物など）
７．移送サービス（介護・福祉タクシー等）　　８．見守り、声かけ
９．サロンなどの定期的な通いの場　　10．その他（　　）
11．利用していない

※ 介護予防・日常生活支援総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問８　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）

１．配食　　２．調理　　３．掃除・洗濯
４．買い物（宅配は含まない）　５．ゴミ出し　　６．外出同行（通院、買い物など）
７．移送サービス（介護・福祉タクシー等）　　８．見守り、声かけ
９．サロンなどの定期的な通いの場　　10．その他（　　）
11．特になし

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問９　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（１つを選択）

１．ない	→ 調査は終了です
２．家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない	B票へ進んでください
３．週に１～２日ある	
４．週に３～４日ある	
５．ほぼ毎日ある	

- Ａ票の問９で「２．家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」～「５．ほぼ毎日ある」を選択された場合は、「主な介護者」の方にＢ票へのご回答・ご記入をお願いします。
- 「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人（調査対象者）様にご回答・ご記入をお願いします（ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。

B票　主な介護者の方について、お伺いします

問１　ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）様の介護を主な理由として、過去１年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（複数選択可）

１．主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	
２．主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	
３．主な介護者が転職した	４．主な介護者以外の家族・親族が転職した
５．介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	６．わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

問２　主な介護者の方は、どなたですか。（１つを選択）

１．配偶者	２．子	３．子の配偶者
４．孫	５．兄弟・姉妹	６．その他（　　）

問３　主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（１つを選択）

１．男性	２．女性

問４　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（１つを選択）

１．20 歳未満	２．20 代	３．30 代
４．40 代	５．50 代	６．60 代
７．70 代	８．80 歳以上	９．わからない

問５　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。
（「１」から「16」のうち、複数選択可）

〔身体介護〕
１．日中の排泄　　２．夜間の排泄
３．食事の介助（食べる時）　　４．入浴・洗身
５．身だしなみ（洗顔・歯磨き等）　　６．衣服の着脱
７．屋内の移乗・移動　　８．外出の付き添い、送迎等
９．服薬　　10．認知症状への対応
11．医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）

〔生活援助〕
12．食事の準備（調理等）　　13．その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
14．金銭管理や生活面に必要な諸手続き

〔その他〕
15．その他（　　）16．わからない

問６　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）
（「１」から「17」のうち、３つまで選択可）

〔身体介護〕
１．日中の排泄　　２．夜間の排泄
３．食事の介助（食べる時）　　４．入浴・洗身
５．身だしなみ（洗顔・歯磨き等）　　６．衣服の着脱
７．屋内の移乗・移動　　８．外出の付き添い、送迎等
９．服薬　　10．認知症状への対応
11．医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）

〔生活援助〕
12．食事の準備（調理等）　　13．その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
14．金銭管理や生活面に必要な諸手続き

〔その他〕
15．その他（　　）16．不安に感じていることは、特にない
17．主な介護者に確認しないと、わからない

問７　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（１つを選択）

１．フルタイムで働いている
２．パートタイムで働いている　→　問8～問 10 へ
３．働いていない
４．主な介護者に確認しないと、わからない　→　調査は終了です

※「パートタイム」とは、「１週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問８　問７で「１．フルタイムで働いている」「２．パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（複数選択可）

１．特に行っていない
２．介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
３．介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
４．介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
５．介護のために、「２」～「４」以外の調整をしながら、働いている
６．主な介護者に確認しないと、わからない

問９　問７で「１．フルタイムで働いている」「２．パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（３つまで選択可）

１．自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
２．介護休業・介護休暇等の制度の充実
３．制度を利用しやすい職場づくり
４．労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
５．働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
６．仕事と介護の両立に関する情報の提供
７．介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
８．介護をしている従業員への経済的な支援
９．その他（　　）
10．特にない
11．主な介護者に確認しないと、わからない

※「フリーランス」とは、一定の会社や団体などに所属せず、仕事に応じて自由に契約する者であり、ジャーナリストや俳優などが該当します。

問 10　問７で「１．フルタイムで働いている」「２．パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（１つを選択）

１．問題なく、続けていける
２．問題はあるが、何とか続けていける
３．続けていくのは、やや難しい
４．続けていくのは、かなり難しい
５．主な介護者に確認しないと、わからない

ご協力ありがとうございました。

記入した調査票を３つ折りにして、同封した返信用封筒に入れ、

切手を貼らずに**４月 30 日（木）まで**に投函してください。

４．関係団体等意向調査

川西市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定に係る関係団体等意向調査

－　はじめに　－

日頃より川西市の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

川西市では、平成３０年３月に「川西市高齢者保健福祉計画・第７期介護保険事業計画」を策定し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりに取り組んでまいりました。

この度、令和３年度から令和５年度までの３年間を計画期間とする「川西市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画」を策定するにあたり、川西市における高齢者福祉や介護等に関する地域の現状や課題等を把握することを目的として実施するものです。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和２年８月　川西市

－　ご記入にあたって　－

○ 次ページ以降の質問について、できるだけ団体の役員等でご相談の上、回答をご記入ください。回答期限までに相談の場を持つことが難しい場合は、代表者（回答者）の地域の状況に対するお考えに基づいてご記入ください。
○ それぞれの項目について自由記述でご記入ください。
○ 質問に対するご意見がない場合は、その欄は空白のままにしていただくか、「なし」とお書きください。
○ ご回答は、返信用封筒にて、**8月31日（月）まで**にお寄せください。

【この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします】

川西市　福祉部　地域福祉課
介護保険課
〒666-8501　川西市中央町１２番１号
電話番号：（０７２）７４０-１１７２（地域福祉課）
-１１４８（介護保険課）

◎団体名・記入者名（役職等）・貴団体の会員数についてご記入ください。

団体名	
記入者氏名（役職等）	
会員数	名（令和　　年　　月　　日現在） ※会員組織でない場合は、記入不要です。

問１　川西市の高齢者の福祉や介護（予防）・保健医療・生活支援・住まいをめぐる状況に関して、貴団体が活動する地域で、現在特に課題・問題となっていること、特に支援を必要とすること、求められる取り組みなどについて、ご記入ください。

■記入欄
①高齢者の社会参加や生きがいづくりについて ②介護予防の取り組みについて ③保健・医療・健康について ④生活支援・福祉サービスについて ⑤その他

問２　問１でご記入いただいた地域の課題等について、貴団体が今後取り組みたいと考えられていることがあれば、ご記入ください。

■記入欄

問３　地域の課題に関して、特に行政の支援が必要だと感じていることがあれば、ご記入ください。

■記入欄

問４　10 年後の地域をイメージした時に、地域の状況や貴団体の活動について、特に大きな課題になると思われることがあればご記入ください（例えば、独居高齢者の増加、空き家の増加、団体活動の縮小など）。

■記入欄

問５　地域で支援が必要な方を把握する方法や、把握した情報の共有方法について、課題等があればご記入ください。

■記入欄

問６　地域で支援が必要な人を発見した場合、地域内での連携や関係機関へのつなぎについて、課題等があればご記入ください。

■記入欄

問７　その他、次期計画に向けてご要望・ご意見等があればご記入ください。

■記入欄

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画
策定のための介護サービス事業所調査

ご協力のお願い

日頃から、本市の介護保険事業及び高齢者福祉事業にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

この調査は、令和３年度から令和５年度までの３年間を計画期間とする「川西市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画」を策定するにあたり、介護サービス事業を実施するうえでの現状や課題等を把握することを目的として実施するものです。

つきましては、大変お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、お答えいただきました内容は、調査目的に沿って処理するものであり、他に漏れることはありません。

令和２年９月２８日

川西市長　　越田　謙治郎

《ご回答いただくにあたって》

１．回答方法

①下記ＵＲＬもしくはＱＲコードからＷｅｂによりご回答ください。

回答フォームURL：

https://www.shinsei.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/dform.do?id=1600239492359

②インターネット環境がない場合はＦＡＸにてご回答ください。

２．回答期間

令和２年９月２８日（月）～令和２年１０月９日（金）

（お問い合わせ先）

川西市福祉部介護保険課

電　話：072-740-1148　E-mail：kawa0182@city.kawanishi.lg.jp

ＦＡＸ番号：０７２－７４０－２００３

川西市福祉部介護保険課　行き

■問１　貴事業所の概要を教えてください。

法　　人　　名	
事　業　所　名	
記　　入　　者	
連　　絡　　先	（ＴＥＬ）　　－　　－

■問２　令和○年○月現在で、貴事業所が川西市内で実施しているサービスはどれですか（あてはまるものすべてに○）

1．訪問介護	2．（介護予防）訪問入浴介護
3．（介護予防）訪問看護	4．（介護予防）訪問リハビリテーション
5．（介護予防）居宅療養管理指導	6．通所介護
7．通所リハビリテーション	8．（介護予防）短期入所生活介護
9．（介護予防）短期入所療養介護	10．（介護予防）特定施設入居者生活介護
11．（介護予防）福祉用具貸与	12．特定（介護予防）福祉用具販売
13．（介護予防）住宅改修	14．居宅介護支援
15．介護予防支援（地域包括支援センター）	16．介護老人福祉施設
17．介護老人保健施設	18．介護医療院
19．定期巡回・随時対応型訪問介護看護	20．地域密着型通所介護
21．認知症対応型通所介護	22．小規模多機能型居宅介護
23．看護小規模多機能型居宅介護	24．認知症対応型共同生活介護
25．地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	26．訪問型サービス（総合事業）
27．通所型サービス（総合事業）	28．その他（　　）

■問３　第８期介護保険事業計画（令和３年度～令和５年度）において、川西市内に参入意向のあるサービスはありますか。参入意向がある場合は、予定されている時期と想定されている規模をお答えください。（○は１つ）

事業名	参入意向			参入意向で １「あり」と回答した事業	
	あり	なし	検討中	予定時期	想定規模（定員）
（1）施設サービス・居宅介護支援					
特定施設入居者生活介護	1	2	3	年度	人
介護老人福祉施設	1	2	3	年度	人
介護老人保健施設	1	2	3	年度	人
居宅介護支援	1	2	3	年度	人
（2）地域密着型サービス					
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	2	3	年度	人
認知症対応型通所介護	1	2	3	年度	人
小規模多機能型居宅介護	1	2	3	年度	人
認知症対応型共同生活介護	1	2	3	年度	人
地域密着型特定施設入居者生活介護（定員29人以下）	1	2	3	年度	人
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（定員29人以下）	1	2	3	年度	人
地域密着型通所介護	1	2	3	年度	人
夜間対応型訪問介護	1	2	3	年度	人
（3）介護予防・日常生活支援総合事業（基準緩和型サービス）					
訪問型サービス（従前相当）	1	2	3	年度	人
訪問型サービス（基準緩和型）	1	2	3	年度	人
通所型サービス（従前相当）	1	2	3	年度	人
通所型サービス（基準緩和型）	1	2	3	年度	人

事業名	参入意向			参入意向で 1「あり」と回答した事業	
	あり	なし	検討中	予定時期	想定規模（定員）
（4）共生型サービス（同一の事業所で一体的に介護保険と障害福祉のサービスを提供するもの）					
訪問介護	1	2	3	年度	人
通所介護・地域密着型通所介護	1	2	3	年度	人
短期入所生活介護	1	2	3	年度	人
小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能居宅介護	1	2	3	年度	人

■問４　問３（２）地域密着型サービスのうち、「２　参入意向なし」を選択した理由について、教えてください（あてはまるものすべてに○）

１．利用ニーズがない	２．介護職員等人材が集まらない
３．介護報酬単価が採算性に見合っていない	４．実施したいサービスが公募されていない
５．建設費等開設に係る経済的負担が大きい	６．人件費が高い
７．条件に合う土地等がない	８．職場環境の整備が必要
９．その他（具体的に：	）

■問５　問３（３）介護予防・日常生活支援総合事業のうち、訪問型サービス（基準緩和型）と通所型サービス（基準緩和型）について、「２　参入意向なし」を選択した理由について、教えてください（あてはまるものすべてに○）

１．利用ニーズがない	２．介護職員等人材が集まらない
３．介護報酬単価が採算性に見合っていない	４．実施したいサービスが公募されていない
５．建設費等開設に係る経済的負担が大きい	６．人件費が高い
７．条件に合う土地等がない	８．職場環境の整備が必要
９．その他（具体的に：	）

■問６　問３（４）共生型サービスについて、「２　参入意向なし」を選択した理由について、教えてください（あてはまるものすべてに○）

１．利用ニーズがない	２．介護職員等人材が集まらない
３．介護報酬単価が採算性に見合っていない	４．実施したいサービスが公募されていない
５．建設費等開設に係る経済的負担が大きい	６．人件費が高い
７．条件に合う土地等がない	８．職場環境の整備が必要
９．その他（具体的に：	）

■問７　貴事業所の職員の配置状況について、現在どのような状況ですか。（○は１つ）

1．大いに不足しており、直ちに人員を確保する必要がある
2．不足しており、常に逼迫している
3．やや不足しており、人員を確保したいが苦慮している
4．現時点で、適当である
5．その他（具体的に：　　）

■問８　職員の採用や離職の防止について、課題と感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．賃金や賞与など金銭的な処遇条件の改善に限界がある
2．夜勤が多いなど不規則な勤務体制にならざるを得ない
3．身体的・精神的な負担が大きい
4．育児休暇・子育て支援など働きやすい職場環境が整っていない
5．介護職がキャリアアップを図れるような機会や仕組みが不十分
6．日々の介護の中で仕事の成果を実感したり問題点を認識しがたい
7．職場におけるチームワーク・コミュニケーションが不十分
8．福利厚生が充実していない
9．介護職の社会的評価が低いと思われている
10．その他（具体的に：　　）
11．特にない

■問９　貴事業所において、過去１年間のうち、外国人介護従事者の雇用実績はありますか。（○は１つ）

1．ある
2．ない

■問 10　外国人介護従事者を雇用するうえで、課題と感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．日本語での意思疎通能力
2．日本の習慣や文化への適応
3．外国人従業者を指導する日本人従業者の負担増加
4．受け入れ費用の負担
5．受け入れの制度が分かりにくい
6．その他（具体的に：　　）
7．特にない

■問11　サービスの質の向上に向けて、特に取り組んでいることはありますか。（○は３つまで）

1．サービス提供に関する職員研修の実施
2．相談窓口の設置などの環境整備
3．サービス提供マニュアルの作成
4．利用者アンケートの実施
5．事例検討会の定期的な開催
6．利用者への情報提供の充実
7．個人情報保護・管理の徹底
8．自己評価の積極的な開示
9．施設・設備等の充実
10．地域とのつながりの強化
11．家族介護者とのつながりの強化
12．その他（具体的に：　　）
13．特にない

■問12　業務効率化について、課題と感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．業務内容の明確化・役割分担ができていない
2．手順書（マニュアル）がない
3．記録やモニタリングなどの紙媒体の書類作成が多い
4．ICT※機器を活用した情報共有の効率化ができていない
5．その他（具体的に：　　）
6．特にない

※ICT（Information and Communication Technology）：「情報通信技術」の略。パソコン・スマートフォン・タブレット端末等の通信機器を使用したネットワーク通信による情報伝達・共有のこと。

■問13　貴事業所が、地域社会の一員として、特に取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．地域住民も参加できるイベント等の実施
2．地域住民を対象とした施設見学会の実施
3．地域住民等によるボランティアの受け入れ
4．地縁団体や地域コミュニティ等が主催する会議や意見交換会への参加
5．地縁団体や地域コミュニティ等が主催するイベント等への職員や利用者の参加
5．その他（具体的に：　　）
6．特にない

■問14　事業所運営に関して、課題と感じていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．専門職の確保が難しい	2．人材育成が難しい
3．スタッフが短期間で離職してしまう	4．責任者など中堅人材の確保・育成が難しい
5．新規利用者の獲得が難しい	6．利用者の継続的な確保が難しい
7．利用者１人あたりの利用料が少ない	8．他のサービス事業所との競合が激しい
9．他事業所・多職種連携ができていない	10．医療機関との連携ができていない
11．地域との連携ができていない	12．訪問や送迎が非効率（エリアが広い等）
13．経営経費・活動資金が不足している	
14．設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない	
15．利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく理解していない	
16．利用者からの苦情や事故への対応	
17．その他（　　）	
18．特にない	

■問15　行政に対して求める支援はありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．介護業界のイメージアップ、社会的地位の向上に向けた啓発
2．介護保険制度の周知
3．介護事業者への情報提供の充実
4．財政的な支援
5．職員研修メニューの充実（資質の向上）
6．ICTやロボット等の介護機器の導入支援
7．求職者と事業所のマッチング支援
8．外国人介護人材の受け入れ支援
9．他事業所等との連携に関する支援
10．その他（　　）
11．特にない

■問 16　その他、高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画の策定に際し、ご要望やご意見等があればご自由にお書きください。

～アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。～

川西市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画
アンケート結果報告書

令和３年３月

川西市 福祉部 介護保険課・地域福祉課
兵庫県川西市中央町１２番１号（〒666-8501）
電　話：(072) 740－1148
ＦＡＸ：(072) 740－2003
E-mail：kawa0182@city.kawanishi.lg.jp

この冊子は市役所内で印刷しています。